



感染症発生動向調査事業報告書

(平成14年)

 東京都健康局

序

東京都における感染症発生動向調査事業は、昭和62年1月にコンピューター・オンラインシステムを導入して以来、17年が経過いたしました。この間、東京都医師会、地区医師会の先生方及び関係各位の御協力により円滑に事業を実施することができました。ここに厚く御礼申し上げます。

この間、指定届出機関数は昭和62年に患者定点175か所、検査定点15か所、合計190か所であったものが、平成14年度末には、患者定点258か所、病原体定点35か所、合計293か所に増加するなど、その充実・強化を図ってまいりました。また、週報・月報につきましては、グラフやコメントを掲載するなど、流行防止に役立つ情報の速やかな提供に努めてきたところでございます。

このたび平成15年4月1日付の組織改正により東京都立衛生研究所を中心に東京都食品指導センター等の組織が統合され、新たに「東京都健康安全研究センター」として生まれ変わりました。この報告書は引き続き、当センターに設置された感染症情報センターが発行してまいります。

また当センターではアジアを中心に深刻な問題となったSARS（重症急性呼吸器症候群）に関し、3月17日より当所ホームページに設置したSARS専用のホームページを通じ情報提供を行うなど健康危機管理に関する活動を積極的に行っております。

感染症発生動向調査事業については、当センターで週報を作成しておりますが、定点医療機関、保健所、健康局、衛生研究所の密接な連携体制のもとに成り立っております。今後もこの連携体制を一層強固にし、より有意義な事業となりますよう努力いたしてまいり所存です。

今回の報告書は、平成14年分について、東京都医師会感染症予防検討委員会に感染症発生情報の評価と、その予防策の検討を依頼し、結果をまとめたものです。「各疾病の動向」のうち、「一、二、三、四類全数感染症」は前田秀雄委員に、「小児科・内科疾患（インフルエンザ）」と「基幹（病院）定点における疾患」は南谷幹夫委員長に、「眼科疾患」は福田敏雅委員に、「性感染症」は小島弘敬委員に執筆をお願いし、「病原体検索成績」については大石修委員に執筆をお願いしました。

本報告書を感染症の予防や治療にご活用いただければ幸いです。

平成15年7月

東京都健康安全研究センター所長 金田麻里子

目 次

第1章 東京都感染症発生動向調査事業報告	1
1 定点医療機関	4
第1表 東京都感染症発生動向調査事業定点数	4
2 対象疾病	4
3 運営方法	4
(1) 週報、月報	4
(2) 解析及び解説発表	4
4 本年の概況	5
(1) 一、二、三、四類全数感染症	5
(2) 小児科・内科疾患	7
(3) 眼科疾患	8
(4) 基幹定点における週報告疾患	8
(5) 基幹定点における月報告疾患	8
(6) 性感染症	9
第2表 - 1 東京都感染症発生動向調査年別報告数（インフルエンザ・小児科）	10
第2表 - 2 東京都感染症発生動向調査年別報告数（眼科）	11
第2表 - 3 東京都感染症発生動向調査年別報告数（基幹定点週報告分）	11
第2表 - 4 東京都感染症発生動向調査年別報告数（基幹定点月報告分）	12
第2表 - 5 東京都感染症発生動向調査年別報告数（性感染症）	12
5 各疾患の動向	13
(1) 一、二、三、四類全数感染症	13
ア 一類感染症	13
イ 二類感染症	13
ウ 三類感染症	19
エ 四類感染症（全数把握対象）	21
第3表 - 1 一、二、三、四類全数把握疾病患者報告数推移表	36
第3表 - 2 一、二、三、四類全数把握疾病保健所別累計表	39
第3表 - 3 一、二、三、四類全数把握疾病年齢階級別累計表	42
(2) 小児科・内科疾患	45
ア インフルエンザ（インフルエンザ様疾患）	45
イ 咽頭結膜熱	46
ウ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌感染症）	47
エ 感染性胃腸炎	48

オ	水痘	50
カ	手足口病	51
キ	伝染性紅斑	52
ク	突発性発疹	53
ケ	百日咳	54
コ	風疹	55
サ	ヘルパンギーナ	56
シ	麻疹(成人麻疹を除く)(麻疹様疾患)	57
ス	流行性耳下腺炎	58
セ	MCLS(川崎病)	59
ソ	不明発疹症	60
(3)	眼科疾患	61
ア	急性出血性結膜炎	61
イ	流行性角結膜炎	62
(4)	基幹定点における週報告疾病	63
ア	急性脳炎(日本脳炎を除く)	63
イ	細菌性髄膜炎	64
ウ	無菌性髄膜炎	65
エ	マイコプラズマ肺炎	66
オ	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	67
カ	成人麻疹	68
(5)	基幹定点における月報告疾病	69
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	69
イ	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	70
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症	71
(6)	性感染症	72
ア	性器クラミジア感染症	72
イ	性器ヘルペスウイルス感染症	73
ウ	尖形コンジローム	74
エ	淋菌感染症	75
オ	トリコモナス症	76
カ	梅毒様疾患	77
第4表-1	週別患者発生数推移表	78
第4表-2	週別定点当たり患者発生数推移表	80
第5表-1	保健所別患者報告数累計表	82
第5表-2	保健所別定点当たり患者報告数累計表	84
第5表-3	年齢階級別累計表	86
第6表-1	二次医療圏別患者報告数累計表	88
第6表-2	二次医療圏別定点当たり患者報告数累計表	89
第7表-1	月報告疾病患者報告数推移表	90

第7表 - 2	月報告疾病定点当たり推移表	90
第7表 - 3	月報告疾病患者報告数推移表（男性）	91
第7表 - 4	月報告疾病患者報告数推移表（女性）	91
第8表	基幹定点報告疾病年齢階級別累計表	92
第9表 - 1	性感染症保健所別、二次医療圏別患者報告数	93
第9表 - 2	性感染症保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数	94
第9表 - 3	性感染症年齢階級別累計表	95
第2章	東京都感染症発生動向調査事業における病原体検索成績	97
1	ウイルス	99
(1)	臨床診断名別の検体搬入状況	99
(2)	臨床診断名別にみたウイルス分離状況	100
(3)	臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況	102
(4)	臨床診断名別にみた抗体検査状況	104
(5)	性感染症定点	104
(6)	エコーウイルス13型の流行状況	104
(7)	呼吸器系疾患患者からのウイルス検出状況	106
(8)	発疹性疾患患者からのウイルス検出状況	107
(9)	感染症疫学調査	109
2	細菌	111
(1)	A群溶血性レンサ球菌	111
(2)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）	111
(3)	二類感染症の病原体検索	111
(4)	四類全数把握感染症の病原体検索	112
	劇症型レンサ球菌感染症（TSLS）	112
	髄膜炎菌性髄膜炎	112
	バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）	112
	レジオネラ症	112
	破傷風菌	113
3	性感染症	113
(1)	血清の検査結果	113
(2)	子宮頸管擦過（分泌）物の検査結果	114
4	多摩地区の感染症発生動向調査事業における病原体検索成績	116
(1)	感染性胃腸炎検査成績	116
(2)	インフルエンザ	118
第3章	資料	121
1	東京都感染症発生動向調査定点名簿	123
2	東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿	131
3	感染症発生動向調査システムの概要	132

4	東京都感染症発生動向調査事業実施要綱	133
	別表1, 2 感染症法に基づく感染症の分類について	139
	1 一類、二類、三類感染症	139
	2 四類感染症	140
	(1) 全数把握対象	140
	(2) 定点把握対象	141
	別記様式一覧表	142
	別記様式1~10	143
	別添1 検査結果コード表	156
	別添2 採取部位リスト	158

第 1 章

東京都感染症発生動向調査報告

東京都感染症発生動向調査事業報告

(平成14年)

(平成13年12月31日～平成14年12月29日)

平成11年4月、感染症予防法施行以来4年を経過し、新体制の感染症動向調査も軌道に乗ってきました。対象感染性疾患は、一類、二類、三類、四類全数届出感染症及び定点報告感染症として発生動向調査事業が行われています。さらに、平成14年10月、ウエストナイル熱が全数届出の四類感染症に指定され、平成15年4月にはSARS(重症急性呼吸器症候群)が新感染症として取り扱われることになり、感染症対策はますます重要性を増しています。

感染症予防検討委員会では、発生報告資料に基づき感染症全般が討議対象になるほか、新規発生の感染症関連事項、予防接種、防疫対策、食中毒についても意見交換を重ねております。

平成14年は、一類感染症5疾患とも13年に続いて報告はなく、二類感染症6疾患では、腸管感染症は海外感染が多く、急性灰白髄炎とジフテリアは報告がありません。三類感染症の腸管出血性大腸菌感染症は前年比約60%の減少でした。全数届出四類感染症34疾患のうち、報告数の多い疾患は後天性免疫不全症候群、ウイルス性肝炎、アメーバ赤痢、梅毒で、順位は昨年と変わりなく、次いでジアルジア症、Q熱、マラリアの順でした。相変わらずクロイツフェルト・ヤコブ病、レジオネラ症やツツガムシ病、劇症型溶連菌感染症が散見されます。破傷風は、乳幼児期の予防接種が普及したため、高齢者感染症に変貌しています。バンコマイシン耐性腸球菌感染症、髄膜炎菌性髄膜炎、ブルセラ症、ライム病もみられます。定点報告小児科・内科感染症では、前年と比較して増加した疾患は、インフルエンザ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病などであり、前年並に推移した疾患は、感染性胃腸炎、水痘、突発性発疹などで、減少した疾患はヘルパンギナ、流行性耳下腺炎と伝染性紅斑などでした。

インフルエンザの流行では新株病原体の登場はありませんでしたが、病原診断キットが普及し、診断確定者に対して抗ウイルス剤が多く使用され、有効成績を得た多くの情報があります。また、希望者に対する予防接種も、特に高齢者や基礎疾患保有者に勧められました。

基幹定点週報告6疾患、月報告3疾患の散発発生が集計されました。性感染症では、淋病、クラミジア、ヘルペス、尖形コンジロム、トリコモナス、梅毒の発生動向が討議され、結核では患者の発生状況、再感染に加えて、ツ反応やBCG再接種問題なども取り上げられました。

新興再興感染症が注目され、感染症が再認識されるとともに院内感染対策や日和見感染対策が重要課題となっています。さらに、ウエストナイル熱、SARSが侵入する可能性のある現在、検討委員会の役割は益々その重要性を増しております。東京都医師会感染症予防検討委員会における感染症発生動向調査事業は、諸先生方のご指導とご協力によって着実な成果を挙げてきました。

今後とも本事業の益々の発展のために、ご尽力の程をお願い申し上げます。

平成15年 7月

東京都医師会感染症予防検討委員会

委員長 南谷幹夫

1 定点医療機関

患者定点となる医療機関数は、小児科定点 142、インフルエンザ定点 36、眼科定点 14、基幹定点 25、性感染症定点 41 の計 258 医療機関であり、このうち 35 医療機関が検査定点を兼ねている。

第1表 東京都感染症発生動向調査事業定点数
(2003年3月31日現在)

定点種別 (疾病数)	患者定点数	病原体定点数
小児科定点 (15)	142	13
インフルエンザ定点 (1)	36	0
眼科定点 (2)	14	2
基幹定点 (9)	25	19
性感染症定点 (6)	41	1
合計	258	35

2 対象疾病

厚生労働省の全国集計の対象疾病のほかに、都単独に不明発疹症とMCLS及び性感染症にトリコモナス、梅毒様疾患を加えている。

3 運営方法

(1) 週報、月報

小児科定点、インフルエンザ定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週報で、性感染症定点からの報告は月報としてまとめられる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾病については月報としてまとめられる。

週報では、定点が、毎週月曜日から日曜日までの対象疾病患者数を年齢別に所定の調査票に記入し、保健所に郵送する。保健所では、これをコンピュータに入力する。

情報の還元は、基幹地方感染症情報センター（東京都立衛生研究所：現東京都健康安全研究センター疫学情報室）及び保健所がコンピュータにより出力し、必要とするところに送付する。

月報では、前月分が翌月の3日までに週報同様、保健所に郵送され、コンピュータに入力し、同様に還元される。

(2) 解析及び解説発表

感染症の予防検討委員会は、毎月1回、定例（第3木曜日）に開催され、前月分の内容を討議している。

情報のまとめは、南谷委員長に「感染症便り」としてまとめていただいている。

また、特定の感染症をとりあげ、「感染症トピックス」としてまとめ、東京都医師会ニュースに掲載している。

都の感染症発生動向調査情報は、南谷委員長により、東京都小児科地方会に毎月発表されている。

4 本年の概況

本年の年間報告数について、表にまとめて示した。

(1) 一、二、三、四類全数感染症

分類	疾病名	2002年届出件数
		12月31日～12月29日
一類	エボラ出血熱	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0
	ペスト	0
	マールブルグ病	0
	ラッサ熱	0
二類	コレラ	14
	細菌性赤痢	112
	腸チフス	22
	パラチフス	11
	急性灰白髄炎	0
	ジフテリア	0
三類	腸管出血性大腸菌感染症	186
四類 (全数届出)	アメーバ赤痢	126
	エキノкокクス症	0
	黄熱	0
	オウム病	5
	回帰熱	0
	ウイルス性肝炎(急性肝炎)	161
	Q熱	36
	狂犬病	0
	クリプトスポリジウム症	4
	クロイツフェルト・ヤコブ病	13
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	13
	後天性免疫不全症候群	368
	コクシジオイデス症	0
	ジアルジア症	46
	腎症候性出血熱	0
	髄膜炎菌性髄膜炎	1
	先天性風疹症候群	0
	炭疽	0
	ツツガムシ病	11
	デング熱	17
	日本紅斑熱	0
	日本脳炎	0
	乳児ボツリヌス症	0
	梅毒	61
	破傷風	6
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	9
	ハンタウイルス肺症候群	0
	Bウイルス病	0
	ブルセラ症	1
	発疹チフス	0
	マラリア	29
ライム病	2	
レジオネラ症	19	
ウエストナイル熱	0	

* ウエストナイル熱は2002年11月1日に四類感染症(全数届出)に指定された。

一類感染症について

《エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱》の届出はなかった。

二類感染症について

二類感染症は総計 159 件の届出があった。

コレラは 14 件届出があり、患者 10 人、疑似症患者 4 人であった。患者 10 人はいずれもエルトール型で古典型の発生はなかった。

細菌性赤痢は、112 件届出があり、患者 110 名、疑似症患者 2 名であった。患者の菌型では、ディセンテリー菌 2 件、フレキシネル菌 23 件、ボイド菌 6 件、ソンネ菌 78 件、不明 1 件であった。推定感染地は、国外 97 件、国内 14 件、不明 1 件であった。

腸チフスは、22 件届出された。推定感染地は国外 17 件、国内 2 件、不明 3 件であった。

パラチフスは、11 件届出があった。推定感染地は 11 件すべて国外であった。

《急性灰白髄炎、ジフテリア》の届出はなかった。

三類感染症について

三類感染症は計 186 件の届出があった。

腸管出血性大腸菌感染症は 186 件届出があり、菌型は O157 が 170 件、O26 が 12 件、O111 が 1 件、O103 が 1 件、O5 が 1 件、不明が 1 件であった。毒素型では、VT1+VT2 産性株が 93 件、VT1 産性株が 21 件、VT2 産性株が 72 件であった。症状別では、患者 129 人、無症状病原体保有者 57 人であった。溶血性尿毒症症候群と判明しているものは 5 件である。推定感染地は国内 170 件、国外 3 件、不明 13 件であった。

四類感染症について

四類全数感染症は総計 928 件の届出があった。

アメーバ赤痢は 126 件の届出された。推定感染地は国内 81 件、国外 24 件、不明 21 件である。

オウム病は 5 件報告された。性別では男性 2 人、女性 3 人である。推定感染地は全て国内である。

急性ウイルス性肝炎は 161 件届出された。病原体別では A 型 100 件、B 型 47 件、C 型 5 件、その他 6 件、不明 3 件であった。感染経路では、A 型は経口感染が多く、B 型は性行為感染が多かった。

Q 熱は 36 件報告された。すべて国内での感染が推定されている。

クリプトスポリジウム症は 4 件報告された。推定感染地は国内 3 件、国外 1 件である。

クロイツフェルト・ヤコブ病は 13 件届出された。すべて孤発性であった。推定感染経路についてはヒト乾燥硬膜によるものが 1 件、不明が 12 件である。

劇症型溶血性連鎖球菌感染症は 13 件届出された。

後天性免疫不全症候群は 368 件届出された。そのうち 93 人が AIDS を発症していた。

ジアルジア症は 46 件届出された。推定感染地域は国外が 32 件、国内が 9 件、不明が 5 件である。

髄膜炎菌性髄膜炎は 1 件届出された。

ツツガムシ病は 11 件届出された。そのうち 10 件が島しょ保健所への届出である。

デング熱は 17 件の報告があり、デング出血熱の報告はなかった。すべて国外での感染が推定さ

れている。

梅毒は 61 件届出された。早期顕症梅毒 22 件（うちⅠ期 3 件、Ⅱ期 19 件）、晚期顕症梅毒 5 件、無症候梅毒 34 件であった

破傷風は 6 件届出があった。診断方法は、臨床決定 5 件、病原検査・臨床決定 1 件である。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 9 件届出された。遺伝子型では、vanB1 件、vanC6 件、不明 2 件であった。

ブルセラは 1 件の届出があった。

マラリアは 29 件届出された。病原体別では熱帯熱マラリア 15 件、三日熱マラリア 10 件、卵形マラリア 3 件、不明 1 件であった。

ライム病は 2 件届出された。推定感染地は国内 1 件、国外 1 件であった。

レジオネラ症は 19 件の届出された。温泉または入浴での感染が推定されているものが 8 件あった。

《エキノкокクス症、黄熱、回帰熱、狂犬病、コクシジオイデス症、腎症候性出血熱、先天性風疹症候群、炭疽、日本紅斑熱、日本脳炎、乳児ボツリヌス症、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、発疹チフス、ウエストナイル熱》の届出はなかった。

注：ウエストナイル熱は 2002 年 11 月 1 日に四類感染症（全数届出）に指定された。

（２）小児科・内科疾患

東京都における平成 14 年の各疾患の発生概況を述べると、平成 13 年と比較して増加した疾患は、インフルエンザ、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病があげられ、少数発生疾患では百日咳である。

前年並に推移した疾患は、感染性胃腸炎、水痘、突発性発疹で、少数発生疾患では咽頭結膜熱と不明発疹症であった。そして減少した疾患はヘルパンギ - ナ、流行性耳下腺炎、伝染性紅斑であり、少数報告疾患では麻疹、風疹、M C L S が減少した。

[前年比増加疾患]

インフルエンザは 14,877 件(83.58 人/定点)報告され、前年比 243.3%の 2.5 倍増であり、過去 10 年では第 8 位であった。前期流行は第 4 週に始まり、第 8 週(13.84 人/定点)をピークとする流行で、第 14 週以後急速に減少した。後期流行は第 51 週(1.86 人/定点)に始まり 2003 年第 12 週に終る流行であった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 3,772 件(26.56 人/定点)で、前年比 128.4%の軽度増加であるが、過去 10 年では第 1 位の報告件数であった。

手足口病は 3,213 件(22.63 人/定点)報告され、前年比 150.7%の増加で、過去 10 年で第 6 位であった。

百日咳は 32 件(0.23 人/定点)報告され、昨年より 9 件増加したが、過去 10 年では第 9 位であり、最近 6 年間は年間報告数 100 件未満、この 2 年間は年 50 件未満であった。

[前年比横這い疾患]

咽頭結膜熱は 600 件(4.23 人/定点)報告され、前年比 93.2%、過去 10 年で第 3 位であった。

感染性胃腸炎は 34,659 件(244.08 人/定点)報告され、前年比 109.6%、過去 10 年で第 1 位であった。

水痘は 7,079 件(49.85 人/定点)報告され、前年比 102.9%、過去 10 年で第 6 位であった。

突発性発疹は 3,632 件(25.58 人/定点)報告され、前年比 103.6%、過去 10 年で第 9 位であるが、年次間変動は小さくなく、年間変動では夏期に増加するパターンが続いている。

不明発疹症は 613 件(4.32 人/定点)報告され、前年比 104.9%で過去 10 年で第 5 位であった。

[前年比減少疾患]

ヘルパンギ - ナは 5,067 件(35.68 人/定点)報告され、前年比 80.3%の軽度減少であった。

流行性耳下腺炎は 3,678 件(25.90 人/定点)報告され、前年比 58.5%の半減であった。

伝染性紅斑は 1,574 件(11.08 人/定点)報告され、前年比 62.7%の減少であった。

麻疹は 377 件(2.65 人/定点)報告され、前年比 59.9%、過去 10 年で第 8 位であった。

風疹は 71 件(0.50 人/定点)報告され、前年比 62.5%の減少、過去 10 年で最下位であった。

M C L S は 60 件(0.42 人/定点)報告され、前年比 79.3%の減少で、過去 10 年で第 7 位あった。

(3) 眼科疾患

急性出血性結膜炎の発生は 12 例で、前年比 75 %と減少し依然低い発生を維持していた。流行性角結膜炎の発生は 925 例で、前年比 91.8 %と 2 年連続減少したがほぼ例年通りの水準で、過去 10 年間の平均値にほぼ一致するものであった。いずれの疾患も東京都における発生状況は全国と大きな乖離をみなかった。

(4) 基幹定点における週報告疾患

急性脳炎(日本脳炎を除く)は 10 件(0.40 人/定点)報告され、前年(5 件、0.20 人/定点)比で倍増したが、患者発生数は少く、季節的、地域的、年齢的な特徴は認められない。

細菌性髄膜炎は 24 件(0.96 人/定点)報告され、前年(12 件、0.48 人/定点)比で倍増したが、報告数は少く、患者は各週に散在して患者発生に特異的傾向が認められない。

無菌性髄膜炎は 66 件(2.64 人/定点)報告され、前年(36 件、1.44 人/定点)比 183%の増加であったが、発生は 7、8 月に多く報告されており、病原体報告では Echo 13 型が多く検出された。

マイコプラズマ肺炎は 163 件(6.52 人/定点)報告され、1999 年以来最大の発生で、前年(45 件、1.80 人/定点)比 3 倍増であった。発生時期は第 34 ~ 50 週間に 114 件(70%)が報告された。

クラミジア肺炎は、2 件(0.08/定点)報告された。

成人麻疹は 116 件(4.64 人/定点)報告され、前年(181 件、7.24 人/定点)比 64%の減少であった。患者発生は 4 月下旬から 7 月下旬に多くみられた。小児麻疹と成人麻疹の流行時期と重なる部分もあるが、地域的関連は特に認められない。

(5) 基幹定点における月報告疾患

3 疾患とも前年比増加した。

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症(M R S A)は 1,759 件(70.36 人/定点)報告され、前年(1,365 件、54.60 人/定点)比 128.9%の軽度増加で、男子 1,140 件、女子 619 件と男子に多い。男女とも夏期に多く発生する傾向がある。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症(P R S P)は 557 件(22.28 人/定点)報告され、前年(355 件、14.20 人/定点)比 156.9%の増加で、男子 333 件、女子 224 件と男子に多い。月別報告数では、夏期にやや多い傾向があるが、明らかでない。

薬剤耐性緑膿菌感染症は 107 件(4.28 人/定点)報告され、前年(69 件、2.76 人/定点)比 155.1%の増

加で、男子 81 例、女子 26 例と男子に多い。月別報告では春秋の候にやや多い傾向をみるが明らかでなく、加齢とともに増加するようであるが、例数も少なく明確ではない。

(6) 性感染症

性感染症の定点報告数はトリコモナスを除き前年を下回った。これに反してH I V / エイズの報告数は減少せず、都は全国の半数超を占め続けている。H I V とエイズとの報告数には重複が避けられない。都の 2002 年 H I V 報告数 275 の内、男子が 95 % (外国人は全体の 8 %)、女子が 5 % (外国人は全体の 1 %)。全体の 67 % を M S M が占める。2001 年までに日本で把握された感染妊婦は 248 その内、関東が 67 % を占める。国別では日本 38.3 %、アジア (7 ヶ国) 41.9 %、アフリカ (7 ヶ国) 7.3 %、南米 (3 ヶ国) 7.3 % で外国人の比率が高い。1990 年代前半比率の高かった外国人女子は減少したが、昨年なお全体の 76 % が M S M と外国人とに占められている。開発諸国の人口対累積症例数の順位によれば、首位の米国、第 2 グループの南欧カトリック国、第 3 位グループの英、独が判然と分かれ、これは 1980 年代から現在まで一貫して不変である。スカンジナビアは英、独より更に低い。H I V 症例数は、通常は隠されて見えない社会状況とくに M S M、静注射常用者の活動の程度を明確に映し出す鏡である。日本、韓国はこれらの活動が低く、米国で 0.1 % 以下の 1985 年以前の血液製剤による感染者の比率がなお累積報告数の約 20 % を占める。S T I の抑制にはこのような感染状況の把握が不可欠であるが、S T I は秘匿されがちで、また無症状の感染者 / 感染源も多く、無症者についてのスクリーニングによるサーベイランスも必要である。日本の S T I サーベイランスは約 15 年経過したが、全国では 1999 年定点数が 600 から 900 に急増され、これにより把握の連続性が損なわれた。都の定点は不変であったが、「各疾患の動向」のクラミジア、梅毒の項に述べるような問題点が存在する。S T I 報告症例数推移の解釈に当たっては、数字のみでなくその背景をなす諸要因への目配りが不可欠である。

第2表 - 1 東京都感染症発生動向調査年別報告数（インフルエンザ・小児科）

上段：年間報告数
下段：定点当たり

年	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
内科・小児科定点数	138	138	138	142	142	142	142	142	142	142
インフルエンザ定点数 *1							178	178	178	178
インフルエンザ	32,224 233.50	8,778 63.61	31,727 229.91	18,014 126.89	14,888 104.85	24,420 171.97	29,346 206.66	18,101 101.69	6,114 34.35	14,877 83.58
咽頭結膜熱 *2	142 0.90	739 4.86	342 2.25	237 1.52	315 2.22	536 3.77	318 2.24	489 3.44	645 4.54	600 4.23
A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎	2,917 21.10	3,177 23.02	1,958 14.19	2,409 16.96	2,800 19.72	2,700 19.01	2,505 17.64	3,259 22.95	2,936 20.68	3,772 26.56
感染性胃腸炎	31,777 230.30	29,637 214.76	32,597 236.21	28,069 197.67	28,144 198.20	23,600 166.20	34,137 240.40	33,084 232.99	31,639 222.81	34,659 244.08
水痘	7,028 50.90	6,970 50.51	6,957 50.41	7,912 55.72	7,187 50.61	5,946 41.87	6,508 45.83	6,973 49.11	6,877 48.43	7,079 49.85
手足口病	6,326 45.80	1,365 9.89	8,009 58.04	2,121 14.94	3,626 25.54	5,662 39.87	844 5.94	6,464 45.52	2,133 15.02	3,213 22.63
伝染性紅斑	861 6.20	906 6.57	1,318 9.55	2,814 19.82	1,689 11.89	1,693 11.92	1,146 8.07	1,740 12.25	2,510 17.68	1,574 11.08
突発性発疹	4,316 31.30	4,519 32.75	4,105 29.75	4,041 28.46	3,840 27.04	3,839 27.04	3,851 27.12	3,663 25.80	3,507 24.70	3,632 25.58
百日咳	67 0.50	101 0.73	85 0.62	143 1.01	72 0.51	64 0.45	57 0.40	56 0.39	23 0.16	32 0.23
風疹	1,322 9.60	507 3.67	1,869 13.54	1,289 9.08	2,236 15.75	726 5.11	286 2.01	226 1.59	114 0.80	71 0.50
ヘルパンギーナ	3,526 25.50	5,200 37.68	4,507 32.66	7,160 50.42	4,091 28.81	4,309 30.35	5,465 38.49	6,577 46.32	6,314 44.46	5,067 35.68
麻疹	1,344 9.70	663 4.80	197 1.43	574 4.04	322 2.27	454 3.20	409 2.88	589 4.15	628 4.42	377 2.65
流行性耳下腺炎	3,534 25.60	3,749 27.17	2,199 15.93	5,662 39.87	6,096 42.93	3,714 26.15	2,763 19.46	4,804 33.83	6,284 44.25	3,678 25.90
MCLS	43 0.30	71 0.51	46 0.33	69 0.89	39 0.27	65 0.46	76 0.54	66 0.46	75 0.53	60 0.42
不明発疹症	575 4.20	631 4.57	534 3.87	509 3.58	535 3.77	710 5.00	632 4.45	645 4.54	585 4.12	613 4.32

*1 1999年3月までのインフルエンザの定点当たり数は、年間報告数を小児科・内科定点数で割ったもの。

*2 1999年3月までの咽頭結膜熱の定点当たり数は、年間報告数を小児科・内科定点と眼科定点の合計数で割ったもの。

第2表 - 2 東京都感染症発生動向調査年別報告数（眼科）

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
定点数	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
流行性角結膜炎	597 42.60	980 70.00	1,034 73.86	817 59.07	1,047 74.79	816 58.29	776 55.43	1,240 88.57	1,008 72.00	925 66.07
急性出血性結膜炎	32 2.30	21 1.50	20 1.43	17 1.21	15 1.07	9 0.64	22 1.57	11 0.79	16 1.14	12 0.86

第2表 - 3 東京都感染症発生動向調査年別報告数
（基幹定点週報告分）

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	1999	2000	2001	2002
定点数	25	25	25	25
急性脳炎	7 0.28	12 0.48	5 0.20	10 0.40
細菌性髄膜炎	12 0.48	14 0.56	12 0.48	24 0.96
無菌性髄膜炎	33 1.32	83 3.32	36 1.44	66 2.64
マイコプラズマ肺炎	19 0.76	22 0.88	45 1.80	163 6.52
クラミジア肺炎	4 0.16	1 0.04	0 0.00	2 0.08
成人麻疹	8 0.32	120 4.80	181 7.24	116 4.64

1999年14週より実施

第2表 - 4 東京都感染症発生動向調査年別報告数
(基幹定点月報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	1999	2000	2001	2002
定点数	25	25	25	25
メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	823 32.92	1,456 58.24	1,365 54.60	1,759 70.36
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	160 6.40	338 13.52	355 14.20	557 22.28
薬剤耐性 緑膿菌感染症	118 4.72	85 3.40	69 2.76	107 4.28

1999年14週より実施

第2表 - 5 東京都感染症発生動向調査年別報告数(性感染症)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
定点数	40	40	40・41*	41	41	41	41	41	41	41
性器クラミジア 感染症	1,425 35.60	1,291 32.28	1,262 30.97	1,597 38.95	1,803 43.98	2,054 50.10	2,692 65.66	2,688 65.56	2,789 68.02	2,536 61.85
性器ヘルペス ウイルス感染症	1,006 25.20	1,078 26.95	1,014 24.89	1,227 29.93	1,138 27.76	1,039 25.34	1,020 24.88	1,054 25.71	1,019 24.85	950 23.17
尖形コンジローム	566 14.20	470 11.75	375 9.20	473 11.54	396 9.66	428 10.44	518 12.63	578 14.10	549 13.39	502 12.24
淋菌感染症	1,430 35.80	1,141 28.53	1,072 26.31	1,330 32.44	1,121 27.34	1,157 28.22	1,250 30.49	1,204 29.37	1,364 33.27	1,249 30.46
トリコモナス症	457 11.40	398 9.95	424 10.40	339 8.27	275 6.71	274 6.68	323 7.88	295 7.20	367 8.95	447 10.90
梅毒様疾患	90 2.30	111 2.78	86 2.11	75 1.83	110 2.68	138 3.37	118 2.88	108 2.63	63 1.54	41 1.00

*:1~3月 40定点 4~12月 41定点

5 各疾患の動向

(1) 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症（全数把握対象）

ア 一類感染症

一類感染症の届出はなかった。

イ 二類感染症

急性灰白髄炎、ジフテリアの届出はなかった。

コレラ

コレラは、14件届出があり、患者10人、疑似症患者4人であった。

性別では、男性7人、女性7人で、年齢別では、20歳代4人、30歳代2人、50歳代4人、60歳代2人、70歳代2人である。

届出月別では、2月、5月、6月にそれぞれ1人ずつ、1月に2人、7月に4人、8月に5人である。推定感染地は、海外ではタイ3件、フィリピン2件、その他2件であった。国内発生は7月、8月に集中し7件と多かったが、すべて旅行歴がなく、推定感染経路は不明であった。

届出日	性別	年齢	菌型	旅行地
1/4	女	21	O1エルトール稲葉	タイ
1/4	男	36	疑似症 黄色ブドウ球菌	フィリピン
2/12	女	59	疑似症 NAGビブリオ	タイ
5/29	女	24	O1エルトール小川	インド
6/28	女	23	疑似症 NAGビブリオ	タイ
7/25	男	61	O1エルトール稲葉	
7/25	男	59	O1エルトール小川	フィリピン
7/26	男	58	O1エルトール稲葉	
7/27	女	35	O1エルトール稲葉	
8/3	男	73	O1エルトール稲葉	
8/5	男	66	O1エルトール稲葉	
8/6	男	72	O1エルトール稲葉	
8/13	女	54	O1エルトール稲葉	
8/19	女	25	疑似症 NAGビブリオ	ベトナム

細菌性赤痢

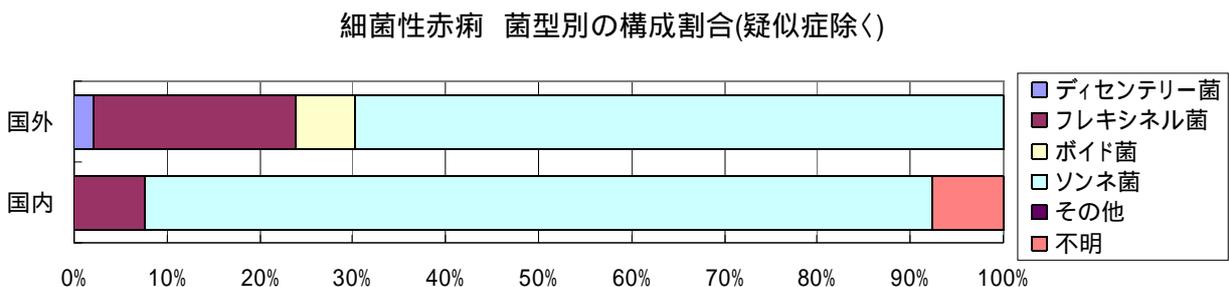
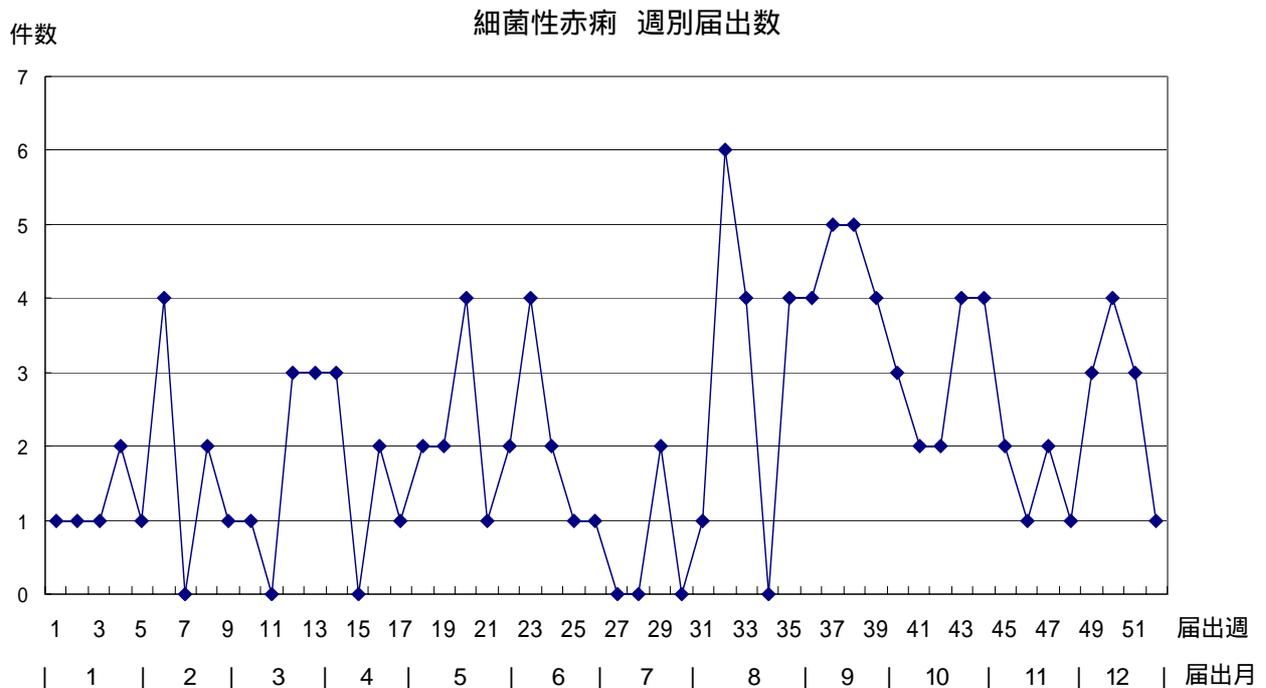
細菌性赤痢は、112 件届出があり、患者 110 名、疑似症患者 2 名であった。

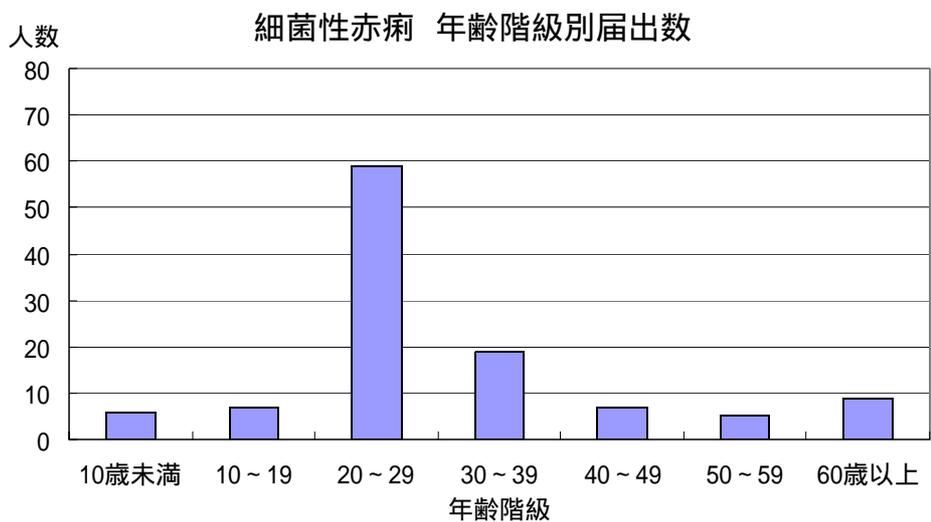
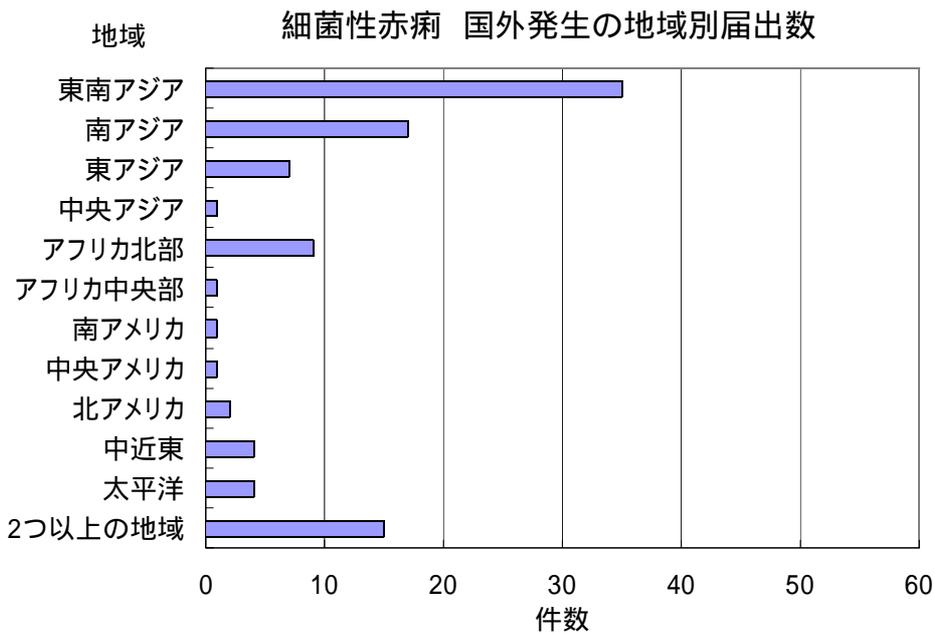
性別では、男性 53 人、女性 59 人である。年齢別では、10 歳未満が 6 人、10 歳代が 7 人、20 歳代が 59 人、30 歳代が 19 人、40 歳代が 7 人、50 歳代が 5 人、60 歳代が 5 人、70 歳代が 4 人であった。

患者の菌型では、ディセンテリー菌 2 件、フレキシネル菌 23 件、ボイド菌 6 件、ソネ菌 78 件、不明 1 件であった。推定感染地は、国外 97 件、国内 14 件、不明 1 件であった。

国内で感染が推定される 14 件の年齢は、10 歳未満 2 人、10 歳代 3 人、20 歳代 4 人、30 歳代 3 人、50 歳代 1 人、70 歳代 1 人であった。推定感染原因としては、経口感染が疑われるもの 1 件、不明 13 件である。同一家庭内での発生が判明しているのは 2 家族(共に親子)だった。

国外発生の国別では、インド 12 件、インドネシア 11 件、タイ 9 件、エジプト 6 件、ベトナム 6 件、カンボジア 4 件、フィリピン 4 件、ネパール 4 件、トルコ 3 件、中国 3 件、香港 3 件、アジアの 2 カ国以上 16 件、その他 16 件が届出されている。





細菌性赤痢 国内発生

届出日	性別	年齢	菌型	備考
2/4	男	36	不明	
2/5	女	2	ソンネ	父親由来または同時感染
2/25	女	8	ソンネ	
3/16	女	78	ポイド	
4/5	男	22	ソンネ	
9/29	女	34	ソンネ	
10/3	女	10	ソンネ	
10/18	男	27	擬似	再検査の結果、細菌性赤痢陰性
10/23	男	38	ソンネ	
11/20	女	29	ソンネ	
11/18	男	13	ソンネ	
12/5	男	19	ソンネ	
12/13	男	27	ソンネ	母親も後日発症
12/17	女	52	ソンネ	長男が直前に発症

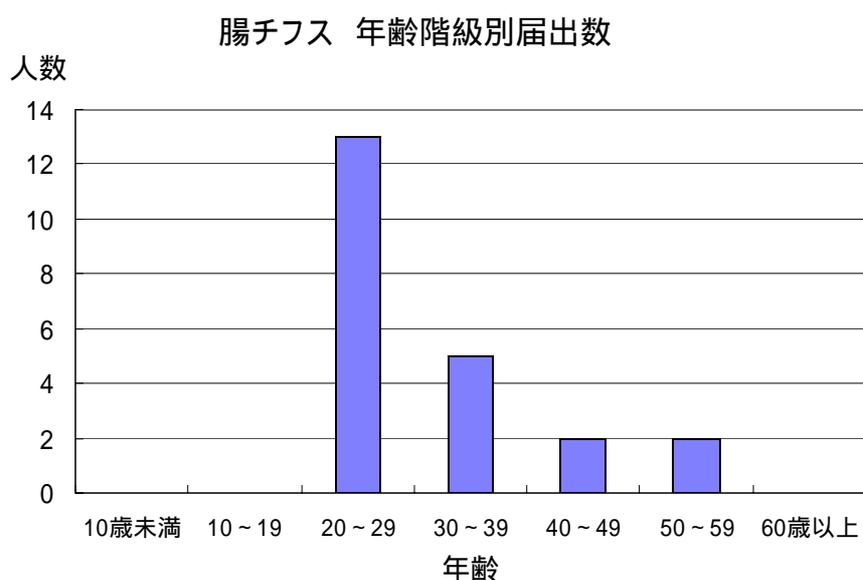
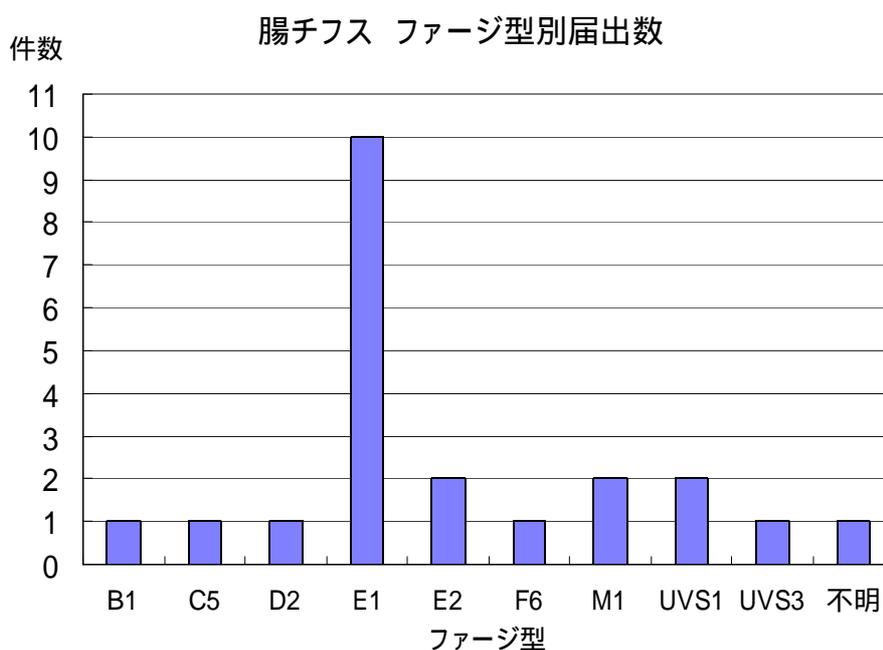
腸チフス

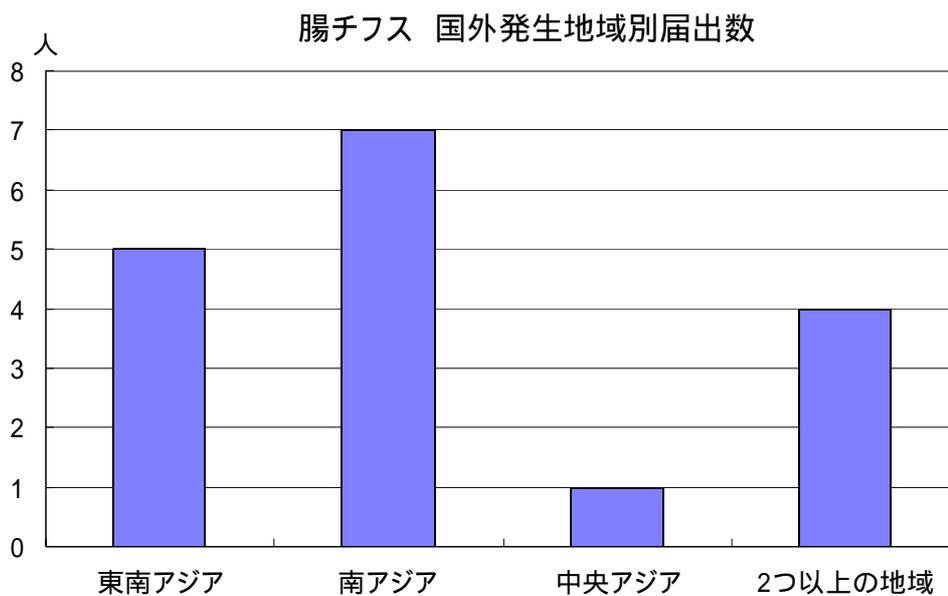
腸チフスは、22 件届出された。

性別では男性 14 人、女性 8 人、年齢別では、20 歳代 13 人、30 歳代 5 人、40 歳代 2 人、50 歳代 2 人であった。

月別届出件数は、1 月 1 件、2 月 4 件、3 月 1 件、4 月 4 件、5 月 1 件、6 月 4 件、7 月 2 件、8 月 2 件、9 月 2 件、10 月 1 件である。

推定感染地は国外 17 件、国内 2 件、不明 3 件であった。国外発生の国別では、インド 6 件、インドネシア 2 件、タイ 1 件、フィリピン 1 件、バングラディシュ 1 件、ミャンマー 1 件、アフガニスタン 1 件、2 カ国以上 4 件が届出されている。





腸チフス国内発生

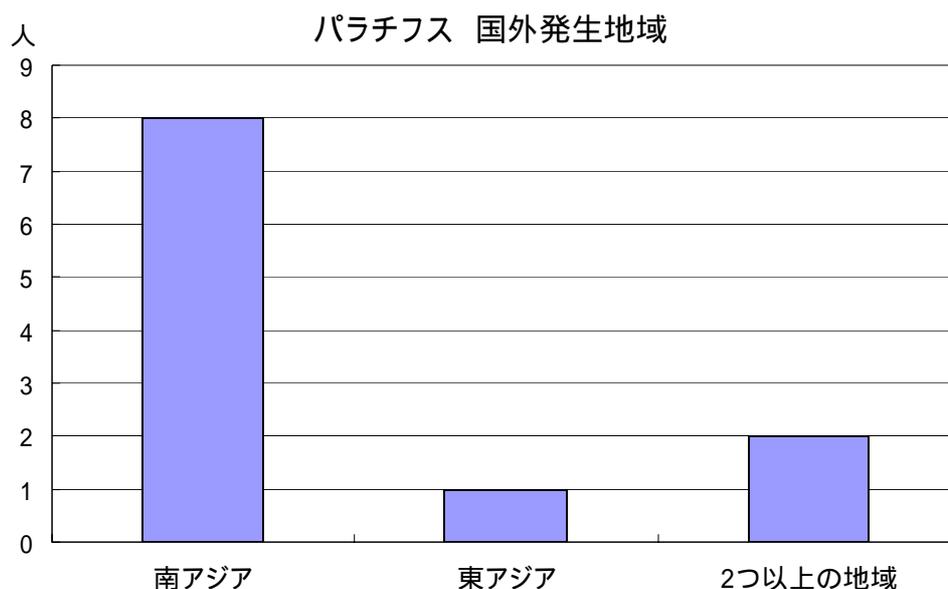
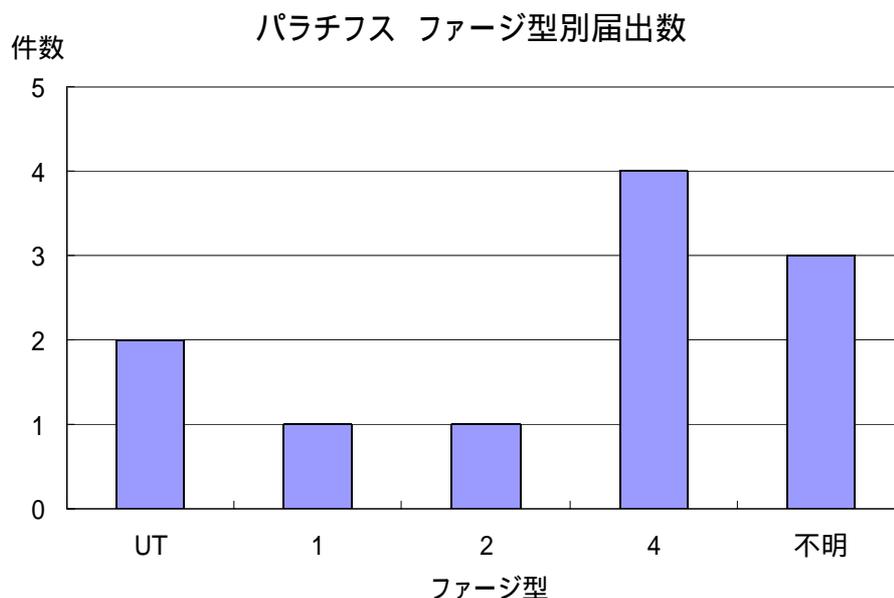
届出日	性別	年齢	菌型	症状の有無	備考
7/30	女	22	E1	有	友人の発症者とファージ型一致
9/25	男	26	M1	有	沢の湧き水が感染源と疑われた

パラチルス

パラチルスは、11件届出があった。推定感染地は11件すべて国外であった。国外発生の国別では、インド4件、バングラデッシュ2件、中国1件、ネパール1件、パキスタン1件、2カ国以上2件であった。

性別では男性4人、女性7人、年齢別では10歳未満1人、20歳代4人、30歳代4人、40歳代1人、50歳代1人であった。届出月別では1月に2人、4月に3人、5月に1人、6月に2人、7月、8月、10月に1人ずつである。

パラチルスの国内発生は認めなかった。



ウ 三類感染症

腸管出血性大腸菌感染症

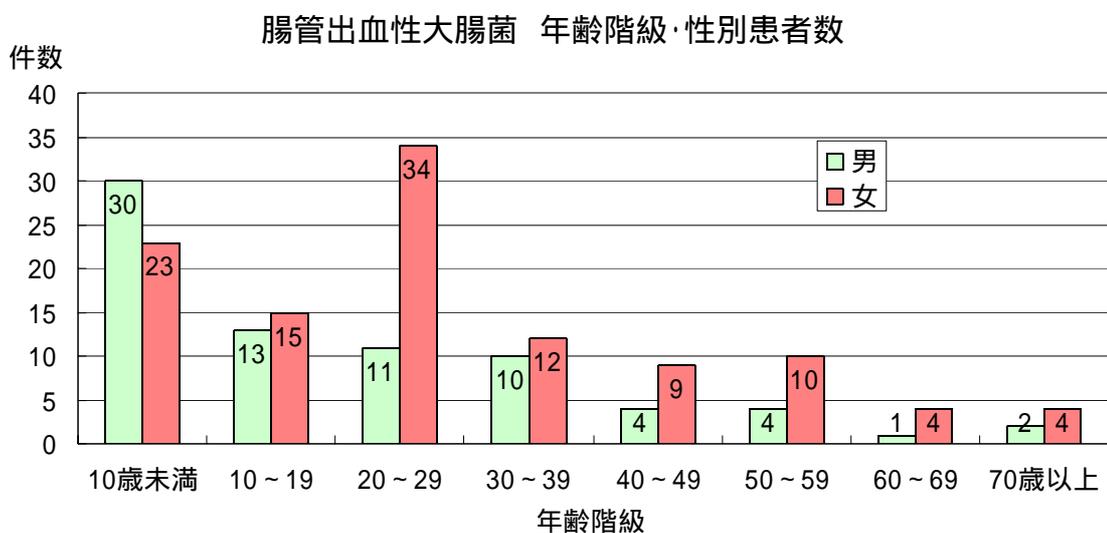
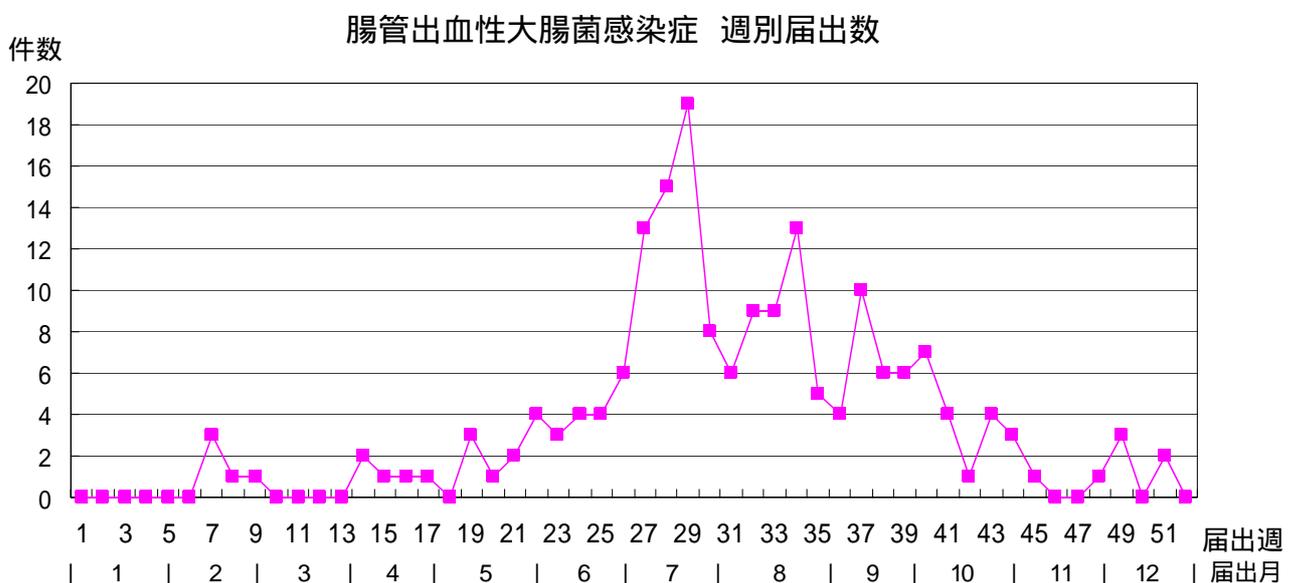
腸管出血性大腸菌感染症は、186件届出があった。

性別では男性75人、女性111人、年齢別では10歳未満53人、10歳代28人、20歳代45人、30歳代22人、40歳代13人、50歳代14人、60歳代5人、70歳以上6人であった。

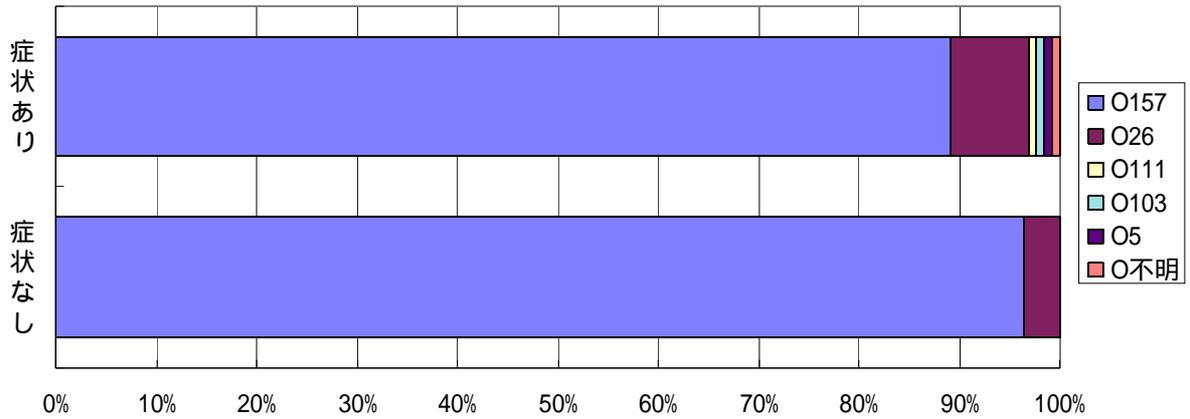
菌型は、O157が170件、O26が12件、O111が1件、O103が1件、O5が1件、不明が1件届出されている。毒素型では、VT1+VT2産性株が93件、VT1産性株が21件、VT2産性株が72件であった。

症状別では、患者129人、無症状病原体保有者57人である。溶血性尿毒症症候群と判明しているものは5件である。溶血性尿毒症症候群5件の内訳は、1歳男性、3歳女性、5歳女性、70歳女性、80歳女性であった。推定感染地は国内170件、国外3件、不明13件であった。

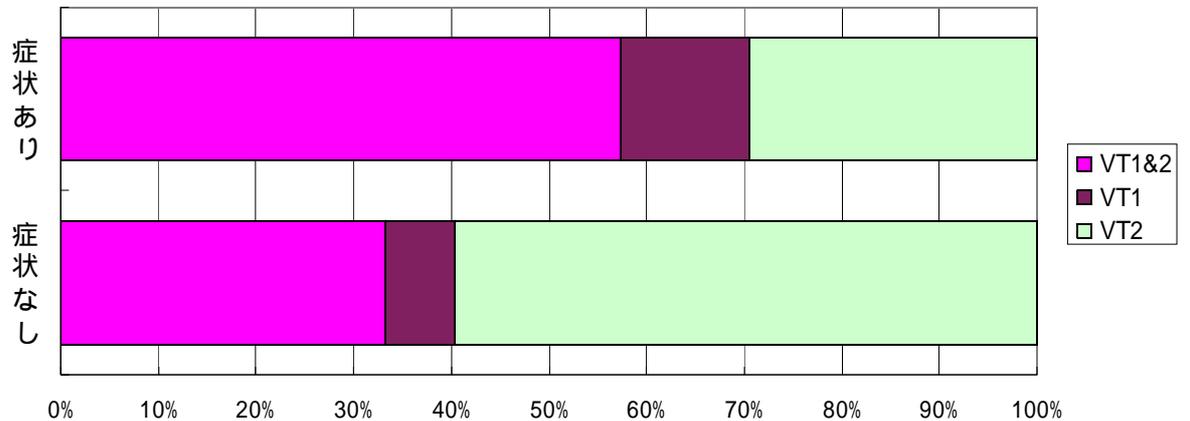
同一家庭内での発生は55件届出された。



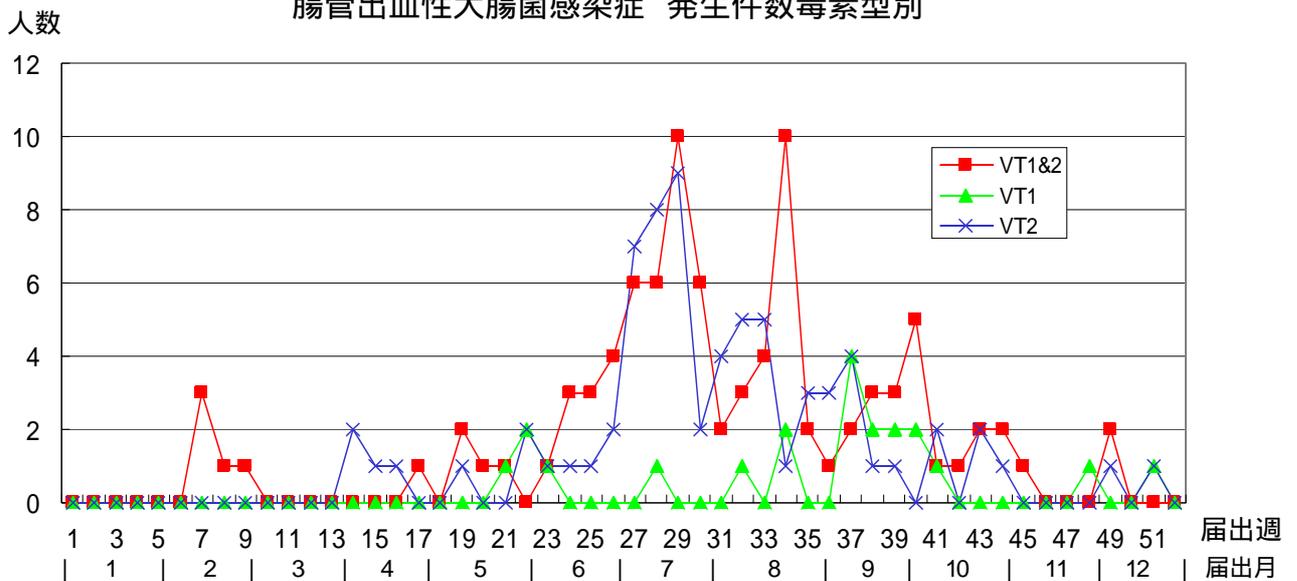
腸管出血性大腸菌感染症 菌型別構成割合



腸管出血性大腸菌感染症 ベロ毒素産生別構成割合



腸管出血性大腸菌感染症 発生件数毒素型別



エ 四類感染症（全数把握対象）

アメーバ赤痢

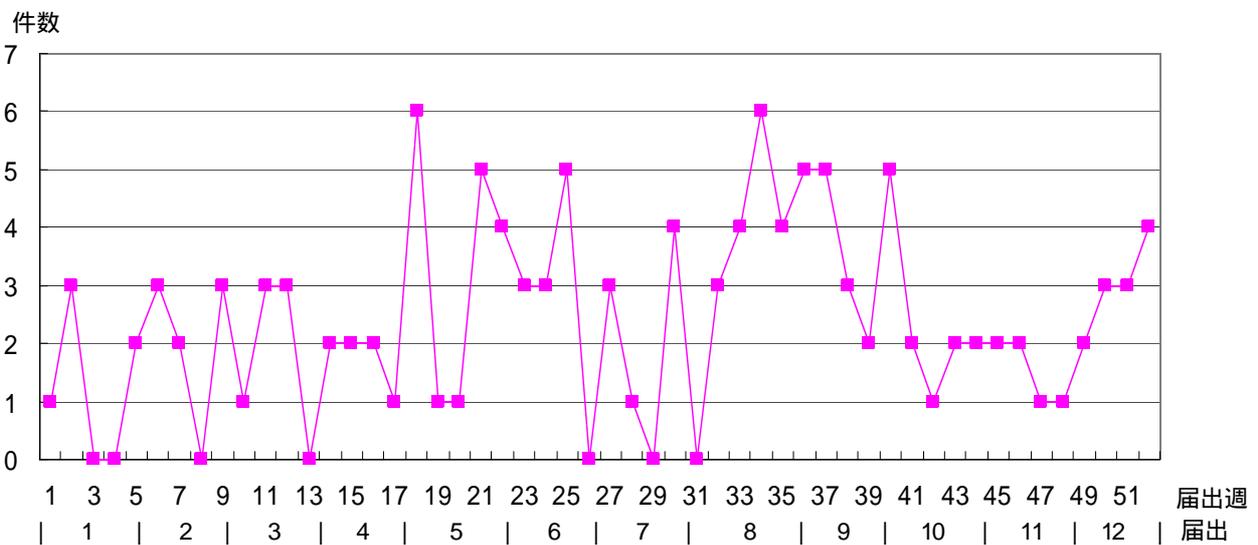
アメーバ赤痢は 126 件の届出があった。性別では男性 106 人、女性 20 人であり、年齢別では 10 歳未満 1 人、20 歳代 23 人、30 歳代 39 人、40 歳代 28 人、50 歳代 15 人、60 歳代 14 人、70 歳以上 6 人である。推定感染地は国内 81 件、国外 24 人、不明 21 件であった。

国内発生 の推定感染経路別では、性行為感染 38 件、経口感染 14 件、不明 29 件である。

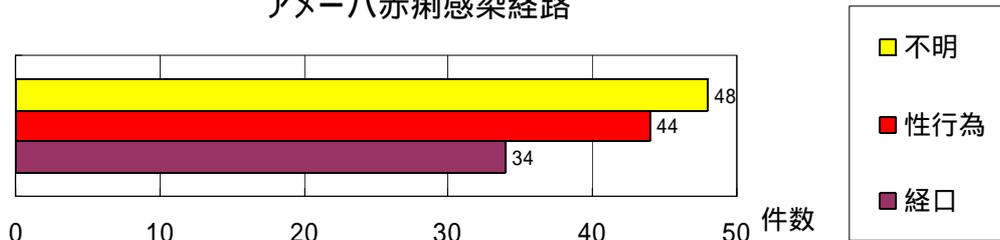
国外発生で感染地が推定されるものは東南アジア 10 件、東アジア 5 件、南アジア 2 件、アメリカ 3 件、アフリカ 1 件、その他は 3 件である。そのうち、推定感染経路別では、経口感染 20 件、性行為感染 2 件、不明 2 件であった。

感染地不明の 21 件は、性行為感染 4 件、不明 17 件である。

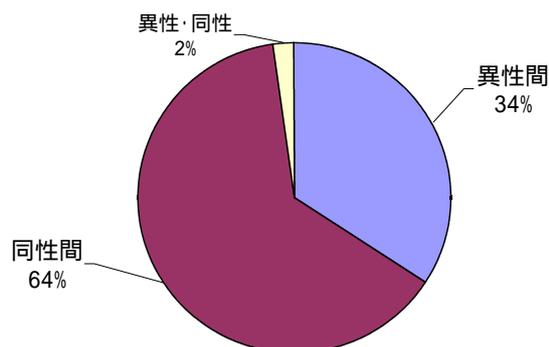
アメーバ赤痢週別届出数



アメーバ赤痢感染経路



性行為感染経路別構成割合



オウム病

オウム病は5件届出があった。性別では男性2人、女性3人である。推定感染地は全て国内である。

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染源
3/29	13	女	37	なし	不明 近所にハト・カラス多い
5/22	21	女	53	肺炎	インコ飼育中
8/22	34	男	73	肝機能障害、発熱	セキセイインコ
10/29	44	男	66	肺炎	不明
11/13	46	女	36	咳、喘息様発作	不明

急性ウイルス性肝炎

急性ウイルス性肝炎は161件届出があった。

性別では、男性91人、女性70人である。病原体別では、A型100件、B型47件、C型5件、その他6件、不明3件が届出された。

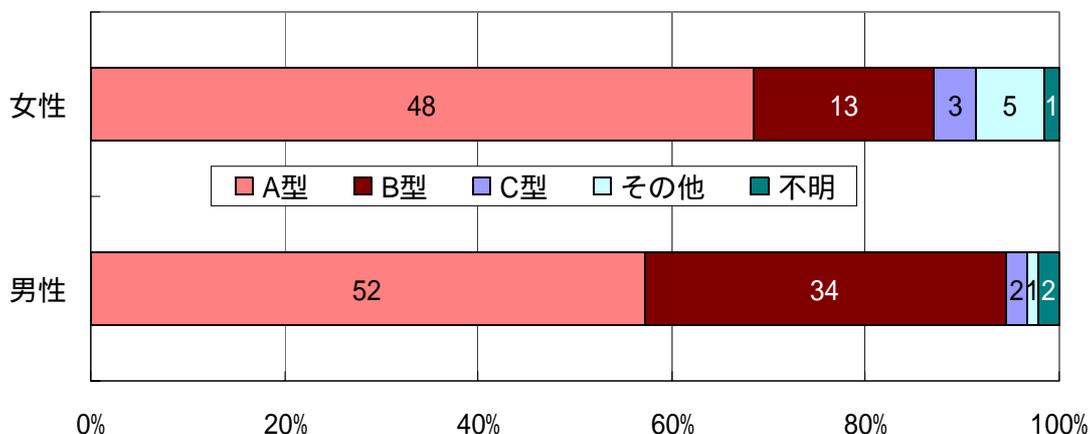
A型肝炎の推定感染地は、国内が81件、国外が17件、不明が2件であった。推定される感染経路は、経口感染87件、その他2件、不明11件であった。4月に食中毒によるA型肝炎の集団発生があり、16週に届出の増加を認めている。

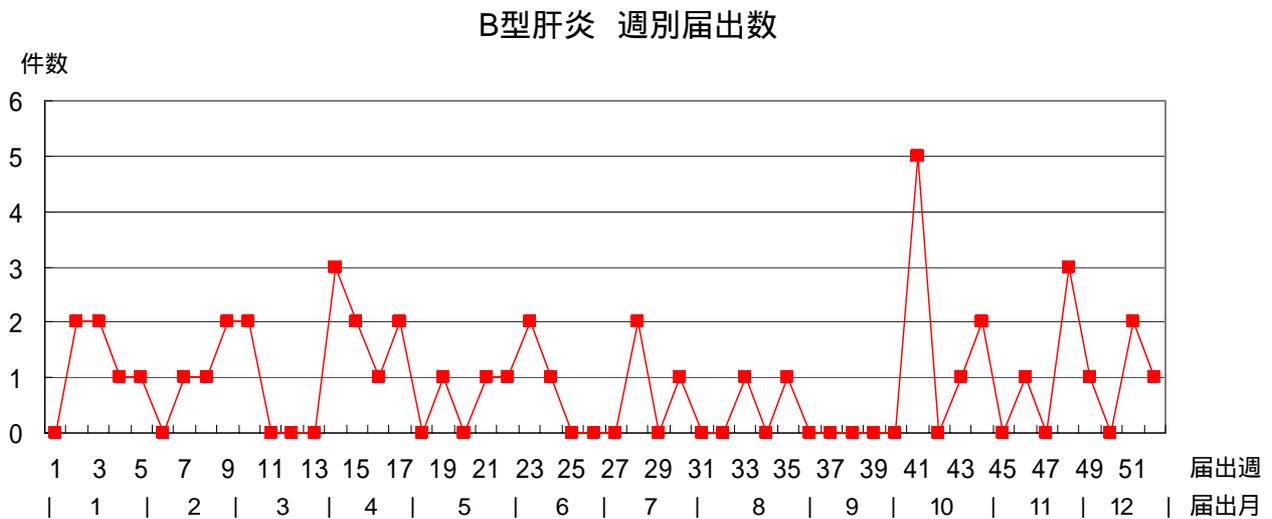
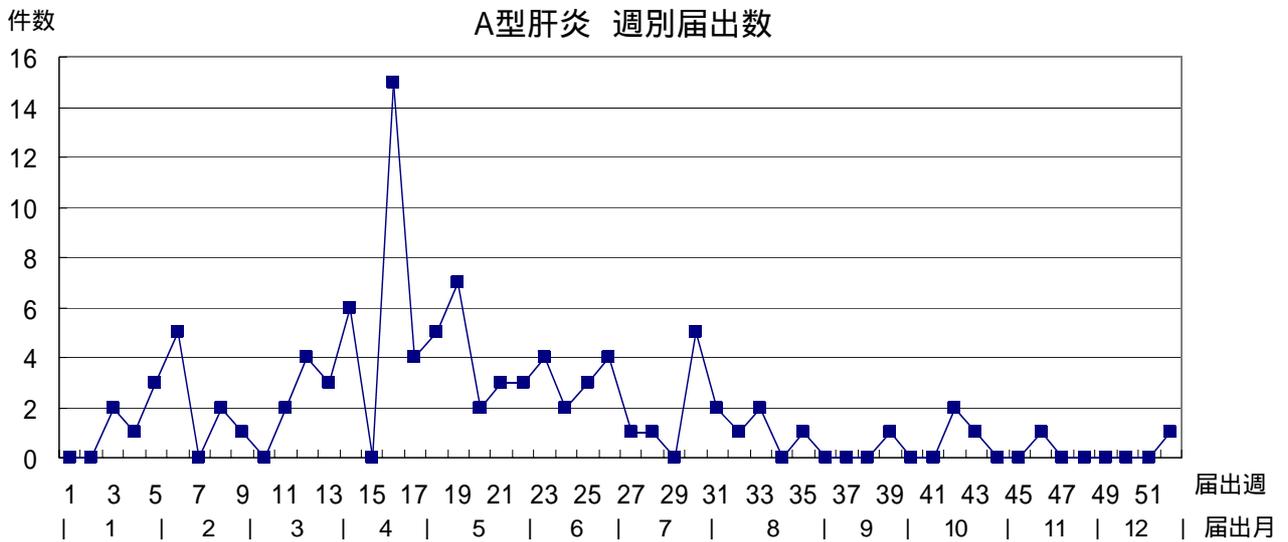
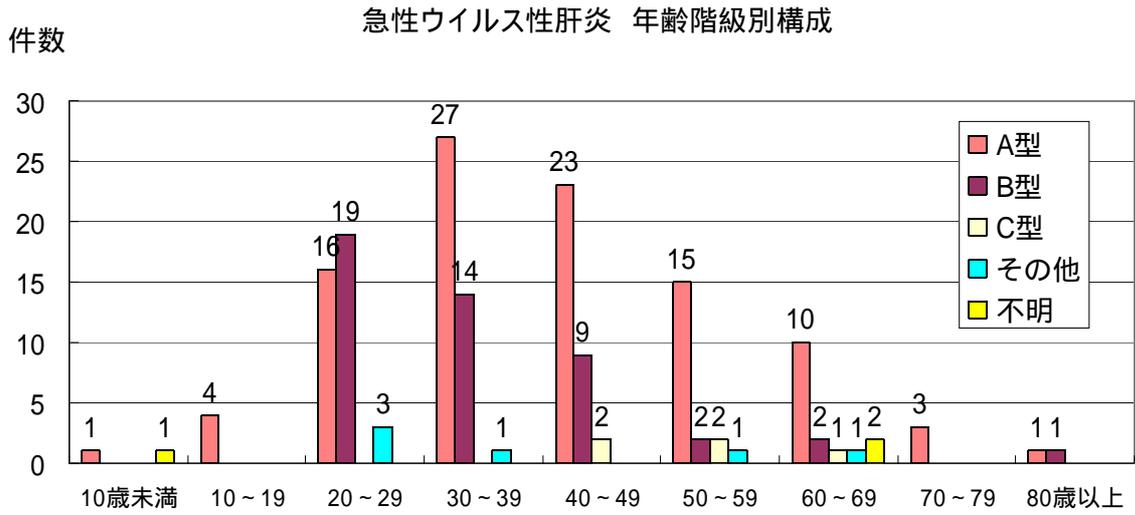
B型肝炎の推定感染地は、国内が41件、国外が5件、不明が1件であった。推定される感染経路は、異性間性的接触25件、同性間性的接触8件、不明14件であった。

C型肝炎の推定感染地は、国内が4件、国外が1件であった。推定される感染経路は、その他1件、不明4件であった。

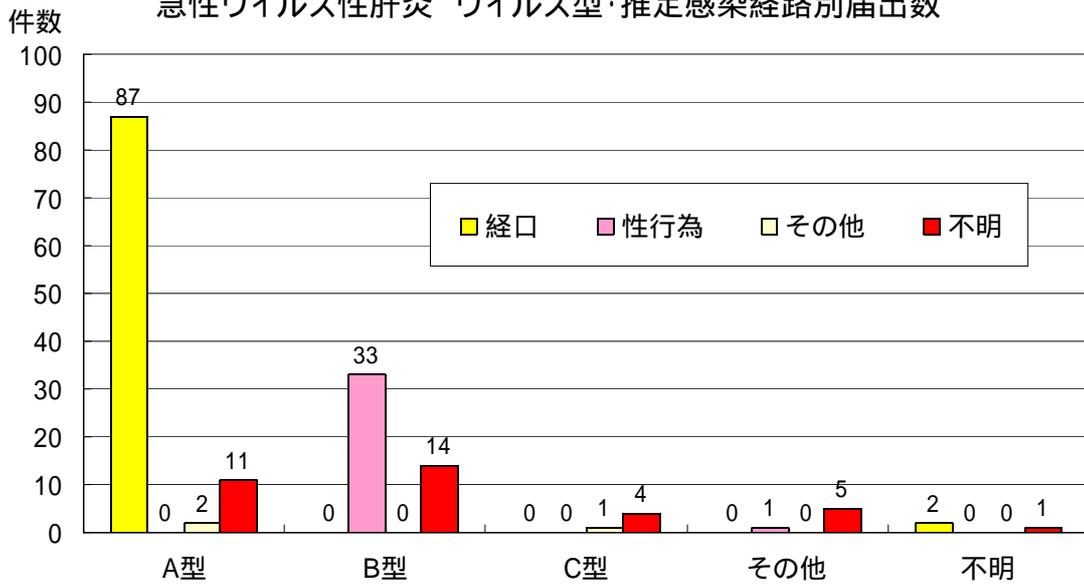
その他6件の推定感染地はすべて国内で、EBウイルスによるもの3件、サイトメガロウイルスによるもの3件が報告された。

急性ウイルス性肝炎 ウイルス型別構成割合

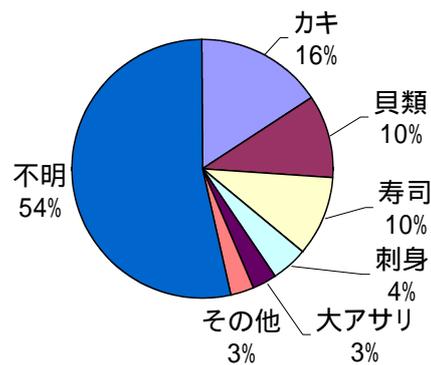




急性ウイルス性肝炎 ウイルス型・推定感染経路別届出数



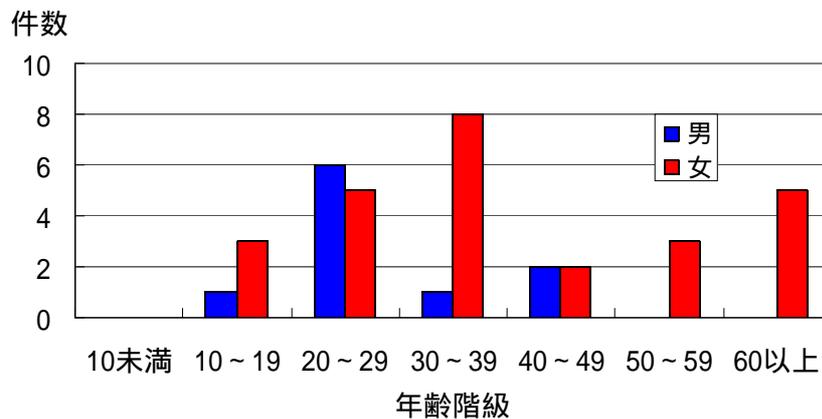
A型肝炎(国内発生) 経口感染の推定飲食物内訳
N = 69



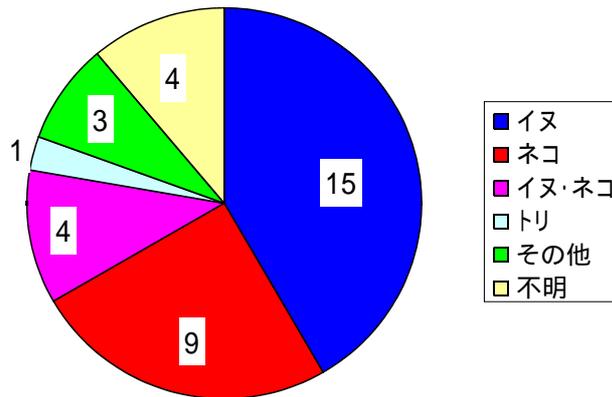
Q熱

Q熱は 36 件届出があった。性別では男性 10 人、女性 26 人である。推定感染地は全て国内である。

Q熱 年齢階級・性別届出数



Q熱 接触動物別構成割合



クリプトスポリジウム症

クリプトスポリジウム症は4件届出があった。男性3人、女性1人で、推定感染地は国内3件、国外(中国)1件である。

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染経路
1/1	2	男	26	下痢、脱水	不明
1/15	3	男	32	下痢、発熱	不明
3/26	13	男	30	下痢	不明
9/5	36	女	35	下痢	経口

クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は13件届出があった。

性別では男性が3名、女性が10名で、年齢別では50歳代1人、60歳代5人、70歳代5人、80歳代2人であった。

すべて孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病で、ほぼ確実のものが11件、疑いが2件である。

プリオンたん白遺伝子検査による診断がなされているものはなく、全てが臨床決定によるものであった。

推定感染地は国内が4件、不明が9件である。推定感染経路については不明が12件、ヒト乾燥硬膜によるものが1件届出された。

症状に関しては進行性痴呆13件、記憶障害10件、精神・知能障害13件、臨床的に頑固な不眠2件、視覚異常5件、錯感覚・異常感覚3件、錐体路症状5件、痙(けい)性対麻痺(まひ)3件、錐体外路症状9件、筋強剛7件、小脳症状6件、ミオクローヌス10件、無動性無言状態4件、脳波検査で周期性同期生放電(PSD)10件、その他3件である。

クロイツフェルト・ヤコブ病 別表

届出日	週	性別	年齢	病型		推定感染地域	推定感染経路
3/26	13	女	70	弧発性	疑い	日本国内	不明
3/29	13	女	66	弧発性	ほぼ確実	日本国内	ヒト乾燥硬膜
4/16	16	女	84	弧発性	ほぼ確実	その他	不明
6/10	24	男	74	弧発性	ほぼ確実	不明	不明
8/1	31	女	55	弧発性	ほぼ確実	不明	不明
8/8	32	女	67	弧発性	疑い	不明	不明
9/9	37	男	73	弧発性	ほぼ確実	不明	不明
10/2	40	女	73	弧発性	ほぼ確実	不明	不明
11/19	47	男	63	弧発性	ほぼ確実	日本国内	不明
11/28	48	女	81	弧発性	ほぼ確実	不明	不明
12/9	50	女	76	弧発性	疑い	不明	不明
12/9	50	女	65	弧発性	ほぼ確実	不明	不明
12/29	52	女	67	弧発性	ほぼ確実	日本国内	不明

届出日	診断月日	発病月日	初診月日	進行性痴呆	記憶障害	精神・知能障害	臨床的に頑固な不眠	視覚異常	錯感覚・異常感覚	錐体路症状	痙性対麻痺	錐体外路症状	筋強剛	小脳症状	ミオクローヌス	無動性無言状態	脳波検査でPSDあり	その他
3/26	3/5		3/5	+		+	+		+			+	+	+		+		MRI所見あり
3/29	3/22		1/25	+	+	+						+			+			
4/16	4/16		4/1	+	+	+		+						+	+		+	MRI上皮質に高信号
6/10	6/7	4/30	6/7	+	+	+		+					+	+	+		+	
8/1	7/23		7/4	+	+	+		+				+					+	
8/8	8/1		8/1	+	+	+						+	+	+				
9/9	9/9		8/20	+	+	+				+					+		+	
10/2	8/10		7/23	+	+	+				+	+	+	+	+	+	+	+	
11/19	11/13		11/13	+	+	+			+	+	+	+	+		+		+	驚愕反応
11/28	8/29		7/9	+	+	+						+			+	+	+	髄液14-3-3蛋白陽性
12/9	11/25	9/25	11/25	+		+		+				+	+		+		+	
12/9	11/15		11/13	+		+				+					+		+	
12/29	12/21	10/10	11/12	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
合計				13	10	13	2	5	3	5	3	9	7	6	10	4	10	

劇症型溶血性連鎖球菌感染症

劇症型溶血性連鎖球菌感染症は13件届出があった。性別では男性8人、女性5人、年齢別では20歳代1人、30歳2人、40歳代2人、50歳代3人、60歳代3人、70歳代1人、80歳代1人である。3人が死亡している。

届出日	週	性別	年齢	群・T型	症状	発病年月日	死亡年月日
2/13	7	女	53		敗血症性ショック、両下肢・左上肢壊死性軟部組織感染症	2002/2/3	2002/2/9
3/18	12	女	24		血圧低下、腎不全、DIC、ARDS、肝機能障害、全身紅斑	2002/3/13	
4/19	16	女	41		発熱、右下肢皮膚発赤、腫脹		2002/3/19
5/20	21	女	51	A群 T型別: T-11		2002/2/4	2002/2/5
6/26	26	男	79		敗血症ショック、右下肢軟部組織病変、播種性血管内凝固症候群、成人呼吸窮迫症候群	2002/6/12	
6/26	26	男	85	A群	急速に呼吸不全の進行する肺炎	2002/6/20	
7/4	27	男	38	A群	DIC、MOF多臓器不全、下肢腫脹	2002/6/11	
7/5	27	男	67	A群	敗血症性ショック、肝機能障害、急性腎不全、下肢紅斑、右足表皮・皮下組織壊死	2002/6/30	
8/19	34	男	61	A群	多臓器不全、感染性ショック、左上肢・右大腿部の水痘、軟部組織壊死	2002/8/16	2002/8/16
11/19	47	男	44		壊死性筋膜炎、膿瘍	2002/11/10	
11/22	47	男	60		右下肢、足背壊死・化膿、発熱、意識混濁、敗血症	2002/11/11	
11/26	48	女	55		敗血症、血圧降下、汎発性血管内血液凝固症、急性腎不全、全身筋肉痛、発疹、意識障害	2002/11/14	
12/16	51	男	38	A群	左下肢壊疽性筋膜炎、四肢末梢循環不全、敗血症性制ショック	2002/11/20	

後天性免疫不全症候群

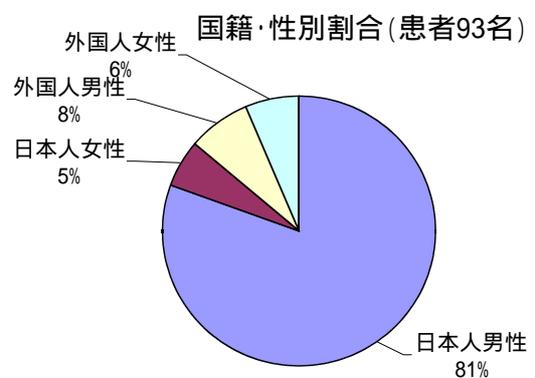
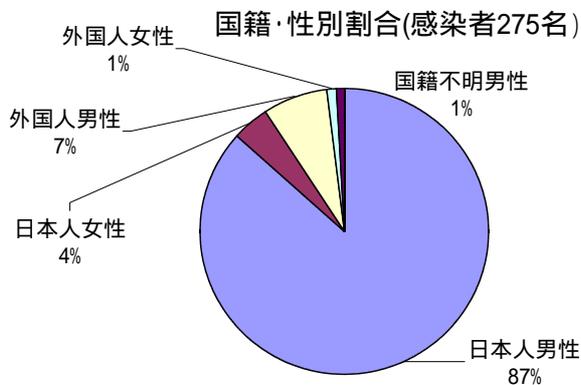
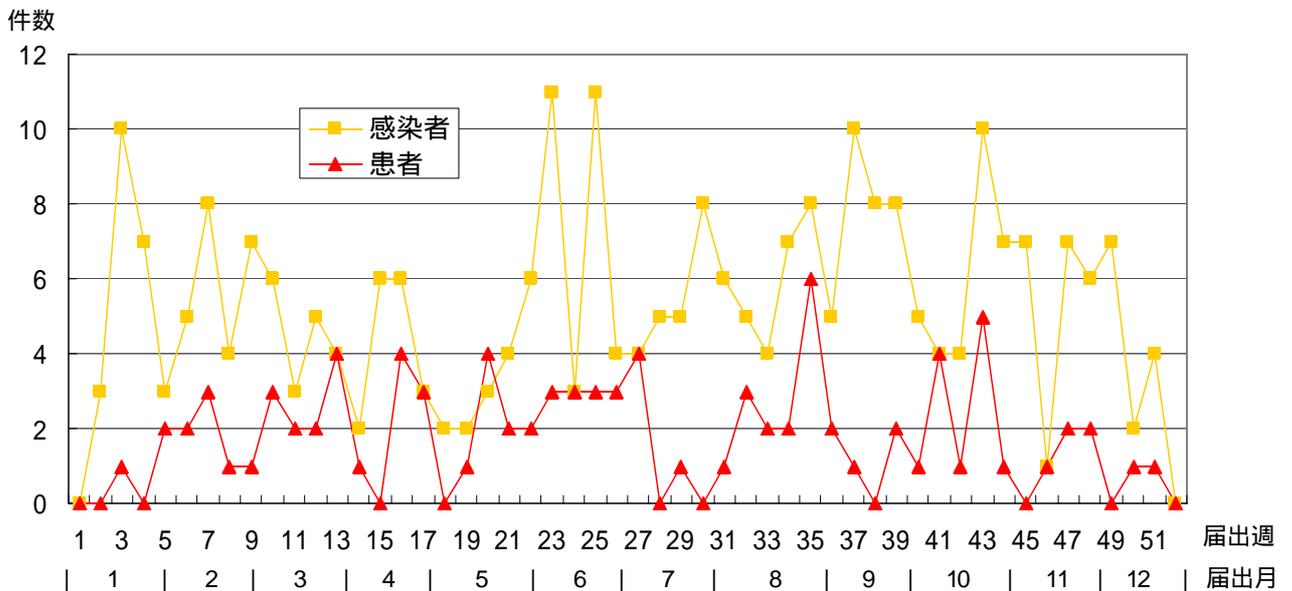
後天性免疫不全症候群の届出は、患者 93 人、感染者 275 人、合計 368 人であった。そのうち日本人男性が占める割合は患者の 86 %、感染者の 91 %であった。

推定感染経路は、性的接触によるものが患者で 92 %、感染者で 78 %を占め、特に感染者のうち男性同性間性的接触による感染が 64 %であった。

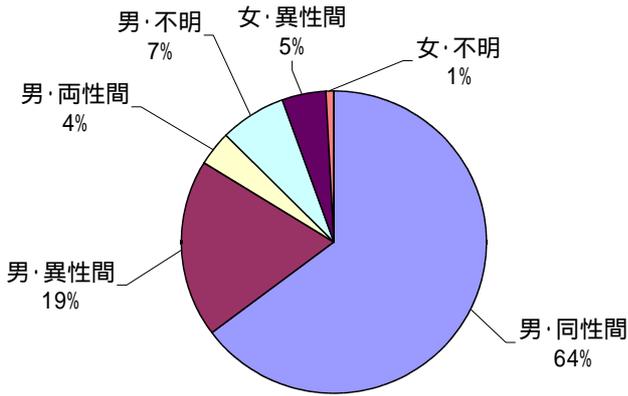
推定感染地が国内である割合は患者で 67 %、感染者で 84 %であった。

	日本人男性	外国人男性	国籍不明男性	日本人女性	外国人女性	国籍不明女性	合計
感染者	238	20	2	12	3	0	275
患者	75	7	0	5	6	0	93
合計	313	27	2	17	9	0	368

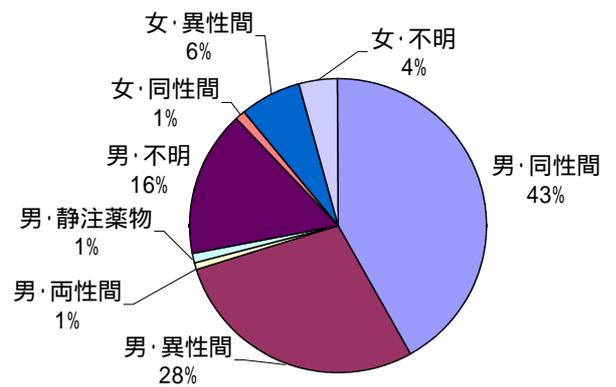
後天性免疫不全症候群 週別届出数



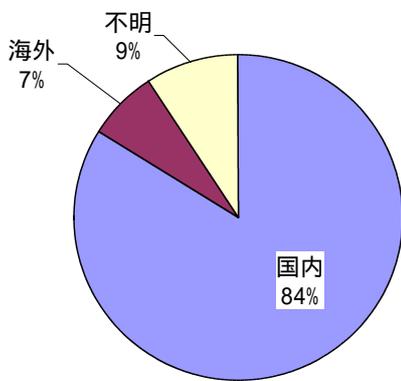
推定感染経路別構成割合(感染者275名)



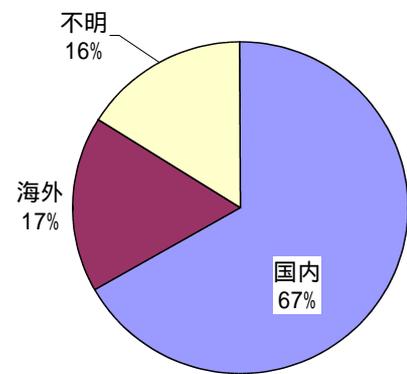
推定感染経路別構成割合(患者93名)



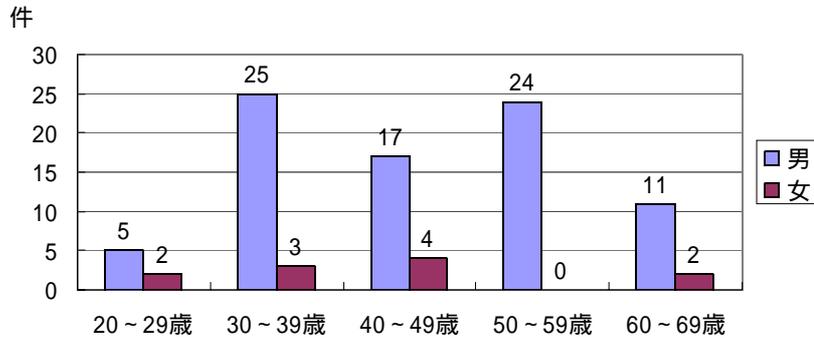
推定感染地域別構成割合(感染者275名)



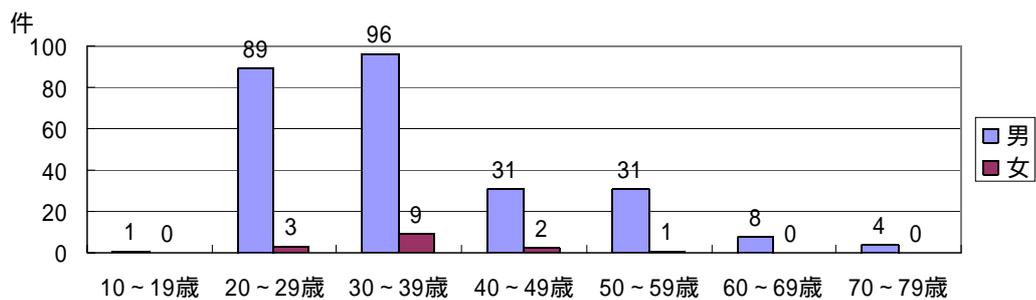
推定感染地域別構成割合(患者93名)



HIV 患者年齢階級別



HIV 感染者年齢階級別



ジアルジア症

ジアルジア症は 46 件届出があった。性別では男性 33 人、女性 13 人であり、年齢別では、20 歳代 4 人、30 歳代 22 人、40 歳代 10 人、50 歳代 6 人、60 歳代 3 人、70 歳代 1 人である。

推定感染地域は国外が 32 件、国内が 9 件、不明が 5 件である。感染経路は経口感染 37 件、異性間性的接触 1 件、不明 8 件が推定されている。

国外発生の国別では、フィリピン 3 件、パラグアイ 3 件、インド 2 件、タイ 2 件、ニジュール 2 件、バングラデッシュ 2 件、ブルキナファソ 2 件、ホンジュラス 2 件、中国 2 件、その他 12 件が届出されている。

ジアルジア国内発生

届出日	週	性別	年齢	推定感染経路	飲食物
1/23	4	男	49	不明	
3/11	11	女	59	不明	
4/10	15	男	31	経口	タイ料理
5/27	22	女	76	経口	
5/31	22	男	32	異性間性的接触	
6/19	25	男	47	経口	
7/31	31	男	45	経口	
9/31	37	女	38	不明	
11/11	46	男	40	経口	

髄膜炎菌性髄膜炎

髄膜炎菌性髄膜炎は 1 件届出があった。55 歳男性で推定感染経路は不明であった。

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
7/5	27	男	55	意識障害、発熱、髄膜刺激症状	国内	不明

ツツガムシ病

ツツガムシ病は 11 件届出があった。性別では男性 5 人、女性 6 人であり、年齢別では 30 歳代 2 人、40 歳代 1 人、50 歳代 5 人、60 歳代 2 人、70 歳代 1 人である。

いずれも国内での感染が推定されており、島しょ保健所へ届出されたものが 10 件、千葉県での感染が推定されているものが 1 件である。

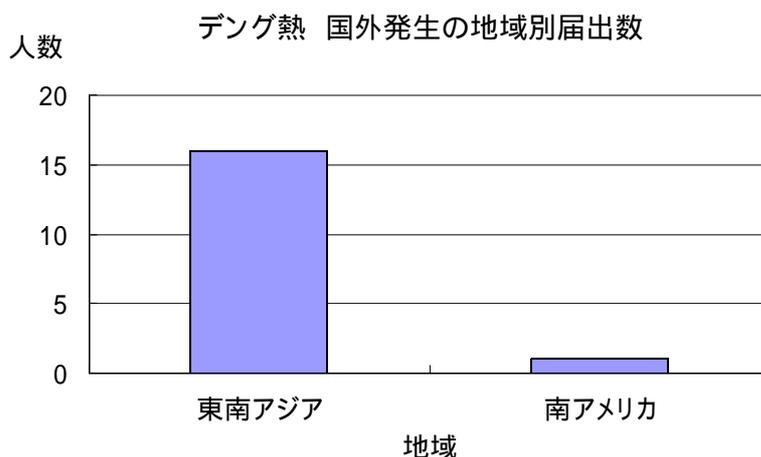
届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染地域
1/7	2	男	53	発熱、全身性発疹	島しょ 新島
1/9	2	男	62	全身倦怠感、発疹、発熱、頭痛、食欲低下	島しょ 新島
1/22	4	女	58	躯幹の紅斑、発熱、咳	千葉県
1/21	4	女	59	発熱、発疹、刺し口	島しょ 利島
1/28	5	女	35	診断時症状なし(12月大島では発熱あり)	島しょ 大島
3/14	11	男	72	発熱、発疹、全身倦怠感	島しょ 利島
11/26	48	男	65	発疹、発熱、関節痛	島しょ 大島
11/26	48	女	40	発疹、リンパ節腫脹	島しょ 大島
11/28	48	男	57	微熱、体幹部発疹、倦怠感、左前腕部刺し口様発疹	島しょ 式根島
12/3	49	女	53	頭痛、背部・腹部の散在性発疹、右腋下刺し口様発疹	島しょ 式根島
12/19	51	女	36	全身の皮疹	島しょ 新島

デング熱

デング熱は 17 件の届出があり、デング出血熱の届出はなかった。

性別では男性 11 人、女性 6 人であり、年齢別では 20 歳代 11 人、30 歳代 5 人、50 歳代 1 人であった。

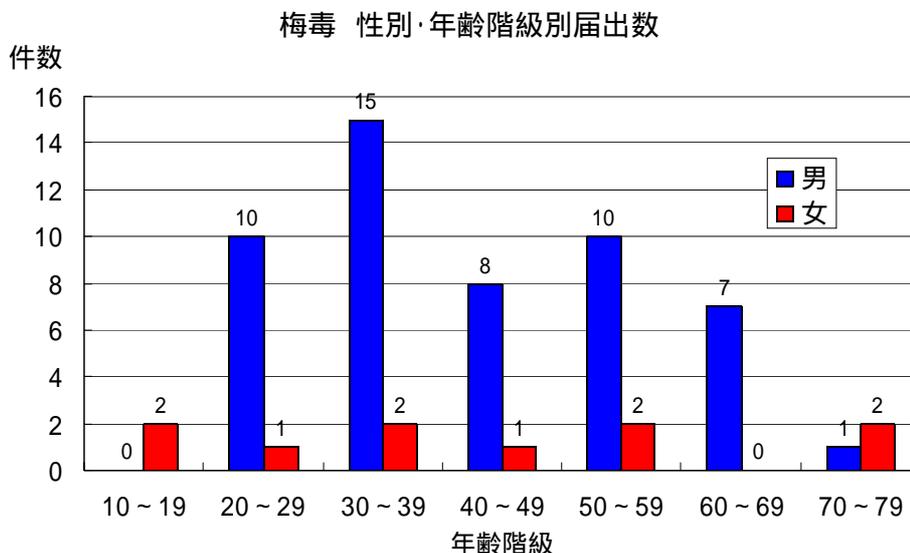
いずれも国外での感染が推定されており、国別ではタイ 9 件、インドネシア 3 件、フィリピン 2 件、その他 3 件であった。



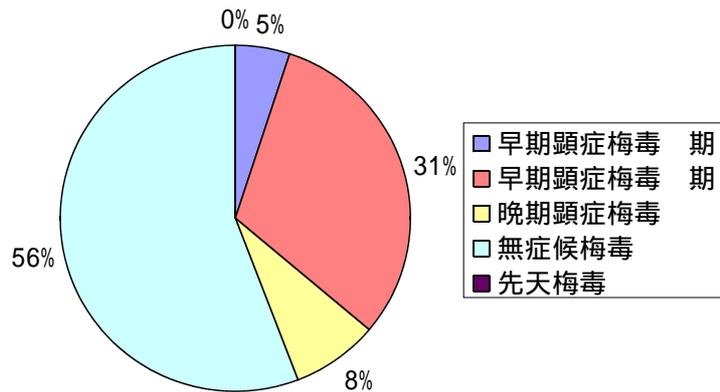
梅毒

梅毒は 61 件届出があった。早期顕症梅毒 22 件（うち I 期 3 件、II 期 19 件）、晚期顕症梅毒 5 件、無症候梅毒 34 件であった。先天梅毒の届出はなかった。性別では男性 51 人、女性 10 人であり、年齢別では 10 歳代 2 人、20 歳代 11 人、30 歳代 17 人、40 歳代 9 人、50 歳代 12 人、60 歳代 7 人、70 歳代 3 人である。

推定感染地域は国内が 51 件、国外が 1 件、不明が 9 件である。感染経路は異性間性的接触 32 件、同性間性的接触 14 件、両性間性的接触 4 件、不明 11 件が推定されている。



梅毒 病期分類



破傷風

破傷風は6件届出があった。診断方法は、臨床決定5件、病原検査・臨床決定1件である。推定感染地は国内が5件、国外が1件である。

届出日	週	性別	年齢	診断方法	症状詳細	推定感染地域	推定感染経路
5/1	18	男	60	臨床決定	開口障害、痙笑、構音障害、四肢の筋強剛	国内	
5/10	19	男	85	病原検査	開口障害、痙笑、後弓反張、全身性硬直性痙攣	国内	木片が手に刺さる
6/27	26	男	65	臨床決定	開口障害、情話障害、心筋障害	アメリカ	外傷部
7/25	30	男	48	臨床決定	開口障害、けいれん	国内	経皮
9/17	38	女	56	臨床決定	痙笑、後弓反張、開口障害、呼吸困難、痙攣	国内	乳Ca自潰部
9/17	38	男	53	臨床決定	項部硬直、嚥下障害、発熱、腹部硬直、開口障害	国内	

バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は9件の届出があった。性別では、男性8人、女性1人、遺伝子型では、vanB1件、vanC6件、不明2件であった。

届出日	週	性別	年齢	遺伝子型	症状	推定感染地域	推定感染経路
3/25	13	男	22			国内	不明
4/2	14	男	52	vanC	発熱、腹痛、黄疸	国内	不明
4/30	18	男	16	vanC	イレウス	国内	不明
6/11	24	男	67			国内	不明
7/4	27	男	57	vanC	38~39 をこえる発熱	国内	不明
7/29	31	男	82	vanB	微熱	国内	不明
10/18	42	女	92	vanC		国内	不明
12/4	49	男	28	vanC	敗血症	国内	内因性感染
12/26	52	男	76	vanC	術後胆嚢炎、術後腸閉塞	国内	不明

ブルセラ

ブルセラは1件の届出があった。42歳女性でペットのイヌからの感染が疑われた。

届出日	週	性別	年齢	診断方法	症状	推定感染経路
1/9	2	女	42	血清学的検査	不明熱 食欲不振	ペットの犬が疑われた

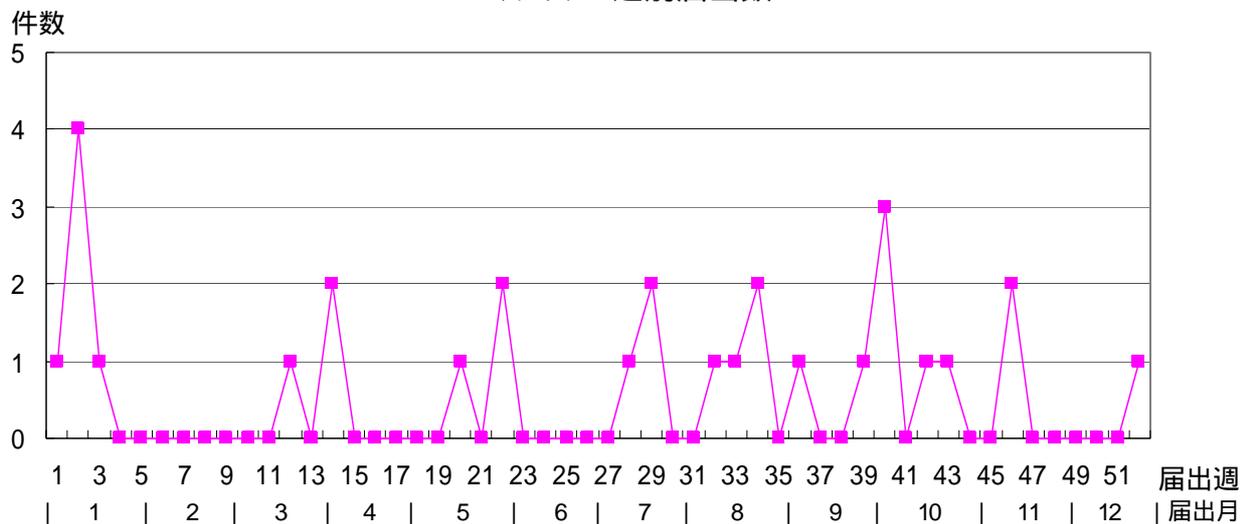
マラリア

マラリアは29件の届出があった。性別では男性19人、女性10人であり、年齢別では10歳代2人、20歳代14人、30歳代9人、40歳代1人、50歳代1人、60歳代2人であった。

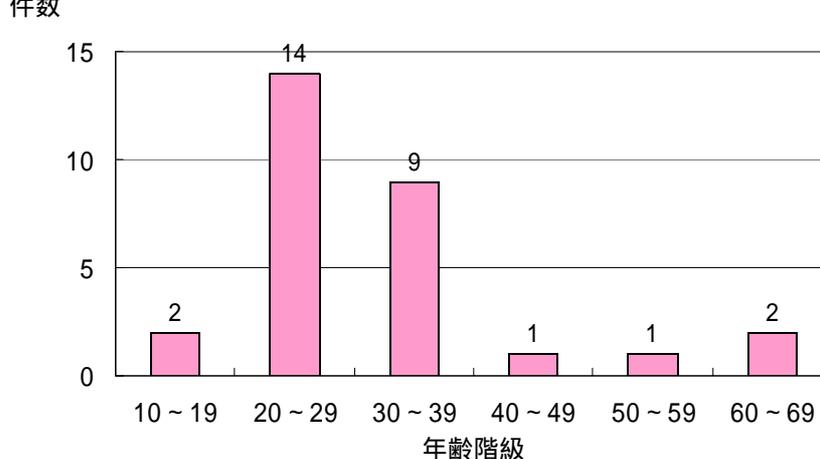
病原体別では熱帯熱マラリア15件、三日熱マラリア10件、卵形マラリア3件、不明1件であった。四日熱マラリアの報告はなかった。

推定感染地域はいずれも国外で、内訳はガーナ3件、マリ2件、パプアニューギニア6件、アフリカの2カ国以上1件、インドネシア8件、不明1件、その他8件である。

マラリア 週別届出数

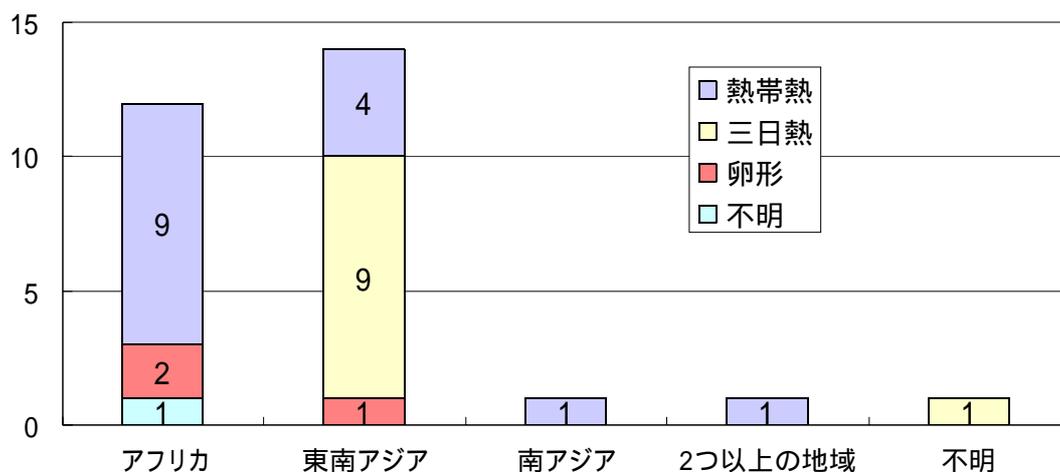


マラリア 年齢階級別届出数



件数

マラリア 国外発生の地域別届出数



ライム病

ライム病は2件の届出があった。性別では男性1人、女性1人であり、年齢別では50歳代1人、70歳代1人である。推定感染地は国内1件、国外1件であった。

届出日	週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
4/24	17	男	56	腹部に径20cmの紅色局面 右中指、背部・顔面に紅斑	国内	媒介動物等からの感染
6/27	26	女	76	遊走性紅斑	ロシア	媒介動物等からの感染

レジオネラ症

レジオネラ症は 19 件の届出があった。性別では男性 18 人、女性 1 人であり、年齢別では 50 歳代 3 人、60 歳代 7 人、70 歳代 8 人、80 歳以上 1 人である。

温泉または入浴での感染が推定されているものが 8 件あった。

届出日	週	性別	年齢	病原検査	血清群	症状	推定感染経路
1/4	1	男	91	尿中抗原陽性		発熱、筋力低下	温泉
1/10	2	男	77	喀痰より菌の分離	群	発熱、呼吸困難	銭湯
1/23	4	男	74	気管吸引痰より菌の分離	群	呼吸不全	温泉
2/12	7	男	67	尿中抗原陽性	群	発熱40、高度の炎症所見、肺炎像、低酸素血症	不明
2/15	7	男	67	尿中抗原陽性		肺炎、咳、タン、発熱、意識障害	不明
3/13	11	男	54	喀痰より菌の分離	群	全身脱力感、発熱	不明
3/27	13	男	70	尿中抗原陽性		発熱、ふらつき、肺炎	風呂
3/28	13	男	67	尿中抗原陽性		低酸素血症、両側肺炎、腎不全、発熱、肝不全	不明
6/10	24	男	75	尿中抗原陽性		発熱、喀痰	温泉
6/11	24	女	68	血清抗体価上昇		咳、発熱、全身倦怠感	不明
7/29	31	男	56	尿中抗原陽性		発熱、咳、血痰	不明
8/14	33	男	78	尿中抗原陽性	群	不明	不明
9/14	37	男	68	尿中抗原陽性	群	呼吸困難	経口感染
10/5	40	男	79	尿中抗原陽性		呼吸不全、中枢神経障害、腎障害	不明
10/8	41	男	71	尿中抗原陽性		発熱、咳、痰、悪寒	公衆浴場
10/22	43	男	58	血清抗体価上昇		なし	空調
10/23	43	男	68	尿中抗原陽性	群	急性呼吸不全	温泉
10/25	43	男	78	尿中抗原陽性		高熱(最大39.6度)、喀痰、咳嗽	河川
11/5	45	男	62	尿中抗原陽性		発熱	温泉

その他の四類感染症（全数把握対象）

以下の疾患は届出がなかった。

エキノコックス症、黄熱、回帰熱、狂犬病、コクシジオイデス症、腎症候性出血熱、先天性風疹症候群、炭疽、日本紅斑熱、日本脳炎、乳児ボツリヌス症、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、発疹チフス、ウエストナイル熱

注：ウエストナイル熱は 2002 年 11 月 1 日に四類感染症（全数届出）に指定された。

第3表 - 1 - 1 一、二、三、四類全数把握疾病 患者報告数推移表
(2002年第1週～2002年第52週)

週	期間	101 エボラ出血熱	102 クリミア・コンゴ出血熱	103 ペスト	104 マールブルグ病	105 ラッサ熱	201 コレラ	202 細菌性赤痢	203 腸チフス	204 パラチフス	205 急性灰白髄炎	206 ジフテリア	301 腸管出血性大腸菌感染症
1	12.31～1.6						2	1					
2	1.7～1.13							1					
3	1.14～1.20							1					
4	1.21～1.27							2	1				
5	1.28～2.3							1		2			
6	2.4～2.10							4					
7	2.11～2.17						1		1				3
8	2.18～2.24							2	2				1
9	2.25～3.3							1	1				1
10	3.4～3.10							1					
11	3.11～3.17												
12	3.18～3.24							3	1				
13	3.25～3.31							3					
14	4.1～4.7							3	1				2
15	4.8～4.14								1	1			1
16	4.15～4.21							2		1			1
17	4.22～4.28							1	2				1
18	4.29～5.5							2		1			
19	5.6～5.12							2					3
20	5.13～5.19							4	1				1
21	5.20～5.26							1		1			2
22	5.27～6.2						1	2					4
23	6.3～6.9							4	1	1			3
24	6.10～6.16							2	2				4
25	6.17～6.23							1	1				4
26	6.24～6.30						1	1		1			6
27	7.1～7.7												13
28	7.8～7.14												15
29	7.15～7.21							2					19
30	7.22～7.28						4		1	1			8
31	7.29～8.4						1	1	2				6
32	8.5～8.11						2	6					9
33	8.12～8.18						1	4		1			9
34	8.19～8.25						1		1				13
35	8.26～9.1							4					5
36	9.2～9.8							4	1				4
37	9.9～9.15							5					10
38	9.16～9.22							5					6
39	9.23～9.29							4	1				6
40	9.30～10.6							3					7
41	10.7～10.13							2					4
42	10.14～10.20							2	1				1
43	10.21～10.27							4		1			4
44	10.28～11.3							4					3
45	11.4～11.10							2					1
46	11.11～11.17							1					
47	11.18～11.24							2					
48	11.25～12.1							1					1
49	12.2～12.8							3					3
50	12.9～12.15							4					
51	12.16～12.22							3					2
52	12.23～12.29							1					
	合計						14	112	22	11			186

第3表 - 1 - 2 一、二、三、四類全数把握疾病 患者報告数推移表

(2002年第1週～2002年第52週)

週	期間	401 アメーバ赤痢	402 エキノコックス症	403 黄熱	404 オウム病	405 回帰熱	406 ウイルス性肝炎 (急性肝炎)	407 Q熱	408 狂犬病	409 クリプトスポリジウム症	410 クロイツフェルト ・ヤコブ病	411 劇症型溶血性レンサ球菌 感染症	412 後天性免疫不全症候群	413 コクシジオイデス症	414 ジアルジア症	415 腎症候性出血熱	416 髄膜炎菌性髄膜炎	417 先天性風疹症候群
1	12.31～1.6	1																
2	1.7～1.13	3					3						3		2			
3	1.14～1.20						4			1			11					
4	1.21～1.27						2						7		1			
5	1.28～2.3	2					6						5					
6	2.4～2.10	3					6						7					
7	2.11～2.17	2					1					1	11					
8	2.18～2.24						4						5					
9	2.25～3.3	3					3						8		1			
10	3.4～3.10	1					2						9					
11	3.11～3.17	3					2						5		2			
12	3.18～3.24	3					4					1	7					
13	3.25～3.31				1		3			1	2	1	8		2			
14	4.1～4.7	2					9						3		1			
15	4.8～4.14	2					2						6		2			
16	4.15～4.21	2					16	4			1	1	10		5			
17	4.22～4.28	1					6						6		7			
18	4.29～5.5	6					5						2					
19	5.6～5.12	1					8						3					
20	5.13～5.19	1					2	8					7		2			
21	5.20～5.26	5			1		5					1	6		1			
22	5.27～6.2	4					4						8		2			
23	6.3～6.9	3					7	7					14		1			
24	6.10～6.16	3					4				1		6		2			
25	6.17～6.23	5					3						14		1			
26	6.24～6.30						4					2	7					
27	7.1～7.7	3					1					2	8				1	
28	7.8～7.14	1					3	9					5					
29	7.15～7.21												6		1			
30	7.22～7.28	4					6						8		1			
31	7.29～8.4						2					1	7		2			
32	8.5～8.11	3					5					1	8		1			
33	8.12～8.18	4					3						6		1			
34	8.19～8.25	6			1							1	9					
35	8.26～9.1	4					2						14		2			
36	9.2～9.8	5								1			7					
37	9.9～9.15	5									1		11		1			
38	9.16～9.22	3											8					
39	9.23～9.29	2					1						10					
40	9.30～10.6	5									1		6					
41	10.7～10.13	2					5						8		1			
42	10.14～10.20	1					2						5					
43	10.21～10.27	2					2						15		1			
44	10.28～11.3	2			1		2						8					
45	11.4～11.10	2					2						7					
46	11.11～11.17	2			1		2	2					2		1			
47	11.18～11.24	1						1			1	2	9					
48	11.25～12.1	1					3				1	1	8		1			
49	12.2～12.8	2					1	5					7		1			
50	12.9～12.15	3									2		3					
51	12.16～12.22	3					2					1	5					
52	12.23～12.29	4					2				1							
合計		126			5		161	36		4	13	13	368		46		1	

第3表 - 1 - 3 一、二、三、四類全数把握疾病 患者報告数推移表

(2002年第1週～2002年第52週)

週	期間	418 炭疽	419 ツツガムシ病	420 デング熱	421 日本紅斑熱	422 日本脳炎	423 乳児ポツリヌス症	424 梅毒	425 破傷風	426 腸球菌感染症	427 バンコマイシン耐性 肺炎球菌感染症	428 Bウイルス病	429 ブルセラ症	430 発疹チフス	431 マラリア	432 ライム病	433 レジオネラ症	434 ウエストナイル熱
1	12.31～1.6															1		1
2	1.7～1.13		2	1				2					1			4		1
3	1.14～1.20							5							1			
4	1.21～1.27		2	1				2										1
5	1.28～2.3		1					2										
6	2.4～2.10			1				3										
7	2.11～2.17							1										2
8	2.18～2.24				1			1										
9	2.25～3.3							2										
10	3.4～3.10																	
11	3.11～3.17		1															1
12	3.18～3.24														1			
13	3.25～3.31									1								2
14	4.1～4.7				1			1		1					2			
15	4.8～4.14				1			1										
16	4.15～4.21																	
17	4.22～4.28				1			1										
18	4.29～5.5								1	1								
19	5.6～5.12								1									
20	5.13～5.19							2							1			
21	5.20～5.26																	
22	5.27～6.2							1							2			
23	6.3～6.9							2										
24	6.10～6.16				1						1							2
25	6.17～6.23							1										
26	6.24～6.30							3	1								1	
27	7.1～7.7				1			1		1								
28	7.8～7.14							1							1			
29	7.15～7.21				1			1							2			
30	7.22～7.28							1	1									
31	7.29～8.4							1		1								1
32	8.5～8.11														1			
33	8.12～8.18				1			1							1			1
34	8.19～8.25														2			
35	8.26～9.1				2			4										
36	9.2～9.8							2							1			
37	9.9～9.15							1										1
38	9.16～9.22				1			1	2									
39	9.23～9.29							2										
40	9.30～10.6							3							1			1
41	10.7～10.13							1							3			1
42	10.14～10.20							1		1					1			
43	10.21～10.27							1							1			3
44	10.28～11.3							1										
45	11.4～11.10																	1
46	11.11～11.17														2			
47	11.18～11.24				1													
48	11.25～12.1							2										
49	12.2～12.8				1			1		1								
50	12.9～12.15				1			1										
51	12.16～12.22							2										
52	12.23～12.29							2		1					1			
	合計		11	17				61	6	9			1		29	2	19	

第3表 - 2 - 1 一、二、三、四類全数把握疾病 保健所別累計表
(2002年第1週～2002年第52週)

保健所	101 エボラ出血熱	102 クリミア・コンゴ出血熱	103 ペスト	104 マールブルグ病	105 ラッサ熱	201 コレラ	202 細菌性赤痢	203 腸チフス	204 パラチフス	205 急性灰白髄炎	206 ジフテリア	301 腸管出血性大腸菌感染症
千代田							7	1				4
中央区							3					3
みなと							4	2	1			8
新宿区						1	11	1				11
文京							5	6	6			11
台東							4	1				1
墨田区						4	3	3				8
江東区							2					8
品川区							4	2				5
目黒区							2					2
大田区						1	8	1	1			6
世田谷区							6					8
渋谷区							1					2
中野区							7					5
杉並						1	3					9
池袋							1					
長崎												
北区							2	1				1
荒川区							2					2
板橋区						2	7	1	1			6
練馬区						1	3					4
足立							1					11
葛飾							4					5
江戸川												13
多摩川							1					9
秋川												
八王子						1	7		1			3
南多摩							2					8
町田							2					1
多摩立川							3					8
村山大和							2					3
府中小金井							2		1			2
狛江調布												
三鷹武蔵野						2	2	2				6
多摩小平							1					6
多摩東村山						1		1				7
島しょ												
合計						14	112	22	11			186

第3表 - 2 - 2 一、二、三、四類全数把握疾病 保健所別累計表
(2002年第1週～2002年第52週)

保健所	401 アメーバ赤痢	402 エキノコックス症	403 黄熱	404 オウム病	405 回帰熱	406 ウイルス性肝炎 (急性肝炎)	407 Q熱	408 狂犬病	409 クリプトスポリジウム症	410 クロイツフェルト ・ヤコブ病	411 劇症型溶血性レンサ球菌 感染症	412 後天性免疫不全症候群	413 コクシジオイデス症	414 ジアルジア症	415 腎症候性出血熱	416 髄膜炎菌性髄膜炎	417 先天性風疹症候群
千代田	4					8						4					
中央区	4											6		6			
みなと	11					5	2					24		5			
新宿区	18					9		1	2			83		26			
文京	9					2				3	4	52		1		1	
台東	2					2						2					
墨田区	4					22		2				10		2			
江東区	2					11					1						
品川区	2					14				1	1	10					
目黒区	3					4						4					
大田区	12					3		1	1			7		2			
世田谷区	7					2						4					
渋谷区	6			1		4				1		87		1			
中野区	4										2	3		2			
杉並	2					10						9					
池袋	3					2						2					
長崎																	
北区												4					
荒川区	1					2					1						
板橋区	3					4	34				1	16					
練馬区						3						5					
足立	2					2						4		1			
葛飾	2			2		6						1					
江戸川	3					11				1		2					
多摩川						1					1	3					
秋川																	
八王子	2					4						5					
南多摩																	
町田	1					3						1					
多摩立川						3						5					
村山大和	1											1					
府中小金井						2				1		3					
狛江調布	2																
三鷹武蔵野	8					11					1	6					
多摩小平	3			2		8				1	1	3					
多摩東村山	5					3				2		2					
島しょ																	
合計	126			5		161	36		4	13	13	368		46		1	

第3表 - 2 - 3 一、二、三、四類全数把握疾病 保健所別累計表

(2002年第1週～2002年第52週)

保健所	418 炭疽	419 ツツガムシ病	420 デング熱	421 日本紅斑熱	422 日本脳炎	423 乳児ボツリヌス症	424 梅毒	425 破傷風	426 腸球菌感染症 バンコマイシン耐性	427 ハンタウイルス肺炎症候群	428 Bウイルス病	429 ブルセラ症	430 発疹チフス	431 マラリア	432 ライム病	433 レジオネラ症	434 ウエストナイル熱
千代田							5										
中央区																	
みなと			6				7	1	1					11		2	
新宿区		1	2				11	1	6					10		3	
文京							1									1	
台東							1										
墨田区		1	4				7							3		1	
江東区																	
品川区															1		
目黒区							1									1	
大田区			5				2								1	1	
世田谷区							1							1			
渋谷区							1										
中野区							6										
杉並							1										
池袋																	
長崎																	
北区							2										
荒川区							3										
板橋区							3	2						1		2	
練馬区																	
足立																	
葛飾							2										
江戸川																	
多摩川							1	1									
秋川																	
八王子																	
南多摩							2							1			
町田									1								
多摩立川								1								1	
村山大和																	
府中小金井							1					1					
狛江調布							1										
三鷹武蔵野														2		3	
多摩小平							1		1							3	
多摩東村山							1									1	
島しょ		9															
合計		11	17				61	6	9			1		29	2	19	

第3表 - 3 - 1 一、二、三、四類全数把握疾病 年齢階級別累計表
(2002年第1週～2002年第52週)

年齢階級	101 エボラ出血熱	102 クリミア・コンゴ出血熱	103 ペスト	104 マールブルグ病	105 ラッサ熱	201 コレラ	202 細菌性赤痢	203 腸チフス	204 パラチフス	205 急性灰白髄炎	206 ジフテリア	301 腸管出血性大腸菌感染症
0歳												1
1～4歳							2					30
5～9歳							4		1			23
10～14歳							4					15
15～19歳							3					13
20～24歳						3	23	8	4			29
25～29歳						1	35	5				15
30～34歳							12	4	3			12
35～39歳						2	8	2	1			10
40～44歳							5	1	1			3
45～49歳							2					10
50～54歳						1	4	1	1			8
55～59歳						3	1	1				6
60～64歳						1	4					
65～69歳						1	1					5
70歳以上						2	4					6
合計						14	112	22	11			186

第3表 - 3 - 2 一、二、三、四類全数把握疾病 年齢階級別累計表
(2002年第1週～2002年第52週)

年齢階級	401 アメーバ赤痢	402 エキノコックス症	403 黄熱	404 オウム病	405 回歸熱	406 ウイルス性肝炎 (急性肝炎)	407 Q熱	408 狂犬病	409 クリプトスポリジウム症	410 クロイツフェルト ・ヤコブ病	411 劇症型溶血性レンサ 球菌感染症	412 後天性免疫不全症候群	413 コクシジオイデス症	414 ジアルジア症	415 腎症候性出血熱	416 髄膜炎菌性髄膜炎	417 先天性風疹症候群
0歳						1											
1～4歳																	
5～9歳	1					1											
10～14歳						2	2										
15～19歳						2	2					1					
20～24歳	6					17	5				1	30					
25～29歳	17					21	6		1			69		4			
30～34歳	19					19	3		2			82		13			
35～39歳	20			2		23	6		1		2	51		9			
40～44歳	14					19	2				2	37		5			
45～49歳	14					15	2					17		5			
50～54歳	8			1		15	2				2	34		3			
55～59歳	7					5	1			1	1	22		3		1	
60～64歳	11					8	1			1	2	11		2			
65～69歳	3			1		8	3			4	1	10		1			
70歳以上	6			1		5	1			7	2	4		1			
合 計	126			5		161	36		4	13	13	368		46		1	

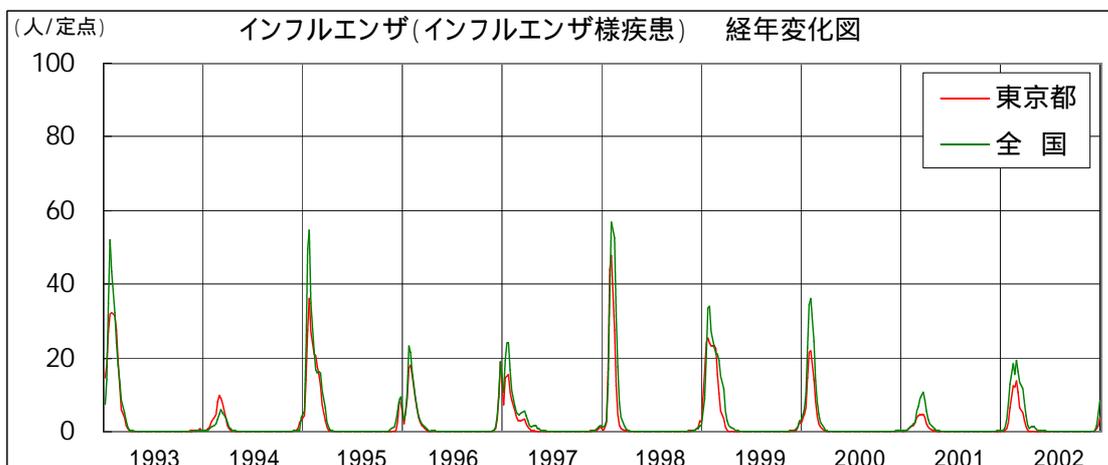
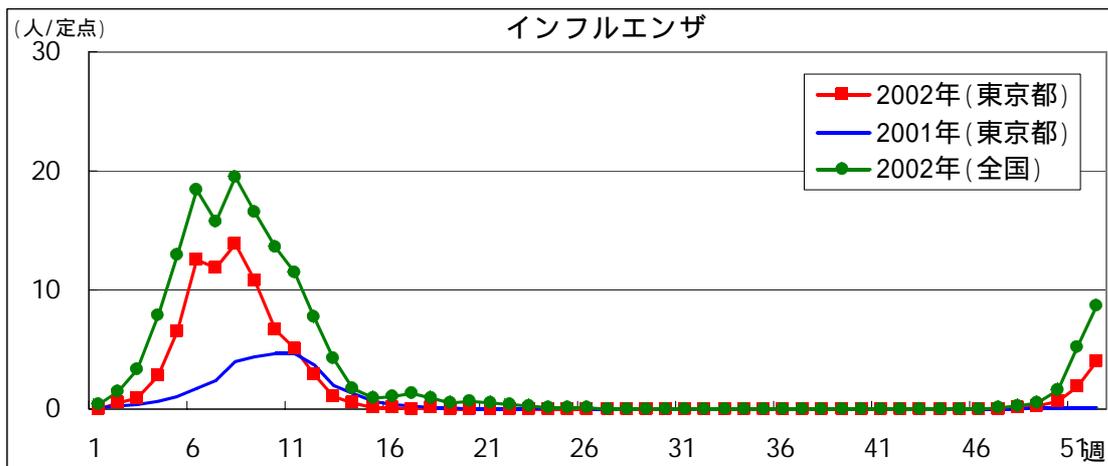
第3表 - 3 - 3 一、二、三、四類全数把握疾病 年齢階級別累計表
(2002年第1週～2002年第52週)

年齢階級	418 炭疽	419 ツツガムシ病	420 デング熱	421 日本紅斑熱	422 日本脳炎	423 乳児ボツリヌス症	424 梅毒	425 破傷風	426 バンコマイシン 耐性腸球菌感染症	427 ハンタウイルス肺症候群	428 Bウイルス病	429 ブルセラ症	430 発疹チフス	431 マラリア	432 ライム病	433 レジオネラ症	434 ウエストナイル熱	
0歳																		
1～4歳																		
5～9歳																		
10～14歳														1				
15～19歳							2		1					1				
20～24歳			7				4		1					7				
25～29歳			4				7		1					7				
30～34歳			4				8							7				
35～39歳		2	1				9							2				
40～44歳		1					7					1		1				
45～49歳							2	1										
50～54歳		2	1				7	1	1								1	
55～59歳		3					5	1	1					1	1	2		
60～64歳		1					6	1						1		1		
65～69歳		1					1	1	1					1		6		
70歳以上		1					3	1	3						1	9		
合計		11	17				61	6	9			1		29	2	19		

(2) 小児科・内科疾患

ア インフルエンザ(インフルエンザ様疾患)

平成 14 年の年間患者発生数は 14,877 件(83.58 人/定点)で、過去 10 年で最下位の昨年(34.35 人/定点)に比し 243.3%の増加であり、過去 10 年では第 8 位であった。当年の前期流行波(2001/2002 期)は、第 4 週(2.78 人/定点)に始まり、第 8 週(13.84 人/定点)をピークとした流行で、第 14 週以後急速に減退した。この流行は 1999/2000 期の流行(ピーク；第 5 週 21.93 人/定点)より小さく、2000/2001 期の流行(ピーク；第 10 週 4.67 人/定点)より大きかった。また、前期の東京の流行規模は、全国流行(ピーク；第 8 週 19.50 人/定点、第 2 週から第 17 週の規模)より小規模であった。検出ウイルス(PCR法)は、第 2 週より第 13 週に認められ、ウイルス種別は A H 1 型；63 株、A H 3 型；145 株、B 型 19 株であり、A H 3 型優位の混合流行であった。集団発生の検出状況は、25 小中学校から得た 90 検体のうち、陽性は 70 検体で、その内訳は A H 1 型；28 株、A H 3 型；33 株、B 型 9 株であった。また、この流行前期や流行期の類似症状患者からアデノウイルス 43 株、RS ウイルス 4 株が検出された。晩秋から翌年初冬にみる後期流行波(2002/2003 期)は、第 51 週(1.86 人/定点)に始まり 2003 年第 12 週(1.10 人/定点に終る流行で、ピークは 03 年第 5 週(28.11 人/定点)であり、検出ウイルスには A H 1 型なく、A H 3 型；106 株、B 型 57 株であり、2002 年 12 月から 03 年 1 月中旬まではほとんど A H 3 型であり、以後次第に B 型優位に移行した。



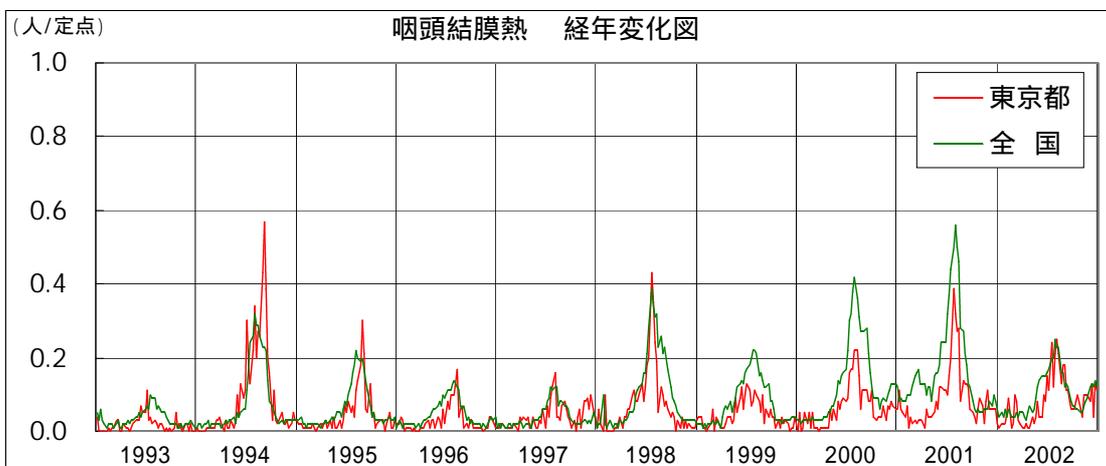
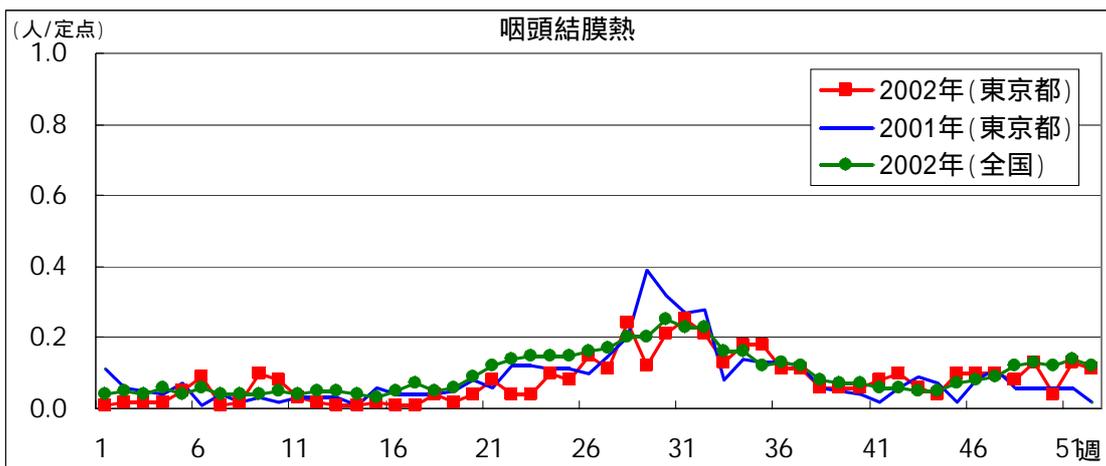
イ 咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は小児科・内科と眼科の双方の対応疾患であるが、感染症法施行以来、定点の見直しにより小児科・内科が定点分析を担当している。

平成 14 年の患者報告数は 600 件(4.23 人/定点)であり、前年比 93.2%の横這い状態に経過し、過去 10 年では第 3 位であった。

本症は夏期に流行する感染症で、当年の患者発生推移では、第 21 週(11 件、0.08 人/定点)より増加傾向を示し、第 24 週(14 件、0.10 人/定点)には増勢が明らかとなり、第 31 週(35 件、0.25 人/定点)をピークとして、以後多少の増減を示しながら減少し、第 37 週には 0.11 人/定点となり、第 38 週(0.06 人/定点)以降低位安定期に入っている。

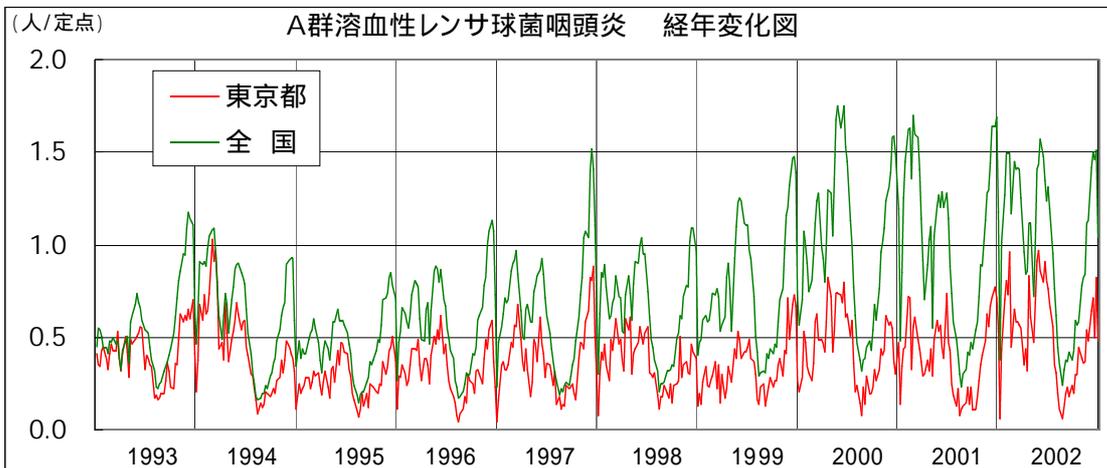
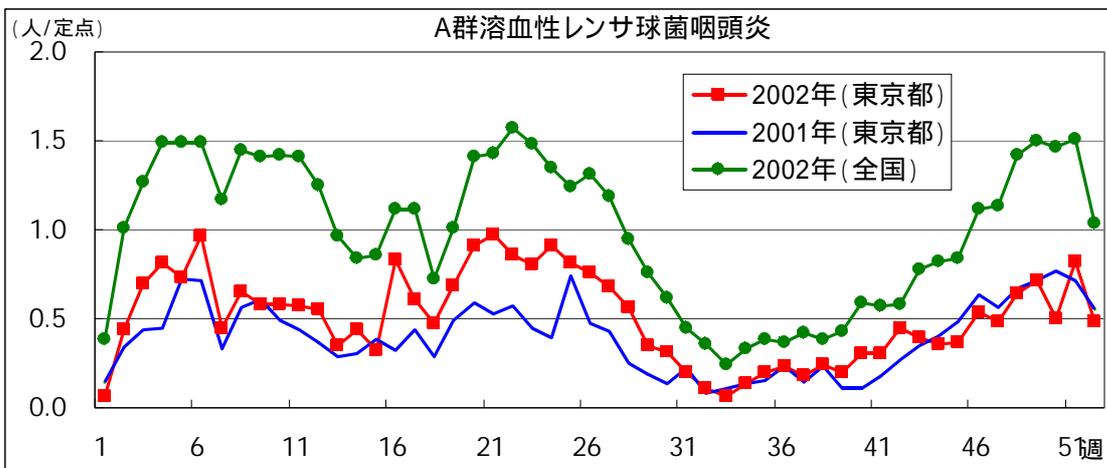
本症は、ときに局地的小流行をみることがあり、当年は区中央部圏、区西南部圏にやや多く発生した。罹患年齢は 1～5 歳が多く、600 件中 444 件(74.0%)が 1～5 歳であった。最近 10 年間の流行状況を定点当り年間発生数で見ると、平成 2 年 4.60 人、6 年 4.86 人、10 年 3.77 人、13 年 4.54 人であり、その間の発生は少なく、3～4 年周期に流行がみられる。平成 11 年は流行翌年で 2.24 人/定点と少なく、12 年 3.44 人のあと、増加して 13 年 4.54 人、そして当年 4.23 人と続いた。



ウ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌感染症）

平成 14 年の報告数は 3,772 件(26.56 人/定点)であり、前年比 128.4%の軽度増加であったが、過去 10 年間では、第 1 位の報告件数である。本症は平成 6 年まで横這いしないし微増傾向を示したが、平成 6 年(23.02 人/定点)は過去最高であった。平成 7 年(14.19 人/定点)以降、報告件数の低値が続いたが、12 年(22.95 人/定点)から増加し、当年は平成 6 年の報告数を超え、第 1 位となった。

本症の疫学像は梅雨期と晩秋冬期に増加するW字型流行像を示すことで知られるが、平成 13 年の山は低く、14 年はこれより増大したとはいえ、全国の流行推移より低位にある。ブロック別発生状況では、区東部圏、区東北部圏で多発し、区西部圏、南多摩圏、北多摩南部圏、北多摩西部圏には少ない。年齢別発生状況では、3～6 歳が 2055 件(54.5%)と過半数を占めている。



エ 感染性胃腸炎

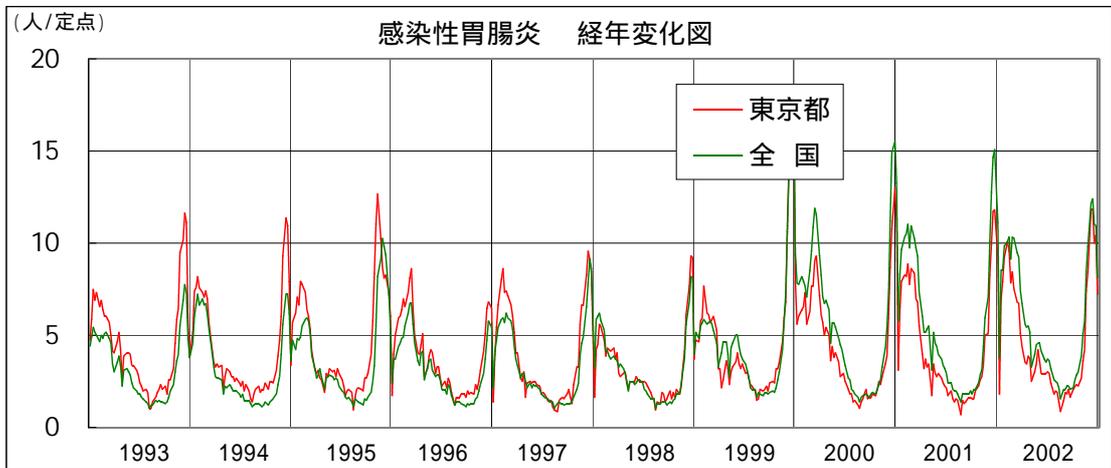
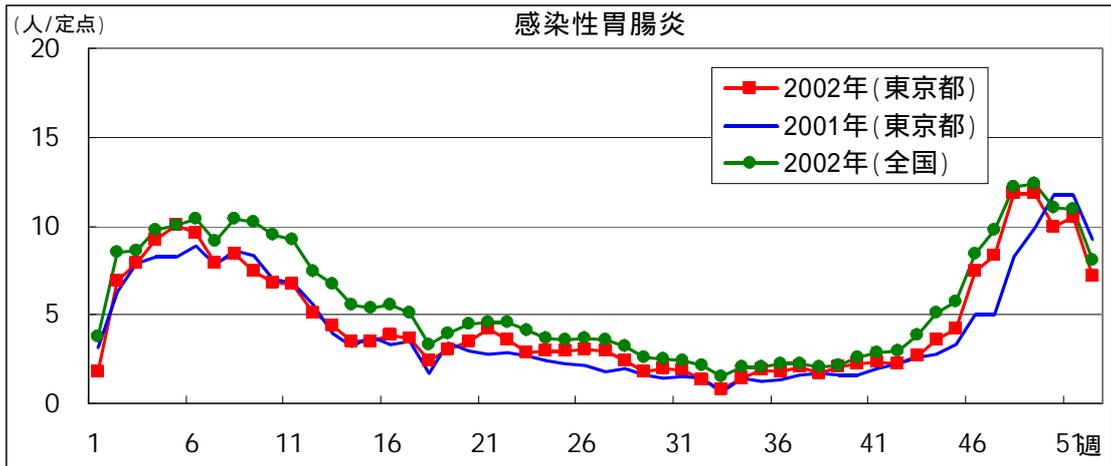
平成 14 年の報告数は 34,659 件(244.08 人/定点)であり、前年比 109.6%の横這い状態であり、過去 10 年間では第 1 位の報告件数であった。

本症は秋季に始まり冬季を通じ春季にかけて流行する疾患で、通年図では年末と年初に鋭いピークを示す流行像がみられる。平成 14 年前期の流行は、平成 13 年末の第 51 週(11.78 人/定点)をピークとする流行波の延長で、第 5 週(10.08 人/定点)をピークとする例年並の流行であり、平成 14 年後期の流行は第 48、49 週(11.80 人/定点)をピークとする流行で、前年よりやや高位を示す週もあるが、全般的に平行的に発生していた。罹患年齢分布は 3 歳未満 27.8%(9,643 件)、3～5 歳 27.2%(9,430 件)、6～9 歳 18.8%(6,517 件)であった。ブロック別発生状況では、昨年に類似して南多摩、北多摩北部、区東部圏、区西南部圏で報告数が多く、区西北部圏、北多摩西部及び南部で発生が少なかった。

13 年から当年年初期にかかる感染性胃腸炎の原因の多くは S R S V であり、第 4、5 週の原因にロタウイルスによる胃腸炎が混在していた。当年末の後期流行に相当する 02 年第 48 週～03 年第 3 週の感染性胃腸炎の原因も S R S V が大部分を占め、一部にロタ、アデノ、カンピロバクターを検出した。

平成 11 年 3 月までは感染性胃腸炎と乳児嘔吐下痢症を別集計していたが、同年 4 月感染症予防法施行以後は両疾患を集計して報告されているので、下記に併記して対比した。

年	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
内科・小児科定点数	138	138	138	142	142	142	142	142	142	142
感染性胃腸炎のみ	31,777	29,637	32,597	28,069	28,144	23,600	34,137	33,084	31,639	34,659
人/定点	230.30	214.76	236.21	197.67	198.20	166.20	240.40	232.99	222.81	244.08
感染性胃腸炎+乳児嘔吐下痢症	38,028	35,099	40,406	32,993	33,710	27,964	36,245	33,084	31,639	34,659
人/定点	275.57	254.34	292.80	232.35	237.39	196.93	255.25	232.99	222.81	244.08



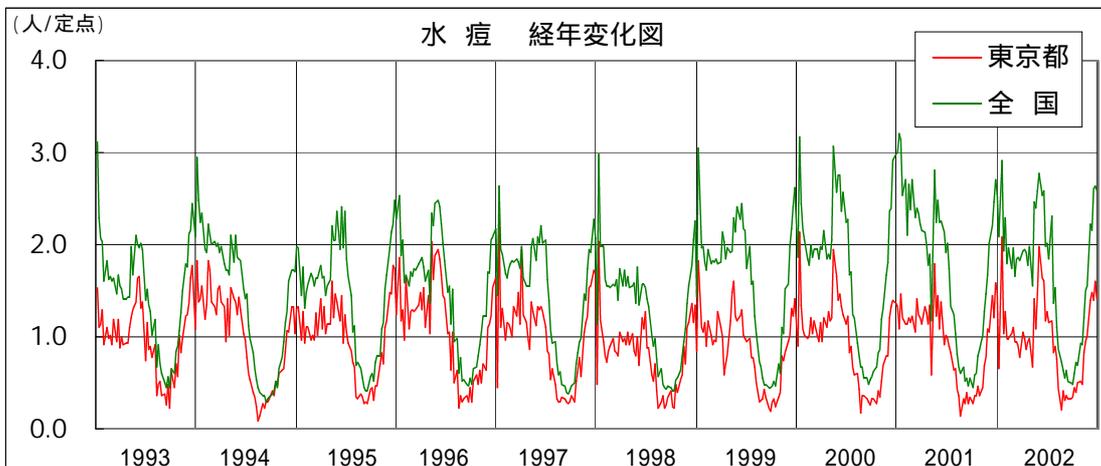
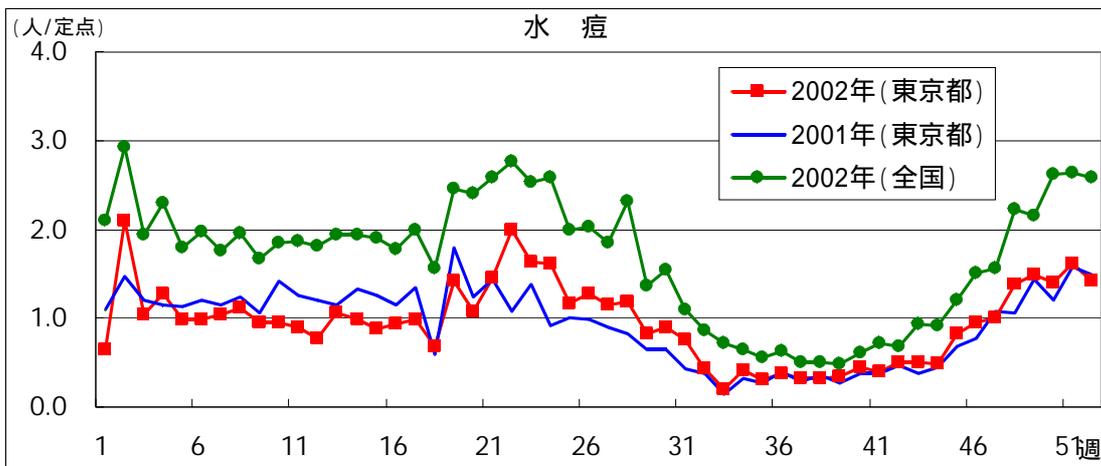
(経年変化図は、感染性胃腸炎のみのものを掲載している)

オ 水痘

平成 14 年の報告数は 7,079 件(49.85 人/定点)であり、前年比 102.9%の横這い状態であった。

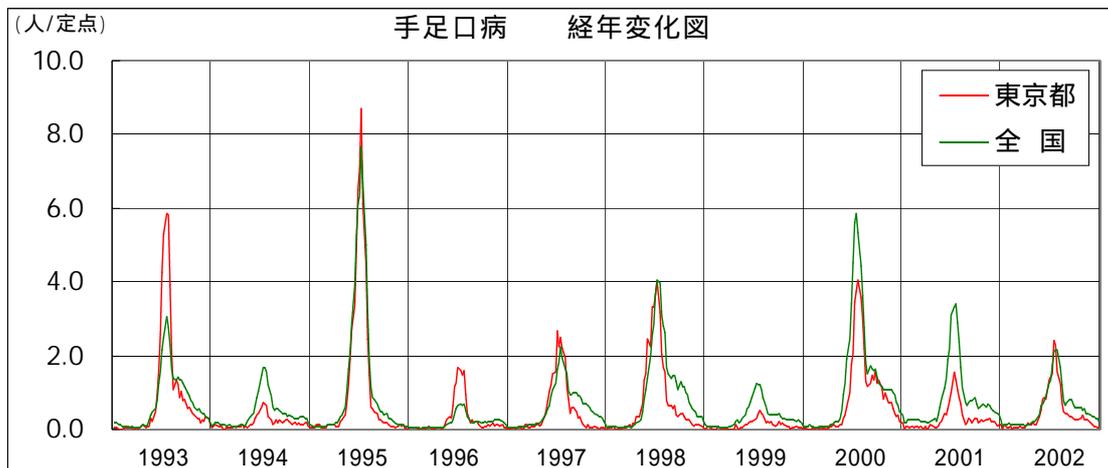
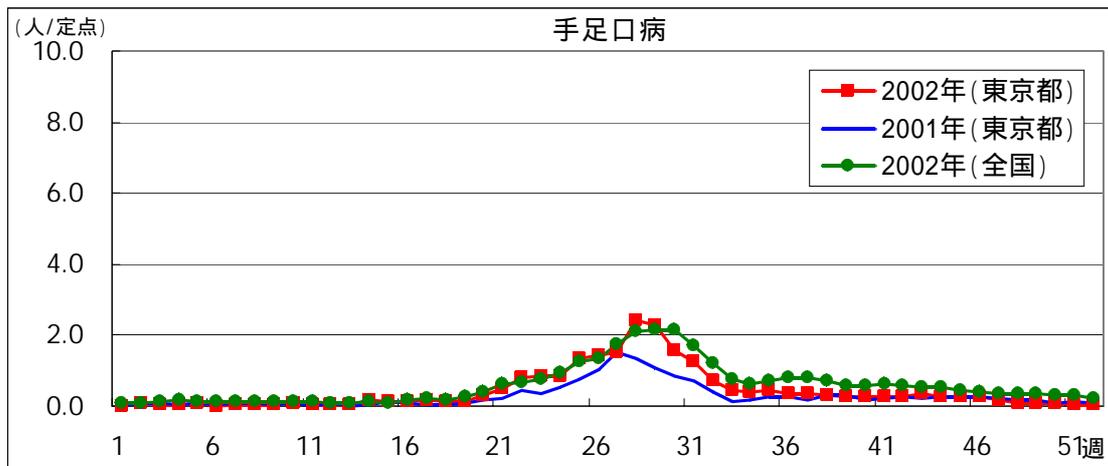
流行波型は毎年同様にみえるが、当年流行の推移をみると、春から初夏に多発し、漸増してピークの第 22 週(1.99 人/定点)に達した後、緩やかに減少して第 33 週(0.22 人/定点)の最底をみた後、年末に向けて漸増曲線を辿る。晩秋初冬の流行期のピーク第 51 週(1.61 人/定点)を経て、平成 15 年初に向けて漸増する。当年の流行波は昨年(2001 年)の流行波をほぼ踏襲し、全国流行波に平行した低位に推移した。

最近 10 年間の年定点当り年次推移では、第 1 位平成 8 年 55.72 人に次いで 5 年(50.90 人/定点)、9 年(50.61 人/定点)、6 年(50.51 人/定点)、7 年(50.41 人/定点)に次いで第 6 位が当年であり、第 7 位 12 年(49.11 人/定点)、以下 13 年(48.43 人/定点)、11 年(45.83 人/定点)、そして第 10 位 10 年(41.87 人/定点)である。平成 9 年以前は年報告 50.00 人/定点以上、平成 10 年以降は年発生 50.00 人/定点未満であり、減少傾向にある。罹患年齢は従来とほとんど変わりなく、5 歳未満が 75.5%(5347 件)と過半数で、10 歳未満が大部分を占めており、10 歳以上は 3.2%(228 件)で前年(4.1%,283 件)より少なく、20 ~ 29 歳代も 1.2%(82 件)と昨年(1.7%,114 件)より減少した。ブロック別発生状況は、区東北部圏が年間定点当り 77.30 人で最多、次いで北多摩北部圏、南多摩、西多摩圏であり、区中央部圏、区西部圏が少なく、また島しょ圏は少数ながら高率発生した。



カ 手足口病

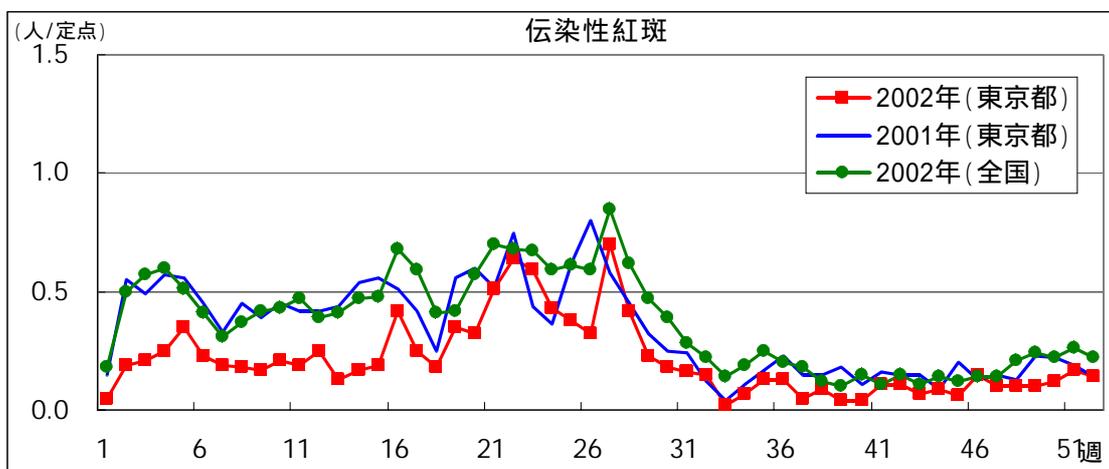
当年の報告数は 3,213 件(22.63 人/定点)であり、前年(15.02 人/定点)に比し 150.7%と増加した。最近 10 年間では平成 5、7、10、12 年と 2、3 年の間隔で流行が認められる。平成 7 年(58.04 人/定点、過去 10 年で第 1 位)の流行後、8 年(14.94 人/定点)の激減、平成 10 年(39.87 人/定点)の流行後、11 年(5.94 人/定点、過去 10 年で第 10 位)の激減、12 年(45.52 人/定点)の流行後の 13 年の非流行を経た当年は過去 10 年のなかで中程度の 22.63 人/定点であった。当年の流行推移をみると、第 20 週から漸増し、第 28 週(2.42 人/定点)のピークの後、減少して第 32 週に至る流行であった。罹患年齢は 1～5 歳児が 80.1%を占め、地域別発生状況では、西多摩圏、南多摩圏に多く発生していた。検出ウイルスはエンテロウイルスが多く、次いで Cox A6 が認められた。



キ 伝染性紅斑

当年の報告数は 1,574 件(11.08 人/定点)で、前年比 62.7%の減少であり、過去 10 年では第 6 位の流行であった。この 10 年間の流行疫学では、平成 4 年(26.90 人/定点)の流行後、平成 5 年から 3 年間の非流行期を経て、平成 8 年(19.82 人/定点、過去 10 年第 1 位)の流行後、9 年(11.89 人/定点)、10 年(11.92 人/定点)、11 年(8.07 人/定点)の小流行期の後、平成 12 年、13 年の小規模流行を経て、当年の減少であった。本症は 2 ~ 3 年の周期で流行発生をみるようである。すでに感染症予防法施行以前の疫学統計でも昭和 61 年(49.4 人/定点)、62 年(31.4 人/定点)と流行後、3 年の非流行期を経て平成 3 年(33.50 人/定点)、平成 4 年(26.90 人/定点)の流行が知られている。

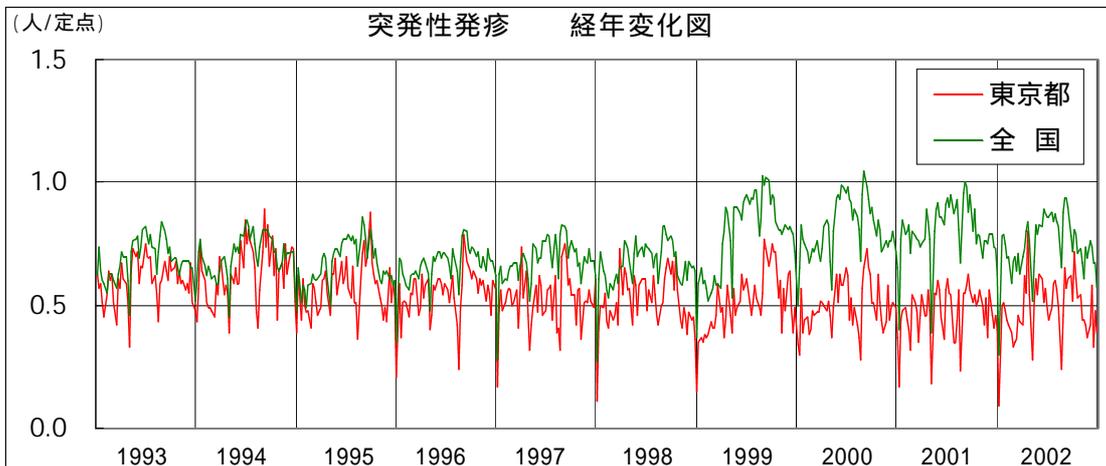
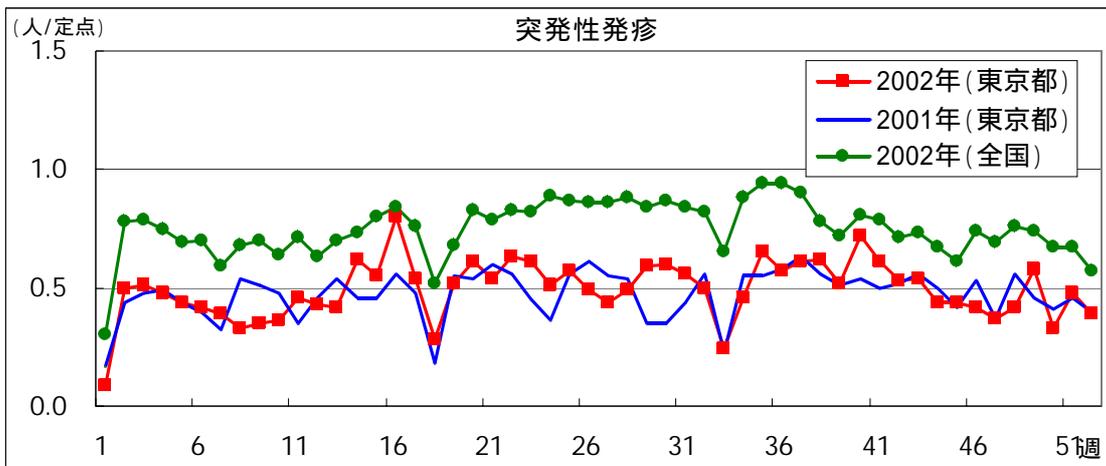
当年流行の罹患年齢別分布では、1 ~ 5 歳 51.9%(817 件)、6 ~ 8 歳 29.7%(468 件)であり、地域別発生状況は西多摩圏、区南部圏に多く、区中央圏、北多摩西部圏、北多摩南部圏に少なかった。



ク 突発性発疹

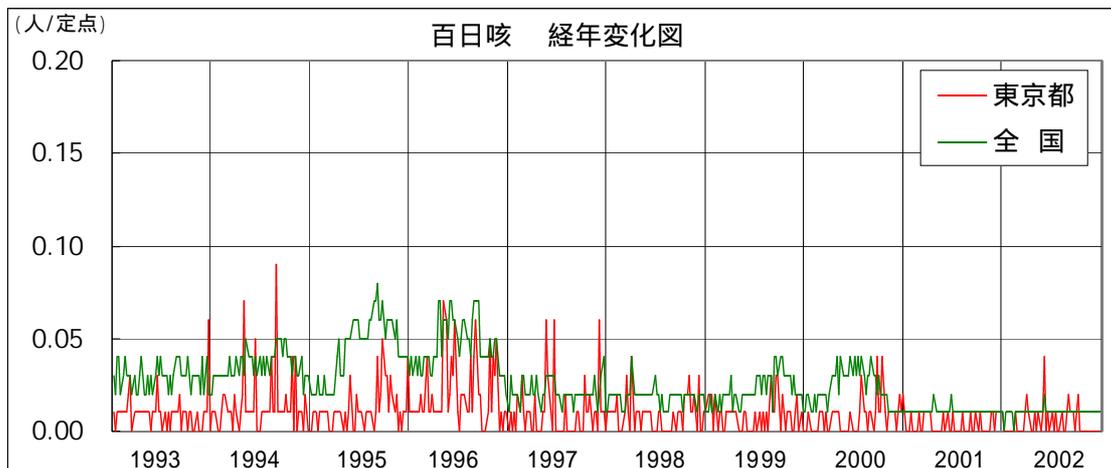
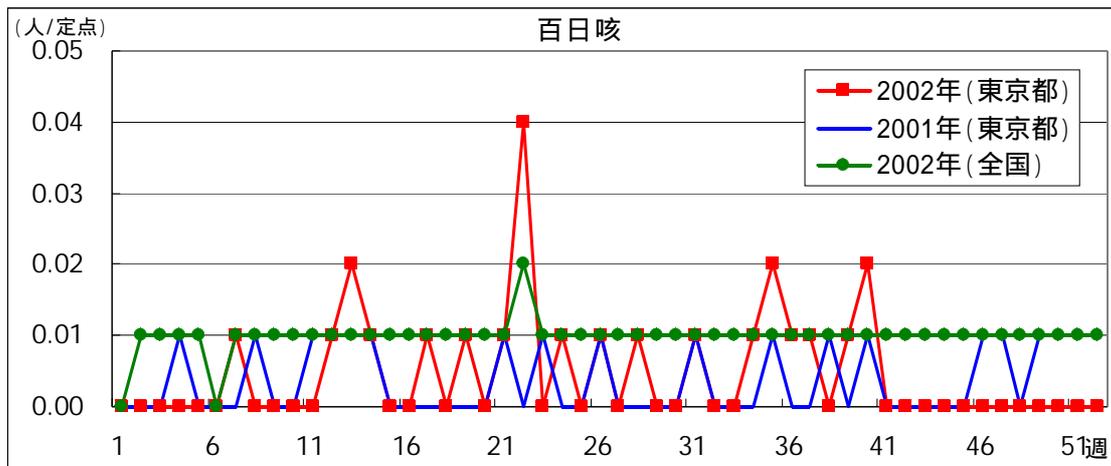
当年の本症年間報告数は 3,632 件(25.58 人/定点)であり、前年(24.70 人/定点)比 103.6%の前年並の報告である。定点当り年間報告数は多少動揺があるが、患者発生数の推移は、毎年同じようなパターンを形成している。患者報告数は毎年、夏期にやや多くなる傾向があり、罹患年齢は2歳未満が極めて多く、当年も 96.7%を占めている。最近 10 年間の定点当り年間報告数は平成 5 年 31.30 人、6 年 32.75 人、7 年 29.75 人、8 年 28.46 人、9 年 27.04 人、10 年 27.04 人、平成 11 年 27.12 人、12 年 25.80 人、13 年 24.70 人、そして当年であり、長期的にみれば微減傾向にみえるが、前年比横這い状態が続いている。

地域別発生状況に地域の特徴はみられない。



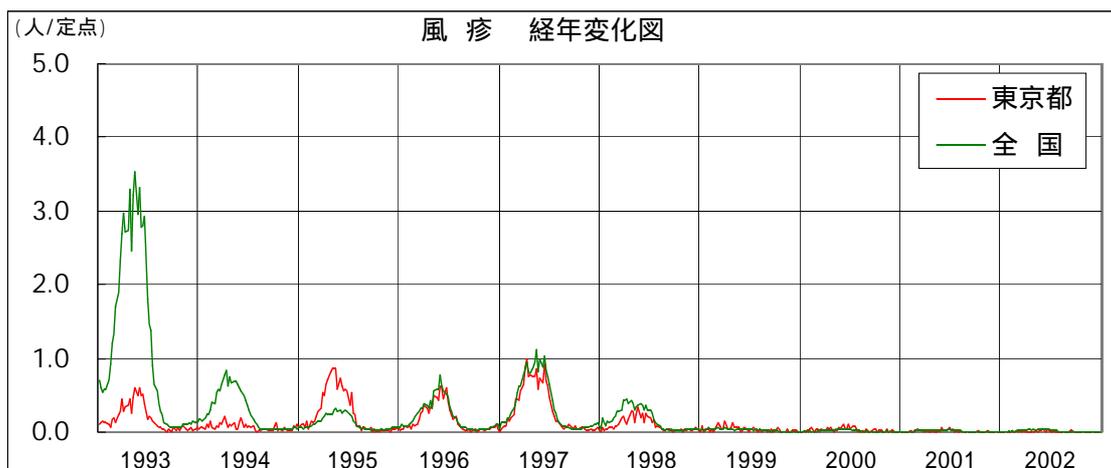
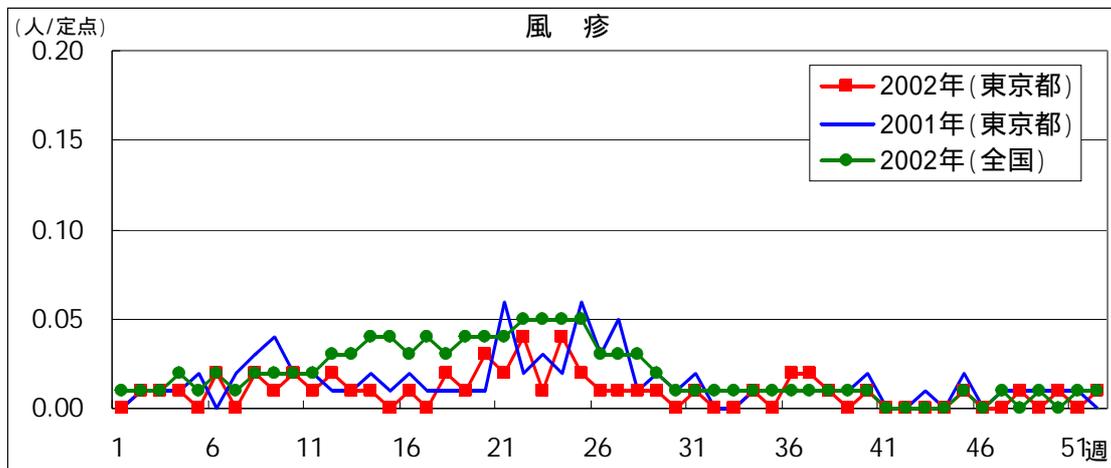
ケ 百日咳

平成 14 年の年間報告数は 32 件(0.23 人/定点)で、前年(23 件、0.16 人/定点)比 143.8%と増加したが、平成 9 年以来、年間 100 件未満の少数報告であり、最近 10 年間の報告数をみても、100 件以上は平成 6 年(101 例)と 8 年(143 件)であった。年間定点当り報告数では、昭和 62 年以降 1 人台が続き、平成 5 年からは 1 人未満となり、10 年から 0.5 人未満である。百日咳ジフテリア破傷風混合ワクチンの普及の成果と思われる。罹患年齢では、12 か月未満が 56.3%(18 件)を占めており、乳児期の予防接種完了の促進が望まれる。そのほか、幼児例、学童例も散見された。流行季節は百日咳が流行していた頃は春秋の季節に多発していたが、少数発生の際は季節的特徴はあきらかでない。ブロック別発生状況も特異的傾向はない。



コ 風 疹

平成 14 年の年間報告数は 71 件(0.50 人/定点)で、前年(114 例、0.80 人/定点)比 62.5%の減少であり、平成 10 年以來連続減少している。経年変化図によれば、風疹の流行は全国では平成 4 年を中心に 3 年間の流行期があったが、東京では同期の平成 5 年(9.60 人/定点)の発生数は多くなく、6 年は減少した後、やや増加傾向を辿り、定点当り年間報告数で平成 7 年 13.54 人、8 年 9.08 人の後、平成 9 年 15.75 人と増加したが、平成 10 年(5.11 人/定点)以降、11 年 2.01 人、12 年 1.59 人及び当年 0.80 人と連続的に減少した。当年罹患年齢分布は 2 歳未満 28.2%、2 ~ 5 歳 28.2%、6 ~ 9 歳 15.5%であり、ブロック別発生状況は、西多摩圏にやや多く発生をみたほか、少数散発であった。全国レベルでは、平成 4 年に東日本優位、平成 5 年は西日本で優位流行があり、平成 6 年以降も多少の増減があったが、最近 2 年間は少数散発の程度である。かつて経験した数年おきの大きな流行はなくなったが、風疹抗体保有率の低い 1979 ~ 87 年生れの年齢層にワクチン接種の不徹底が憂慮される。

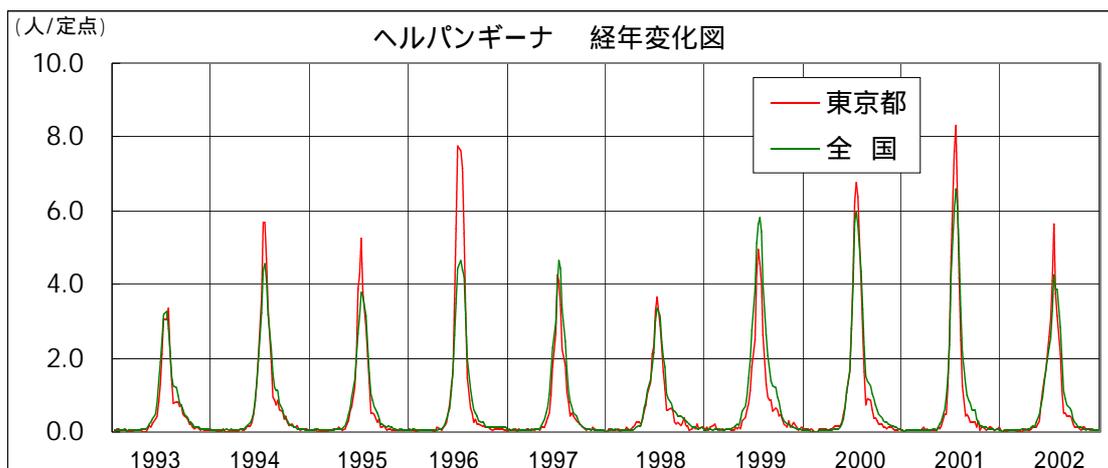
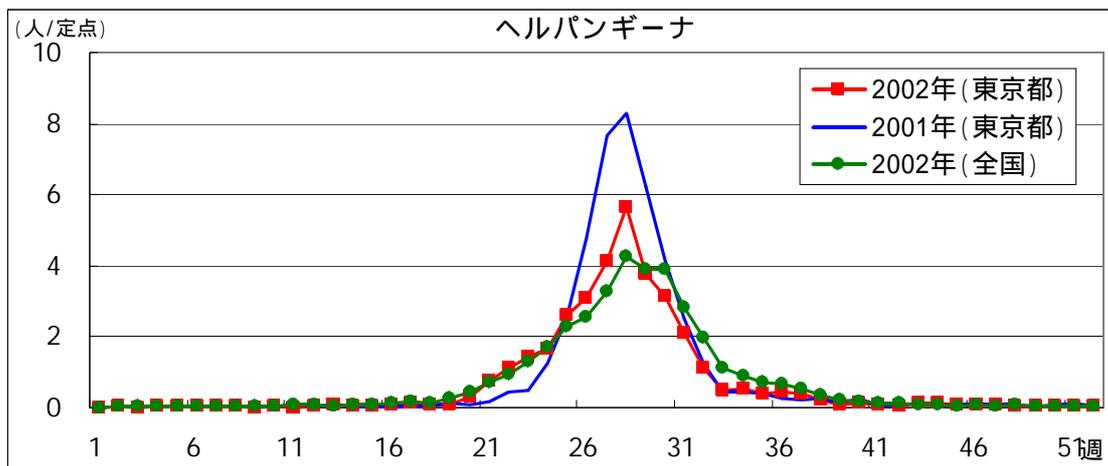


サ ヘルパンギーナ

当年の年間報告数は 5,067 件(35.68 人/定点)で、前年(44.46 人/定点)比 80.3%の軽度減少である。

当年の流行は第 28 週(5.63 人/定点)をピークとし、第 22 週(1.11 人/定点)から第 32 週(1.17 人/定点)に及ぶ単峰型流行で、12 年のピーク(第 28 週 ; 6.76 人/定点)、13 年のピーク(第 28 週 ; 8.31 人/定点)より低い。本年の全国流行像のピーク(第 28 週、4.25 人/定点)よりも高い。本症は毎年流行を繰り返しているが、過去 10 年間の定点当り年報告では、最多は平成 8 年 50.42 人で、第 2 位 12 年 46.32 人、第 3 位 13 年 44.46 人/定点、次いで 11 年、6 年、第 6 位当年、7 年、10 年、9 年、5 年の順であった。過去の年間発生数のピークの最高値は平成 13 年(第 28 週 ; 8.31 人/定点)であり、第 2 位 8 年(第 27 週の 7.77 人/定点)、第 3 位 12 年であり、定点当り年間報告数の最多は昭和 62 年 56.2 人であった。当年罹患年齢は 1 ~ 3 歳が 56.0 %を占め、年齢別頻度は例年同様であり、ブロック別発生状況では、南多摩圏、北多摩北部圏、区東北部圏が多く、北多摩西部圏、北多摩南部圏に少なかった。

第 28 週 ~ 第 33 週の検出ウイルスは Cox A6 が多く、次いで Cox A4, Echo 13 が検出されている。



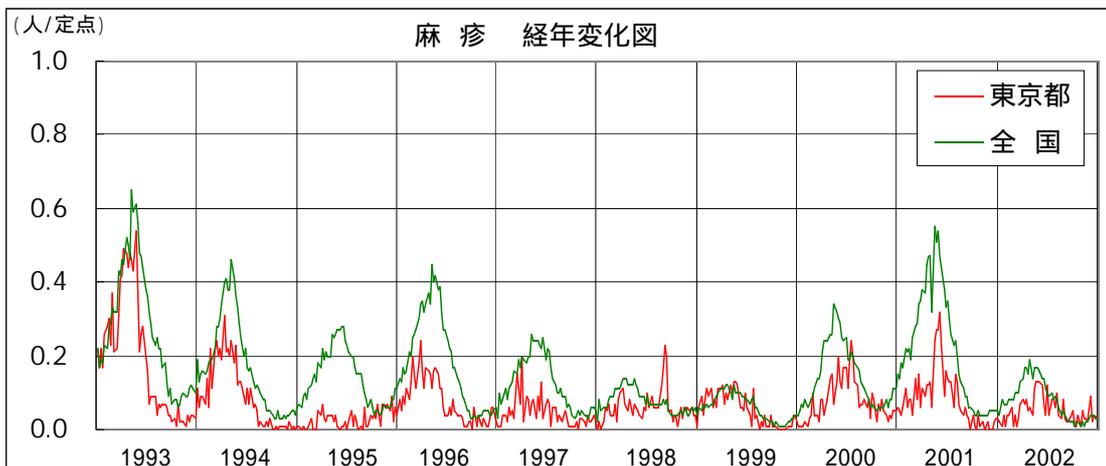
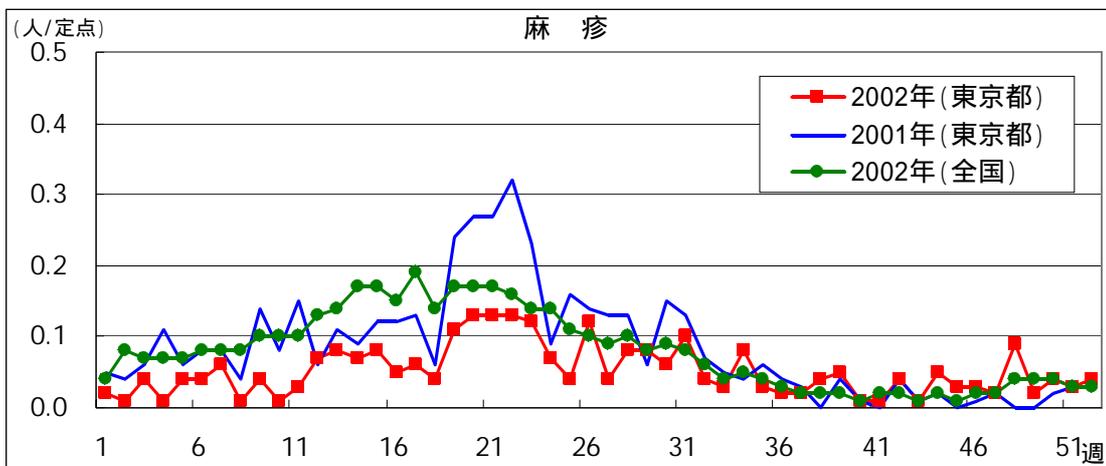
シ 麻 疹（成人麻疹を除く）（麻疹様疾患）

平成 14 年の年間報告数は 377 件(2.65 人/定点)、前年(4.42 人/定点)に比べ 60.0%の減少であった。当年の流行は、早春より緩やかに増加し始め、第 20、21 週に低いピ - ク(0.13 人/定点)を作り、初夏に向かって減少した。

最近の麻疹の流行は平成 3 年であり、東京の定点当り発生数は 20.90 人であり、これに匹敵する規模の流行はないが、平成 5 年 9.70 人、8 年 4.04 人、13 年 4.42 人（いずれも年定点当り）と 3 ~ 5 年の間隔で小流行であり、その間は低位発生で経過している。また、東京の流行状況は、過去 10 年を通じて全国レベルと平行しながら、なお低位にある。

罹患年齢分布は、2 歳未満が 30.0%、2 ~ 5 歳が 20.2% であり、10 歳以上は 31.6%（13 年 26.4%、12 年 21.4%、11 年 17.9%）であって、年長児麻疹が増加傾向にある。これは基幹定点からの成人麻疹の年次的増加傾向からも麻疹罹患年齢の上昇と判断される。麻疹生ワクチンの普及により麻疹の大きな流行はなくなったが、ワクチン非接種者や接種もれ者、ワクチン免疫不応者などの蓄積による局地発生と判断される。10 歳以上の麻疹罹患率は昭和 62 ~ 63 年頃は 5% 弱であったが、平成 6 年 12.4%、7 年 17.3%、8 年 17.0%、9 年 13.7%、10 年 15.6%、11 年 17.9%と年々上昇している。さらに、ワクチン歴がある年長児の罹患や麻疹の再感染も注目されてきた。

当年流行をブロック別にみると、区東部圏、区東北部圏、北多摩西部圏に多く、区南部、西多摩圏に少ない傾向があるが、発生数も少ないので、特異的傾向はない。



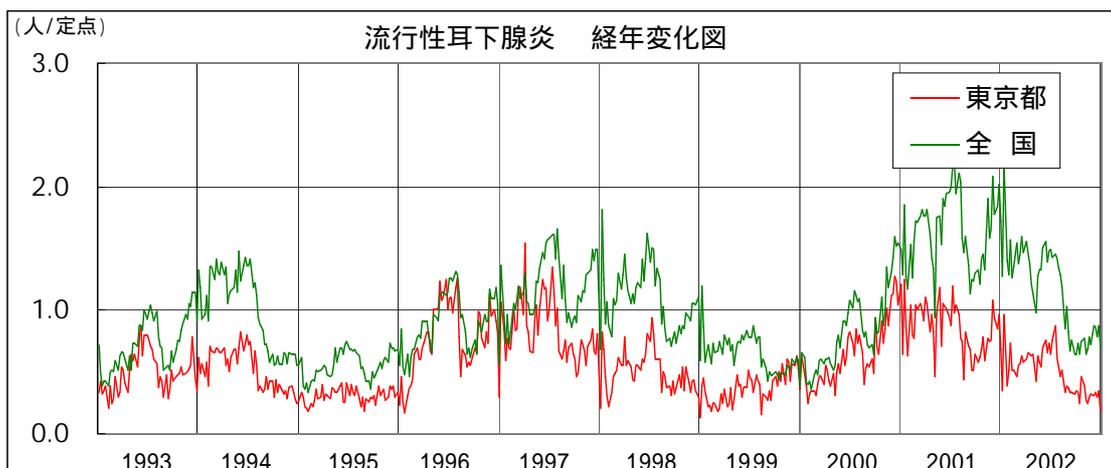
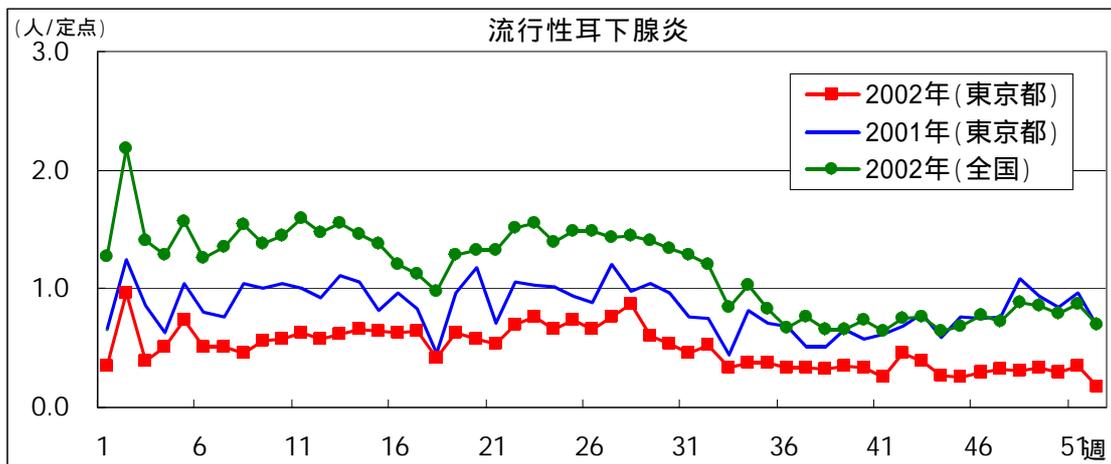
ス 流行性耳下腺炎

平成 14 年の年間報告数は 3,678 件(25.90 人/定点)で、前年(44.25 人/定点)比 58.5%の減少であった。

当年の全国流行状況にもみられるように、本症は春から初夏にかけて流行する傾向があるが、東京都の状況も全国流行状況に平行しながら、流行の山は低く、変動も少ない。

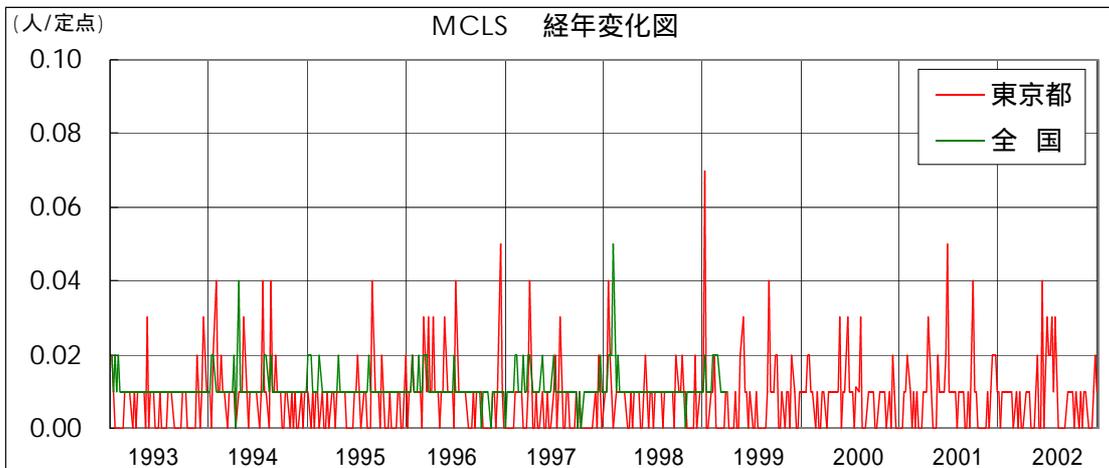
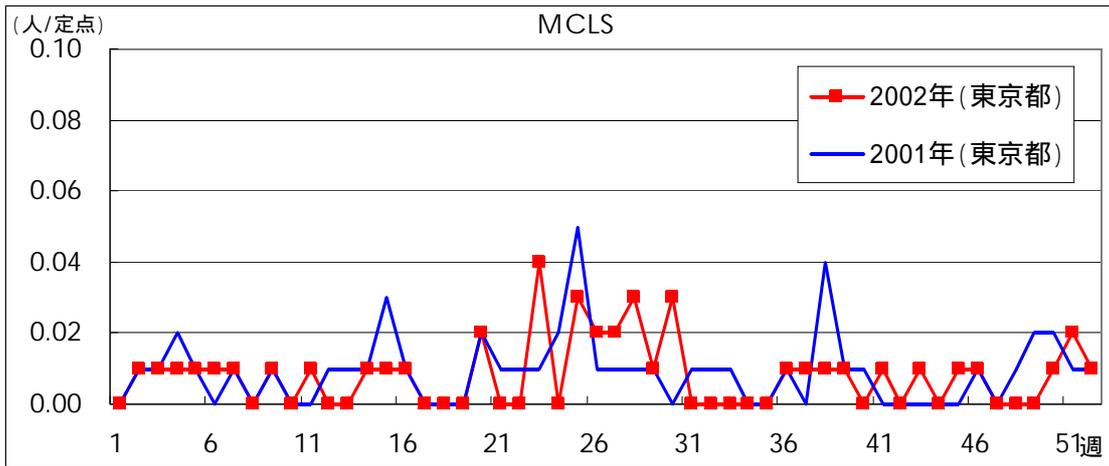
過去 10 年間の流行像を年間定点当り報告数からみると、第 1 位は平成 13 年(44.25 人/定点)であり、第 2 位平成 9 年(42.93 人/定点)、以下 8 年(39.87 人/定点)、12 年(33.83/定点)、6 年(27.17/定点)、10 年(26.15 人/定点(2)、第 7 位当年、第 8 位平成 5 年、以下平成 11 年、第 10 位は平成 7 年(15.93 人/定点)であった。過去 10 年の経年変化図を通覧すると、流行性耳下腺炎は第 2 年目をピークとする 3 年続きの流行があり、1 ~ 2 年の非流行期を挟んで流行を繰り返しているようである。

当年の報告患者の罹患年齢は、5 歳未満 40.9%、5 ~ 9 歳 47.6%、10 ~ 14 歳 6.4%、15 歳以上 5.0%で、例年と変りない。また、ブロック別発生状況は、西多摩圏、南多摩圏、北多摩北部圏に多く、区中央圏、区西部圏で少なかった。



セ MCL S (川崎病)

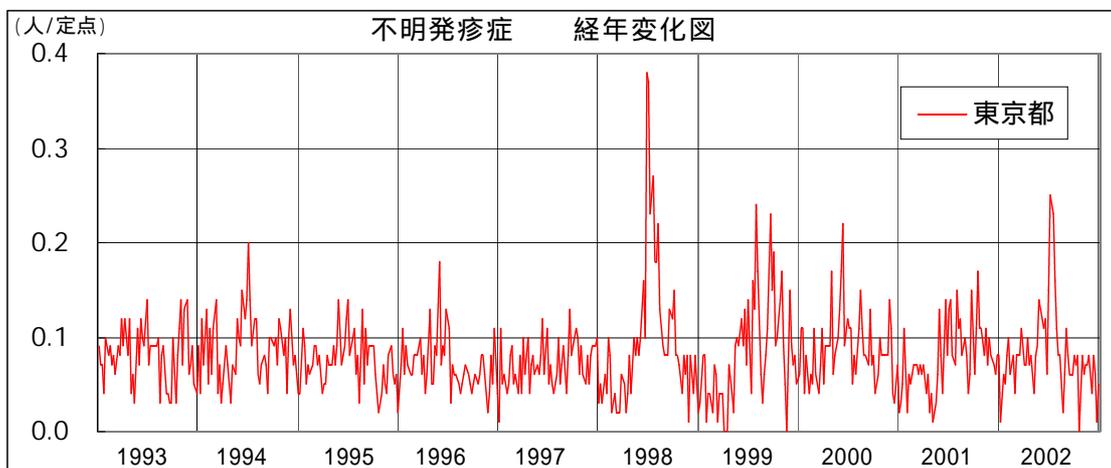
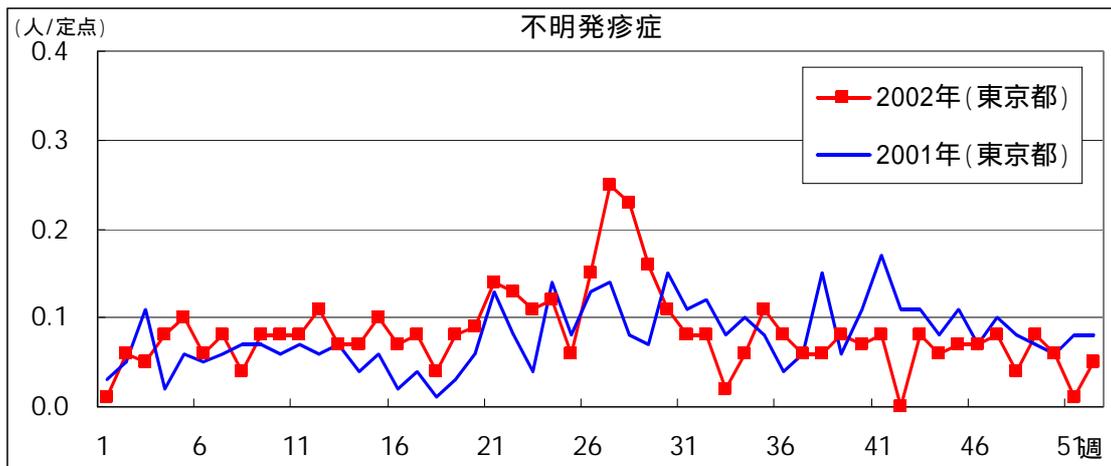
本症は、東京都単独の調査対象疾患である。平成 14 年の報告数は 60 件(0.42 人/定点)で、前年(75 件、0.53 人/定点)比 79.3%の軽度減少である。MCL Sは近年大きな流行はなく、最近 10 年間の最多報告年は平成 11 年の 76 件(0.54/定点)で、最少報告年は9年の 39 件(0.27/定点)であり、当年は第 7 位であった。当年の発生報告が春から初夏にやや多いように見えるが、少数発生で明らかではなく、地域別、年齢別の発生状況にも変化は認められない。



ソ 不明発疹症

本症も東京都単独の調査対象疾患で、エンテロウイルスによる夏かぜ発疹症を想定している。

本年の報告数は613件(4.32人/定点)で、前年(4.12人/定点)比104.9%の横這い状態である。最近10年間の発生状況では、大きな流行はなく、最多報告は平成10年(5.00/定点)、次いで6年(4.57/定点)、12年(4.54/定点)、以下11年、第5位が当年、さらに5年、13年、7年、9年の順で、第10位は8年であった。当年の発生状況をみると、例年のように夏期に増加する傾向がみられる。罹患年齢は、3歳未満が66.7%を占めていた。ブロック別発生状況では、区東北部圏、南多摩圏に多い傾向であるが、特徴はみられない。



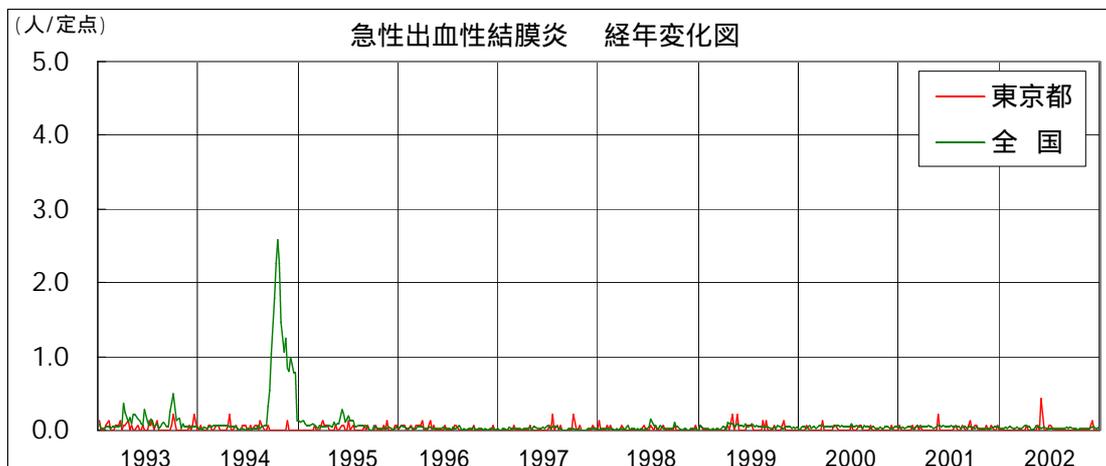
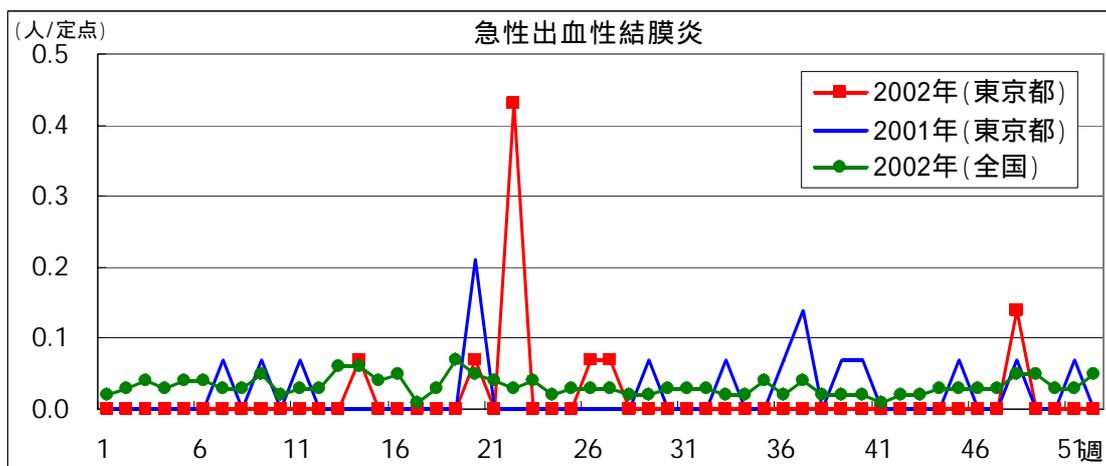
(3) 眼科疾患

ア 急性出血性結膜炎

平成 14 年（2002 年）の報告数は 12 例（定点あたり 0.86 人）で、前年の報告数 16 例（定点あたり 1.14 人）より減少していたが、ほぼ例年のレベルであった。東京都では平成 6 年（1994 年）以後定点あたり 2.00 人以下の低い発生数で推移している。

患者発生数推移には大きな偏りがみられ、5 月の最終週である第 22 週に全体の半数にあたる 6 例の発生をみ、4 月から 7 月の間に 11 例が報告された。

地域的にも偏りがあり、報告の殆どが 23 区部で、全体の 2/3 が城西地区であった。罹患年齢は、5 歳の 1 例を除き 20 歳から 79 歳までの各 10 歳毎に平均的に分散してみられた。



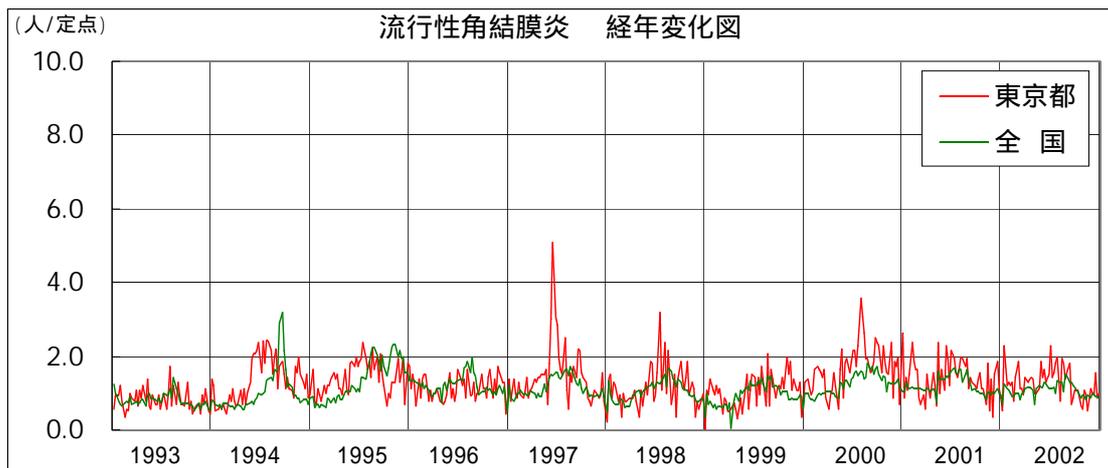
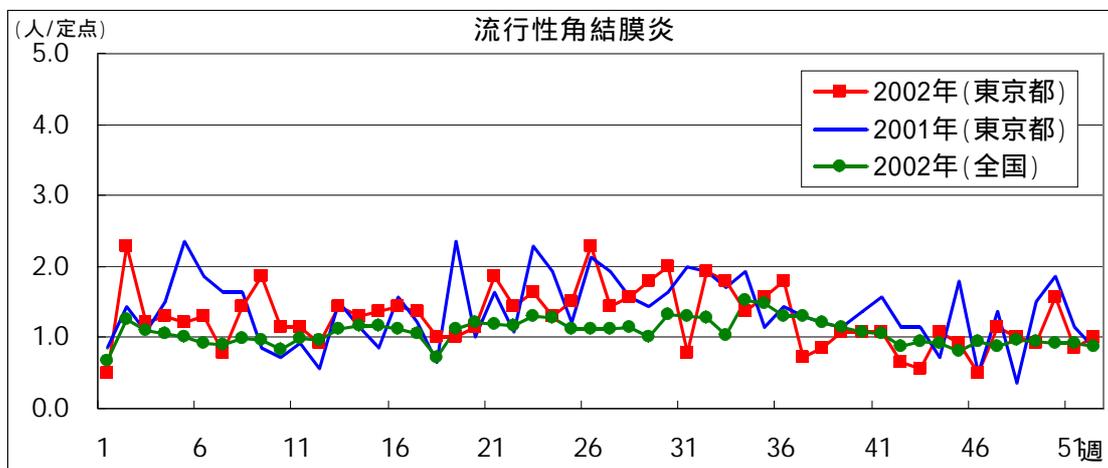
イ 流行性角結膜炎

平成 14 年（2002 年）の報告数は 925 例（定点あたり 66.07 人）で、前年の報告数 1008 例（定点あたり 72.00 人）の 91.8 % と減少したがほぼ例年通りの水準であった。

患者発生数推移はほぼ平均していたが、第 2 週と第 26 週に定点あたり 2 人を越えるピークが認められた。全国との比較では 1 月から 8 月までは全国を上回るレベルであったが 9 月以降はほぼ全国並の発生であった。

地域的には、新宿区（340 例）、文京区（140 例）が目立っていた。新宿区に関しては角結膜疾患を専門とする大学施設が定点に含まれているため、他地区からの紹介により増加していることも考えられた。また、23 区部での発生が 829 例（89.6 %）と多かった。

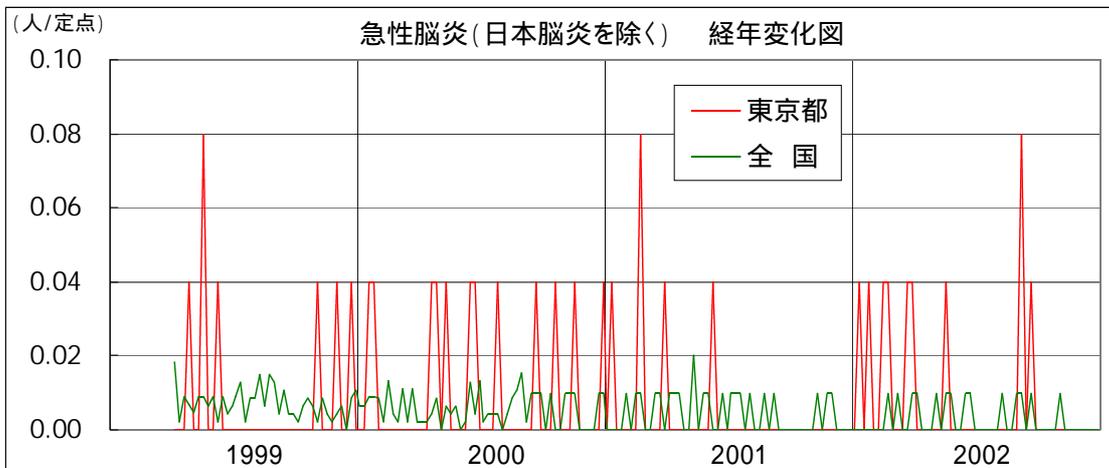
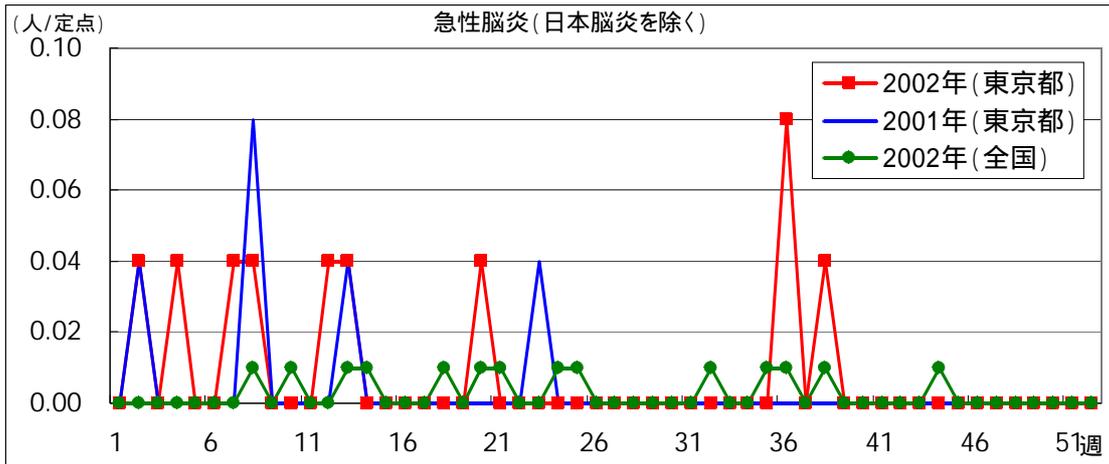
罹患年齢は、20 歳から 49 歳が 491 例と半数以上を占め、20 歳から 59 歳が 700 例（75.7 %）であった。10 歳未満の 78 例（8.4 %）は各年齢層に分散して発生していた。



(4) 基幹定点における週報告疾病

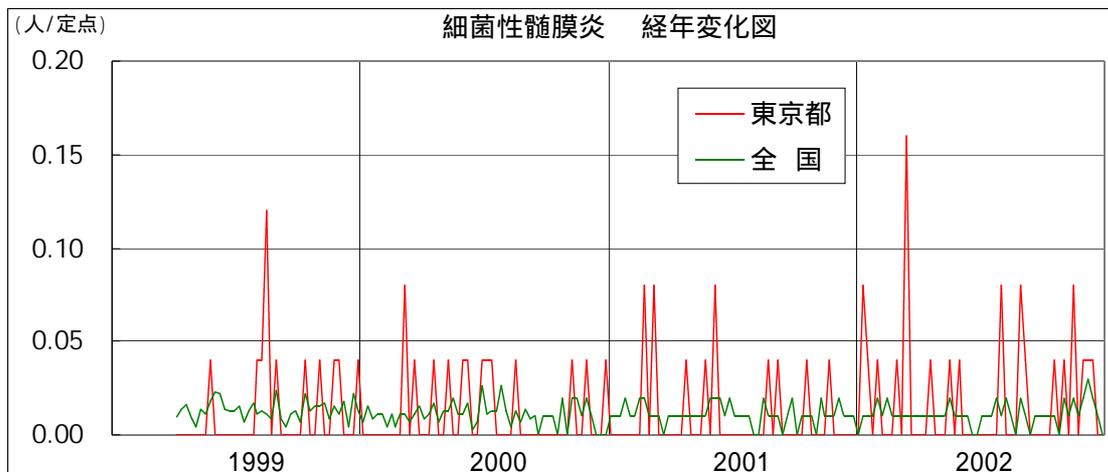
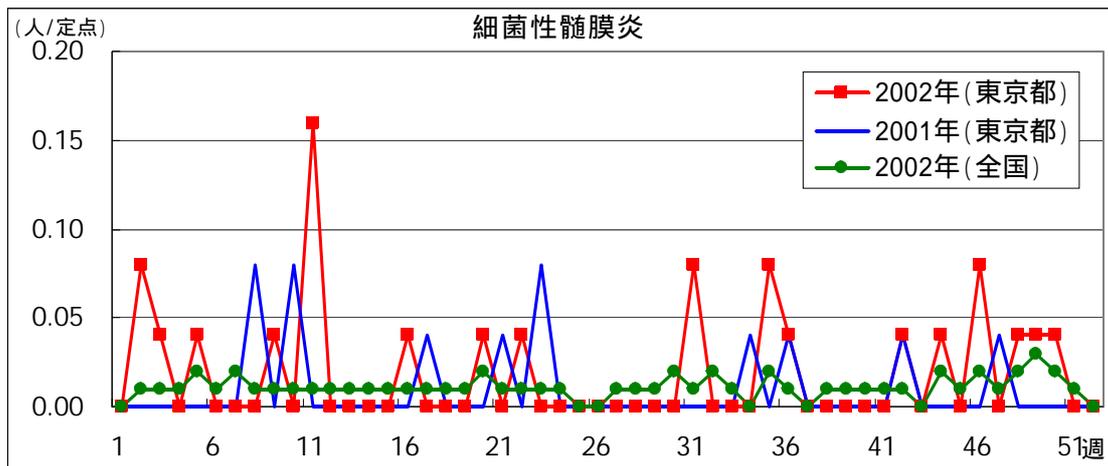
ア 急性脳炎(日本脳炎を除く)

平成 14 年の急性脳炎患者報告数は 10 件(0.40 人/定点)であり、前年(5 件、0.20 人/定点)比べ倍増したが、平成 11 年 7 件、12 年 12 件、13 年 5 件で、少数で動揺している。当年は第 36 週に 2 件のほか、第 2、4、7、8、12、13、20、38 の各週に各 1 件散発して特異的傾向はなく、罹患年齢に 20 歳未満例なく、地域的特徴も認められない。



イ 細菌性髄膜炎

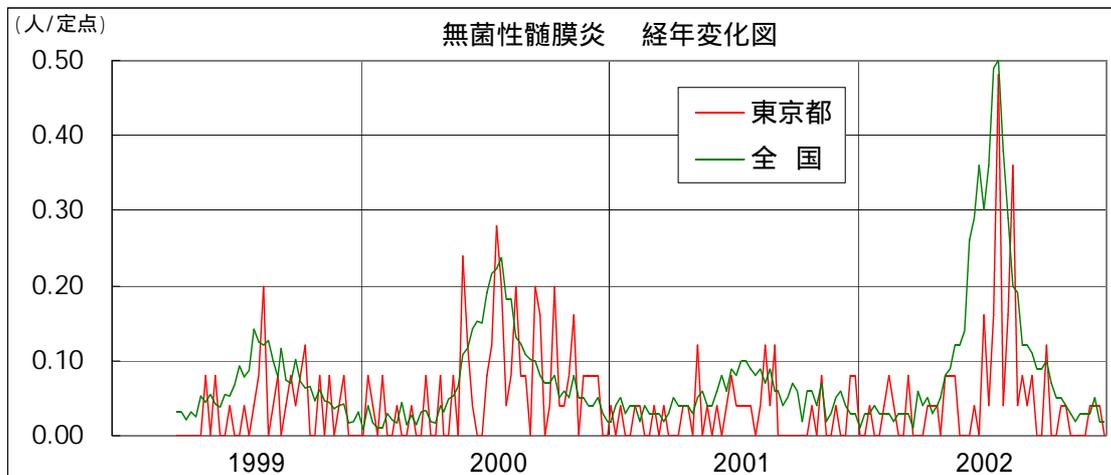
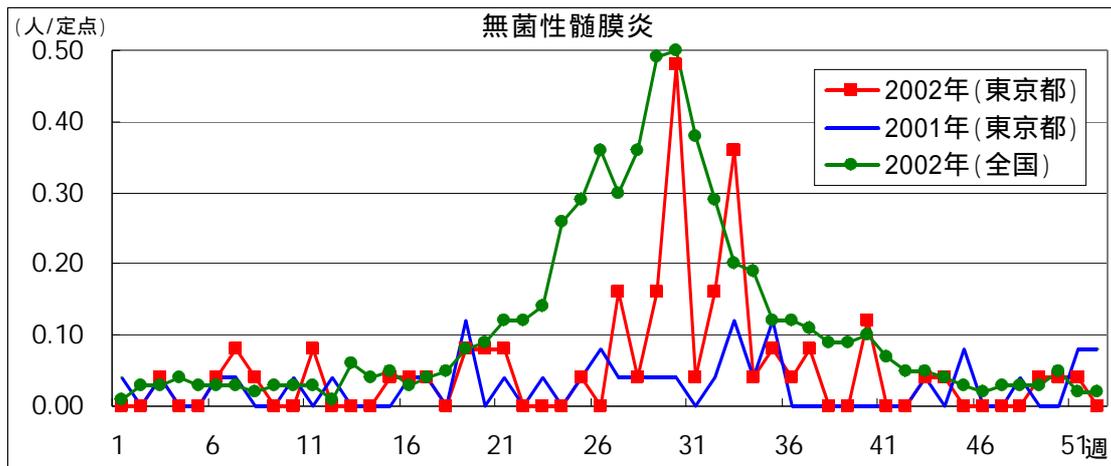
平成 14 年の細菌性髄膜炎患者報告数は 24 件(0.96 人/定点)であり、前年(12 件、0.48 人/定点)に比べ少数報告ながら倍増した。発生は、第 11 週に 4 件報告され、第 2、31、35、46 各週に各 2 件、第 3、5、9、16、20、22、36、42、44、48、49、50 各週に各 1 件が散発報告された。年齢分布は 12 か月未満 4 件、1 ~ 4 歳 5 件、成人 11 件で特異的傾向なく、地域の特徴も認められない。



ウ 無菌性髄膜炎

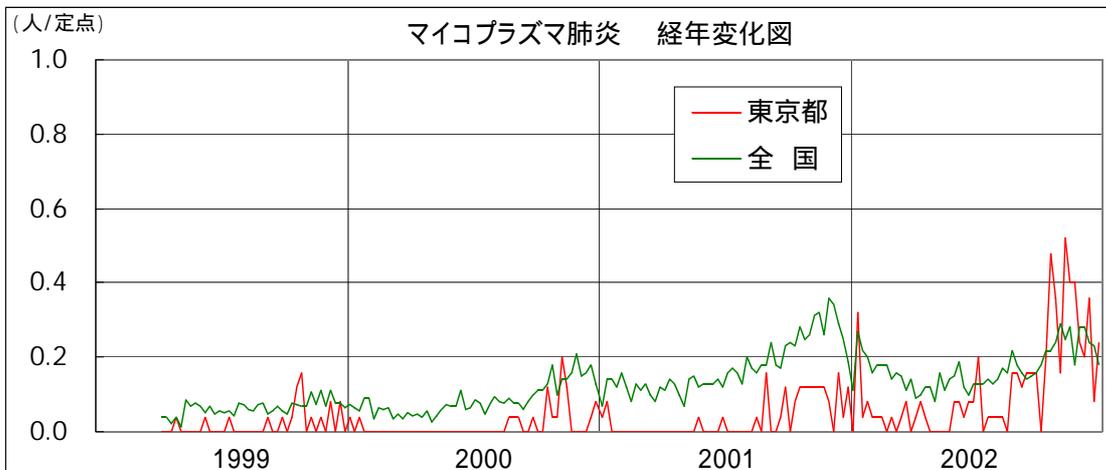
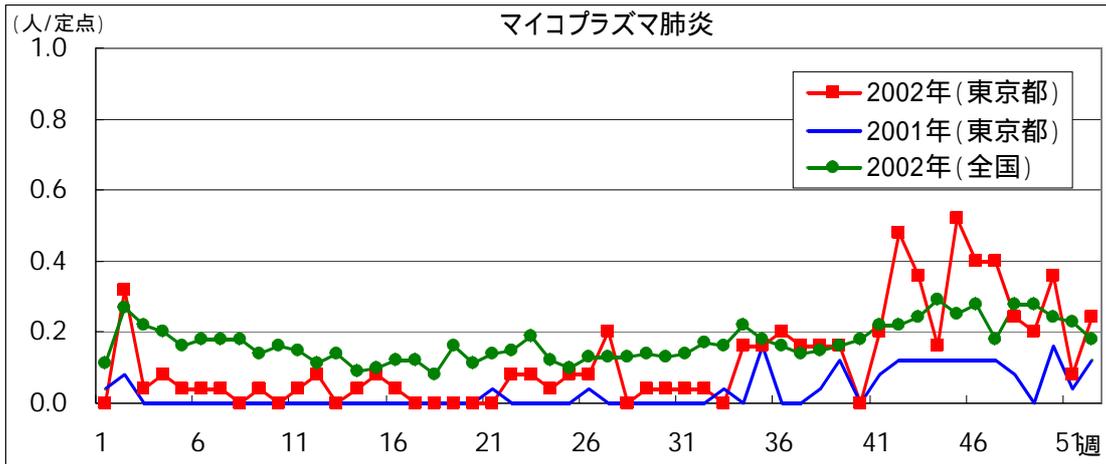
平成 14 年の無菌性髄膜炎患者報告数は 66 件(2.64 人/定点)であり、前年(36 件、1.44 人/定点)比 183%と増加した。発生時期は、66 件中 41 件(62%)が第 27 週から第 37 週の間で報告された。同期間は夏期シーズンであり、エンテロウイルスによる無菌性髄膜炎が想定される。罹患年齢は 2 歳未満 9 件、2 ～ 6 歳 14 件、7 ～ 14 歳 12 件、15 ～ 19 歳 7 件、20 ～ 69 歳 24 件であり、発生地域に特徴はない。

ウイルス検出情報では、第 28 ～ 35 週の間は無菌性髄膜炎患者から Echo 13 が 36 株検出された。



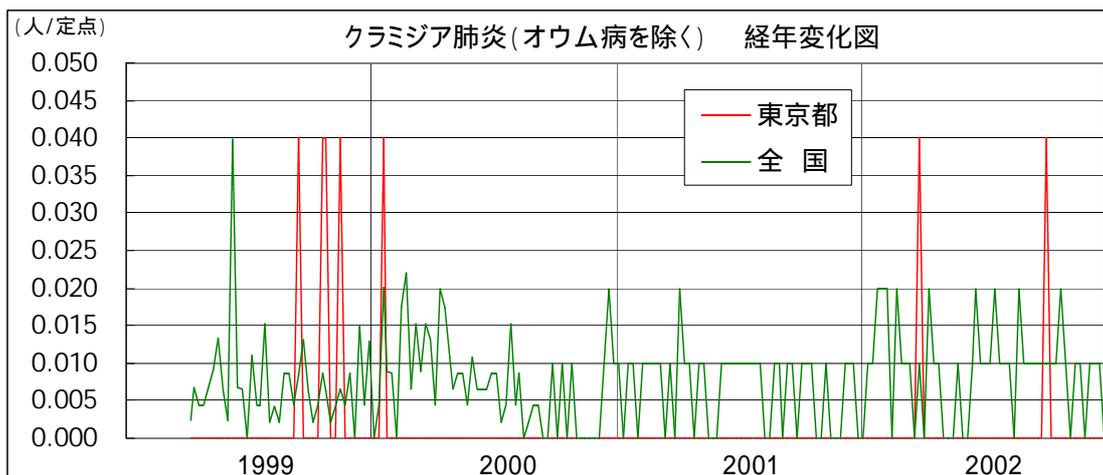
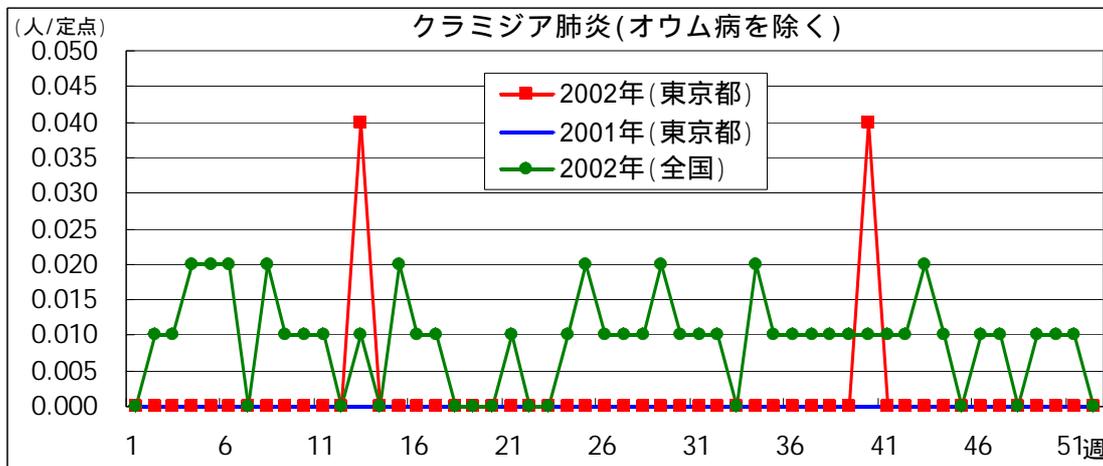
エ マイコプラズマ肺炎

感染症予防法施行以前の定点観測疾患「異型肺炎」に代って基幹定点からの確定診断を伴う報告対象疾患である。平成 14 年の本症患者報告数は 163 件(6.52 人/定点)であり、3 年連続の小流行後の流行で、前年(45 件、1.80 人/定点)比 362%と 3 倍増した。本症は秋期から冬期に集約する傾向があり、当年も第 34 週から第 50 週にかけて 114 件(69.9%)の報告をみた。罹患年齢は 10 ~ 14 歳 20.2% (33/163)を首位に、幼児、学童、思春期に及び、地域的には区西北部圏に多い傾向がみられた。



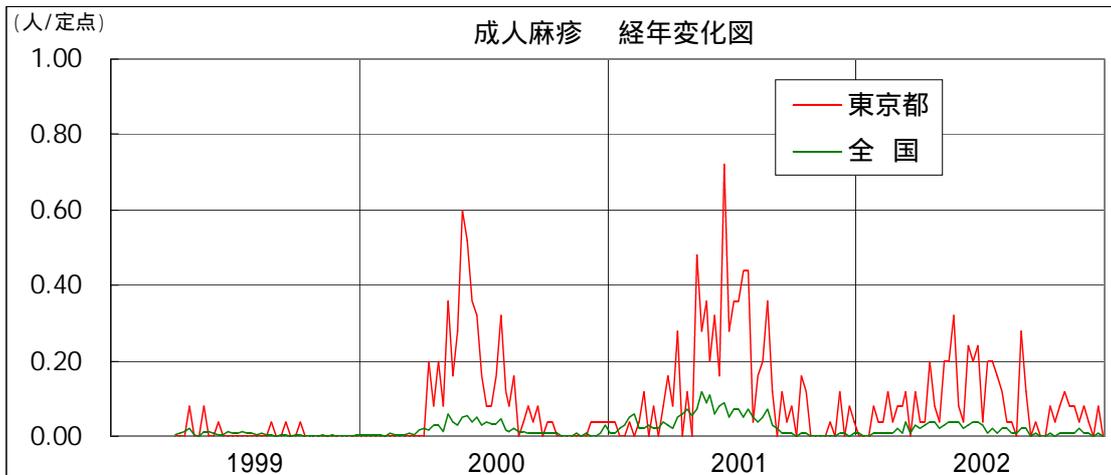
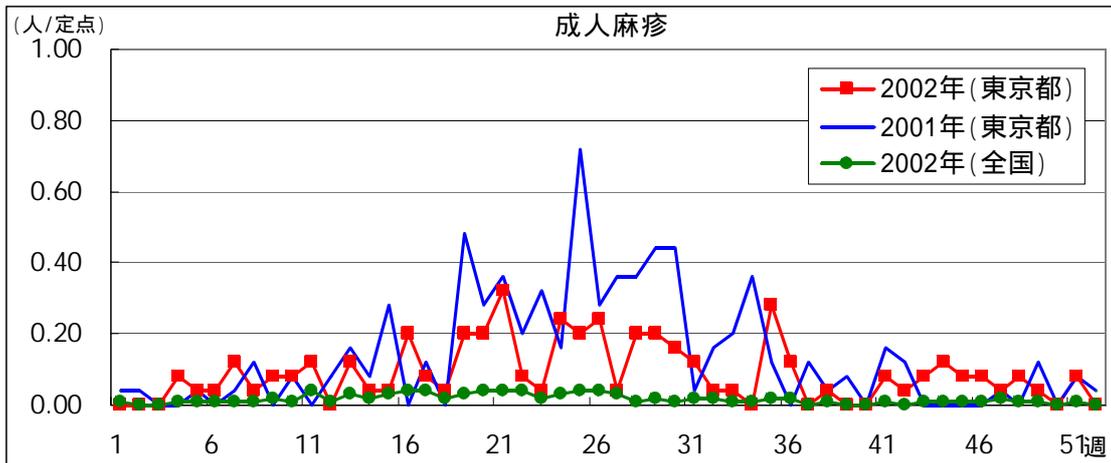
オ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

平成 14 年のクラミジア肺炎患者報告数は 2 件(0.08/定点)(第 13 週、第 40 週)(3 歳、10 ~ 14 歳)であり、13 年は報告なく、12 年は 1 件であった。



カ 成人麻疹

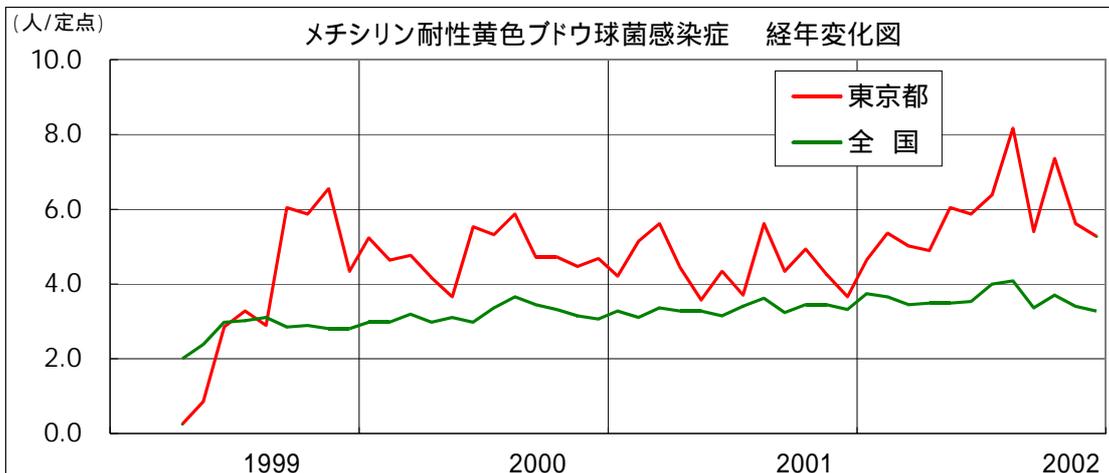
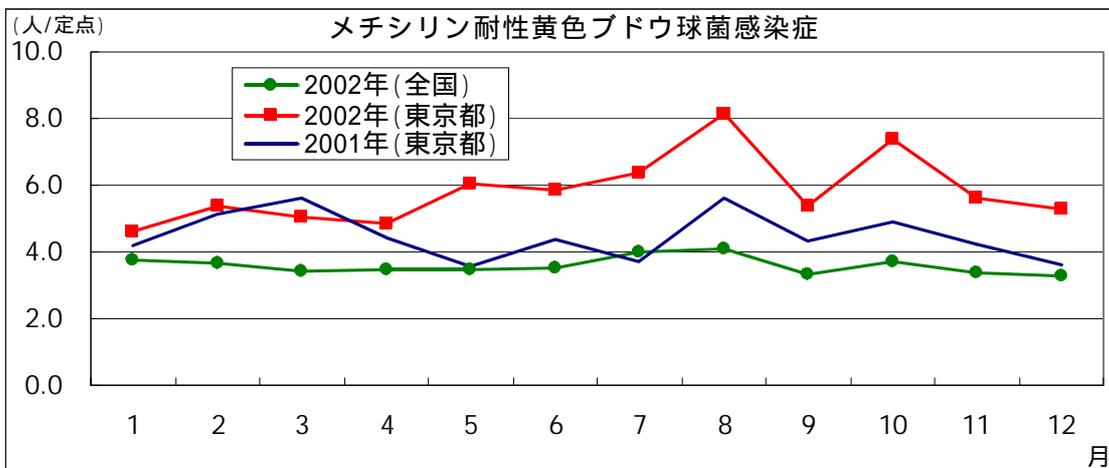
平成 14 年の成人麻疹患者報告数 116 件(4.64 人/定点)であり、前年(181 件、7.24 人/定点)比 64.1%の減少である。当年の患者発生は年間通じて散發しているが、4 月中旬から 7 月下旬に多く、第 16 週から第 31 週の間は 64 件(55.2%)が報告された。罹患年齢は 15 ~ 19 歳 23 件、20 ~ 29 歳 69 件、30 ~ 39 歳 19 件、40 ~ 49 歳 4 件、50 ~ 59 歳 1 件であり、地域的には区東部圏に多く発生した。



(5) 基幹定点における月報告疾病

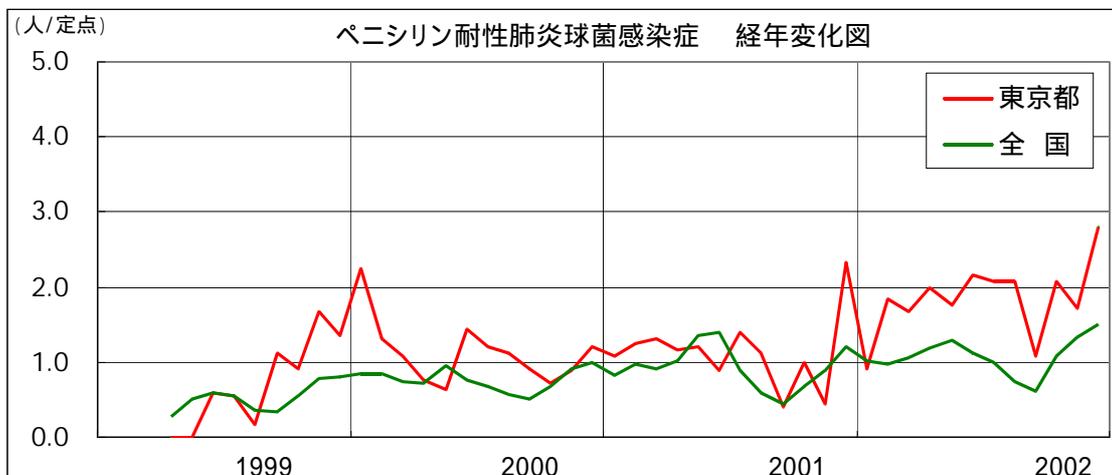
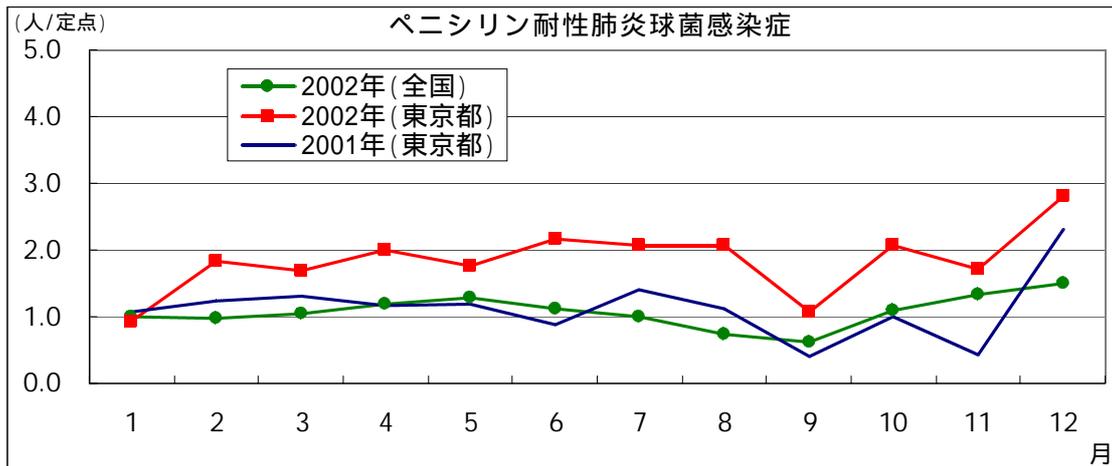
ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

平成 14 年のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)感染症患者報告数は、男子 1,140 件、女子 619 件、合計 1,759 件(70.36 人/定点)である。前年の男子 892 件、女子 472 件、計 1,365 件(54.60/定点)に比べ男子 127.8%、女子 131.1%、合計 128.9%の増加であり、調査開始以来の増加傾向にある。月別報告をみると、男子は月報告数 78 件から 131 件に分散しており、6～10月に多く報告され、女子は月報告数 37 件から 73 件に分散し、6～10月に多発の傾向がみられ、男女とも夏期に多いようである。罹患年齢は男女とも 4 歳以下と男性は 55 歳以上、女性は 60 歳以上に多い傾向がみられた。



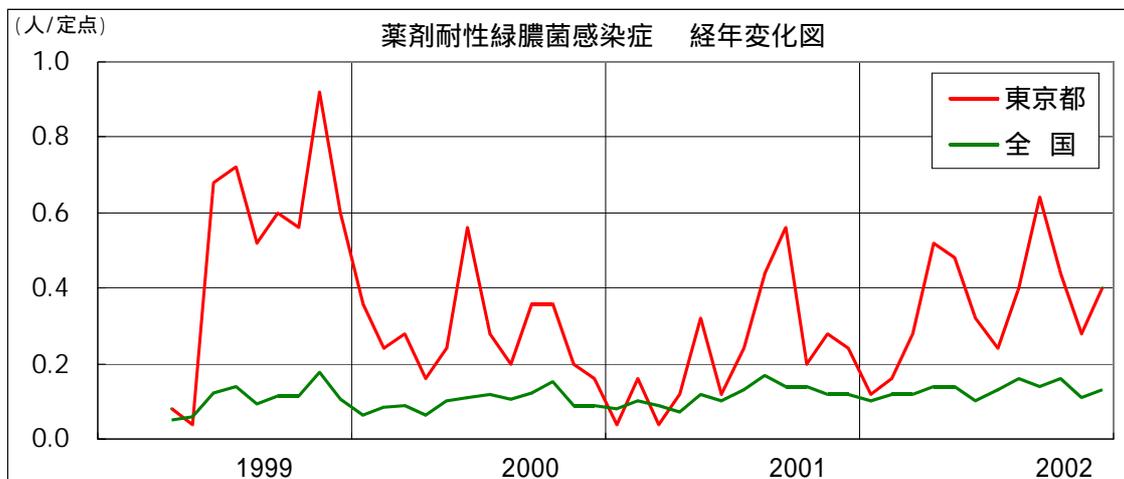
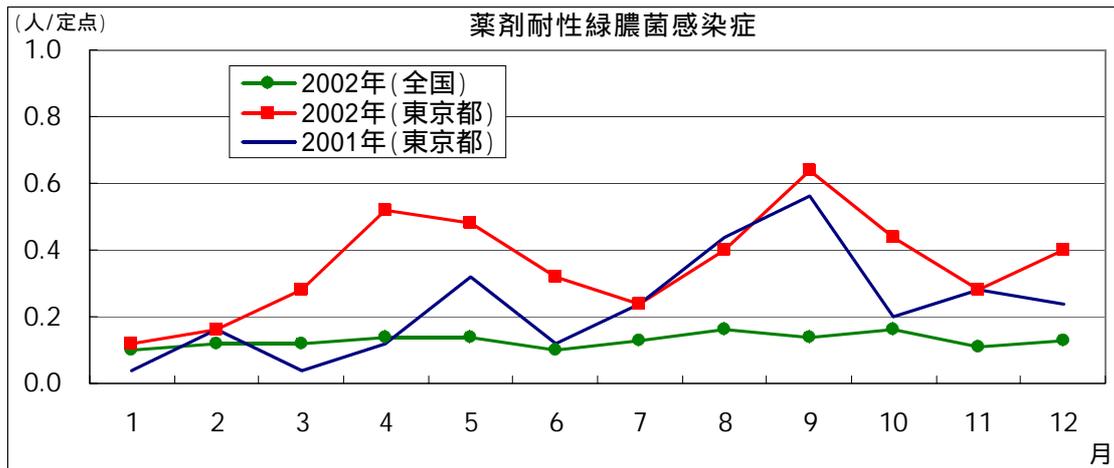
イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

平成 14 年のペニシリン耐性肺炎球菌(P R S P)感染症患者報告数は、男子 333 件(13.32 人/定点)、女子 224 件(8.96 人/定点)、合計 557 件(22.28 人/定点)である。前年(男子 203 件、女子 152 件、計 355 件)比は、男子 164.0%、女子 147.1%、合計では 156.9%の増加である。月別患者報告状況は、男女とも夏期にやや多い傾向をみるが、明らかでない。患者の年齢分布は、男女とも 4 歳以下と男性では 70 歳以上に多かったが、女性では年齢差が少ない。



ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症

平成 14 年の薬剤耐性緑膿菌感染症は、男子 81 件(3.24 人/定点)、女子 26 件(1.04 人/定点)、合計 107 件(4.28 人/定点)である。前年(男子 52 件、女子 17 件、計 69 件)比は、男子 155.8%と女子 152.9%と増加し、合計 155.1%の増加であった。罹患年齢は男女とも 4 歳以下にやや多く、60 歳以上に多い傾向がみられるが、明らかでない。月別患者報告数は男女とも発生件数が多くなく、好発季節に明らかな傾向を見出せない。

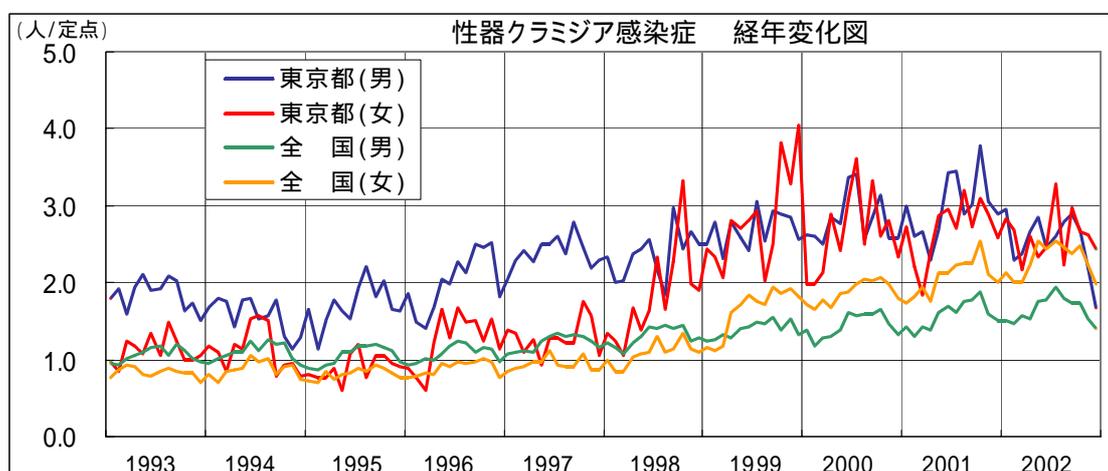
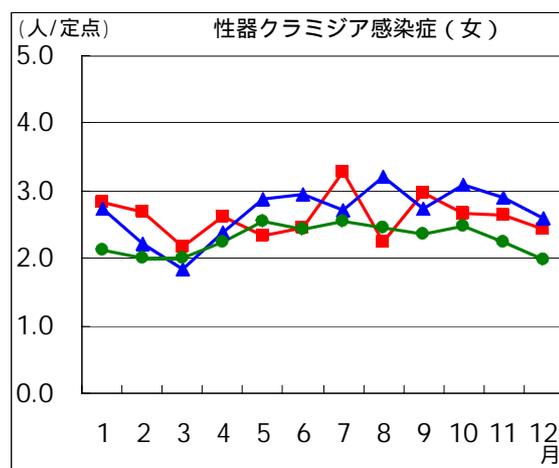
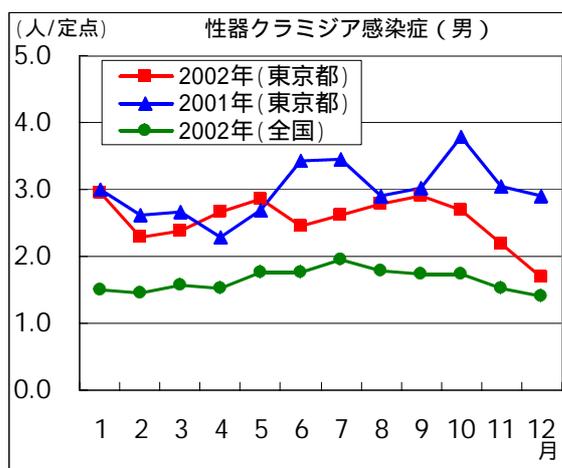


(6) 性感染症

東京都のSTI定点からの総報告数は5,725(6,151)で、前年から6.9%の減少である。内訳は男子2,955(3,368)、女子2,770(2,783)である(括弧内は2002年)。男子は14.0%、女子は0.5%の減少。最多疾患は性器クラミジア感染症2,536(2,789)、以下淋菌感染症1,249(1,364)、性器ヘルペス950(1,019)、尖形コンジローム502(549)、トリコモナス447(367)、梅毒様疾患41(63)で、症例数の順位は前年と同じであり、トリコモナスを除く全てで減少した。

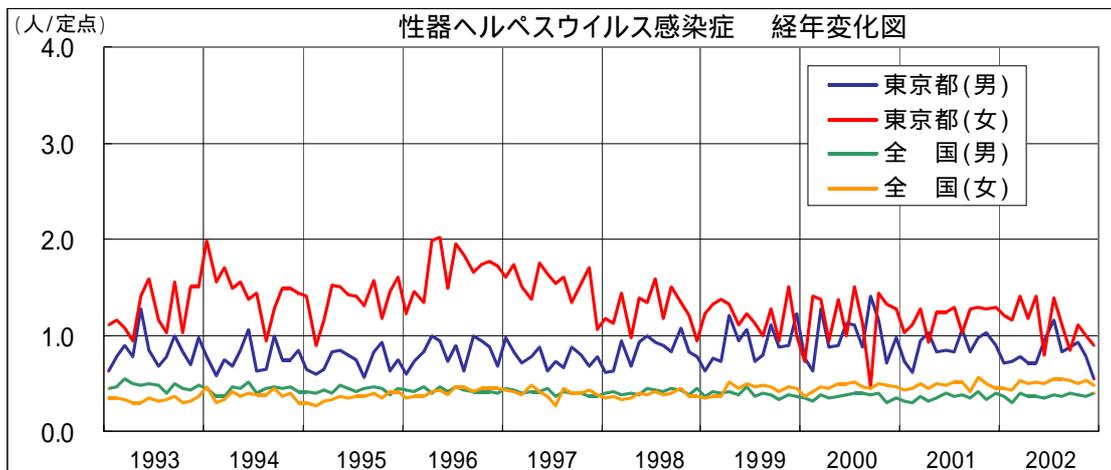
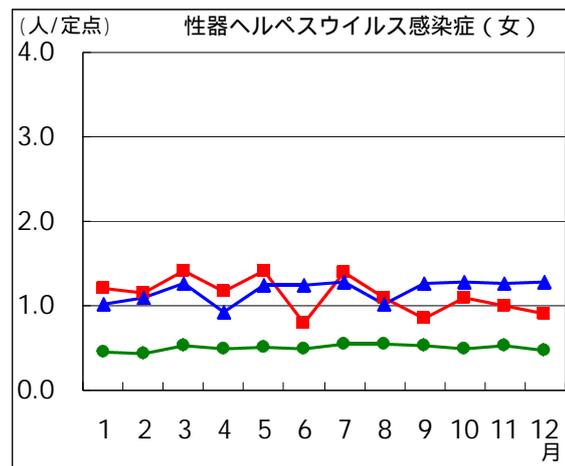
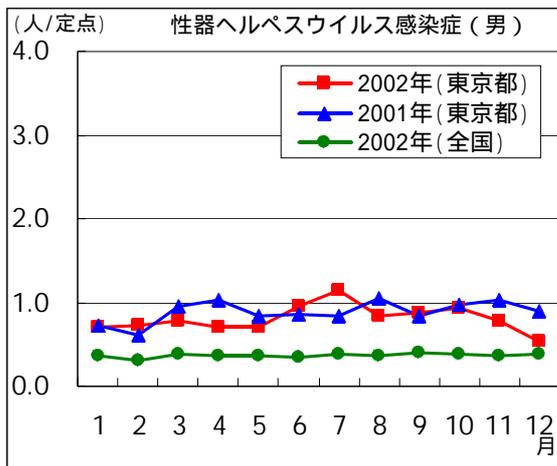
ア 性器クラミジア感染症

報告数は男子1,251(1,468)、女子1,285(1,321)で、前年と相違して女子が男子を上廻った。グラフで明らかなように東京都で1998年以後続いた、とくに女子での激増傾向が終息したと思われる。クラミジアは女子では自覚症状を欠き、病原検出が行われてはじめて感染の存在が判明する。日本の若年女子の頸管陽性率は検出法が商品化された1985年以来現在まで、また全国各地ではほぼ均一に約5%であり、把握され報告される症例数は、病原検出が一般の婦人科医でどの位なされるかに依っている。検出感度の高いアンプリコアPCRの保険適用は1994年であったが、妊婦健診などで多用されるに至ったのは1998年頃である。全国の定点報告数の増加傾向は、この経緯を反映して都よりやや遅れている。



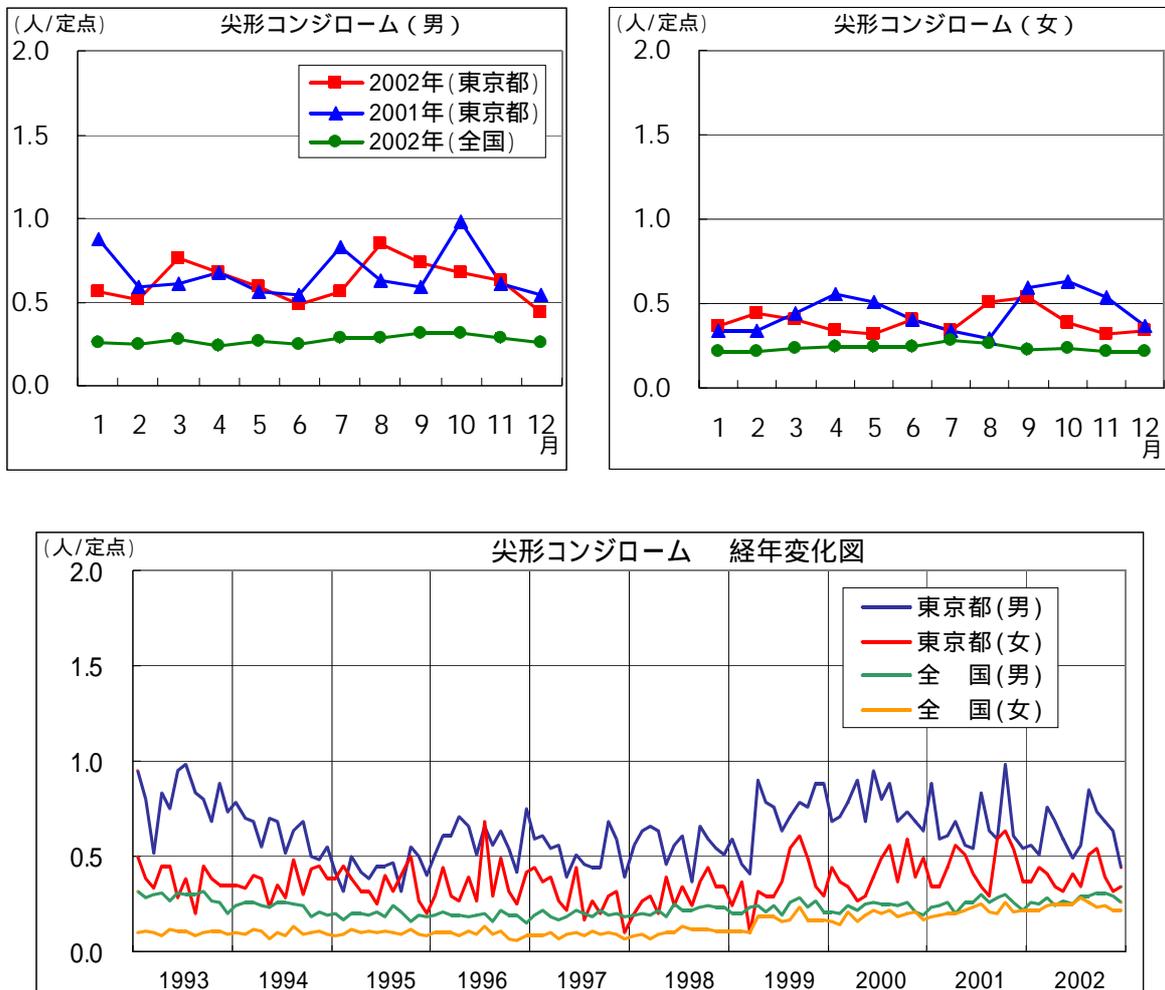
イ 性器ヘルペスウイルス感染症

報告数は男子 397 (435)、女子 553 (584) で、男女比 1.39 である。ヘルペスウイルスは初感染部位から神経軸索を上行し神経節細胞にプラスミドとして潜伏し、ときに初感染部位に再発性病変を生じる。把握症例のうち初発、再発を区別することは不可能である。女子ではクラミジアとは相違して 1998 年以降の増加傾向は認められない。



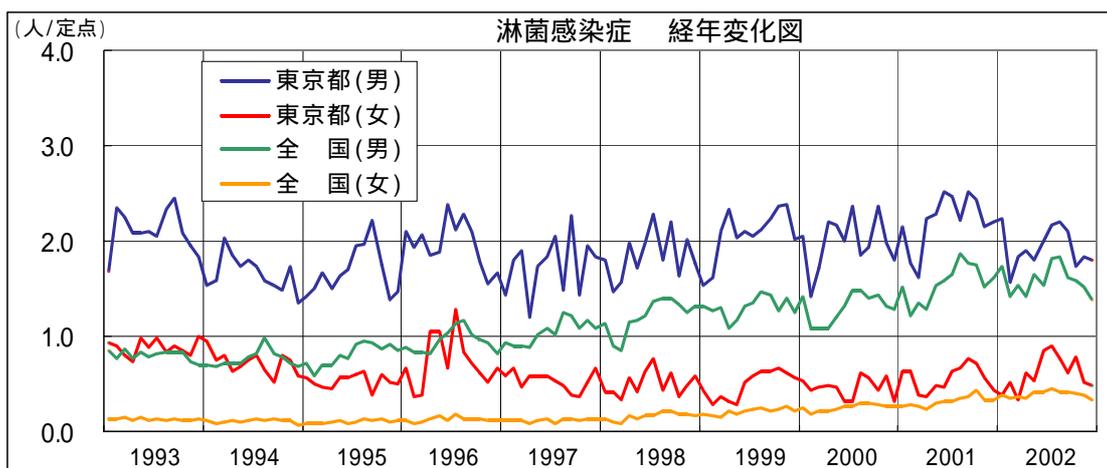
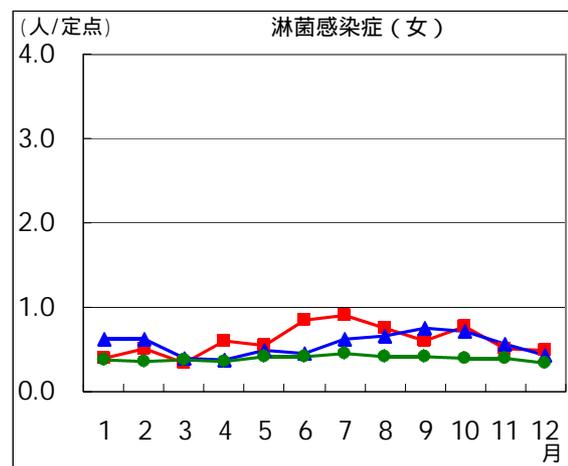
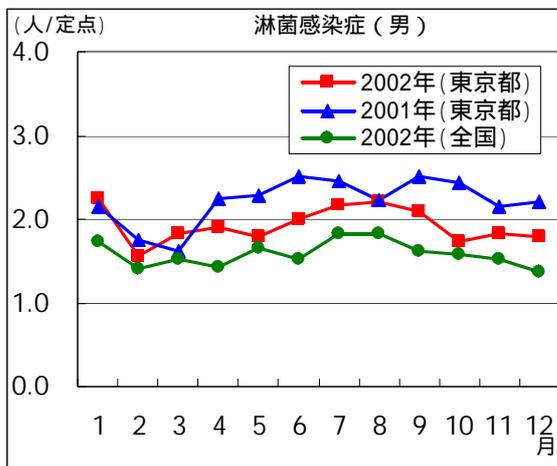
ウ 尖形コンジローム

報告数は男子 308 (329)、女子 194 (220) で男女比は 0.63 である。視診の容易な男子を主とする 1999 年以後みられた増加傾向は減衰しつつあるように見える。



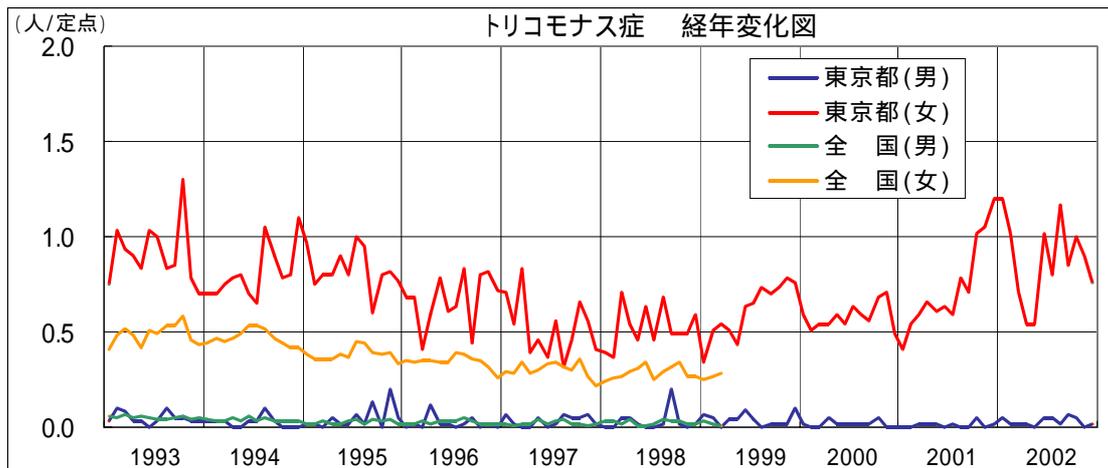
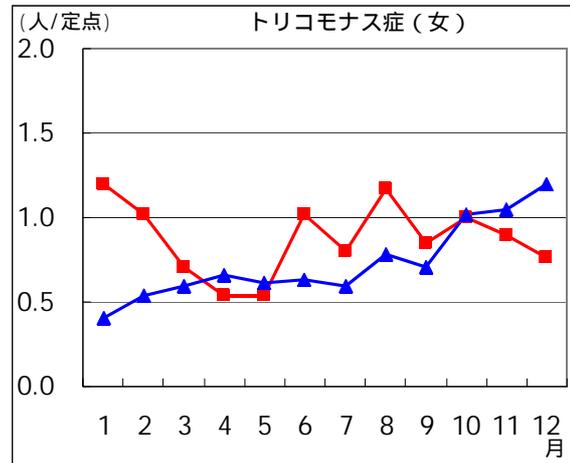
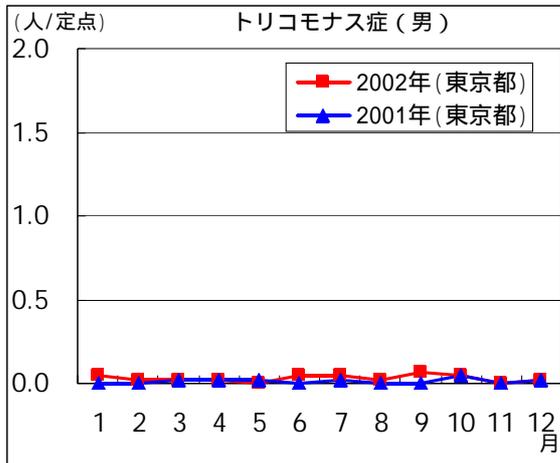
エ 淋菌感染症

報告数は男子 950 (1088)、女子 299 (276) で男女比は 0.31 である。1992 年の多数の在日タイ人女子 S W の H I V 罹患の報道による激減以後の 10 年間、都の症例数の増減は顕著ではない。全国男子では 1995 年以後右肩上がりの増加傾向で、都の男子も程度は低いが同様傾向であったが、2002 年は減少している。女子は依然増加傾向である。淋菌は耐性獲得が早い。単純性の感染症で超淋菌 M I C の抗菌薬血中濃度の 8 時間程度の維持により例外なく陰性化する。耐性化防止には服薬遵守の問題のない単回投与療法が理想的である。セフトリアキソン注射による単回投与が世界のスタンダードであるが、日本では保険適用でなく、新キノロン、セフェムの経口薬が繁用された。その結果新キノロン、セフェムに対する M I C は世界最高となり、2000 年以後全ての抗菌薬が無効の分離株が出現している。この現況で本症の激増が起こっていないのは不思議で、治療マニュアル作成委員会がセフトリアキソンをめぐって不毛の議論をくり返す間、臨床医は保険を弾力的に解釈して適切な治療をしているのかもしれない。



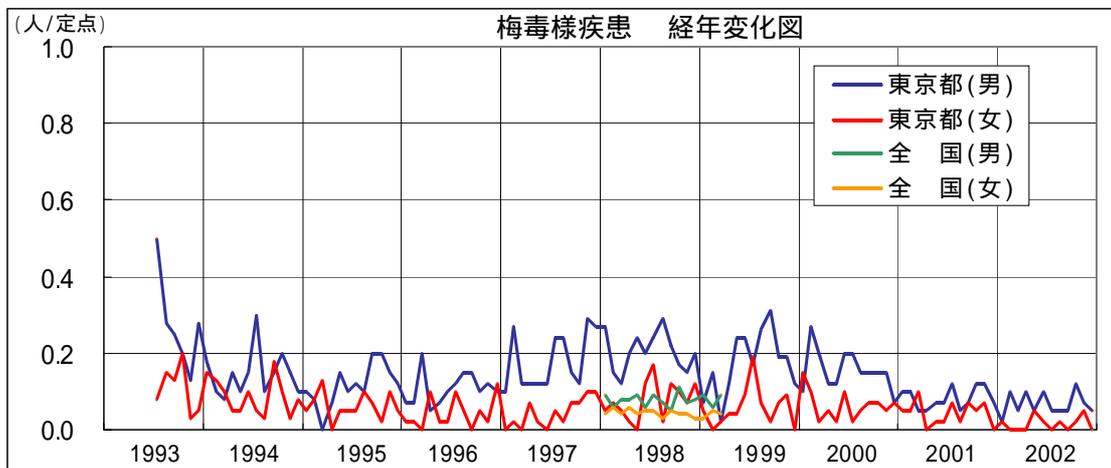
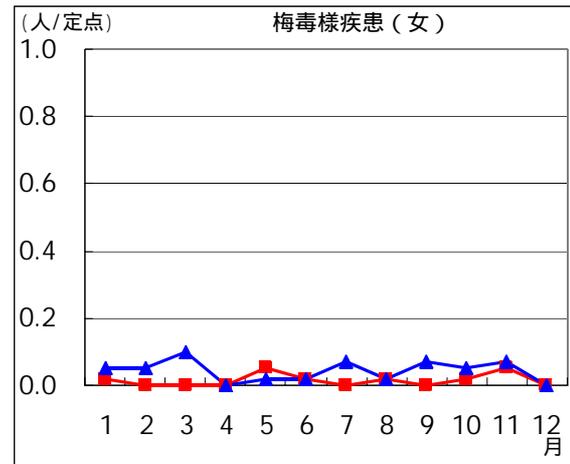
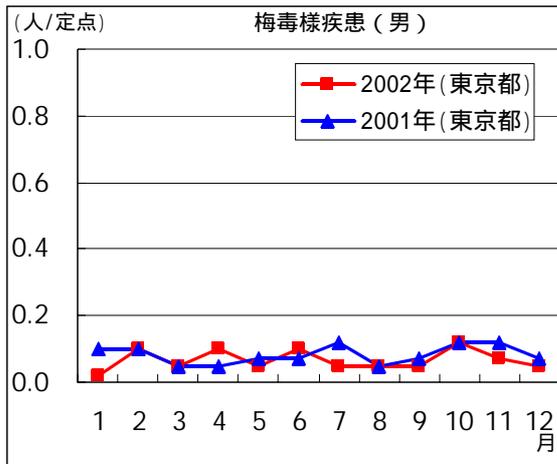
オ トリコモナス症

報告数は男子 16 (7)、女子 431 (369) の増加である。トリコモナスはカンジダと共に膣炎の起
 因菌とされるが、男子では定着性、病原性は少なく男子の臨床例は稀れである。女子報告症例の 50
 %超が台東、八王子の 2 定点からの報告である。



カ 梅毒様疾患

報告数は男子 33 (41)、女子 8 (20) で前年の約半数である。梅毒は新感染症法でエイズと共に全数報告とされ全国では定点報告が中止された。全数報告数はエイズの右肩上がり反して右肩下がりである。新感染症法に付帯した診断基準に、現在日本で梅毒症例の半数以上を占める潜伏梅毒について「カルジオリピン法の抗体検査で1.6倍以上」とされ、都では非該当症例を報告症例から除いた結果、報告症例数は約 1/4 減少している。当然この報告基準に該当しない感染症例も存在しうる。この経緯を知らずに報告数の推移のみをみれば、梅毒は現在抑制されていると解釈せざるをえない。



第4表 - 1 - 1 週別患者発生数推移表 (インフルエンザ 小児科) 2002年第1週 ~ 2002年第52週

週	期間	人		小児科定点数	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性レンサ	603 感染性胃腸炎	604 水痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発疹	608 百日咳	609 風疹	610 ヘルパンギーナ	611 麻疹	612 流行性耳下腺炎	
		インフルエンザ定点数	501 インフルエンザ														
1	12.31 ~ 1. 6	178	8	142	2	9	253	93	1	7	13				2	3	50
2	1. 7 ~ 1.13	178	87	142	3	63	977	297	15	27	71		1	8	2	137	
3	1.14 ~ 1.20	178	162	142	3	100	1,126	148	8	30	72		1	3	6	56	
4	1.21 ~ 1.27	178	495	142	3	115	1,312	182	9	36	68		1	8	2	73	
5	1.28 ~ 2. 3	178	1,158	142	7	103	1,432	141	13	49	62			6	5	103	
6	2. 4 ~ 2.10	178	2,219	142	13	137	1,364	139	2	32	60		3	4	6	73	
7	2.11 ~ 2.17	178	2,124	142	2	64	1,115	147	7	27	56	1		6	9	72	
8	2.18 ~ 2.24	178	2,464	142	3	93	1,194	157	7	26	47		3	8	1	65	
9	2.25 ~ 3. 3	178	1,921	142	14	82	1,062	135	6	24	49		1	1	6	80	
10	3. 4 ~ 3.10	178	1,184	142	11	73	977	135	14	30	51		3	6	2	81	
11	3.11 ~ 3.17	178	905	142	4	81	951	127	9	27	66		2	2	4	90	
12	3.18 ~ 3.24	178	522	142	3	78	726	109	6	35	61	1	3	5	10	83	
13	3.25 ~ 3.31	178	196	142	2	50	621	149	4	18	59	3	1	10	11	87	
14	4. 1 ~ 4. 7	178	90	142	2	62	502	139	25	24	88	2	2	8	10	94	
15	4. 8 ~ 4.14	178	33	142	3	46	496	123	21	27	78			6	12	91	
16	4.15 ~ 4.21	178	30	142	2	118	552	134	22	60	113		1	10	7	89	
17	4.22 ~ 4.28	178	7	142	3	89	522	139	26	36	77	1		19	8	91	
18	4.29 ~ 5. 5	178	12	142	5	67	349	97	18	26	40		3	16	5	59	
19	5. 6 ~ 5.12	178	2	142	3	98	433	202	22	50	74	1	1	16	16	90	
20	5.13 ~ 5.19	178	6	142	6	129	496	154	47	46	86		4	45	19	82	
21	5.20 ~ 5.26	178	5	142	11	138	602	208	72	73	77	2	3	108	18	76	
22	5.27 ~ 6. 2	178		142	5	122	513	282	117	91	90	5	5	158	12	106	
23	6. 3 ~ 6. 9	178		142	5	113	413	233	124	84	87		1	203	17	108	
24	6.10 ~ 6.16	178		142	14	129	414	229	118	61	72	1	6	236	10	94	
25	6.17 ~ 6.23	178		142	12	115	418	166	192	54	81		3	369	6	103	
26	6.24 ~ 6.30	178		142	21	108	429	180	202	46	70	1	1	437	17	93	
27	7. 1 ~ 7. 7	178	1	142	15	97	419	164	215	99	63		2	584	6	108	
28	7. 8 ~ 7.14	178		142	34	80	342	167	344	60	69	2	2	800	12	123	
29	7.15 ~ 7.21	178		142	17	50	257	117	324	32	84		1	534	11	85	
30	7.22 ~ 7.28	178		142	30	44	277	128	222	26	85			445	8	77	
31	7.29 ~ 8. 4	178		142	35	29	267	109	178	23	79	1	2	309	14	67	
32	8. 5 ~ 8.11	178		142	30	16	193	63	102	21	72			166	6	74	
33	8.12 ~ 8.18	178		142	18	9	119	31	65	3	34			72	4	49	
34	8.19 ~ 8.25	178		142	26	19	203	58	58	10	65	1	2	74	12	54	
35	8.26 ~ 9. 1	178		142	26	28	271	44	61	18	92	3		60	4	52	
36	9. 2 ~ 9. 8	178		142	15	32	253	53	50	19	81	1	3	61	3	47	
37	9. 9 ~ 9.15	178		142	15	25	292	45	51	7	87	1	3	55	3	47	
38	9.16 ~ 9.22	178		142	8	34	237	46	43	13	88		1	31	6	45	
39	9.23 ~ 9.29	178		142	9	29	298	48	38	6	74	2		16	7	50	
40	9.30 ~ 10. 6	178		142	8	42	323	64	35	5	102	3	1	18	1	48	
41	10. 7 ~ 10.13	178		142	12	42	327	56	35	15	87			16	1	35	
42	10.14 ~ 10.20	178		142	14	64	322	71	41	16	75			9	5	66	
43	10.21 ~ 10.27	178	1	142	9	55	378	73	52	10	76			19	1	56	
44	10.28 ~ 11. 3	178	2	142	5	51	514	68	39	13	62			20	7	38	
45	11. 4 ~ 11.10	178	3	142	14	53	602	116	36	8	63		1	12	4	36	
46	11.11 ~ 11.17	178	2	142	14	76	1,056	135	37	21	60			13	4	41	
47	11.18 ~ 11.24	178	3	142	14	68	1,185	144	27	14	53			14	3	45	
48	11.25 ~ 12. 1	178	24	142	12	91	1,675	197	16	14	59		1	9	13	44	
49	12. 2 ~ 12. 8	178	52	142	19	101	1,675	210	12	14	83		19	8	3	48	
50	12. 9 ~ 12.15	178	119	142	6	71	1,418	199	12	17	47		1	9	6	42	
51	12.16 ~ 12.22	178	331	142	18	116	1,485	228	9	24	68			5	4	50	
52	12.23 ~ 12.29	178	709	142	15	68	1,022	200	4	20	56		2	8	5	25	
	合計		14,877		600	3,772	34,659	7,079	3,213	1,574	3,632	32	71	5,067	377	3,678	

第4表 - 1 - 2 週別患者発生数推移表 (眼科・基幹・小児科) 2002年第1週～2002年第52週

週	期間	眼科		基幹						小児科			
		定点数	発生数	基幹定点数	901 急性脳炎 (日本脳炎を除く)	902 細菌性髄膜炎	903 無菌性髄膜炎	904 マイコプラズマ肺炎	905 クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	906 成人麻疹	小児科定点数	1 不明発疹症	2 MCLS
1	12.31～1.6	14	7	25						142	2		
2	1.7～1.13	14	32	25	1	2		8		142	8	1	
3	1.14～1.20	14	17	25		1	1	1		142	7	2	
4	1.21～1.27	14	18	25	1			2		142	12	2	
5	1.28～2.3	14	17	25		1		1	1	142	14	1	
6	2.4～2.10	14	18	25			1	1	1	142	8	1	
7	2.11～2.17	14	11	25	1		2	1	3	142	12	1	
8	2.18～2.24	14	20	25	1		1		1	142	6		
9	2.25～3.3	14	26	25		1		1	2	142	12	2	
10	3.4～3.10	14	16	25					2	142	12		
11	3.11～3.17	14	16	25		4	2	1	3	142	11	1	
12	3.18～3.24	14	13	25	1			2		142	16		
13	3.25～3.31	14	20	25	1				1	142	10		
14	4.1～4.7	14	18	25				1	1	142	10	1	
15	4.8～4.14	14	19	25			1	2	1	142	14		
16	4.15～4.21	14	20	25		1	1	1	5	142	10	1	
17	4.22～4.28	14	19	25			1		2	142	12		
18	4.29～5.5	14	14	25					1	142	6		
19	5.6～5.12	14	14	25			2		5	142	12		
20	5.13～5.19	14	16	25	1	1	2	1	5	142	13	3	
21	5.20～5.26	14	26	25			2		8	142	20		
22	5.27～6.2	14	20	25		1		2	2	142	19		
23	6.3～6.9	14	23	25				2	1	142	15	5	
24	6.10～6.16	14	18	25				1	6	142	17		
25	6.17～6.23	14	21	25			1	2	5	142	9	4	
26	6.24～6.30	14	32	25				2	6	142	21	3	
27	7.1～7.7	14	20	25			4	5	1	142	35	3	
28	7.8～7.14	14	22	25			1		5	142	33	4	
29	7.15～7.21	14	25	25			4	1	5	142	23	2	
30	7.22～7.28	14	28	25			12	1	4	142	16	4	
31	7.29～8.4	14	11	25		2	1	1	3	142	13		
32	8.5～8.11	14	27	25			4	1	1	142	12		
33	8.12～8.18	14	25	25			9		1	142	3		
34	8.19～8.25	14	19	25			1	4		142	8		
35	8.26～9.1	14	22	25		2	2	4	7	142	15		
36	9.2～9.8	14	25	25	2	1	1	5	3	142	11	2	
37	9.9～9.15	14	10	25			2	4	1	142	8	1	
38	9.16～9.22	14	12	25	1			4	1	142	9	1	
39	9.23～9.29	14	15	25				4		142	12	1	
40	9.30～10.6	14	15	25			3	3	1	142	10		
41	10.7～10.13	14	15	25				5	2	142	11	2	
42	10.14～10.20	14	9	25		1		12	1	142			
43	10.21～10.27	14	8	25			1	10	2	142	12	2	
44	10.28～11.3	14	15	25		1	1	4	3	142	9		
45	11.4～11.10	14	13	25				14	2	142	10	1	
46	11.11～11.17	14	7	25		2		10	2	142	10	2	
47	11.18～11.24	14	16	25				11	1	142	11		
48	11.25～12.1	14	14	25		1		6	2	142	5		
49	12.2～12.8	14	13	25		1	1	5	1	142	12		
50	12.9～12.15	14	22	25		1	1	9		142	9	2	
51	12.16～12.22	14	12	25			1	2	2	142	1	3	
52	12.23～12.29	14	14	25				6		142	7	2	
合計		12	925		10	24	66	163	2	116		613	60

第4表 - 2 - 1 週別定点当たり患者発生数推移表 (インフルエンザ 小児科) 2002年第1週 ~ 2002年第52週

週	期間	人/定点		人/定点												
		インフルエンザ 定点数	501 インフルエンザ	小児科 定点数	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性 レンサ	603 感染性胃腸炎	604 水痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発疹	608 百日咳	609 風疹	610 ヘルパンギーナ	611 麻疹	612 流行性耳下腺炎
1	12.31 ~ 1. 6	178	0.04	142	0.01	0.06	1.78	0.65	0.01	0.05	0.09			0.01	0.02	0.35
2	1. 7 ~ 1.13	178	0.49	142	0.02	0.44	6.88	2.09	0.11	0.19	0.50		0.01	0.06	0.01	0.96
3	1.14 ~ 1.20	178	0.91	142	0.02	0.70	7.93	1.04	0.06	0.21	0.51		0.01	0.02	0.04	0.39
4	1.21 ~ 1.27	178	2.78	142	0.02	0.81	9.24	1.28	0.06	0.25	0.48		0.01	0.06	0.01	0.51
5	1.28 ~ 2. 3	178	6.51	142	0.05	0.73	10.08	0.99	0.09	0.35	0.44			0.04	0.04	0.73
6	2. 4 ~ 2.10	178	12.47	142	0.09	0.96	9.61	0.98	0.01	0.23	0.42		0.02	0.03	0.04	0.51
7	2.11 ~ 2.17	178	11.93	142	0.01	0.45	7.85	1.04	0.05	0.19	0.39	0.01		0.04	0.06	0.51
8	2.18 ~ 2.24	178	13.84	142	0.02	0.65	8.41	1.11	0.05	0.18	0.33		0.02	0.06	0.01	0.46
9	2.25 ~ 3. 3	178	10.79	142	0.10	0.58	7.48	0.95	0.04	0.17	0.35		0.01	0.01	0.04	0.56
10	3. 4 ~ 3.10	178	6.65	142	0.08	0.51	6.88	0.95	0.10	0.21	0.36		0.02	0.04	0.01	0.57
11	3.11 ~ 3.17	178	5.08	142	0.03	0.57	6.70	0.89	0.06	0.19	0.46		0.01	0.01	0.03	0.63
12	3.18 ~ 3.24	178	2.93	142	0.02	0.55	5.11	0.77	0.04	0.25	0.43	0.01	0.02	0.04	0.07	0.58
13	3.25 ~ 3.31	178	1.10	142	0.01	0.35	4.37	1.05	0.03	0.13	0.42	0.02	0.01	0.07	0.08	0.61
14	4. 1 ~ 4. 7	178	0.51	142	0.01	0.44	3.54	0.98	0.18	0.17	0.62	0.01	0.01	0.06	0.07	0.66
15	4. 8 ~ 4.14	178	0.19	142	0.02	0.32	3.49	0.87	0.15	0.19	0.55			0.04	0.08	0.64
16	4.15 ~ 4.21	178	0.17	142	0.01	0.83	3.89	0.94	0.15	0.42	0.80		0.01	0.07	0.05	0.63
17	4.22 ~ 4.28	178	0.04	142	0.02	0.63	3.68	0.98	0.18	0.25	0.54	0.01		0.13	0.06	0.64
18	4.29 ~ 5. 5	178	0.07	142	0.04	0.47	2.46	0.68	0.13	0.18	0.28		0.02	0.11	0.04	0.42
19	5. 6 ~ 5.12	178	0.01	142	0.02	0.69	3.05	1.42	0.15	0.35	0.52	0.01	0.01	0.11	0.11	0.63
20	5.13 ~ 5.19	178	0.03	142	0.04	0.91	3.49	1.08	0.33	0.32	0.61		0.03	0.32	0.13	0.58
21	5.20 ~ 5.26	178	0.03	142	0.08	0.97	4.24	1.46	0.51	0.51	0.54	0.01	0.02	0.76	0.13	0.54
22	5.27 ~ 6. 2	178		142	0.04	0.86	3.61	1.99	0.82	0.64	0.63	0.04	0.04	1.11	0.08	0.75
23	6. 3 ~ 6. 9	178		142	0.04	0.80	2.91	1.64	0.87	0.59	0.61		0.01	1.43	0.12	0.76
24	6.10 ~ 6.16	178		142	0.10	0.91	2.92	1.61	0.83	0.43	0.51	0.01	0.04	1.66	0.07	0.66
25	6.17 ~ 6.23	178		142	0.08	0.81	2.94	1.17	1.35	0.38	0.57		0.02	2.60	0.04	0.73
26	6.24 ~ 6.30	178		142	0.15	0.76	3.02	1.27	1.42	0.32	0.49	0.01	0.01	3.08	0.12	0.65
27	7. 1 ~ 7. 7	178	0.01	142	0.11	0.68	2.95	1.15	1.51	0.70	0.44		0.01	4.11	0.04	0.76
28	7. 8 ~ 7.14	178		142	0.24	0.56	2.41	1.18	2.42	0.42	0.49	0.01	0.01	5.63	0.08	0.87
29	7.15 ~ 7.21	178		142	0.12	0.35	1.81	0.82	2.28	0.23	0.59		0.01	3.76	0.08	0.60
30	7.22 ~ 7.28	178		142	0.21	0.31	1.95	0.90	1.56	0.18	0.60			3.13	0.06	0.54
31	7.29 ~ 8. 4	178		142	0.25	0.20	1.88	0.77	1.25	0.16	0.56	0.01	0.01	2.18	0.10	0.47
32	8. 5 ~ 8.11	178		142	0.21	0.11	1.36	0.44	0.72	0.15	0.51			1.17	0.04	0.52
33	8.12 ~ 8.18	178		142	0.13	0.06	0.84	0.22	0.46	0.02	0.24			0.51	0.03	0.35
34	8.19 ~ 8.25	178		142	0.18	0.13	1.43	0.41	0.41	0.07	0.46	0.01	0.01	0.52	0.08	0.38
35	8.26 ~ 9. 1	178		142	0.18	0.20	1.91	0.31	0.43	0.13	0.65	0.02		0.42	0.03	0.37
36	9. 2 ~ 9. 8	178		142	0.11	0.23	1.78	0.37	0.35	0.13	0.57	0.01	0.02	0.43	0.02	0.33
37	9. 9 ~ 9.15	178		142	0.11	0.18	2.06	0.32	0.36	0.05	0.61	0.01	0.02	0.39	0.02	0.33
38	9.16 ~ 9.22	178		142	0.06	0.24	1.67	0.32	0.30	0.09	0.62		0.01	0.22	0.04	0.32
39	9.23 ~ 9.29	178		142	0.06	0.20	2.10	0.34	0.27	0.04	0.52	0.01		0.11	0.05	0.35
40	9.30 ~ 10. 6	178		142	0.06	0.30	2.27	0.45	0.25	0.04	0.72	0.02	0.01	0.13	0.01	0.34
41	10. 7 ~ 10.13	178		142	0.08	0.30	2.30	0.39	0.25	0.11	0.61			0.11	0.01	0.25
42	10.14 ~ 10.20	178		142	0.10	0.45	2.27	0.50	0.29	0.11	0.53			0.06	0.04	0.46
43	10.21 ~ 10.27	178	0.01	142	0.06	0.39	2.66	0.51	0.37	0.07	0.54			0.13	0.01	0.39
44	10.28 ~ 11. 3	178	0.01	142	0.04	0.36	3.62	0.48	0.27	0.09	0.44			0.14	0.05	0.27
45	11. 4 ~ 11.10	178	0.02	142	0.10	0.37	4.24	0.82	0.25	0.06	0.44		0.01	0.08	0.03	0.25
46	11.11 ~ 11.17	178	0.01	142	0.10	0.54	7.44	0.95	0.26	0.15	0.42			0.09	0.03	0.29
47	11.18 ~ 11.24	178	0.02	142	0.10	0.48	8.35	1.01	0.19	0.10	0.37			0.10	0.02	0.32
48	11.25 ~ 12. 1	178	0.13	142	0.08	0.64	11.80	1.39	0.11	0.10	0.42		0.01	0.06	0.09	0.31
49	12. 2 ~ 12. 8	178	0.29	142	0.13	0.71	11.80	1.48	0.08	0.10	0.58			0.06	0.02	0.34
50	12. 9 ~ 12.15	178	0.67	142	0.04	0.50	9.99	1.40	0.08	0.12	0.33		0.01	0.06	0.04	0.30
51	12.16 ~ 12.22	178	1.86	142	0.13	0.82	10.46	1.61	0.06	0.17	0.48			0.04	0.03	0.35
52	12.23 ~ 12.29	178	3.98	142	0.11	0.48	7.20	1.41	0.03	0.14	0.39		0.01	0.06	0.04	0.18
	平均		1.61		0.08	0.51	4.69	0.96	0.44	0.21	0.49	0.00	0.01	0.69	0.05	0.50

第4表 - 2 - 2 週別定点当たり患者発生数推移表 (眼科・基幹・小児科)

週	期間	人/定点		2002年第1週～2002年第52週						人/定点			
		眼科 定点数	701 急性 出血性 結膜炎	702 流行 性角 結膜炎	基幹 定点数	901 急性 脳炎 (日本 脳炎を 除く)	902 細菌 性髄 膜炎	903 無菌 性髄 膜炎	904 マイ コプ ラズ マ肺 炎	905 クラ ミジ ア肺 炎 (オウ ム病 は除 く)	906 成人 麻疹	小児 科定 点数	1 不明 発疹 症
1	12.31～1.6	14		0.50	25						142	0.01	
2	1.7～1.13	14		2.29	25	0.04	0.08		0.32		142	0.06	0.01
3	1.14～1.20	14		1.21	25		0.04	0.04	0.04		142	0.05	0.01
4	1.21～1.27	14		1.29	25	0.04			0.08	0.08	142	0.08	0.01
5	1.28～2.3	14		1.21	25		0.04		0.04	0.04	142	0.10	0.01
6	2.4～2.10	14		1.29	25			0.04	0.04	0.04	142	0.06	0.01
7	2.11～2.17	14		0.79	25	0.04		0.08	0.04	0.12	142	0.08	0.01
8	2.18～2.24	14		1.43	25	0.04		0.04		0.04	142	0.04	
9	2.25～3.3	14		1.86	25		0.04		0.04	0.08	142	0.08	0.01
10	3.4～3.10	14		1.14	25					0.08	142	0.08	
11	3.11～3.17	14		1.14	25		0.16	0.08	0.04	0.12	142	0.08	0.01
12	3.18～3.24	14		0.93	25	0.04			0.08		142	0.11	
13	3.25～3.31	14		1.43	25	0.04				0.04	142	0.07	
14	4.1～4.7	14	0.07	1.29	25			0.04		0.04	142	0.07	0.01
15	4.8～4.14	14		1.36	25			0.04	0.08	0.04	142	0.10	
16	4.15～4.21	14		1.43	25		0.04	0.04	0.04	0.20	142	0.07	0.01
17	4.22～4.28	14		1.36	25			0.04		0.08	142	0.08	
18	4.29～5.5	14		1.00	25					0.04	142	0.04	
19	5.6～5.12	14		1.00	25			0.08		0.20	142	0.08	
20	5.13～5.19	14	0.07	1.14	25	0.04	0.04	0.08	0.04	0.20	142	0.09	0.02
21	5.20～5.26	14		1.86	25			0.08		0.32	142	0.14	
22	5.27～6.2	14	0.43	1.43	25		0.04		0.08	0.08	142	0.13	
23	6.3～6.9	14		1.64	25				0.08	0.04	142	0.11	0.04
24	6.10～6.16	14		1.29	25				0.04	0.24	142	0.12	
25	6.17～6.23	14		1.50	25			0.04	0.08	0.20	142	0.06	0.03
26	6.24～6.30	14	0.07	2.29	25				0.08	0.24	142	0.15	0.02
27	7.1～7.7	14	0.07	1.43	25			0.16	0.20	0.04	142	0.25	0.02
28	7.8～7.14	14		1.57	25			0.04		0.20	142	0.23	0.03
29	7.15～7.21	14		1.79	25			0.16	0.04	0.20	142	0.16	0.01
30	7.22～7.28	14		2.00	25				0.48	0.04	142	0.11	0.03
31	7.29～8.4	14		0.79	25		0.08	0.04	0.04	0.12	142	0.09	
32	8.5～8.11	14		1.93	25			0.16	0.04	0.04	142	0.08	
33	8.12～8.18	14		1.79	25			0.36		0.04	142	0.02	
34	8.19～8.25	14		1.36	25			0.04	0.16		142	0.06	
35	8.26～9.1	14		1.57	25		0.08	0.08	0.16	0.28	142	0.11	
36	9.2～9.8	14		1.79	25	0.08	0.04	0.04	0.20	0.12	142	0.08	0.01
37	9.9～9.15	14		0.71	25			0.08	0.16	0.04	142	0.06	0.01
38	9.16～9.22	14		0.86	25	0.04			0.16	0.04	142	0.06	0.01
39	9.23～9.29	14		1.07	25				0.16		142	0.08	0.01
40	9.30～10.6	14		1.07	25			0.12	0.12	0.04	142	0.07	
41	10.7～10.13	14		1.07	25				0.20	0.08	142	0.08	0.01
42	10.14～10.20	14		0.64	25		0.04		0.48	0.04	142		
43	10.21～10.27	14		0.57	25			0.04	0.40	0.08	142	0.08	0.01
44	10.28～11.3	14		1.07	25		0.04	0.04	0.16	0.12	142	0.06	
45	11.4～11.10	14		0.93	25				0.56	0.08	142	0.07	0.01
46	11.11～11.17	14		0.50	25		0.08		0.40	0.08	142	0.07	0.01
47	11.18～11.24	14		1.14	25				0.44	0.04	142	0.08	
48	11.25～12.1	14	0.14	1.00	25		0.04		0.24	0.08	142	0.04	
49	12.2～12.8	14		0.93	25		0.04	0.04	0.20	0.04	142	0.08	
50	12.9～12.15	14		1.57	25		0.04	0.04	0.36		142	0.06	0.01
51	12.16～12.22	14		0.86	25			0.04	0.08	0.08	142	0.01	0.02
52	12.23～12.29	14		1.00	25				0.24		142	0.05	0.01
平均			0.02	1.27		0.01	0.02	0.05	0.13	0.00	0.09	0.08	0.01

第5表 - 1 - 1 保健所別患者報告数累計表 (インフルエンザ・小児科) 2002年1週～2002年52週

	インフルエンザ定点数	501 インフルエンザ	小児科 定点数	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	603 感染性胃腸炎	604 水痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発疹	608 百日咳	609 風疹	610 ヘルパンギーナ	611 麻疹	612 流行性耳下腺炎
千代田	5	214	4	6	17	222	57	34	11	14	1	2	63	9	48
中央区	4	85	3	3	26	450	186	57	16	108			86	3	68
みなと	7	195	6	110	131	293	100	41	25	45		1	37	2	26
新宿区	7	434	6	7	110	1,774	188	115	84	95		2	141	15	80
文京	4	191	3	5	43	587	73	19	16	30			49	9	37
台東	4	564	3	30	178	1,241	248	125	36	154			500	15	53
墨田区	4	227	3	19	19	548	97	61	6	76		1	22	2	34
江東区	4	246	3	11	183	924	176	92	32	123		4	93	12	136
品川区	7	435	6	17	115	1,702	279	131	65	165	1		269	6	115
目黒区	4	164	3	3	179	462	105	85	43	81	1		101	2	85
大田区	10	736	9	71	369	2,409	409	190	262	314	7	1	325	16	157
世田谷区	9	639	8	71	125	2,358	406	174	83	282	2	1	261	27	305
渋谷区	5	452	4	32	57	1,704	187	110	59	76		5	86	10	73
中野区	7	632	6	14	49	2,176	306	147	48	114		2	142	7	124
杉並	7	170	6	1	74	935	180	86	19	92			63	7	70
池袋	5	66	4	20	30	122	61	10	12	18		3	33	4	39
長崎	1	3	1		4	193	89	16	6	55			1	2	21
北区	5	703	4	42	231	907	288	108	85	238	1	1	310	9	128
荒川区	3	225	2	2	27	354	55	19	12	16		3	70	23	40
板橋区	7	543	6	7	35	657	136	23	23	56		5	51	4	39
練馬区	6	720	5	1	159	755	353	62	76	80		6	147	16	128
足立	5	723	4	17	107	1,083	246	60	21	68	1	1	157	11	65
葛飾	5	710	4	9	269	1,159	472	193	55	267	2	2	366	19	240
江戸川	5	776	4	34	559	1,922	282	238	33	179	1	4	375	48	123
多摩川	4	373	3	7	44	531	234	152	119	119		9	93	4	264
秋川	3	253	2	3	90	696	82	93	25	40		2	7	1	156
八王子	3	272	2	5	22	412	147	73	23	89		4	74	13	89
南多摩	4	377	3	1	35	1,065	159	47	80	91	2	3	265	8	97
町田	3	547	2	1	41	1,658	155	174	15	63		1	227	5	99
多摩立川	5	468	4	7	78	510	170	55	26	10	2		40	15	69
村山大和	3	418	2	1	17	465	97	58	9	20	1		17	13	59
府中小金井	4	243	3		10	131	67	13	6	40			18	6	42
狛江調布	4	390	3	14	46	698	243	68	27	123		1	105	8	74
三鷹武蔵野	5	452	4	1	89	907	273	59	36	71	6	1	36	3	260
多摩小平	4	729	3	12	77	995	195	93	60	125	2	4	280	18	121
多摩東村山	4	381	3	7	123	1,512	207	82	15	94	1	2	116	5	105
島しょ	2	121	1	9	4	142	71	50	5	1	1		41		9
合 計	178	14,877	142	600	3,772	34,659	7,079	3,213	1,574	3,632	32	71	5,067	377	3,678
前年計	178	6,114	142	645	2,936	31,639	6,877	2,133	2,510	3,507	23	114	6,314	628	6,284
当年/前年		2.43		0.93	1.28	1.10	1.03	1.51	0.63	1.04	1.39	0.62	0.80	0.60	0.59
増減数		8,763		-45	836	3,020	202	1,080	-936	125	9	-43	-1,247	-251	-2,606
定点当たり報告数		83.58		4.23	26.56	244.08	49.85	22.63	11.08	25.58	0.23	0.50	35.68	2.65	25.90

第5表 - 1 - 2 保健所別患者報告数累計表 (眼科・基幹・小児科) 2002年1週～2002年52週

	人			人						人			
	眼科 定点数	701 急性 出血性 結膜炎	702 流行性 角結膜炎	基幹 定点数	901 急性 脳炎 (日本 脳炎を 除く)	902 細菌 性髄 膜炎	903 無菌 性髄 膜炎	904 マイ コプ ラズ マ肺 炎	905 クラ ミジ ア肺 炎 (オウ ム病 は除 く)	906 成人 麻疹	小児 科定 点数	1 不明 発疹 症	2 M C L S
千代田				2			3		1	1	4	15	3
中央区											3	25	3
みなと	1	1	78	1							6	20	1
新宿区	2	2	340	2	2	6		72		11	6	69	1
文京	1		140	1		2	3	3		37	3		
台東											3	1	2
墨田区				1	6	4	21			42	3		
江東区	1	2	76								3	28	4
品川区											6	36	6
目黒区											3	30	1
大田区	1		36	1	1	3				14	9	52	5
世田谷区				2		3	14	1		5	8	39	9
渋谷区	1	6	6	2		2	2				4		
中野区				1							6	11	1
杉並				1							6		
池袋	1		99	1			7	16			4	1	
長崎											1		
北区											4	18	
荒川区	1		54								2	1	
板橋区				1		1	3	49	1	1	6	2	
練馬区											5	12	11
足立											4		
葛飾				1			4	2			4	89	5
江戸川											4	24	1
多摩川				1		1	5	6			3		
秋川											2	15	
八王子	1		30	1						2	2		1
南多摩											3	18	
町田	1	1	19								2	45	1
多摩立川				1				7			4	2	
村山大和	1		28								2	13	
府中小金井				1		1		1		1	3	1	
狛江調布											3	5	
三鷹武蔵野	2		19	1				1			4	6	1
多摩小平				1	1	1	4	5		2	3		
多摩東村山				1							3	35	4
島しょ				1							1		
合計	14	12	925	25	10	24	66	163	2	116	142	613	60
前年計	14	16	1008	25	5	12	36	45	0	181	142	585	75
当年/前年		0.75	0.92		2.00	2.00	1.83	3.62		0.64		1.05	0.80
増減数		-4	-83		5	12	30	118	2	-65		28	-15
定点当たり報告数		0.86	66.07		0.40	0.96	2.64	6.52	0.08	4.64		4.32	0.42

第5表 - 2 - 1 保健所別定点当たり患者報告数累計表 (インフルエンザ・小児科) 2002年1週～2002年52週

	人/定点		小児科 定点数	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性 レンサ	603 感染性 胃腸炎	604 水痘	605 手足口病	606 伝染性 紅斑	607 突発性 発疹	608 百日咳	609 風疹	610 ヘルパン ギーナ	人/定点	
	イン フル エン ザ 定 点 数	501 イン フル エン ザ												611 麻 疹	612 流 行 性 耳 下 腺 炎
千代田	5	42.80	4	1.50	4.25	55.50	14.25	8.50	2.75	3.50	0.25	0.50	15.75	2.25	12.00
中央区	4	21.25	3	1.00	8.67	150.00	62.00	19.00	5.33	36.00			28.67	1.00	22.67
みなと	7	27.86	6	18.33	21.83	48.83	16.67	6.83	4.17	7.50		0.17	6.17	0.33	4.33
新宿区	7	62.00	6	1.17	18.33	295.67	31.33	19.17	14.00	15.83		0.33	23.50	2.50	13.33
文京	4	47.75	3	1.67	14.33	195.67	24.33	6.33	5.33	10.00			16.33	3.00	12.33
台東	4	141.00	3	10.00	59.33	413.67	82.67	41.67	12.00	51.33			166.67	5.00	17.67
墨田区	4	56.75	3	6.33	6.33	182.67	32.33	20.33	2.00	25.33		0.33	7.33	0.67	11.33
江東区	4	61.50	3	3.67	61.00	308.00	58.67	30.67	10.67	41.00		1.33	31.00	4.00	45.33
品川区	7	62.14	6	2.83	19.17	283.67	46.50	21.83	10.83	27.50	0.17		44.83	1.00	19.17
目黒区	4	41.00	3	1.00	59.67	154.00	35.00	28.33	14.33	27.00	0.33		33.67	0.67	28.33
大田区	10	73.60	9	7.89	41.00	267.67	45.44	21.11	29.11	34.89	0.78	0.11	36.11	1.78	17.44
世田谷区	9	71.00	8	8.88	15.63	294.75	50.75	21.75	10.38	35.25	0.25	0.13	32.63	3.38	38.13
渋谷区	5	90.40	4	8.00	14.25	426.00	46.75	27.50	14.75	19.00		1.25	21.50	2.50	18.25
中野区	7	90.29	6	2.33	8.17	362.67	51.00	24.50	8.00	19.00		0.33	23.67	1.17	20.67
杉並	7	24.29	6	0.17	12.33	155.83	30.00	14.33	3.17	15.33			10.50	1.17	11.67
池袋	5	13.20	4	5.00	7.50	30.50	15.25	2.50	3.00	4.50		0.75	8.25	1.00	9.75
長崎	1	3.00	1		4.00	193.00	89.00	16.00	6.00	55.00			1.00	2.00	21.00
北区	5	140.60	4	10.50	57.75	226.75	72.00	27.00	21.25	59.50	0.25	0.25	77.50	2.25	32.00
荒川区	3	75.00	2	1.00	13.50	177.00	27.50	9.50	6.00	8.00		1.50	35.00	11.50	20.00
板橋区	7	77.57	6	1.17	5.83	109.50	22.67	3.83	3.83	9.33		0.83	8.50	0.67	6.50
練馬区	6	120.00	5	0.20	31.80	151.00	70.60	12.40	15.20	16.00		1.20	29.40	3.20	25.60
足立	5	144.60	4	4.25	26.75	270.75	61.50	15.00	5.25	17.00	0.25	0.25	39.25	2.75	16.25
葛飾	5	142.00	4	2.25	67.25	289.75	118.00	48.25	13.75	66.75	0.50	0.50	91.50	4.75	60.00
江戸川	5	155.20	4	8.50	139.75	480.50	70.50	59.50	8.25	44.75	0.25	1.00	93.75	12.00	30.75
多摩川	4	93.25	3	2.33	14.67	177.00	78.00	50.67	39.67	39.67		3.00	31.00	1.33	88.00
秋川	3	84.33	2	1.50	45.00	348.00	41.00	46.50	12.50	20.00		1.00	3.50	0.50	78.00
八王子	3	90.67	2	2.50	11.00	206.00	73.50	36.50	11.50	44.50		2.00	37.00	6.50	44.50
南多摩	4	94.25	3	0.33	11.67	355.00	53.00	15.67	26.67	30.33	0.67	1.00	88.33	2.67	32.33
町田	3	182.33	2	0.50	20.50	829.00	77.50	87.00	7.50	31.50		0.50	113.50	2.50	49.50
多摩立川	5	93.60	4	1.75	19.50	127.50	42.50	13.75	6.50	2.50	0.50		10.00	3.75	17.25
村山大和	3	139.33	2	0.50	8.50	232.50	48.50	29.00	4.50	10.00	0.50		8.50	6.50	29.50
府中小金井	4	60.75	3		3.33	43.67	22.33	4.33	2.00	13.33			6.00	2.00	14.00
狛江調布	4	97.50	3	4.67	15.33	232.67	81.00	22.67	9.00	41.00		0.33	35.00	2.67	24.67
三鷹武蔵野	5	90.40	4	0.25	22.25	226.75	68.25	14.75	9.00	17.75	1.50	0.25	9.00	0.75	65.00
多摩小平	4	182.25	3	4.00	25.67	331.67	65.00	31.00	20.00	41.67	0.67	1.33	93.33	6.00	40.33
多摩東村山	4	95.25	3	2.33	41.00	504.00	69.00	27.33	5.00	31.33	0.33	0.67	38.67	1.67	35.00
島しょ	2	60.50	1	9.00	4.00	142.00	71.00	50.00	5.00	1.00	1.00		41.00		9.00

第5表 - 2 - 2 保健所別定点当たり患者報告数累計表(眼科・基幹・小児科)

2002年1週～2002年52週

	人/定点			人/定点						人/定点			
	眼科 定点数	701 急性 出血性 結膜炎	702 流行性 角結膜炎	基幹 定点数	901 急性 脳炎 (日本 脳炎を 除く)	902 細菌性 髄膜炎	903 無菌性 髄膜炎	904 マイコ プラズ マ肺炎	905 クラミ ジア肺 炎 (オウ ム病は 除く)	906 成人 麻疹	小児科 定点数	1 不明 発疹 症	2 M C L S
千代田				2			1.50		0.50	0.50	4	3.75	0.75
中央区											3	8.33	1.00
みなと	1	1.00	78.00	1							6	3.33	0.17
新宿区	2	1.00	170.00	2	1.00	3.00		36.00		5.50	6	11.50	0.17
文京	1		140.00	1		2.00	3.00	3.00		37.00	3		
台東											3	0.33	0.67
墨田区				1	6.00	4.00	21.00			42.00	3		
江東区	1	2.00	76.00								3	9.33	1.33
品川区											6	6.00	1.00
目黒区											3	10.00	0.33
大田区	1		36.00	1	1.00	3.00				14.00	9	5.78	0.56
世田谷区				2		1.50	7.00	0.50		2.50	8	4.88	1.13
渋谷区	1	6.00	6.00	2		1.00	1.00				4		
中野区				1							6	1.83	0.17
杉並				1							6		
池袋	1		99.00	1			7.00	16.00			4	0.25	
長崎											1		
北区											4	4.50	
荒川区	1		54.00								2	0.50	
板橋区				1		1.00	3.00	3.00	1.00	1.00	6	0.33	
練馬区											5	2.40	2.20
足立											4		
葛飾				1			4.00	2.00			4	22.25	1.25
江戸川											4	6.00	0.25
多摩川				1		1.00	5.00	6.00			3		
秋川											2	7.50	
八王子	1		30.00	1						2.00	2		0.50
南多摩											3	6.00	
町田	1	1.00	19.00								2	22.50	0.50
多摩立川				1				7.00			4	0.50	
村山大和	1		28.00								2	6.50	
府中小金井				1		1.00		1.00		1.00	3	0.33	
狛江調布											3	1.67	
三鷹武蔵野	2		9.50	1				1.00			4	1.50	0.25
多摩小平				1	1.00	1.00	4.00	5.00		2.00	3		
多摩東村山				1							3	11.67	1.33
島しょ				1							1		

第5表 - 3 - 1 年齢階級別累計表 (インフルエンザ・小児科) 2002年1週～2002年52週

人		人											
	501 インフルエンザ	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性 球菌咽頭炎	603 感染性胃腸炎	604 水痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発疹	608 百日咳	609 風疹	610 ヘルパンギーナ	611 麻疹	612 流行性耳下腺炎
6か月未満	66	4	3	313	133	20	5	311	6		48	8	1
12か月未満	189	38	21	1,746	411	235	71	2,126	12	8	431	54	5
1歳	756	89	74	4,112	1,248	801	87	1,075	4	12	1,153	51	151
2歳	871	94	144	3,472	1,190	622	96	71		11	894	25	292
3歳	1,108	92	338	3,302	1,215	507	180	11		4	789	22	448
4歳	1,115	100	510	3,355	1,150	407	215	7		4	613	14	608
5歳	982	69	621	2,773	725	266	239	3	1	1	383	15	661
6歳	781	37	586	2,224	368	126	189	4	6	3	240	17	441
7歳	736	24	411	1,916	193	83	177	8	1	2	116	24	309
8歳	649	12	278	1,338	143	39	102	4	1	2	75	16	206
9歳	519	7	161	1,039	75	21	79	2	1	4	55	12	135
10～14歳	1,876	15	250	2,455	119	33	88	2		10	83	73	236
15～19歳	709	1	50	966	27	6				2	40	24	55
20～29歳	1,409	18	325	5,648	82	47	46	8		8	147	22	130
30～39歳	1,722												
40～49歳	779												
50～59歳	339												
60～69歳	170												
70～79歳	76												
80歳以上	25												
合計	14,877	600	3,772	34,659	7,079	3,213	1,574	3,632	32	71	5,067	377	3,678
前年計	6,114	645	2,936	31,639	6,877	2,133	2,510	3,507	23	114	6,314	628	6,284
当年/前年	2.43	0.93	1.28	1.10	1.03	1.51	0.63	1.04	1.39	0.62	0.80	0.60	0.59
増減数	8,763	-45	836	3,020	202	1,080	-936	125	9	-43	-1,247	-251	-2,606

注：小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

第5表 - 3 - 2 年齢階級別累計表 (眼科 基幹・小児科) 2002年1週～2002年52週

	人		人					人		
	701 急性出血性結膜炎	702 流行性角結膜炎	901 急性脳炎 (日本脳炎を除く)	902 細菌性髄膜炎	903 無菌性髄膜炎	904 マイコプラズマ肺炎	905 クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	906 成人麻疹	1 不明発疹症	2 MCLS
6か月未満		5		3	4				36	4
12か月未満		6		1	3	2			133	5
1歳		10		5	2	20			168	14
2歳		12				18			72	9
3歳		8			2	12	1		49	10
4歳		6			6	13			41	9
5歳	1	11		3	4	12			31	1
6歳		8			2	6			16	
7歳		3			4	10			12	4
8歳		6				14			9	1
9歳		3			1	9			7	1
10～14歳		12		1	7	33	1		22	1
15～19歳		22			7	3		23	2	
20～29歳	2	251	3	3	6	6		69	15	1
30～39歳	2	240	4	1	9	3		19		
40～49歳	1	109	1	1	7	2		4		
50～59歳	2	100		1	1			1		
60～69歳	2	72	1	5	1					
70～79歳	2	41	1							
80歳以上										
合計	12	925	10	24	66	163	2	116	613	60
前年計	16	1,008	5	12	36	45	0	181	585	75
当年/前年	0.75	0.92	2.00	2.00	1.83	3.62		0.64	1.05	0.80
増減数	-4	-83	5	12	30	118	2	-65	28	-15

注：小児科定点把握対象疾病のうち、「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

注：眼科疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

第6表 - 1 - 1 二次医療圏別患者報告数累計表 (インフルエンザ・小児科) 2002年1週～2002年52週

	人		人												
	インフルエンザ 定点数	501 インフルエンザ	小児科 定点数	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性 球菌咽頭炎	603 感染性胃腸炎	604 水痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発疹	608 百日咳	609 風疹	610 ヘルパンギーナ	611 麻疹	612 流行性耳下腺炎
1 区中央部圏	24	1,249	19	154	395	2,793	664	276	104	351	1	3	735	38	232
2 区南部圏	17	1,171	15	88	484	4,111	688	321	327	479	8	1	594	22	272
3 区西南部圏	18	1,255	15	106	361	4,524	698	369	185	439	3	6	448	39	463
4 区西部圏	21	1,236	18	22	233	4,885	674	348	151	301		4	346	29	274
5 区西北部圏	24	2,035	20	70	459	2,634	927	219	202	447	1	15	542	35	355
6 区東北部圏	13	1,658	10	28	403	2,596	773	272	88	351	3	6	593	53	345
7 区東部圏	13	1,249	10	64	761	3,394	555	391	71	378	1	9	490	62	293
8 西多摩圏	7	626	5	10	134	1,227	316	245	144	159		11	100	5	420
9 南多摩圏	10	1,196	7	7	98	3,135	461	294	118	243	2	8	566	26	285
10 北多摩西部圏	8	886	6	8	95	975	267	113	35	30	3		57	28	128
11 北多摩南部圏	13	1,085	10	15	145	1,736	583	140	69	234	6	2	159	17	376
12 北多摩北部圏	8	1,110	6	19	200	2,507	402	175	75	219	3	6	396	23	226
13 島しょ圏	2	121	1	9	4	142	71	50	5	1	1		41		9
合計	178	14,877	142	600	3,772	34,659	7,079	3,213	1,574	3,632	32	71	5,067	377	3,678

第6表 - 1 - 2 二次医療圏別患者報告数累計表 (眼科・基幹・小児科) 2002年1週～2002年52週

	人			人							人		
	眼科 定点数	701 急性出血性 結膜炎	702 流行性角結膜炎	基幹 定点数	901 急性脳炎 (日本脳炎を除く)	902 細菌性髄膜炎	903 無菌性髄膜炎	904 マイコプラズマ肺炎	905 クラミジア肺炎 (オウム病は除く)	906 成人麻疹	小児科 定点数	1 不明発疹症	2 MCLS
1 区中央部圏	2	1	218	4		2	6	3	1	38	19	61	9
2 区南部圏	1		36	1	1	3				14	15	88	11
3 区西南部圏	1	6	6	4		5	16	1		5	15	69	10
4 区西部圏	2	2	340	4	2	6		72		11	18	80	2
5 区西北部圏	1		99	2		1	10	65	1	1	20	33	11
6 区東北部圏	1		54	1			4	2			10	90	5
7 区東部圏	1	2	76	1	6	4	21			42	10	52	5
8 西多摩圏				1		1	5	6			5	15	
9 南多摩圏	2	1	49	1						2	7	63	2
10 北多摩西部圏	1		28	1				7			6	15	
11 北多摩南部圏	2		19	2		1		2		1	10	12	1
12 北多摩北部圏				2	1	1	4	5		2	6	35	4
13 島しょ圏				1							1		
合計	14	12	925	25	10	24	66	163	2	116	142	613	60

第6表 - 2 - 1 二次医療圏別定点当たり患者報告数累計表 (インフルエンザ・小児科)

2002年1週～2002年52週

	人/定点		小児科 定点数	601 咽頭結膜熱	602 A群溶血性 レンサ	603 感染性胃腸炎	604 水痘	605 手足口病	606 伝染性紅斑	607 突発性発疹	608 百日咳	609 風疹	人/定点		
	インフル エンザ 定点数	501 インフル エンザ											610 ヘルパン ギーナ	611 麻疹	612 流行性 耳下腺炎
1 区中央部圏	24	52.04	19	8.11	20.79	147.00	34.95	14.53	5.47	18.47	0.05	0.16	38.68	2.00	12.21
2 区南部圏	17	68.88	15	5.87	32.27	274.07	45.87	21.40	21.80	31.93	0.53	0.07	39.60	1.47	18.13
3 区西南部圏	18	69.72	15	7.07	24.07	301.60	46.53	24.60	12.33	29.27	0.20	0.40	29.87	2.60	30.87
4 区西部圏	21	58.86	18	1.22	12.94	271.39	37.44	19.33	8.39	16.72		0.22	19.22	1.61	15.22
5 区西北部圏	24	84.79	20	3.50	22.95	131.70	46.35	10.95	10.10	22.35	0.05	0.75	27.10	1.75	17.75
6 区東北部圏	13	127.54	10	2.80	40.30	259.60	77.30	27.20	8.80	35.10	0.30	0.60	59.30	5.30	34.50
7 区東部圏	13	96.08	10	6.40	76.10	339.40	55.50	39.10	7.10	37.80	0.10	0.90	49.00	6.20	29.30
8 西多摩圏	7	89.43	5	2.00	26.80	245.40	63.20	49.00	28.80	31.80		2.20	20.00	1.00	84.00
9 南多摩圏	10	119.60	7	1.00	14.00	447.86	65.86	42.00	16.86	34.71	0.29	1.14	80.86	3.71	40.71
10 北多摩西部圏	8	110.75	6	1.33	15.83	162.50	44.50	18.83	5.83	5.00	0.50		9.50	4.67	21.33
11 北多摩南部圏	13	83.46	10	1.50	14.50	173.60	58.30	14.00	6.90	23.40	0.60	0.20	15.90	1.70	37.60
12 北多摩北部圏	8	138.75	6	3.17	33.33	417.83	67.00	29.17	12.50	36.50	0.50	1.00	66.00	3.83	37.67
13 島しょ圏	2	60.50	1	9.00	4.00	142.00	71.00	50.00	5.00	1.00	1.00		41.00		9.00

第6表 - 2 - 2 二次医療圏別定点当たり患者報告数累計表 (眼科・基幹・小児科)

2002年1週～2002年52週

	人/定点			眼科 定点数	701 急性 出血性結 膜炎	702 流行性 角結膜炎	基幹 定点数	901 急性脳炎 (日本脳炎を 除く)	902 細菌性髄 膜炎	903 無菌性髄 膜炎	904 マイコプラ ズマ肺炎	905 クラミジア (オウム病は 除く)	906 成人麻疹	人/定点		
	眼科 定点数	701 急性 出血性結 膜炎	702 流行性 角結膜炎											小児科 定点数	1 不明発 疹症	2 M C L S
1 区中央部圏	2	0.50	109.00	4			4		0.50	1.50	0.75	0.25	9.50	19	3.21	0.47
2 区南部圏	1		36.00	1	1.00	3.00	1	1.00	3.00				14.00	15	5.87	0.73
3 区西南部圏	1	6.00	6.00	4		1.25	4		1.25	4.00	0.25		1.25	15	4.60	0.67
4 区西部圏	2	1.00	170.00	4	0.50	1.50	4	0.50	1.50		18.00		2.75	18	4.44	0.11
5 区西北部圏	1		99.00	2		0.50	2		0.50	5.00	32.50	0.50	0.50	20	1.65	0.55
6 区東北部圏	1		54.00	1			1			4.00	2.00			10	9.00	0.50
7 区東部圏	1	2.00	76.00	1	6.00	4.00	1	6.00	4.00	21.00			42.00	10	5.20	0.50
8 西多摩圏				1		1.00	1		1.00	5.00	6.00			5	3.00	
9 南多摩圏	2	0.50	24.50	1			1						2.00	7	9.00	0.29
10 北多摩西部圏	1		28.00	1			1				7.00			6	2.50	
11 北多摩南部圏	2		9.50	2		0.50	2		0.50	1.00		0.50		10	1.20	0.10
12 北多摩北部圏				2	0.50	0.50	2	0.50	0.50	2.00	2.50		1.00	6	5.83	0.67
13 島しょ圏				1			1							1		

第7表 - 1 月報告疾病患者報告数推移表 2002年1月～2002年12月

月	S T I 定 点 数	人						人			
		801 性 器 ク ラ ミ ジ ア 感 染 症	802 感 染 性 器 ヘ ル ペ ス ウ イ ル ス	803 尖 形 コ ン ジ ロ ム	804 淋 菌 感 染 症	3 ト リ コ モ ナ ス 症	4 梅 毒 様 疾 患	基 幹 定 点 数	951 ブ ド ウ シ リ ン 耐 性 黄 色 球 菌 感 染 症	952 ペ ニ シ リ ン 耐 性 肺 炎 球 菌 感 染 症	953 薬 剤 耐 性 緑 膿 菌 感 染 症
1月	41	237	78	38	108	51	2	25	116	23	3
2月	41	204	77	39	85	43	4	25	134	46	4
3月	41	186	90	48	89	30	2	25	126	42	7
4月	41	216	77	42	103	23	4	25	122	50	13
5月	41	213	87	37	96	22	4	25	151	44	12
6月	41	202	72	37	117	44	5	25	147	54	8
7月	41	242	104	37	126	35	2	25	160	52	6
8月	41	206	79	56	121	49	3	25	204	52	10
9月	41	241	71	52	111	38	2	25	135	27	16
10月	41	219	83	44	103	43	6	25	184	52	11
11月	41	198	73	39	96	37	5	25	148	45	7
12月	41	172	59	33	94	32	2	25	132	70	10
合 計		2,536	950	502	1,249	447	41		1,759	557	107

第7表 - 2 月報告疾病定点当たり推移表 2002年1月～2002年12月

月	S T I 定 点 数	人 / 定 点						人 / 定 点			
		801 性 器 ク ラ ミ ジ ア 感 染 症	802 感 染 性 器 ヘ ル ペ ス ウ イ ル ス	803 尖 形 コ ン ジ ロ ム	804 淋 菌 感 染 症	3 ト リ コ モ ナ ス 症	4 梅 毒 様 疾 患	基 幹 定 点 数	951 ブ ド ウ シ リ ン 耐 性 黄 色 球 菌 感 染 症	952 ペ ニ シ リ ン 耐 性 肺 炎 球 菌 感 染 症	953 薬 剤 耐 性 緑 膿 菌 感 染 症
1月	41	5.78	1.90	0.93	2.63	1.24	0.05	25	4.64	0.92	0.12
2月	41	4.98	1.88	0.95	2.07	1.05	0.10	25	5.36	1.84	0.16
3月	41	4.54	2.20	1.17	2.17	0.73	0.05	25	5.04	1.68	0.28
4月	41	5.27	1.88	1.02	2.51	0.56	0.10	25	4.88	2.00	0.52
5月	41	5.20	2.12	0.90	2.34	0.54	0.10	25	6.04	1.76	0.48
6月	41	4.93	1.76	0.90	2.85	1.07	0.12	25	5.88	2.16	0.32
7月	41	5.90	2.54	0.90	3.07	0.85	0.05	25	6.40	2.08	0.24
8月	41	5.02	1.93	1.37	2.95	1.20	0.07	25	8.16	2.08	0.40
9月	41	5.88	1.73	1.27	2.71	0.93	0.05	25	5.40	1.08	0.64
10月	41	5.34	2.02	1.07	2.51	1.05	0.15	25	7.36	2.08	0.44
11月	41	4.83	1.78	0.95	2.34	0.90	0.12	25	5.92	1.80	0.28
12月	41	4.20	1.44	0.80	2.29	0.78	0.05	25	5.28	2.80	0.40
平 均		5.15	1.93	1.02	2.54	0.91	0.08		5.86	1.86	0.36

第7表 - 3 月報告疾病患者報告数推移表 2002年1月～2002年12月

(男性)

月	S T I 定 点 数	人						人			
		801 性 器 ク ラ ミ ジ ア 感 染 症	802 性 器 ヘ ル ペ ス ウ イ ル ス 感 染 症	803 尖 形 コ ン ジ ロ ム	804 淋 菌 感 染 症	3 ト リ コ モ ナ ス 症	4 梅 毒 様 疾 患	基 幹 定 点 数	951 ブ ド ウ シ リ ン 耐 性 黄 色 球 菌 感 染 症	952 ペ ニ シ リ ン 耐 性 肺 炎 球 菌 感 染 症	953 薬 剤 耐 性 緑 膿 菌 感 染 症
1月	41	121	29	23	92	2	1	25	78	15	3
2月	41	94	30	21	64	1	4	25	80	30	2
3月	41	97	32	31	75	1	2	25	89	28	5
4月	41	109	29	28	78	1	4	25	83	29	11
5月	41	117	29	24	74		2	25	98	28	10
6月	41	101	39	20	82	2	4	25	100	34	6
7月	41	107	47	23	89	2	2	25	107	32	4
8月	41	114	34	35	90	1	2	25	131	31	7
9月	41	119	36	30	86	3	2	25	91	20	12
10月	41	110	38	28	71	2	5	25	113	30	9
11月	41	90	32	26	75		3	25	86	17	5
12月	41	72	22	19	74	1	2	25	84	39	7
合 計		1,251	397	308	950	16	33		1,140	333	81

第7表 - 4 月報告疾病患者報告数推移表 2002年1月～2002年12月

(女性)

月	S T I 定 点 数	人						人			
		801 性 器 ク ラ ミ ジ ア 感 染 症	802 性 器 ヘ ル ペ ス ウ イ ル ス 感 染 症	803 尖 形 コ ン ジ ロ ム	804 淋 菌 感 染 症	3 ト リ コ モ ナ ス 症	4 梅 毒 様 疾 患	基 幹 定 点 数	951 ブ ド ウ シ リ ン 耐 性 黄 色 球 菌 感 染 症	952 ペ ニ シ リ ン 耐 性 肺 炎 球 菌 感 染 症	953 薬 剤 耐 性 緑 膿 菌 感 染 症
1月	41	116	49	15	16	49	1	25	38	8	0
2月	41	110	47	18	21	42		25	54	16	2
3月	41	89	58	17	14	29		25	37	14	2
4月	41	107	48	14	25	22		25	39	21	2
5月	41	96	58	13	22	22	2	25	53	16	2
6月	41	101	33	17	35	42	1	25	47	20	2
7月	41	135	57	14	37	33		25	53	20	2
8月	41	92	45	21	31	48	1	25	73	21	3
9月	41	122	35	22	25	35		25	44	7	4
10月	41	109	45	16	32	41	1	25	71	22	2
11月	41	108	41	13	21	37	2	25	62	28	2
12月	41	100	37	14	20	31		25	48	31	3
合 計		1,285	553	194	299	431	8		619	224	26

第8表 基幹定点報告疾病年齢階級別累計表 (2002年1月～2002年12月)

人

年齢階級	951 メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		952 ペニシリン耐性肺炎 球菌感染症		953 薬剤耐性緑膿菌感 染症		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳	69	48	46	31	4	2	119	81
1～4歳	56	25	124	106	6		186	131
5～9歳	16	9	23	9			39	18
10～14歳	6	8	3	2		2	9	12
15～19歳	9	7	2	1	3		14	8
20～24歳	21	10	1		1	1	23	11
25～29歳	18	24	7	4	2	3	27	31
30～34歳	32	10	6	7	1		39	17
35～39歳	27	13	5	10	1		33	23
40～44歳	23	8	3	3		1	26	12
45～49歳	35	21	2		3		40	21
50～54歳	42	22	8	2	4	1	54	25
55～59歳	71	26	9	3	11	3	91	32
60～64歳	99	60	13	12	10	2	122	74
65～69歳	123	54	19	12	14	1	156	67
70歳以上	493	274	62	22	21	10	576	306
合計	1,140	619	333	224	81	26	1,554	869
前年計	892	473	203	152	52	17	1,147	642
当年/前年	1.28	1.31	1.64	1.47	1.56	1.53	1.35	1.35
増減数	248	146	130	72	29	9	407	227

第9表 - 1 性感染症保健所別、二次医療圏別患者報告数 2002年1月～2002年12月

	定 点 数	801 性器クラミジア感 染症		802 性器ヘルペスウイ ルス感染症		803 尖形コンジロー ム		804 淋菌感染症		3 トロモナス症		4 梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
		中央区	2	49	6	16	6	7		26		2		1	
みなと	2	64	139	37	37	6	33	41	24	4	14	2		154	247
新宿区	5	195	191	27	116	38	52	171	75	3	15	2	4	436	453
文京	1			5										5	
台東	5	3	374	3	253	1	34	11	68		202		1	18	932
墨田区	1	45	4	40	5	20		35						140	9
江東区	2	211	87	100	11	48	11	260	13		10	9		628	132
品川区	1	16						3						19	
大田区	3	1	1	9	5	2	1					2		14	7
渋谷区	3	91	8	13	5	11		19	2					134	15
中野区	1	79		8		1		10		3	1	3		104	1
池袋	3	254	153	73	29	98	35	101	27	1	17	5	2	532	263
北区	1	5	1	2	1	5		17						29	2
荒川区	1		30		11		4		3		5				53
板橋区	2	67	1	17	2	10	4	18				2		114	7
足立	1	56	6	11		16		43	2					126	8
八王子	3		137	1	25	1	9		6	1	142			3	319
町田	1		18		9				3		9				39
多摩立川	2	54	83	7	12	22	7	135	58	2	15	2	1	222	176
三鷹武蔵野	1	61	46	28	26	22	4	60	18		1	5		176	95
合 計	41	1,251	1,285	397	553	308	194	950	299	16	431	33	8	2,955	2,770
前年計		1,468	1,321	435	584	329	220	1,088	276	7	360	41	22	3,368	2,783
当年/前年		0.85	0.97	0.91	0.95	0.94	0.88	0.87	1.08	2.29	1.20	0.80	0.36	0.88	1.00
増減数		-217	-36	-38	-31	-21	-26	-138	23	9	71	-8	-14	-413	-13
定点当たり報告数		30.51	31.34	9.68	13.49	7.51	4.73	23.17	7.29	0.39	10.51	0.80	0.20	72.07	67.56

区中央部圏	10	116	519	61	296	14	67	78	92	6	216	3	1	278	1,191
区南部圏	4	17	1	9	5	2	1	3				2		33	7
区西南部圏	3	91	8	13	5	11		19	2					134	15
区西部圏	6	274	191	35	116	39	52	181	75	6	16	5	4	540	454
区西北部圏	6	326	155	92	32	113	39	136	27	1	17	7	2	675	272
区東北部圏	2	56	36	11	11	16	4	43	5		5			126	61
区東部圏	3	256	91	140	16	68	11	295	13		10	9		768	141
南多摩圏	4		155	1	34	1	9		9	1	151			3	358
北多摩西部圏	2	54	83	7	12	22	7	135	58	2	15	2	1	222	176
北多摩南部圏	1	61	46	28	26	22	4	60	18		1	5		176	95

第9表 - 2 性感染症保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数 2002年1月～2002年12月

人/定点

	定 点 数	801 性器クラミジア感 染症		802 性器ヘルペスウイ ルス感染症		803 尖形コンジロー ム		804 淋菌感染症		3 HIVモナス症		4 梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
中央区	2	24.50	3.00	8.00	3.00	3.50		13.00		1.00		0.50		50.50	6.00
みなと	2	32.00	69.50	18.50	18.50	3.00	16.50	20.50	12.00	2.00	7.00	1.00		77.00	123.50
新宿区	5	39.00	38.20	5.40	23.20	7.60	10.40	34.20	15.00	0.60	3.00	0.40	0.80	87.20	90.60
文京	1			5.00										5.00	
台東	5	0.60	74.80	0.60	50.60	0.20	6.80	2.20	13.60		40.40		0.20	3.60	186.40
墨田区	1	45.00	4.00	40.00	5.00	20.00		35.00						140.00	9.00
江東区	2	105.50	43.50	50.00	5.50	24.00	5.50	130.00	6.50		5.00	4.50		314.00	66.00
品川区	1	16.00						3.00						19.00	
大田区	3	0.33	0.33	3.00	1.67	0.67	0.33					0.67		4.67	2.33
渋谷区	3	30.33	2.67	4.33	1.67	3.67		6.33	0.67					44.67	5.00
中野区	1	79.00		8.00		1.00		10.00		3.00	1.00	3.00		104.00	1.00
池袋	3	84.67	51.00	24.33	9.67	32.67	11.67	33.67	9.00	0.33	5.67	1.67	0.67	177.33	87.67
北区	1	5.00	1.00	2.00	1.00	5.00		17.00						29.00	2.00
荒川区	1		30.00		11.00		4.00		3.00		5.00				53.00
板橋区	2	33.50	0.50	8.50	1.00	5.00	2.00	9.00				1.00		57.00	3.50
足立	1	56.00	6.00	11.00		16.00		43.00	2.00					126.00	8.00
八王子	3		45.67	0.33	8.33	0.33	3.00		2.00	0.33	47.33			1.00	106.33
町田	1		18.00		9.00				3.00		9.00				39.00
多摩立川	2	27.00	41.50	3.50	6.00	11.00	3.50	67.50	29.00	1.00	7.50	1.00	0.50	111.00	88.00
三鷹武蔵野	1	61.00	46.00	28.00	26.00	22.00	4.00	60.00	18.00		1.00	5.00		176.00	95.00
合 計	41	1,251	1,285	397	553	308	194	950	299	16	431	33	8	2,955	2,770
前年計		1,468	1,321	435	584	329	220	1,088	276	7	360	41	22	3,368	2,783
当年/前年		0.85	0.97	0.91	0.95	0.94	0.88	0.87	1.08	2.29	1.20	0.80	0.36	0.88	1.00
増減数		-217	-36	-38	-31	-21	-26	-138	23	9	71	-8	-14	-413	-13
定点当たり報告数		30.51	31.34	9.68	13.49	7.51	4.73	23.17	7.29	0.39	10.51	0.80	0.20	72.07	67.56

区中央部圏	10	11.60	51.90	6.10	29.60	1.40	6.70	7.80	9.20	0.60	21.60	0.30	0.10	27.80	119.10
区南部圏	4	4.25	0.25	2.25	1.25	0.50	0.25	0.75				0.50		8.25	1.75
区西南部圏	3	30.33	2.67	4.33	1.67	3.67		6.33	0.67					44.67	5.00
区西部圏	6	45.67	31.83	5.83	19.33	6.50	8.67	30.17	12.50	1.00	2.67	0.83	0.67	90.00	75.67
区西北部圏	6	54.33	25.83	15.33	5.33	18.83	6.50	22.67	4.50	0.17	2.83	1.17	0.33	112.50	45.33
区東北部圏	2	28.00	18.00	5.50	5.50	8.00	2.00	21.50	2.50		2.50			63.00	30.50
区東部圏	3	85.33	30.33	46.67	5.33	22.67	3.67	98.33	4.33		3.33	3.00		256.00	47.00
南多摩圏	4		38.75	0.25	8.50	0.25	2.25		2.25	0.25	37.75			0.75	89.50
北多摩西部圏	2	27.00	41.50	3.50	6.00	11.00	3.50	67.50	29.00	1.00	7.50	1.00	0.50	111.00	88.00
北多摩南部圏	1	61.00	46.00	28.00	26.00	22.00	4.00	60.00	18.00		1.00	5.00		176.00	95.00

第9表 - 3 性感染症年齢階級別累計表 2002年1月～2002年12月

人

年齢階級	801 性器クラミジア 感染症		802 性器ヘルペスウ イルス感染症		803 尖形コンジロー ム		804 淋菌感染症		3 トロモナス症		4 梅毒様疾患		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳														
1～4歳														
5～9歳														
10～14歳	2	2		2	2								4	4
15～19歳	63	173	6	22	10	21	49	47		26		1	128	290
20～24歳	233	434	49	138	62	75	186	80	3	92	3		536	819
25～29歳	264	354	56	128	55	62	226	76	3	77	6	3	610	700
30～34歳	229	184	72	110	59	18	184	59	2	65	8	1	554	437
35～39歳	174	80	55	58	48	5	138	21	2	42	4	2	421	208
40～44歳	133	37	36	31	25	5	77	9		32	5	1	276	115
45～49歳	61	14	38	22	23	3	38	4	1	30	2		163	73
50～54歳	55	4	34	10	13	2	26	1	1	32	2		131	49
55～59歳	22	3	23	6	6	2	14	2		22	1		66	35
60～64歳	11		15	11	1	1	6			5	2		35	17
65～69歳	3		5	4	1		4		4	3			17	7
70歳以上	1		8	11	3		2			5			14	16
合 計	1,251	1,285	397	553	308	194	950	299	16	431	33	8	2,955	2,770
前年計	1,468	1,321	435	584	329	220	1,088	276	7	360	41	22	3,368	2,783
当年 / 前年	0.85	0.97	0.91	0.95	0.94	0.88	0.87	1.08	2.29	1.20	0.80	0.36	0.88	1.00
増減数	-217	-36	-38	-31	-21	-26	-138	23	9	71	-8	-14	-413	-13

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体検索成績

平成 11 年 4 月から施行された感染症法により位置づけを新たにされた本事業においては、各地方感染症情報センターは患者情報と病原体情報を収集・分析し、速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとされている。平成 14 年、東京都立衛生研究所（現東京都健康安全研究センター）は、病原体定点などの医療機関から搬入された検体及び感染症発生時の調査の検体を用いて病原体の検索を行うとともに、都内協力検査機関からの病原体情報をとりまとめ、東京都感染症週報の病原体情報及び東京都微生物検査情報（月報）として関係機関に提供・公開した。実施した主な検査は定点把握の 4 類感染症のウイルス検査、感染症調査のウイルス検査、全数把握の 4 類感染症の細菌検査、性感染症の抗体検査と遺伝子検査、多摩地区の定点の感染性胃腸炎及びインフルエンザの検査である。

1 ウイルス

(1) 臨床診断名別の検体搬入状況

平成 14 年 1 月から 12 月末までの間に、小児科および基幹検査定点より 2,484 件の検体が搬入された。その内訳は、糞便 399 件、咽頭拭い液 1,427 件、髄液 445 件、血液 149 件、結膜拭い液 16 件、尿 22 件および、胸水、喀痰、剖検材料等のその他 26 件である。臨床診断名別の検体搬入状況は表 1 に示した。

表 1. 臨床診断名別の検体搬入状況

診断名	検体数	検体種						
		咽頭拭い液	髄液	糞便	血液	結膜拭い液	尿	その他
上気道炎	248	230	5	10			2	1
下気道炎	464	420	4	28	7	2		3
インフル	112	89	17	6				
脳炎・脳症	81	15	51	12			1	2
無菌性髄膜炎	236	54	160	21	1			
感染性胃腸炎	239	52	8	178		1		
不明発疹症	121	111	1	4	2			3
手足口病	15	15						
ヘルパンギーナ	16	15		1				
不明熱	148	81	41	23	3			
痲疹	165	51	86	24	1		2	1
咽頭結膜熱	7	5				2		
流行性角結膜炎	9					9		
麻疹	20	13	3	1	3			
突発性発疹	28	27	1					
流行性耳下腺炎	53	45	7	1				
伝染性紅斑	16	11			5			
川崎病	38	20	1	16			1	
水痘	9	9						
口内炎	8	6						2
サイトメガロ感染症	18	5	2	3	1		5	2
デング熱	39				39			
Q熱	58				58			
肝炎	22	7		7	4		3	1
HIV	19				16			3
リンパ節腫脹	18	16	1	1				
EBウイルス感染症	7	6		1				
その他	270	124	57	62	9	2	8	8
総計	2484	1427	445	399	149	16	22	26

搬入された検体の臨床診断名は、上気道炎 248 件、下気道炎 464 件、インフルエンザ 112 件、脳炎・脳症 81 件、無菌性髄膜炎 236 件、感染性胃腸炎 239 件、不明発疹症 121 件、手足口病 15 件、ヘルパンギーナ 16 件、不明熱 148 件、痙攣 165 件、咽頭結膜熱 7 件、流行性角結膜炎 9 件、麻疹 20 件、突発性発疹 28 件、流行性耳下腺炎 53 件、伝染性紅斑 16 件、川崎病 38 件、水痘 9 件、口内炎 8 件、サイトメガロウイルス感染症 18 件、デング熱 39 件、Q熱 58 件、肝炎 22 件、HIV19 件、リンパ節腫脹 18 件、EB ウイルス感染症 7 件及びその他 270 件であった。

その他には、敗血症、てんかん、麻痺、肝機能障害、心筋炎、血管性紫斑病、多発性硬化症、敗血症、無熱性痙攣、中耳炎、無症状、意識障害、また臨床診断の記載の無いもの等が含まれる。

(2) 臨床診断名別にみたウイルス分離状況

搬入された検体について、組織培養（HeLa・Hep-2・RD・MDCK・Vero・B95a 細胞等）及び乳のみマウスによるウイルス分離試験を行った。その結果、339 株のウイルスが分離同定された。分離されたウイルスの内訳は、図 1 に示したようにエコーウイルス 83 株（24.6 %）、アデノウイルス 71 株（21.0 %）、インフルエンザウイルス 69 株（20.4 %）、コクサッキーウイルス 32 株（9.5 %）、ムンプスウイルス 14 株（4.1 %）、RS ウイルス 12 株（3.6 %）、ポリオウイルス 7 株（2.1 %）、ヘルペスウイルス 1 型 7 株（2.1 %）、麻疹ウイルス 4 株（1.2 %）である。また、酵素抗体法によってロタウイルス抗原 39 株（11.5 %）が確認された。

臨床診断名別にみたウイルス分離状況を表 2 に示した。

図 1. ウイルス分離数(総分離数 399株)

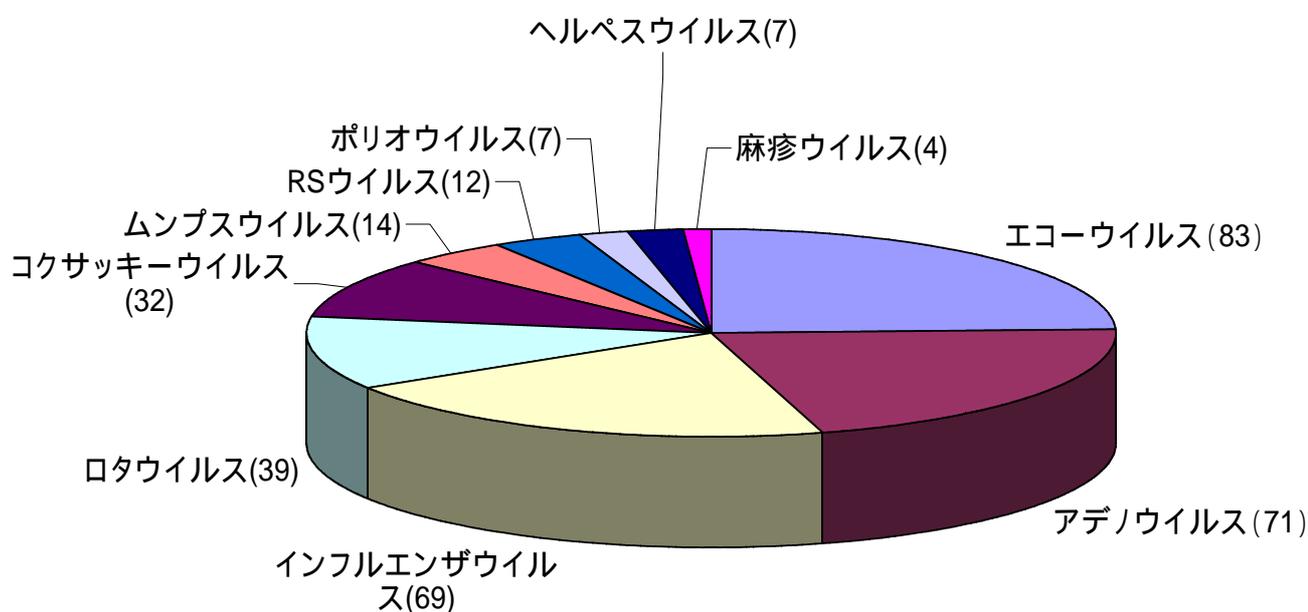


表2. 臨床診断名別にみたウイルス分離状況

	臨床診断名																			総計										
	上気道炎	下気道炎	インフル	脳炎・脳症	無菌性髄膜炎	感染性胃腸炎	不明発疹症	手足口病	ヘルパンギーナ	不明熱	痙攣	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	麻疹	突発性発疹	流行性耳下腺炎	伝染性紅斑	川崎病	水痘		口内炎	サイトメガロ感染症	デング熱	Q熱	肝炎	HIV	リンパ節腫脹	EBウイルス感染症	その他	
ウイルス	検体数	248	464	112	81	236	239	121	15	16	148	165	7	9	20	28	53	16	38	9	8	18	39	58	22	19	18	7	270	2484
インフルエンザ	INFAH1		2	8	1						2																		1	14
	INFAH3	4	5	27	2							1	1																	40
	INFB	1	4	9																										1
アデノ	AD1		4				2	1			2	2		1																12
	AD2	5	8	1	1			1			2	1														1		2	22	
	AD3	7	8			1	3				1		1					2										8	34	
	AD4													1																1
	AD5							1							1															2
	AD40/41						1																							1
ポリオ	P1						1	1																					2	4
	P2	1					1																							2
	P3						1																							1
コクサッキー	CA4							1		2																				3
	CA6		2					5	5	8																				20
	CB2	1	2																	1										4
	CB4					3																								3
	CB5																													1
	CB6		1																											1
エコー	E3		1																											1
	E6		1																											1
	E9					1																								1
	E11		1					1																						2
	E13	3	8			42	2	8	1	1	1				1	1		1										3	72	
	E22	2	1																					1					2	6
単純ヘルペス	HSV1	2	1								2																1	1	7	
RS	RS	12																												12
ムンプス		1			3																									14
麻疹														4																4
ロタ					1	35				1							1												1	39
総陽性数		39	49	45	4	51	46	19	6	12	12	4	2	2	5	2	11	4		1				1		2		22	339	

呼吸器系疾患であるインフルエンザ患者からは、インフルエンザウイルス（INFLU）44 株（AH1 型：8 株、AH3 型：27 株、B 型：9 株）、アデノウイルス（ADV）2 型 1 株が分離された。

上気道炎患者からは INFLU 11 株（AH1 型：2 株、AH3 型：5 株、B 型：4 株）、ADV 20 株（1 型：4 株、2 型：8 株、3 型：8 株）、コクサッキー A 群ウイルス（CAV）6 型 2 株、コクサッキー B 群ウイルス（CBV）3 株（2 型：2 株、6 型：1 株）、エコーウイルス（EV）12 株（11 型：1 株、13 型：8 株、22 型：1 株、3 型：1 株、6 型：1 株）、単純ヘルペスウイルス（HSV）1 型 1 株が分離された。

下気道炎患者からは、INFLU 5 株（AH3 型：4 株、B 型：1 株）、ADV 12 株（2 型：5 株、3 型：7 株）、ポリオウイルス（PV）2 型 1 株、CBV2 型 1 株、EV 5 株（13 型：3 株、22 型：2 株）、HSV1 型 2 株、RS ウイルス（RSV）12 株、ムンプスウイルス（MuV）1 株が分離された。

発疹性疾患である手足口病患者からは、CAV6 型 5 株、EV13 型 1 株が分離された。

ヘルパンギーナ患者からは、ADV3 型 1 株、CAV 10 株（4 型：2 株、6 型：8 株）、EV13 型 1 株が分離された。

突発性発疹患者からは、ADV5 型 1 件、EV13 型 1 件が分離された。

不明発疹患者から、ADV 3 株（1 型：1 株、2 型：1 株、5 型：1 株）、PV 2 株、CAV 6 株（4

型：1株、6型：5株）、EV 9株（11型：1株、13型：8株）が分離された。

無菌性髄膜炎患者からは、ADV3型 1株、CBV4型 1株、EV 43株（13型：42株、9型：1株）、MuV 3株、ロタウイルス1株が分離された。

脳炎・脳症患者からは、INFV 3株（AH1型：1株、AH3型：2株）、ADV2型 1株が分離された。

感染性胃腸炎患者からは、ADV 3株（1型：2株、3型：3株、40/41型：1株）、PV 3株（1型：1株、2型：1株、3型：1株）、EV13型 2株が分離され、酵素抗体法によってA群ロタウイルス35株が確認された

けいれんを呈した患者からは、INFVAH3型が1株、ADV 3株（1型：2株、2型：1株）が分離された。

麻疹患者からは、麻疹ウイルス（MeV）4株、ADV3型 1株が分離された。

臨床診断名に記載がないその他の患者よりEV13型2株、ADV3型1株が分離された。また、ADV3型は、中耳炎の患者から4株、敗血症の患者から2株分離されている。また、腸重積の患者からはロタウイルス1株、てんかんの患者からはPV1型が2株分離された。

（3）臨床診断名別にみた遺伝子検出状況

臨床診断名別にみた遺伝子検索状況を図2、表3に示した。

図2．ウイルス遺伝子検出数(総検出数 918件)

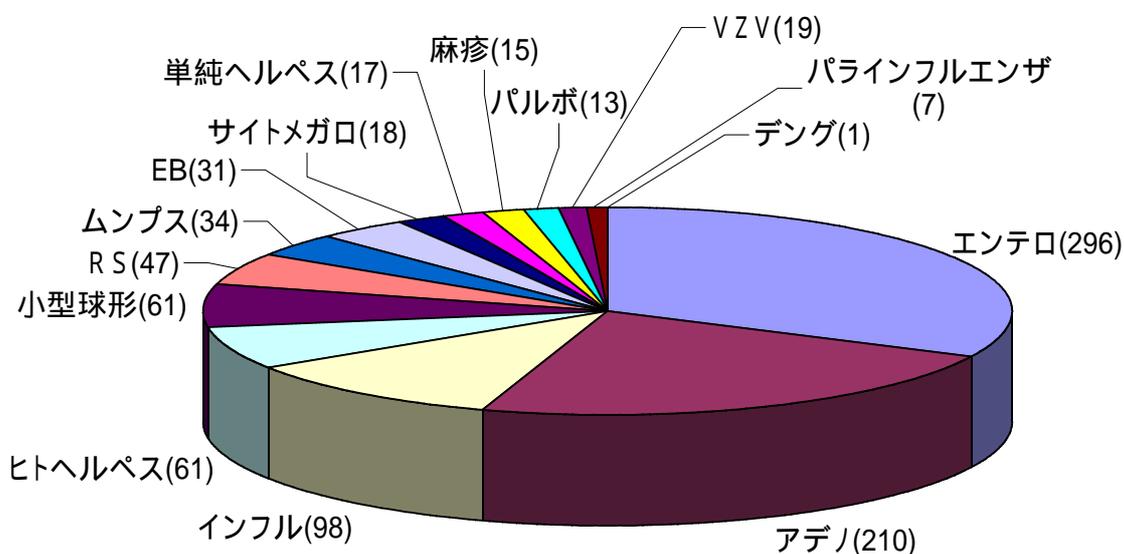


表3. 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

	総検体数	陽性数	臨床診断名																										
			下気道炎	上気道炎	インフル	脳炎・脳症	無菌性髄膜炎	感染性胃腸炎	不明発疹症	手足口病	ヘルパンギーナ	不明熱	痙攣	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	麻疹	突発性発疹	流行性耳下腺炎	伝染性紅斑	川崎病	水痘	口内炎	サイトメガロ感染症	デング熱	Q熱	肝炎	HIV	リンパ節腫脹	EBウイルス感染症
エンテロ	1102	296	38	36		3	97	10	32	14	13	14	11			1	4				1				2		1		19
アデノ	1492	210	55	45	8	2		33	11		1	15	8	2	7	1	1			5								2	14
インフル	553	98	14	16	51	4		1				4	3	2															3
ヒトヘルペス	6	127	53	1	4							22				1	5			1									2
	7	127	8									2				1	1												1
EB	150	31	4	5				1	4										1						2		6	1	7
サイトメガロ	59	18	2	1		1						1										7			2				4
単純ヘルペス	100	17	2	1		2				2		2									3						1		4
パルボ B19	61	13								3									9										1
VZV	24	9					1		1											6									1
RS	474	47	46	1																									
小型球形	214	61	2				1	53				1	1																3
ムンプス	135	34		1			10					2																	
麻疹	79	15							2						1			10											2
デング	1	1	1																					1					
パラインフルエンザ	161	7	5	1								1																	
総計	4859	918	169	111	59	12	109	98	77	16	14	42	30	4	7	11	22	25	10	6	6	4	7	1	6	10	1	61	

遺伝子検索の結果、4,859 件中陽性例は 918 件であった。検出遺伝子ごとの内訳をみると、エンテロウイルス陽性が 296 件 (32.2 %)、ADV 210 件 (22.9 %)、INFLU 98 件 (10.7 %)、ヒトヘルペスウイルス (HHV) 61 件 (6.6 %)、小型球形ウイルス (NLV) 61 件 (6.6 %)、RSV 47 件 (5.1 %)、MuV 34 件 (3.7 %)、EB ウイルス (EBV) 31 件 (3.4 %)、サイトメガロウイルス (CMV) 18 件 (2.0 %)、HSV 17 件 (1.9 %)、MeV 15 件 (1.6 %)、パルボ B 19 ウイルス (PB19) 13 件 (1.4 %)、水痘・帯状疱疹ウイルス (VZV) 9 件 (1.0 %)、パラインフルエンザウイルス (PINFV) 7 件 (0.8 %)、デングウイルス (DenV) 1 件 (0.1 %) であった。

各ウイルスの検査数に対する陽性率は、エンテロウイルス 26.9%、ADV 14.1 %、INFLU 17.7 %、HHV6 型 41.7 %、HHV7 型 6.3 %、EBV 20.7 %、CMV 30.5 %、RSV 9.9 %、HSV 17.0 %、VZV 37.5 %、PB19 21.3 %、MeV 19.0 %、MuV 25.2 %、NLV 28.5 %、DenV 5.9 %、PINFV 4.3 % であった。

エンテロウイルス遺伝子陽性例の 33 %が無菌性髄膜炎から検出されたが、上気道炎、下気道炎等の呼吸器疾患患者からの検出も多く、検出率は合計 25 %であった。また、約 20 %が発疹性疾患患者 (不明発疹、ヘルパンギーナ、手足口病) から検出された。

ADV 遺伝子陽性例のうち 26 %は下気道炎、21 %は上気道炎、16 %が感染性胃腸炎から検出された。

INFLU 遺伝子陽性例のうち 52 %はインフルエンザ患者検体からの検出であったが、他にも上気道炎患者検体から 16 %、下気道炎患者検体から 14 %の検出があった。

(4) 臨床診断別にみた抗体検査状況

血清学的検査結果を表4に示した。搬入された血液検体149件について酵素抗体法、中和試験法等を行った。

デング熱については、搬入された検体43件のうち21件(48.8%)が抗デングウイルス-IgM抗体陽性で、患者19名のデングウイルス感染が確認された。いずれも海外渡航後の発症で輸入感染症例であった。

伝染性紅斑患者7名のうち2名が抗PB19-IgM抗体陽性・IgG抗体陽性であり、また4名が抗PB19-IgG抗体陽性で6名のウイルス感染が確認された。

Q熱疑い患者65例は、抗コクシエラ・バーネッティ-IgM抗体及びIgG抗体が全例とも陰性であった。

ウイルス性肝炎患者5名は、C型肝炎ウイルス及びE型肝炎ウイルスに対するIgM抗体とIgG抗体はともに陰性であった。

表4. 抗体検査結果

臨床診断名	患者数	陽性者数	血清検査	
			検体数	陽性数
デング熱	34	19	43	21
伝染性紅斑	7	6	7	6
Q熱	65	0	68	0
HIV感染症	16	7	16	7
成人型T細胞白血病	1	1	1	1
麻疹	2	0	4	0
ウイルス性肝炎	5	0	5	0
急性灰白髄炎	1	0	1	0
その他	4	0	4	0
計	135	33	149	35

(5) 性感染症定点

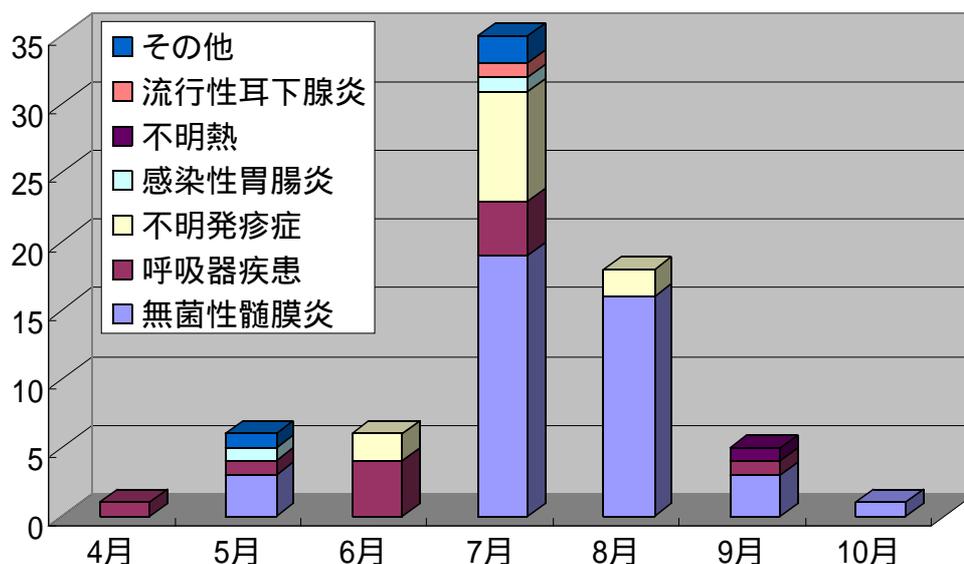
性感染症定点病院から送付された子宮頸管(または子宮)拭い液139件よりDNAを抽出し、パピローマウイルス(HPV)の検索を行った結果、49件でHPVの遺伝子を検出した(30.9%)。検出された49件のうち、21件(15.1%)は子宮頸癌原因のhigh-risk groupに属する16,18,31型等、22件は子宮癌のリスク分類に属さない型であった。

(6) エコーウイルス13型の流行状況

エコーウイルス13型の分離状況を図3に示した。平成14年4月30日に搬入された検体から初めてエコーウイルス13型(EV13)が分離されて以降、7月をピークとして、10月中旬までに合計72株の同ウイルスが分離された。ちなみに日本ではEV13の分離は1980年に岐阜県で無症状者の便から分離されて以来平成12年まで分離報告例がなく、当所での中和抗体調査においても30歳代以下の年齢においてはEV13の抗体保有例はみられなかった。

EV13が分離された検体種は、咽頭拭い液32件、髄液29件、糞便10件、鼻汁1件であり、髄液からも多く分離された。また、臨床診断名別内訳をみると、無菌性髄膜炎42件、上気道炎8件、下気道炎3件、不明発疹症8件、感染性胃腸炎2件、ヘルパンギーナ、手足口病、川崎病、不明熱、流行性耳下腺炎の各1件であった。

図3. エコーウイルス13型の分離状況



無菌性髄膜炎は年毎に流行規模の差はあるものの、主にコクサッキーウイルスとエコーウイルスの間で起因ウイルスを変えながら流行を繰り返していることが多く、今年はEV13を起因ウイルスとする無菌性髄膜炎が全国的に流行していた。しかし、今回のエコーウイルスの流行においては表5に示したように、無菌性髄膜炎以外の症状を示す検体が半数近くあった。これは同ウイルスの病態の多様性を示すものとも考えられる。しかし、多くのウイルス疾病において感受性の高い低年齢層においてEV13の病態の多様性が高いこと、成人においては無菌性髄膜炎以外の臨床症状が観察されていないことから、同ウイルスが特に乳幼児においては他のウイルスとの混合感染や不顕性感染を起こしていた可能性も否定できない。

今年の無菌性髄膜炎の検体について遺伝子検索を行った結果をみると、EV13が分離されなかった検体からも多くのエンテロウイルスの遺伝子が検出されており、その流行形態がEV13と同じであることから、同ウイルスは低い抗体保有率を背景として社会を広く侵淫していたものと推察された。

表5. 年齢別臨床診断名

診断名	乳幼児 (0-5)	学童 (6-16)	成人 (20-)	総計
無菌性髄膜炎	12	24	6	42
上気道炎	7	1		8
下気道炎	1	2		3
不明発疹症	8			8
ヘルパンギーナ	1			1
手足口病	1			1
川崎病	1			1
突発性発疹	1			1
感染性胃腸炎	1	1		2
不明熱	1			1
流行性耳下腺炎		1		1
その他	1	1	1	3
総計	35	30	7	72

(7) 呼吸器系疾患患者からのウイルス検出状況

上・下気道炎は、例年インフルエンザの流行期を前後して発生しているが、今年度は図4に示したように毎月同疾病の患者検体が搬入された。咽喉炎、扁桃腺炎等の上気道炎は、全検体の10%を占める248件、及び気管支炎、肺炎、細気管支炎等の下気道炎は、全検体の19%を占める464件が搬入された。各月毎のウイルス遺伝子検出状況を図5、図6に示した。

図4. 上・下気道炎患者検体搬入数

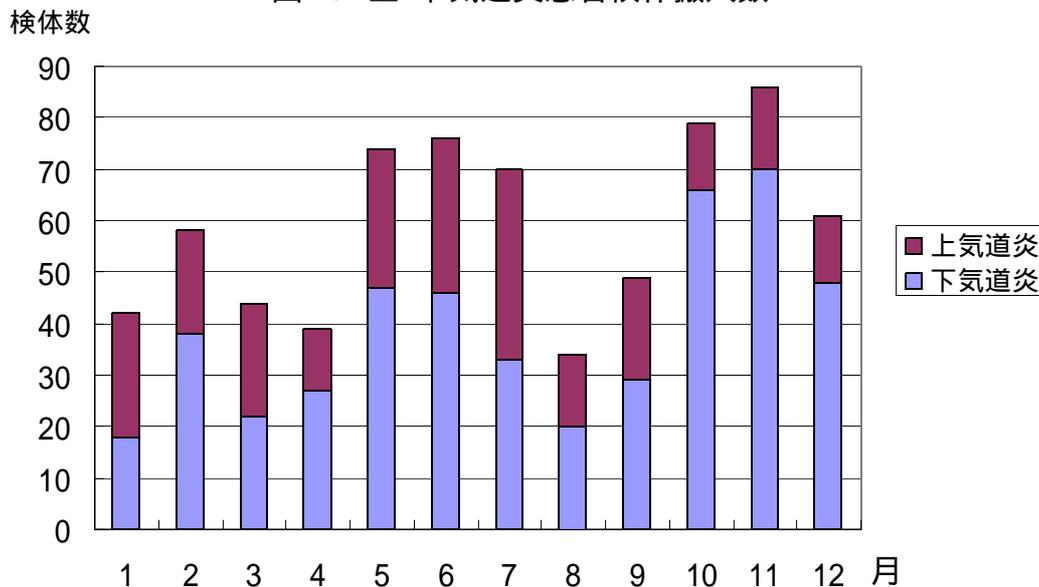
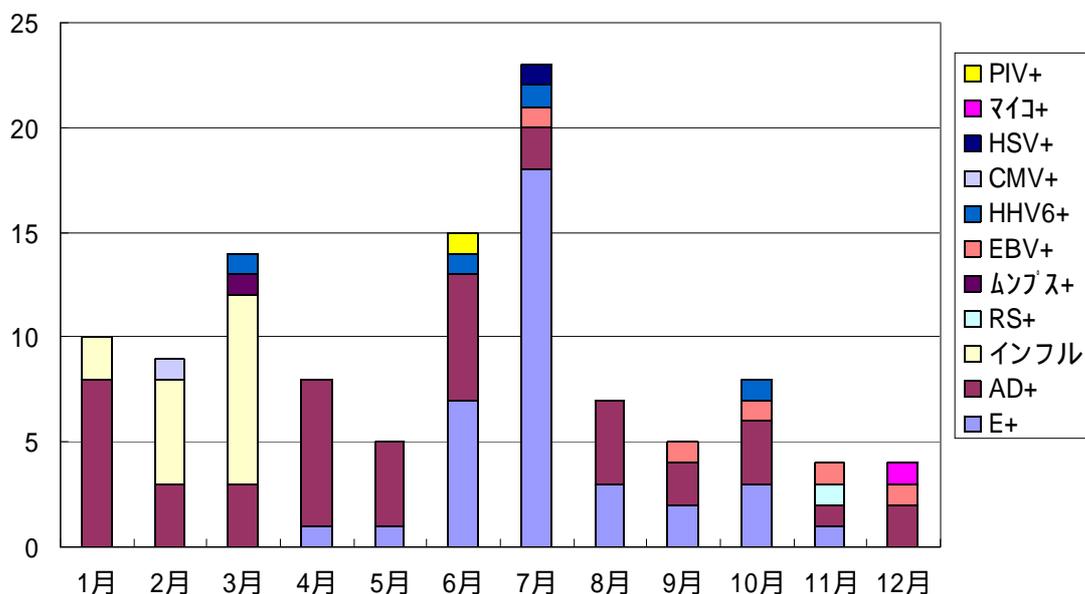
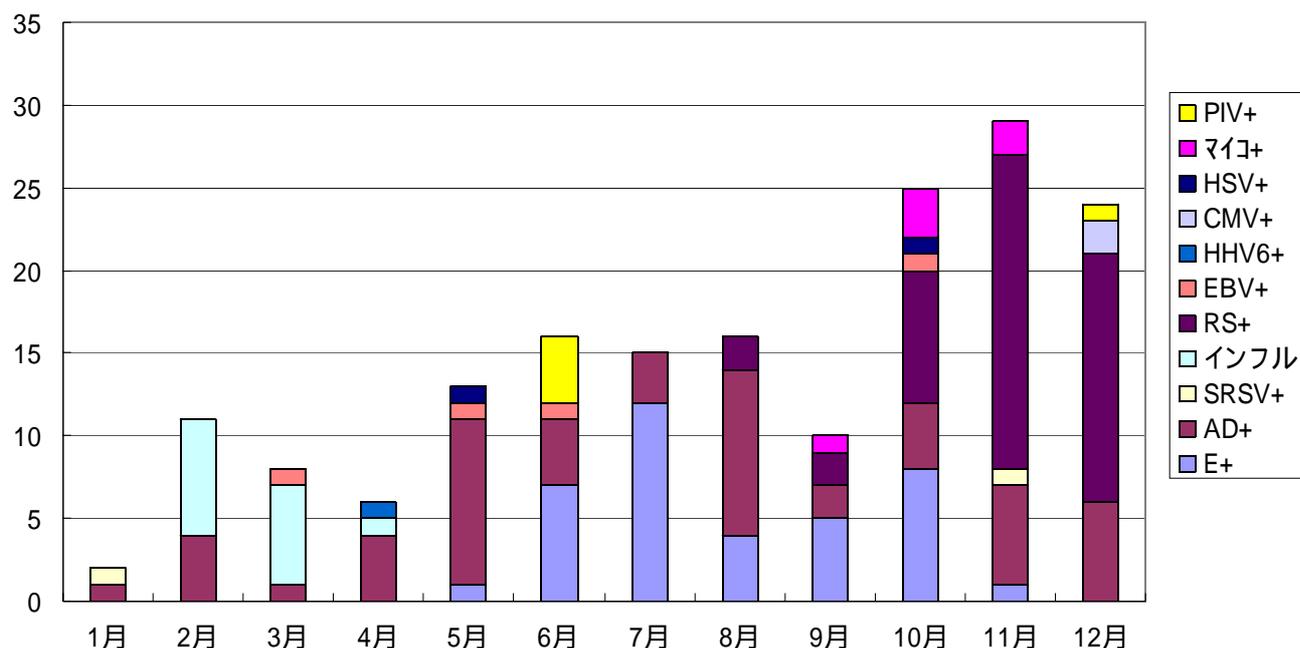


図5. 上気道炎患者検体からのウイルス検出状況



上気道炎患者からのウイルス遺伝子検出は、1～3月にインフルエンザ、4～11月にかけては7月をピークとしてエンテロウイルスの検出率が高かった。7月と9～12月にはEBVも検出された。ADVは毎月検出されていた。検出数は少ないが、その他にHHV6型、MuV、HSV、PINFVが検出されていた。

図6. 下気道患者検体からのウイルス検出状況



下気道炎患者からのウイルス遺伝子検出は、上気道炎患者とほぼ同じパターンで検出されていたが、一方大きな違いは8月から11月をピークとして検出されたRSウイルスにみられ、またマイコプラズマニューモニエやCMVが検出されたことである。

上・下気道患者から夏季に多く検出されたエンテロウイルス遺伝子は、分離試験の結果からEV11・13・22・3・6型が、特にEV13が関与していたことが明らかとなった。

(8) 発疹性疾患患者からのウイルス検出状況

手足口病、ヘルパンギーナ、突発性発疹、麻疹、水痘、伝染性紅斑及び不明発疹症で搬入された検体は、全検体の9.4%を占める233件であった。図7に示したように疾患別・月別の搬入状況をみると、手足口病は3～7月、ヘルパンギーナは4～7月に増加し、特に7月にピークがみられる季節消長がみられた。一方では不明発疹症、突発性発疹は年間を通じて検体搬入があった。

今年搬入された麻疹等主な発疹症患者検体と不明発疹症患者検体からのウイルス検出状況を表2、3、6、図8に示した。

水痘の9検体中6件から水痘ウイルスの遺伝子が検出された。また、伝染性紅斑16検体のうち9件からPB19、突発性発疹28検体のうち20件からHHV、麻疹20検体のうち10件からMeVの遺伝子がそれぞれ検出された。また、ヘルパンギーナ患者検体は、16検体中13件からエンテロウイルスの遺伝子が検出され、ウイルス分離試験ではCAV4型2株と同6型8株が分離され、これがヘルパンギーナにおける今年の流行株であると思われる。また、手足口病患者の検体15検体のうち14件からエンテロウイルス遺伝子が検出され、ウイルス分離試験で、CAV6型が5株、EV13型が1株分離された。今年の全国の病原体検出情報をみると、手足口病の原因ウイルスの大半がコクサッキーA群ウイルス16型で、次にエンテロウイルス71、さらにCAV6型、EV13型という順であったが、東京ではコクサッキーA群ウイルス16型とエンテロウイルス71は分離されなかった。

図7. 発疹性疾患の検体搬入数

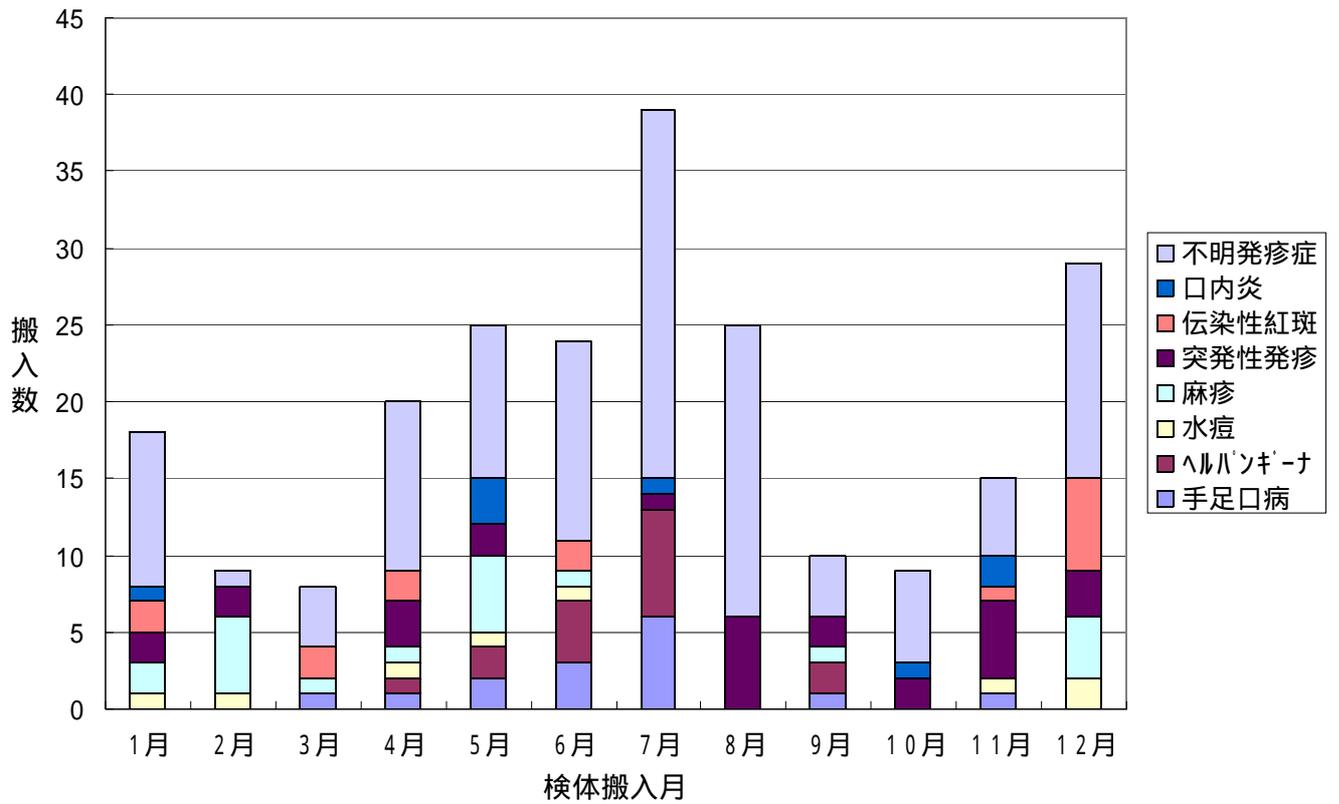


図8. 発疹性疾患患者からのウイルス検出

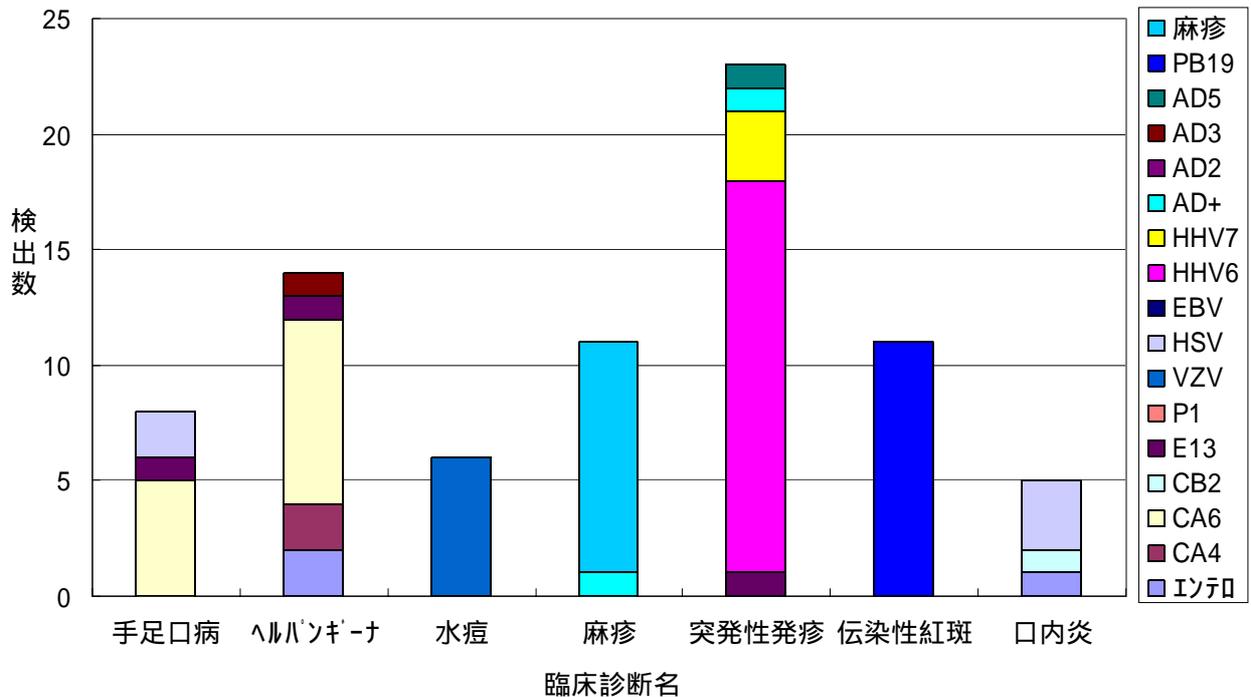


表6. 不明発疹症患者からのウイルス検出数

検体 受付	患者数	陽性者 数	検出ウイルス																			
			エンテロ	CA4	CA6	CB2	E11	E13	P1	VZV	HSV	EBV	HHV6	HHV7	AD+	AD1	AD2	AD3	AD5	PB19	麻疹	
1月	10	3												1		1					1	
2月	1	0																				
3月	4	1														1		1				
4月	11	5	1		1				1				1	1	2						1	1
5月	10	5	2						1				3		2						1	
6月	13	10	5					2				1	1		2					1		
7月	24	15	13	1	2			4				3	7	1								
8月	19	7	5		2							1	4									
9月	4	3	1								1											1
10月	6	4	2					1					2									
11月	5	3	2										1									
12月	14	8											1	2		5	1					

発疹や水疱等の皮膚病変を特徴とするウイルス感染症には多くの種類があり、水痘や伝染性紅斑、突発性発疹の様に症状と原因が一致しやすいものもあれば、症状は同じでも起因ウイルスが複数存在するものもある。また、様々な要因により常に定型的な症状を示すとは限らず、臨床症状から原因を突き止めるのは困難であるため、診断がつかない検体は「不明発疹症」として搬入されているのが現状である。

不明発疹症として搬入された検体 121 検体の遺伝子検索を行ったところエンテロウイルスの遺伝子が 31 件 (25.6%) から検出され、ウイルス分離においても CAV4 型が 1 件、CAV6 型が 5 件、EV13 が 8 件分離されたことから手足口病、ヘルパンギーナとの関連が考えられた。また HHV6 型 22 件 (18.2%)、同 7 型 2 件 (1.7%) が検出され、突発性発疹との関連が伺われた。さらに ADV の遺伝子が 13 検体 (10.7%) から検出された。その他 EBV は伝染性単核球症の原因であり、HSV は口内炎、PB19 は伝染性紅斑、VZV は水痘、MeV は麻疹のそれぞれの原因であることを考えると、エンテロウイルス、HHV、ADV 等は不明発疹症として扱われることの多い病原体であることが明らかとなった。5 ~ 8 月の検体中、HHV とエンテロウイルス(中には、EV13 型、CAV6 型)、HHV と EBV、ADV と HHV 及び PB19 とエンテロウイルス等組み合わせの異なる混合感染例が多くみられた。

(9) 感染症疫学調査

ポリオ様疾患患者のウイルス学的検索

平成 14 年 5 月に文京区内の病院から麻痺・四肢痛を呈した急性灰白髄炎疑いの患者発生(男性)が届けられ、患者の病原体検索調査を行った。また、渋谷区に居住する同患者の家族 2 名についても病原体検索を行った。患者の咽頭ぬぐい液、糞便、髄液からはポリオウイルスは検出されず、また、4 病日及び 10 病日の血清中におけるポリオウイルスに対する中和抗体価の上昇はみられなかったため、ポリオウイルス感染を否定した。

家族のうち 1 名の糞便からウイルスは検出されなかったが、残る 1 名の糞便からはポリオウイルス 1 型が検出された。検出したウイルスを制限酵素切断法による解析をした結果、ワクチン由来株であることを確定した。同家族は、検体採取の 1 ヶ月前にポリオ生ワクチンの接種を受けていた。

急性ウイルス肝炎

平成 14 年 8 月に練馬区保健所管内で咽頭痛、肝腫大、黄疸、全身倦怠感等の肝炎症状を呈して入院した 61 歳男性の病原体検索調査を行った。入院時の検査にて A 型、B 型、C 型肝炎ウイルスに対する抗体が認められなかったため、E 型肝炎ウイルス（HEV）の感染が疑われた。

搬入された血液 2 件について、遺伝子検出（PCR 法）による抗原検査と酵素抗体（ELISA）法による抗体検査を行った結果、HEV 遺伝子は検出されず、抗 HEV - IgM 抗体及び抗 HEV - IgG 抗体も陰性であったため、HEV の感染は否定された。

麻疹集団発生

平成 14 年 12 月に世田谷保健所管内の小学校（6 校）、中学校（10 校）において麻疹の患者発生（126 名）がみられた。患者のうち中学生 2 名と中学生の家族 3 名の計 5 名についてウイルス検索を行った。その結果、4 名から麻疹ウイルス遺伝子が、3 名からは麻疹ウイルスも分離された。遺伝子解析の結果、これまで報告のあった D 型とは異なり、H1 型麻疹であることが明らかとなった。東京都内における麻疹集団発生として、初めて「H1 型」ウイルスを確認した。

2 細菌

(1) A群溶血性レンサ球菌

都内5カ所の病原体定点（聖母、東京都済生会中央、通信、佼成、都立清瀬小児）を対象に実施している。A群溶血性レンサ球菌のサーベイランスは、2002年には2病院から外来患者の咽頭拭い液30件、3病院から外来患者由来129株、入院患者由来16株が送られてきた。咽頭拭い液の菌陽性は9件であった。従って送られた菌株と併せて154株のT型について調査した。

A群レンサ球菌の菌分離は1～3月：51株、4～6月：57株、7～9月：14株、10～12月：32株であった（表7）。

表7. 分離月別件数(外来・入院)

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
件数	15	16	20	19	17	21	6	5	3	6	14	12

外来患者由来株138株と入院患者由来株16株についてT型別を行った。T型は12種類に型別され、外来患者由来株はT-12型：35株、T-1型：33株、T-3型：33株、T-4型：11株、T-25型：5株、などであった。入院患者由来ではT-1型：5株、T-12型：3株、T-4型：2株、T-3型：2株などであった（表8）。

表8. T型別菌株数

T型	T-1	T-3	T-4	T-6	T-11	T-12	T-13	T-22	T-23	T-25	T-28	T-B3264	UT	合計
外来患者株	33	33	11	3	4	35			1	5	4	4	5	138
入院患者株	5	2	2			3	1	1			1	1		16

(2) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)

都内2カ所の病原体定点（聖母、東京都済生会中央）を対象に小児科外来患者のMRSA保菌者検索を実施している。また通信病院、佼成病院および都立清瀬小児は外来・入院患者由来のMSSAおよびMRSAの型別を実施している。咽頭拭い液が搬入された2病院からは、黄色ブドウ球菌が4株分離されすべてMSSAであった。通信病院からは外来患者由来のMSSA1株、入院患者由来のMSSA2株が送られてきた。佼成病院からは外来患者由来12株、都立清瀬小児病院からは入院患者由来184株、外来患者由来12株の計196株のMRSAが送られてきた。

入院患者由来のMRSAについては、コアグララーゼ型：152株、コアグララーゼ型：21株、コアグララーゼ型：8株、コアグララーゼ型：1株であった。

外来患者由来のMRSAは、コアグララーゼ型：11株、コアグララーゼ型：11株、コアグララーゼ型：2株、MSSAのコアグララーゼは、型：4株、コアグララーゼ型：1株、コアグララーゼ型：1株、コアグララーゼUT：1株であった（表9）。

(3) 二類感染症の病原体検索

ジフテリア菌と疑われた2菌株が、同定のため送付されてきた。生化学性状試験、PCRによる毒素遺伝子検査の結果、*Corynebacterium diphtheriae*は2株ともに否定された。

表9. 黄色ブドウ球菌のコアグララーゼ型とエンテロトキシン型

	入院(MRSA)				外来(MRSA)			入院・外来(MSSA)			
											UT
-	19	4	7		7	2	2			4	1
A				1							
AT											
B	1	5				1			1		
BCT	1	16									
BC											
C		2			4						
CT		123	1			6		1			
D		3				2					
T											
計	21	152	8	1	11	11	2	1	1	4	1

(4) 四類全数把握感染症の病原体検索

劇症型レンサ球菌感染症(TSLS)

2002年に、東京都内で13名の患者発生があり、その内の8株が送付されてきた。*S.pyogenes* 8株のT型はT-1型:2株、T-3:1株、T-23:1株、T-25型:1株、T-28型:2株、T-B3264型:1株であった。また全国の病院から、7名のTSLS患者から分離された7株の検査依頼があった。T型は、T-1型:3株、T-3型:1株、T-23型:1株、T-25型:1株、T-B3264型:1株であった。(表10)

表10. 劇症型レンサ球菌感染症患者由来(A群)株のT型別

T型	T-1	T-3	T-23	T-25	T-28	T-B3264
東京	2	1	1	1	2	1
全国	3	1	1	1		1

髄膜炎菌性髄膜炎

2002年に、東京都内で1名の髄膜炎菌性髄膜炎患者の発生があり、分離された髄膜炎菌の血清型はB群であった。

バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)

2002年に、東京都内で8名のVRE感染症の報告があった。その内7株が送付されてきた。

E.faecium: 2株(尿1, 不明1)、*E.gallinarum*: 2株(気管チューブ1・胃チューブ1)、*E.casseliflavus*: 2株(血液2)、*E.avium*: 1株(不明)であった。*E.faecium*はVanA(不明)、VanB(尿)を保有していた(表11)。

レジオネラ症

2002年に19名のレジオネラ症の報告があり、4株が当所に送付されてきた。分離部位は喀痰:3

表11. 分離されたVRE

	VanA	VanB	VanC
<i>E.faecium</i>	1	1	
<i>E.gallinarum</i>			2
<i>E.casseliflavus</i>			2
<i>E.avium</i>	1		

表12. 分離されたレジオネラ属菌

	喀痰	不明
<i>L.pneumophila serogroup 1</i>	2	1
<i>L.pneumophila serogroup 6</i>	1	

株、不明：1株であった。血清型は*L.pneumophila serogroup 1*が3株、*L.pneumophila serogroup 6*が1株であった（表12）。

破傷風菌

破傷風菌疑いの1菌株が搬入されたが、生化学性状試験、PCRによる毒素遺伝子検査、マウスアッセイ試験の結果破傷風菌は否定された。

3 性感染症

2002年1月から12月までの間に病原体定点(婦人科医院)から搬入され検査に供した材料は、159例から採血された血清183検体および、482例から採取された子宮頸管擦過(分泌)物531検体である。患者の年齢構成は最年少が16歳で、血清、子宮頸管擦過(分泌)物それぞれ10歳代が4.4%、5.2%、20歳代が60.8%、58.3%を占めた。また、患者のパートナーである年代不明の男性血清1検体と10代男性の尿道擦過物1検体も搬入された。検査は血清検体については、梅毒血清反応は脂質抗原使用検査法であるガラス板法・RPR法とTP抗原法はTPHA法で検査し、抗クラミジアトラコマチス(CT) IgA抗体・IgG抗体はELISA法で検査した。子宮頸管擦過(分泌)物を用いたCT遺伝子および淋菌(NG)遺伝子の検出はLCR法またはPCR法で行った。採取時期が異なる複数の検体が搬入されている例が33例あったが、初回のデータを集計の対象とした。

(1) 血清の検査結果

血清検体の検査結果を表13に示す。梅毒血清反応の陽性率は1.3%(2/158)であったが、2例とも20歳代後半で、脂質抗原法はガラス板法・RPR法ともに陰性であり、TPHA法のみ陽性であった。抗CT抗体の陽性率は61.0%(97/159)であった。内訳はIgA抗体のみ陽性であったのは抗体陽性数の4.1%(4/97)で、全例20歳代前半であった。また58.8%(57/97)がIgA抗体・IgG抗体ともに陽性で、抗CT抗体陽性の半数以上62.9%(61/97)がIgA抗体を保有していた。IgG抗体のみ陽性であったのは37.1%(36/97)であった。梅毒血清反応TPHA法陽性の2例は抗CT抗体陽性であり、重複感染の既往が確認された。患者のパートナーの検体として搬入された年代不明の男性から採取された血清1検体は梅毒抗体、CT抗体ともに陰性であった。

表13. 血清検体の梅毒、CT抗体検査結果

	年代	検査数	梅毒陽性	CT抗体陽性	内 訳		
					IgA	IgA・IgG	IgG
女性	16～19	7	0	4 (57.1%)	0	2 (50.0%)	2 (50.0%)
	20～24	36	0	26 (72.2%)	4 (15.4%)	16 (61.5%)	6 (23.1%)
	25～29	60	2 (3.3%)	31 (51.7%)	0	17 (54.8%)	14 (45.2%)
	30～34	28	0	17 (60.7%)	0	11 (64.7%)	6 (35.3%)
	35～39	12	0	8 (66.7%)	0	5 (62.5%)	3 (37.5%)
	40～44	6	0	5 (83.3%)	0	3 (60.0%)	2 (40.0%)
	45～	4	0	3 (75.0%)	0	1 (33.3%)	2 (66.7%)
	不明	6	0	3 (50.0%)	0	2 (66.7%)	1 (33.3%)
	計	159	2 (1.3%)	97 (61.0%)	4 (4.1%)	57 (58.8%)	36 (37.1%)
男性	不明	1	0	0			

(2) 子宮頸管擦過(分泌)物の検査結果

子宮頸管擦過(分泌)物の検査結果を表14に示す。CT遺伝子の陽性率は12.0%(58/482)であった。5歳毎に区切った年齢グループ毎の陽性率を見ると、10代後半の検体数は25例と少ないがその陽性率は40%(10/25)と高く、最年少の陽性例は16歳であった。20歳代前半では陽性率15.3%(21/137)、20歳代後半は11.1%(16/144)と低くなっているが、図9のように30歳以上の陽性率と比較すると若年層の陽性率が際だって高いことがわかる。

NG遺伝子の陽性率は2.5%(12/477)であった。5歳毎に区切った年齢グループ毎では10歳代の陽性例はなかったが、20歳代前半が陽性率3.6%(5/137)と高く、次いで20歳代後半の2.8%で、30代前半2.4%、後半が2.6%で陽性者は20代30代に集中していた。CT遺伝子とNG遺伝子が共に検出され重複感染が確認された例は20代前半に2例あった。患者のパートナーの検体として10代男性から採取された尿道擦過物1検体からはCT遺伝子が検出されている。

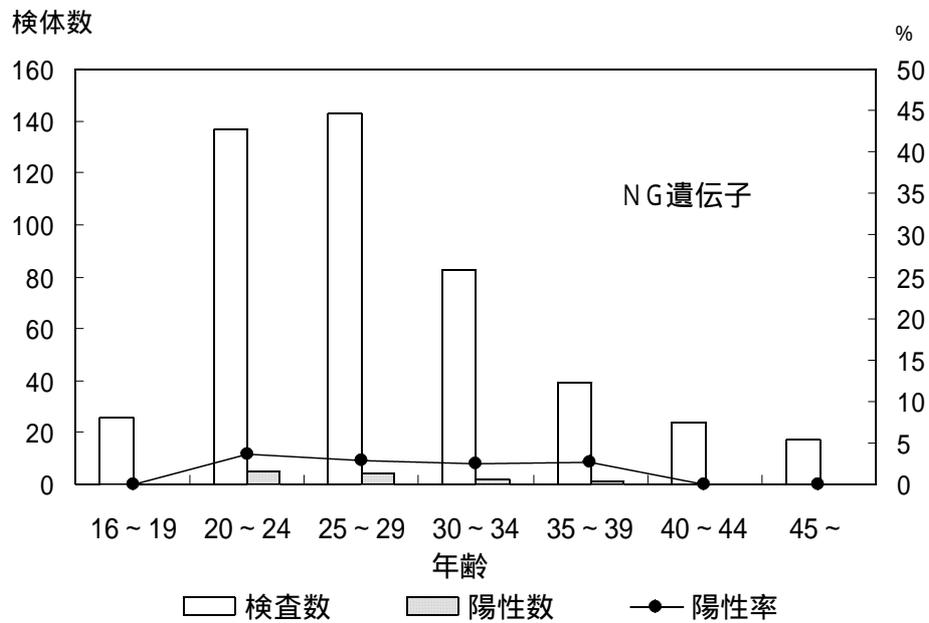
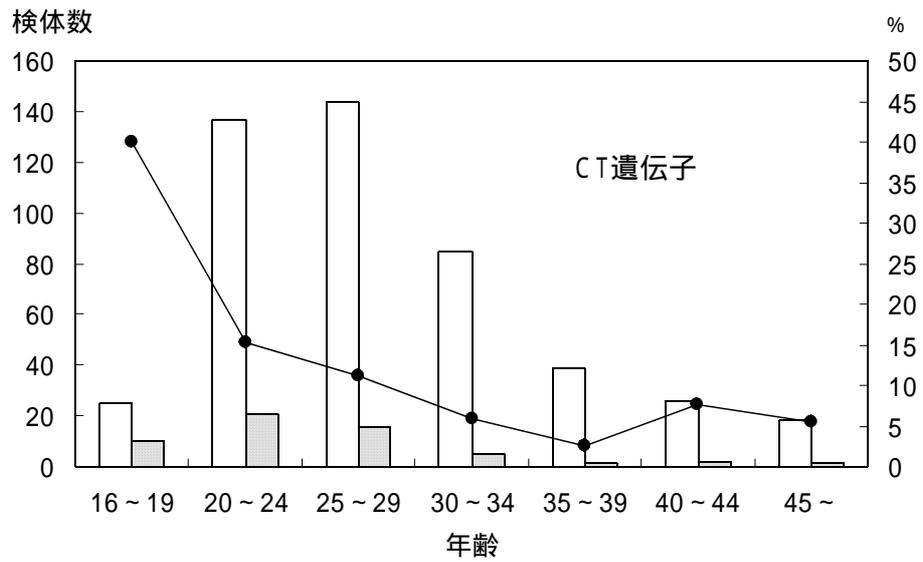
表14. 子宮頸管擦過(分泌)物のCT、NG遺伝子検査結果

	年代	CT 遺伝子		NG 遺伝子	
		検査数	陽性	検査数	陽性
女性	16～19	25	10 (40.0%)	26	0
	20～24	137	21* (15.3%)	137	5* (3.6%)
	25～29	144	16 (11.1%)	143	4 (2.8%)
	30～34	85	5 (5.9%)	83	2 (2.4%)
	35～39	39	1 (2.6%)	39	1 (2.6%)
	40～44	26	2 (7.7%)	24	0
	45～	18	1 (5.5%)	17	0
	不明	8	2(25.0%)	8	0
	計	482	58 (12.0%)	477	12(2.5%)
男性**	16～19	1	1 (100%)	1	0

* :CT遺伝子とNG遺伝子が共に検出された2例(1.4%)を含む

** :男性は尿道擦過物を検査に用いた

図9 . 子宮頸管擦過物からのCT遺伝子 NG遺伝子検出状況



4 多摩地区の感染症発生動向調査事業における病原体検索成績

衛生研究所多摩支所（現 健康安全研究センター多摩支所）では、感染症発生動向調査事業の一環として、多摩地区の医療機関（9 定点）の協力を得て平成 3 年 5 月から感染性胃腸炎（乳児嘔吐下痢症を含む）について腸管系病原体検索を実施してきている。また、平成 8 年 12 月からは、同医療機関においてインフルエンザ様疾患と診断された患者の咽頭ぬぐい液についてもウイルス検索を実施し、本事業の充実を図っている。以下、平成 14 年 1 月～12 月の 1 年間に得られた成績の概略を報告する。

検査定点として協力していただいた医療機関は、江崎小児クリニック（多摩市）、桜井医院（稲城市）、野上医院（立川市）、藤田医院（武蔵村山市）、さとう小児科医院（八王子市）、星野小児科内科クリニック（あきる野市）、鈴木内科（あきる野市）、太陽こども病院（昭島市）及び水野小児科医院（府中市）の 9 医療機関である。

（1）感染性胃腸炎検査成績

平成 14 年の 1 年間に定点医療機関から搬入された感染性胃腸炎症例の検体は 151 検体であった。これらについて、腸管系病原菌及びウイルス検索を行った結果を表 15 に示した。151 検体中 61 件（40.4%）が病原体陽性であった。陽性例の内訳は、病原菌陽性例が 24 件、ウイルス陽性例が 38 件であった。

表 15 . 多摩地区における感染症発生動向調査事業・腸管系病原体検査概要

年齢区分	検査件数	病原体陽性 件数(%)	(2002.1～12) 分離病原体の内訳(%)	
			病原菌	ウイルス
1歳 未満	29	10(34.5)	1(3.4)	9(31.0)
1 - 4歳	36	18(50.0)	5(13.9)	16(44.4)
5 - 9歳	8	2(25.0)	-	2(25.0)
10 - 14歳	5	2(40.0)	1(20.0)	1(20.0)
15 - 19歳	8	6(75.0)	5(62.5)	1(12.5)
20歳 以上	65	23(35.4)	13(20.0)	12(18.5)
計	151	61(40.4)	25(16.6)	41(27.1)

*同一検体から複数の病原体が検出される場合があるため
陽性件数と分離病原体の数は一致しない。

患者年齢区分別検出状況と月別検出状況を表 16、17 及び図 10 に示した。検出病原体は 9 種類で、5 種の病原菌と 4 種のウイルスが検出された。最も高頻度に検出された病原体は SRSV(NV)で 19 件、次いでロタウイルス 14 件、カンピロバクター 13 件、アデノウイルス 6 件、エロモナス、サルモネラ属菌が各 4 件ずつ、腸管病原性大腸菌 3 件、ポリオウイルス 2 件、プレシオモナスが 1 件検出された。

各年齢区分と検出病原体をみると 0 歳から 4 歳の低年齢層では例年と同様ロタウイルスが主要な病原体であった。また、本年は SRSV、アデノウイルスも多く検出された。SRSV は、20 歳以上に

表16. 多摩地区における感染症発生動向調査事業・腸管系病原体検出状況

(2002.1~12)

年齢 区分	検査 件数	検 出 病 原 体								
		病 原 菌					ウ イ ル ス			
		病原 大腸菌	プレシオ モナス	エロ モナス	サル モネラ	カンピロ バクター	ロタ	SRSV	アデノ	ポリオ
1歳未満	29	-	-	1	-	-	2	1	5	1
1 - 4歳	36	-	-	3	2	-	6	9	-	1
5 - 9歳	8	-	-	-	-	-	2	-	-	-
10-14歳	5	-	-	-	-	1	-	1	-	-
15-19歳	8	-	-	-	-	5	-	1	-	-
20歳以上	65	3	1	-	2	7	4	7	1	-
計 (%)	151	3 (2.0)	1 (0.7)	4 (2.6)	4 (2.6)	13 (8.6)	14 (9.3)	19 (12.6)	6 (4.0)	2 (1.3)

表17. 感染症発生動向調査事業・腸管系病原体月別検査成績

(2002.1~12)

月	検 体 数	陽 性 件 数	陽 性 率 (%)	検 出 病 原 体								
				病 原 菌					ウ イ ル ス			
				病原大 腸菌	サルモネ ラ	プレシオ モナス	エロモナ ス	カンピロ バクター	ロタ	SRSV	アデノ	ポリオ
1	14	5	35.7	-	-	-	-	-	1	4	-	-
2	24	11	45.8	-	-	-	-	1	5	4	2	-
3	12	3	25.0	-	-	-	1	-	-	1	1	-
4	20	4	20.0	-	-	-	-	1	3	-	-	-
5	9	3	33.3	1	1	-	-	-	-	-	1	1
6	8	4	50.0	-	-	-	-	3	1	-	-	-
7	16	8	50.0	-	-	1	1	4	-	1	-	-
8	8	4	50.0	-	3	-	1	1	-	-	-	-
9	15	8	53.3	2	-	-	1	1	2	1	2	-
10	6	1	16.7	-	-	-	-	-	1	1	-	-
11	10	4	40.0	-	-	-	-	2	-	1	-	1
12	9	6	66.7	-	-	-	-	-	1	6	-	-
計	151	61	40.4	3	4	1	4	13	14	19	6	2

も多く検出された。カンピロバクターは全て10歳以上から、腸管病原性大腸菌は全て20歳以上からの検出であった。また、混合感染例が5件あり、ロタウイルス+SRSVが3例、エロモナス+サルモネラ菌属と、腸管病原性大腸菌+ロタウイルスがそれぞれ1例であった。

検出された既知腸管系病原菌は5種で、総分離株数は25株であった。検出された腸管病原性大腸菌は表18に示したとおり、毒素原性大腸菌(2株,ST産生性)と腸管出血性大腸菌(1株,VT1+VT2)であった。サルモネラ菌属は4株で、その血清型はEnteritidis(3株)とTyphimurium(1株)であった。カンピロバクターは1年を通して13株(全株C.jejunii)検出されたが、夏にピークが認められた。本年は腸炎ビブリオの検出はなかった。

図10. 月別検体数・陽性件数・陽性率 (2002.1~12)

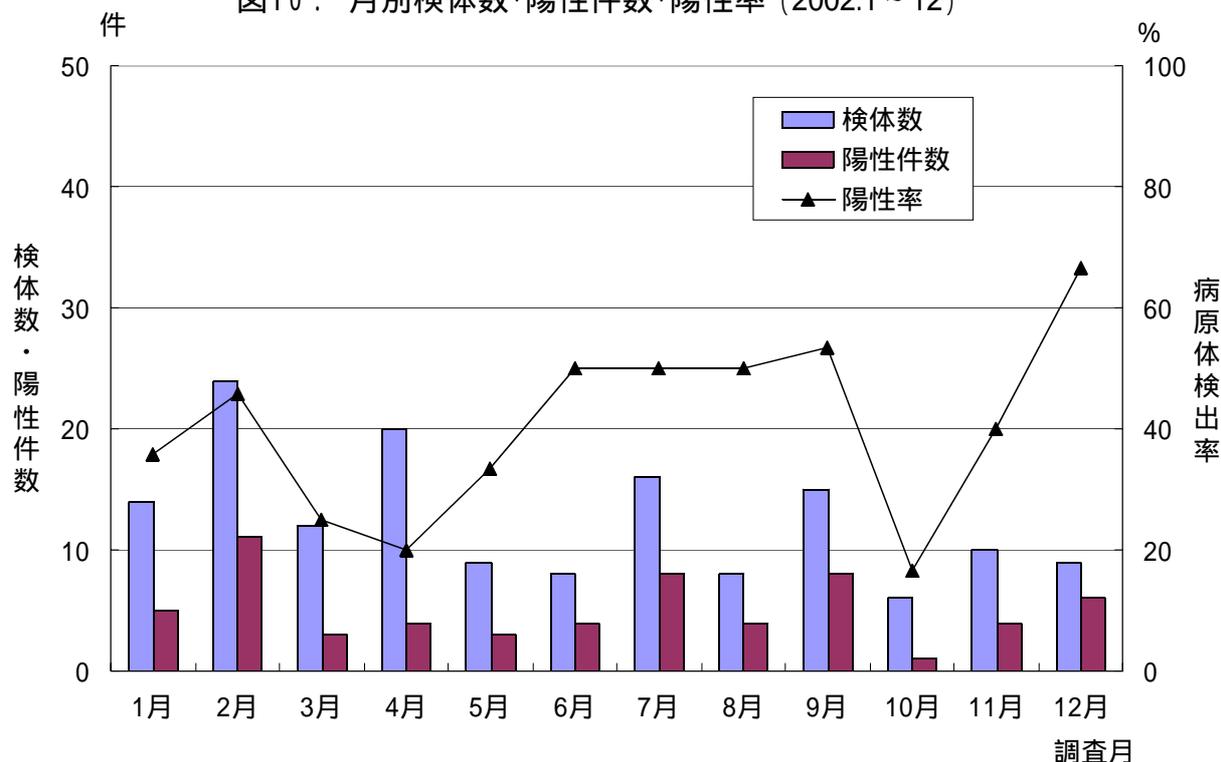


表18. 分離されたサルモネラ属菌及び腸管病原性大腸菌の血清型

(2002.1~12)

サルモネラ属菌		腸管病原性大腸菌	
Enteritidis	3株	O169 (ST産生)	1株
Typhimurium	1株	O群不明(ST産生)	1株
		O157 (VT1+VT2産生)	1株

分離、あるいは確認されたウイルスは4種、41件であった。うち19件はSRSVで、主に12月から2月の冬期に多く検出された。次いで高頻度に認められたのはロタウイルス(14件)であった。

(2) インフルエンザ

2001/2002 シーズンに実施したインフルエンザ様疾患と診断された患者の咽頭ぬぐい液からのMDCK細胞を用いた組織培養法による分離試験及びRT-PCR法によるウイルス検索状況を表19及び20に示した。流行期間中の検査件数は508例で、そのうち、インフルエンザウイルス陽性例は177例(34.8%)であった。陽性例のうち124例(24.4%)はA香港型(H3N2)、51例(10.0%)はAソ連型(H1N1)であり、B型は2例(0.4%)であった。週別の検出状況を図11に示した。昨年同様立ち上がりが遅く9週にピークが認められた。A香港型(H3N2)は52週(2001年12月25日)に初めて分離され、2002年14週までの長期間にわたっており、全検出例の7割を占めた。Aソ連型(H1N1)は3週に1例分離され、8週の11例をピークに少ない分離数で推移した。それに対してB型は16

週に2例の検出にとどまった。流行シーズンにおける年齢区分別のインフルエンザウイルス型別確認・分離状況を表21に示した。A香港型(H3N2)の検出状況をみると5歳以下45例、6～10歳で18例、11～15歳は18例で124例中65%が15歳以下の年齢層で占められた。Aソ連型(H1N1)の検出状況も31～40歳で22%とやや高かったが、49%は15歳以下の低年齢層で占められていた。B型は40代と50代各1例ずつの検出であった。

表19. インフルエンザ様疾患患者咽頭ぬぐい液からのウイルス検出状況

(2001.12～2002.4)

検体数	陽性例	インフルエンザウイルス			アデノウイルス
		AH1	AH3	B	
508	177 (34.8%)	51 (10.0%)	124 (24.4%)	2 (0.4%)	7 (1.4%)

表20. 咽頭ぬぐい液からの週別インフルエンザウイルス検出状況

(2001.12～2002.4)

週	検体搬入日	検体数	陽性数	陽性率(%)	ウイルス型		
					AH1	AH3	B
13年 第49週	12/3	10	0	-	0	0	0
50	12/10	17	0	-	0	0	0
51	12/17	14	0	-	0	0	0
52	12/25	9	1	(11.1)	0	1	0
14年 第2週	1/7	5	0	-	0	0	0
3	1/15	9	2	(22.2)	1	1	0
4	1/21	10	4	(40.0)	3	1	0
5	1/28	30	11	(36.7)	5	6	0
6	2/4	50	12	(24.0)	3	9	0
7	2/11	64	30	(46.9)	8	22	0
8	2/18	50	25	(50.0)	11	14	0
9	2/25	85	29	(34.1)	10	19	0
10	3/4	49	23	(46.9)	5	18	0
11	3/11	39	20	(51.3)	5	15	0
12	3/18	19	12	(63.2)	0	12	0
13	3/25	13	4	(30.8)	0	4	0
14	4/1	10	2	(20.0)	0	2	0
15	4/8	4	0	-	0	0	0
16	4/15	7	2	(28.6)	0	0	2
17	4/22	8	0	-	0	0	0
18	4/30	6	0	-	0	0	0
合計		508	177	(34.8)	51(10.0)	124(24.4)	2(0.4)

件数

図11. インフルエンザウイルス週別検出状況

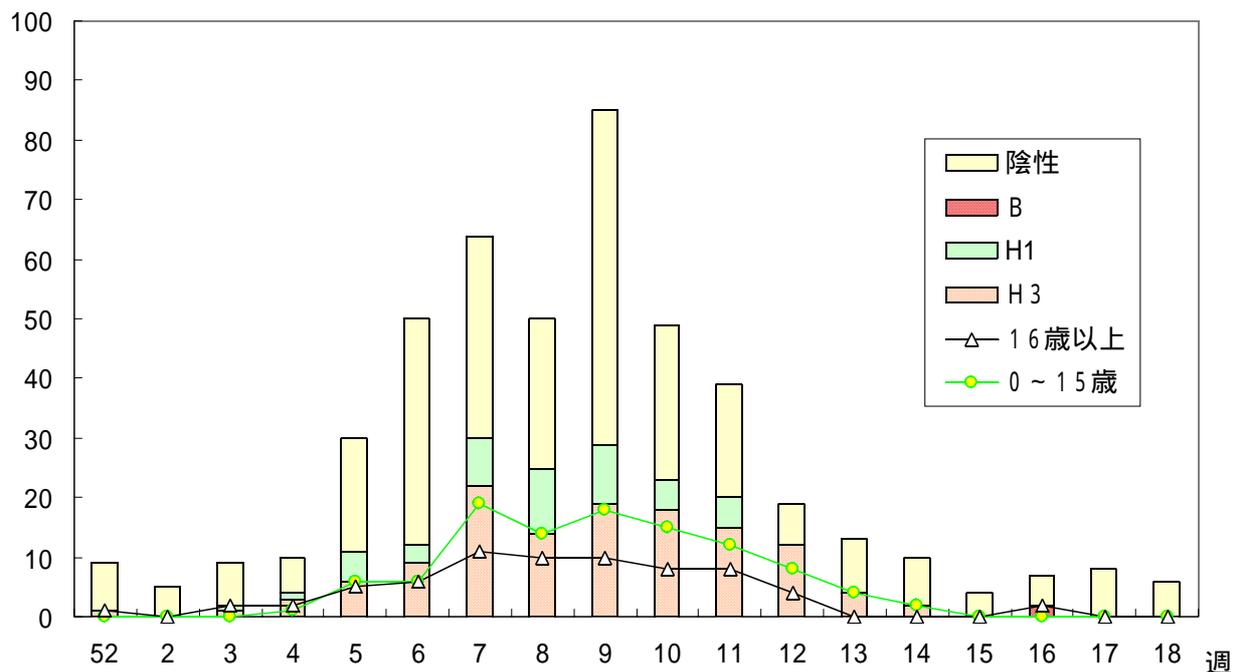


表21. インフルエンザウイルス型別確認・分離状況

(2001.12 ~ 2002.4)

年齢区分	総件数	AH1型	AH3型	B型
		検出数(%)	検出数(%)	検出数(%)
5	121	13 (10.7)	45 (37.2)	-
6-10	73	6 (8.2)	18 (24.7)	-
11-15	63	6 (9.5)	18 (28.6)	-
16-20	36	1 (2.8)	5 (13.9)	-
21-30	85	7 (8.2)	14 (16.5)	-
31-40	51	11 (21.6)	11 (21.6)	-
41-50	23	2 (8.7)	5 (21.7)	1 (4.3)
51-60	22	1 (4.5)	5 (22.7)	1 (4.5)
61	15	1 (6.7)	3 (20.0)	-
不明	19	3 (15.8)	-	-
合計	508	51	124	2

第 3 章

資 料

2 東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿

平成14年12月31日現在：順不同

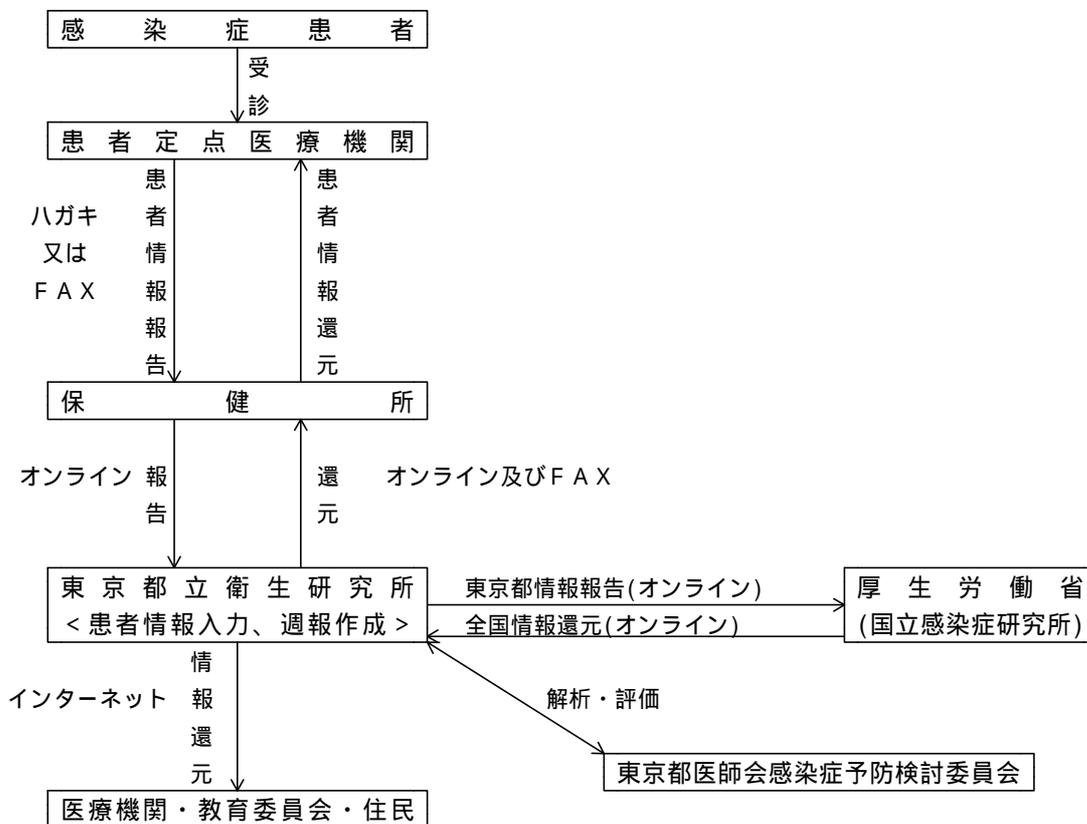
氏 名	役 職
南 谷 幹 夫	杏林大学客員教授
影 山 公 一	港区医師会
長 山 直 弘	国立療養所東京病院内科医長
尾 形 英 雄	(財) 結核予防会複十字病院医療部長
吉 川 泉	足立区衛生部次長兼足立保健所長
東 海 林 文 夫	東京都多摩川保健所長
根 岸 昌 功	東京都立駒込病院感染症科部長
古 田 賢 二	東京都健康局食品医薬品安全部副参事(危機管理担当)
大 石 修	東京都立衛生研究所微生物部副参事研究員
山 下 和 予	国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官
前 田 秀 雄	東京都健康局医療サービス部感染症対策課長
小 島 弘 敬	元日赤医療センター泌尿器科部長
松 田 静 治	江東区医師会
井 手 邦 彦	世田谷区医師会
水 野 幸 治	府中市医師会
福 田 敏 雅	東京都眼科医会
川 口 毅	昭和大学公衆衛生学教授
平 山 宗 宏	(社福) 恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所長

は委員長
は副委員長

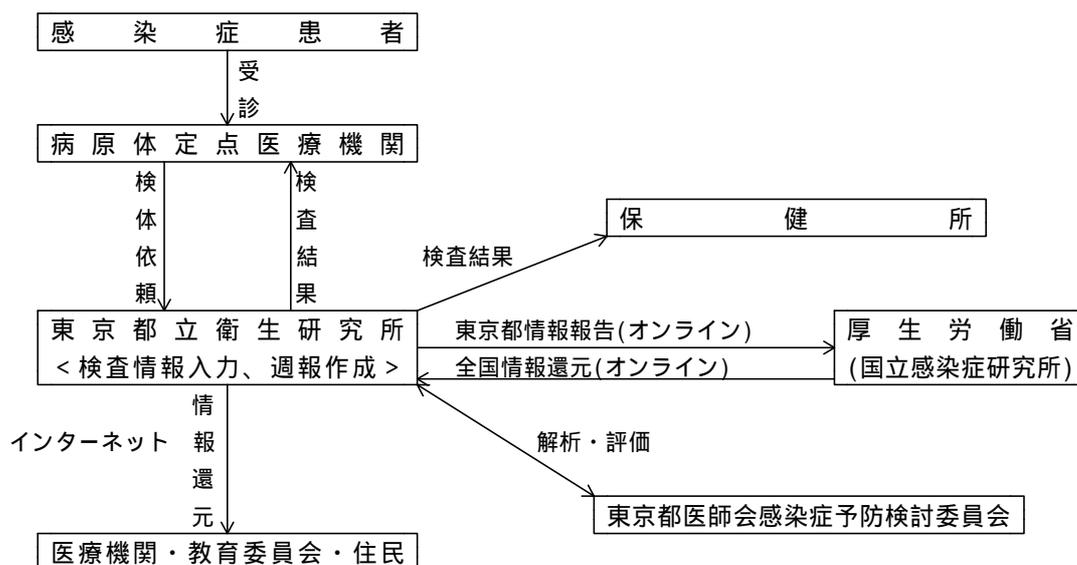
3 感染症発生動向調査システムの概要

- 平成11年3月19日 健医発第458号 厚生省医療局長通知による -

(1) 患者定点医療機関からの情報



(2) 病原体定点医療機関からの情報



4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11衛福結第680号

平成12年3月30日

最終改正 13衛福感第851号

平成14年3月25日

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からはコンピュータを用いたオンラインシステムを導入し、対象疾病を27に拡大して運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生情報を正確に把握・分析し、その結果を国民や医療関係者への確に提供・公開することによって、必要な措置を講じ、疾病のまん延を防止することを目的として実施するものとする。

第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施体制

1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都及び特別区における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、東京都及び特別区の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都立衛生研究所（以下「都衛研」という。）は、東京都全域の患者情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

2 指定届出機関（定点）

東京都は、定点把握対象の4類感染症についての、患者情報及び病原体情報を収集するため、患者定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

第5 事業の実施

1 1類感染症、2類感染症及び3類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、マールブルグ病、ラッサ熱、コレラ、細菌性赤痢、腸チフス及びパラチフスについては、患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者とする。

急性灰白髄炎、ジフテリア及び腸管出血性大腸菌感染症については、患者及び無症状病原体保有者とする。

(2) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

上記(1)に該当する患者等を診断した医師は、別記様式1を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て別記様式2の検査票を添付して都衛研に送付する。

イ 保健所

上記アの届出を受けた保健所は、別記様式3に該当する項目について、直ちに地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の都衛研への提供について、別記様式2の検査票を添付して依頼するものとする。

保健所は、地方感染症情報センターから呼び出した患者情報及び病原体情報について、週報(月単位の場合は月報)として、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。

なお、保健所においては、1類感染症、2類感染症及び3類感染症の届出があった場合には、地域の特性に応じた適切な方法を用いて、届出があった事実(個人情報に関する事項を除く。)を前記の関係機関に連絡する。

ウ 都衛研

都衛研は、管内の患者情報について保健所からの情報を取りまとめ、中央感染症情報センター(厚生労働省健康局結核感染症課)へコンピュータ・オンラインにより伝送する。

都衛研は、別記様式2の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を經由して診断した医師に通知するとともに、別記様式2により保健所、健康局医療サービス部感染症対策課に送付する。

検査のうち、都衛研において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

都衛研は、患者が1類感染症と診断されている場合(疑いを含む。)又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、厚生労働省健康局結核感染症課からの依頼に基づき、検体を国立感染症研究所に送付する。

基幹地方感染症情報センターである都衛研は、東京都内のすべての患者情報及び

病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

2 全数把握対象の4類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の全数把握対象の4類感染症について、「感染症新法に基づく医師から都道府県知事等への届出のための基準について」(平成11年3月30日付健医感発第46号厚生省保健医療局結核感染症課長通知。以下「届出基準」という。)を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

上記(1)に該当する患者等を診断した医師は、別記様式4を用いて、7日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあつては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て別記様式2の検査票を添付して都衛研に送付する。

イ 保健所

上記アの届出を受けた保健所は、別記様式5に該当する項目について、医師が当該患者を診断してから7日以内の可能な限り早い段階で地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインシステムにより伝送するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の都衛研への提供について、別記様式2の検査票を添付して依頼するものとする。

保健所は、地方感染症情報センターから呼び出した患者情報及び病原体情報について週報(月単位の場合は月報)として、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。

ウ 都衛研

都衛研は、管内の患者情報について保健所からの情報を取りまとめ、中央感染症情報センター(厚生労働省健康局結核感染症課)へコンピュータ・オンラインにより伝送する。

都衛研は、別記様式2の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式2により保健所、健康局医療サービス部感染症対策課に送付する。

検査のうち、都衛研において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

都衛研は、患者が1類感染症と診断されている場合(疑いを含む。)又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあつては、厚生労働省健康局結核感染症課からの依頼に基づき、検体を国立感染症研究所に送付する。

基幹地方感染症情報センターである都衛研は、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の4類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の4類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の4類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の から までに留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。

人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

小児科定点対象感染症のうち、別表1の47から60までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関(主として小児科医療を提供しているもの)を小児科定点として指定する。

インフルエンザ定点対象感染症のうち、別表1の46に掲げるインフルエンザについては、前記 で選定した小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関(主として内科医療を提供しているもの)を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

眼科定点対象感染症のうち、別表1の61及び62に掲げるものについては、眼科を標ぼうする医療機関(主として眼科医療を提供しているもの)を眼科定点として指定する。

性感染症定点対象感染症のうち、別表1の63から68までに掲げるものについては、産婦人科又は産科若しくは婦人科(産婦人科系)、性病科又は泌尿器科若しくは皮膚科若しくは皮膚泌尿器科(泌尿器科・皮膚科系)を標ぼうする医療機関(主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの)を性感染症定点として指定する。

基幹定点対象感染症のうち、別表1の69から77までに掲げるものについては、小児科医療と内科医療を提供している病院を各2次医療圏毎に1か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の から までに留意し、病原体定点を選定する。

原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

アの により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とする。

アの 及び により選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点とする。

アの により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定する。

(3) 定点の選定

調査期間の単位等は、別表2のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。

(2)のアの により選定された小児科定点においては別記様式6により、同 及び により選定されたインフルエンザ定点においては別記様式7により、同 により選定された眼科定点においては別記様式8により、同 により選定された性感染症定点においては別記様式9により、同 により選定された基幹定点においては別記様式10により、それぞれの調査単位の患者発生状況を記載する。

イ 病原体定点

病原体定点として選定された医療機関は、別に定める病原体検査指針により、微生物検査のために検体を採取する。

病原体定点で採取された検体は、別記様式2の検査票を添付し、速やかに都衛研へ送付する。

ウ 保健所

保健所は、患者定点から得られた患者情報(別記様式6から10まで)の情報項目を調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインにより伝送する。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、健康局医療サービス部感染症対策課及び地方感染症情報センターに報告する。

保健所は、地方感染症情報センターから呼び出した患者情報及び病原体情報について、週報(月単位の場合は月報)として、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に配布する。

エ 都衛研

都衛研は、管内の患者情報について保健所からの情報を取りまとめ、中央感染症情報センター(厚生労働省健康局結核感染症課)へコンピュータ・オンラインにより伝送する。

都衛研は、別記様式2の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあつては、当該検体を検査し、その結果を保健所を經由して診断した医師に通知するとともに、別記様式2により保健所、健康局医療福祉部感染症対策課に送付する。

検査のうち、都衛研において実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

都衛研は、患者が1類感染症と診断されている場合(疑いを含む。)又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあつては、厚生労働省健康局結核感

染症課からの依頼に基づき、検体を国立感染症研究所に送付する。

基幹地方感染症情報センターである都衛研は、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報(月単位の場合は月報)等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

4 その他

- (1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。
- (2) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて健康局長が定めることとする。

5 特別区との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区と協議し、連携を図るものとする。

附 則

この実施要綱は、平成12年4月1日から施行する。

この実施要綱は、平成13年4月1日から施行する。

この実施要綱は、平成14年4月1日から施行する。

感染症法に基づく感染症の分類について

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症

		疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
			患 者	疑 似 症 者	無 症 状 病 原 体 保 有 者	届 出 種 別	時 期
一 類	1	エボラ出血熱				全数	直ちに
	2	クリミア・コンゴ出血熱					
	3	ペスト					
	4	マールブルグ病					
	5	ラッサ熱					
二 類	6	急性灰白髄炎		-		全数	直ちに
	7	コレラ					
	8	細菌性赤痢					
	9	ジフテリア		-			
	10	腸チフス					
	11	パラチフス					
三類	12	腸管出血性大腸菌感染症		-		全数	直ちに

2 四類感染症

1 全数把握対象

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似患者	無症状病原体保有者	届種別	時期
1	アメーバ赤痢		-	-	全数	7日以内
2	エキノкокクス症		-	-		
3	ウイルス性肝炎（急性肝炎）		-	-		
4	黄熱		-	-		
5	オウム病		-	-		
6	回帰熱		-	-		
7	Q熱		-	-		
8	狂犬病		-	-		
9	クリプトスポリジウム症		-	-		
10	クロイツフェルト・ヤコブ病		-	-		
11	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		-	-		
12	後天性免疫不全症候群		-	-		
13	コクシジオイデス症		-	-		
14	ジアルジア症		-	-		
15	腎症候性出血熱		-	-		
16	髄膜炎菌性髄膜炎		-	-		
17	先天性風疹症候群		-	-		
18	炭疽		-	-		
19	ツツガムシ病		-	-		
20	デング熱		-	-		
21	日本紅斑熱		-	-		
22	日本脳炎		-	-		
23	乳児ポツリヌス症		-	-		
24	梅毒		-	-		
25	破傷風		-	-		
26	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		-	-		
27	ハンタウイルス肺症候群		-	-		
28	Bウイルス病		-	-		
29	ブルセラ症		-	-		
30	発疹チフス		-	-		
31	マラリア		-	-		
32	ライム病		-	-		
33	レジオネラ症		-	-		
34	ウエストナイル熱		-	-		

2 定点把握対象

	疾患名	届出対象者			届出方法	
		患者	疑似症者	無症状病原体保有者	届出種別 (定点)	時期
46	インフルエンザ		-	-	別表2参照	
47	咽頭結膜熱					
48	突発性発疹					
49	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎					
50	百日咳					
51	感染性胃腸炎					
52	風疹					
53	水痘					
54	ヘルパンギーナ		-	-		
55	手足口病					
56	麻疹(成人麻疹を除く。)					
57	伝染性紅斑					
58	流行性耳下腺炎					
59	不明発疹症					
60	MCLS(川崎病) (都単独)					
61	急性出血性結膜炎 (都単独)		-	-		
62	流行性角結膜炎					
63	性器クラミジア感染症					
64	性器ヘルペスウイルス感染症					
65	尖形コンジローム		-	-		
66	淋菌感染症					
67	トリコモナス症 (都単独)					
68	梅毒様疾患 (都単独)					
69	急性脳炎(日本脳炎を除く。) 1					
70	クラミジア肺炎(オウム病を除く) 2					
71	細菌性髄膜炎					
72	マイコプラズマ肺炎		-	-		
73	成人麻疹					
74	無菌性髄膜炎					
75	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症					
76	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-		
77	薬剤耐性緑膿菌感染症					

1 急性脳炎のうち、日本脳炎は全数届出の対象、その他は定点医療機関からの届出対象

2 クラミジア肺炎のうち、オウム病については全数届出対象、その他は定点医療機関からの届出対象

別記様式一覧表

別記様式1	1類感染症、2類感染症及び3類感染症医師届出票(患者)
別記様式2	1類感染症、2類感染症、3類感染症及び4類感染症検査票(病原体)
別記様式3	1類感染症、2類感染症、3類感染症保健所報告項目(患者)
別記様式4	4類感染症(全数把握対象)医師届出票(患者)
別記様式5	4類感染症(全数把握対象)保健所報告項目(患者)
別記様式6	4類感染症(定点把握対象)小児科患者定点報告票
別記様式7	4類感染症(定点把握対象)インフルエンザ患者定点報告票
別記様式8	4類感染症(定点把握対象)眼科患者定点報告票
別記様式9	4類感染症(定点把握対象)性感染症患者定点報告票
別記様式10	4類感染症(定点把握対象)基幹患者定点報告票

別記様式 1

1・2・3類感染症発生届出票

保健所コード 西 暦 ID

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。
報告年月日（ 年 月 日）

医師の氏名 _____ 印（自署または記名押印のこと）

所属する病院・診療所等施設名 _____

上記施設の住所・電話番号 * _____ (電話 _____)

(* 所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること)

男・女	生年月日	明・大・昭・平 年 月 日
電話 (_____)	電話 (_____)	電話 (_____)

<ul style="list-style-type: none"> エボラ出血熱 クリミア・コンゴ出血熱 ペスト マールブルグ病 ラッサ熱 	<ul style="list-style-type: none"> 病原検査 (検体 _____) (方法 _____) (型 _____) 血清学的検査 (検体 _____) (方法 _____) (型 _____) 臨床決定 その他 (_____) 	・ 有 [_____] ・ 無	平成 年 月 日
<ul style="list-style-type: none"> コレラ 細菌性赤痢 腸チフス パラチフス 	<ul style="list-style-type: none"> 病原検査 (検体 _____) (方法 _____) (型 _____) 血清学的検査 (検体 _____) (方法 _____) (型 _____) 臨床決定 その他 (_____) 		平成 年 月 日
<ul style="list-style-type: none"> 急性灰白髄炎 ジフテリア 	<ul style="list-style-type: none"> 病原検査 (検体 _____) (方法 _____) (型 _____) 血清学的検査 (検体 _____) (方法 _____) (型 _____) その他 (_____) 		平成 年 月 日
<ul style="list-style-type: none"> 腸管出血性大腸菌感染症 	<ul style="list-style-type: none"> 病原検査 (検体 _____) (方法 _____) (型 _____) 血清学的検査 (検体 _____) (方法 _____) (型 _____) その他 (_____) 		平成 年 月 日

・ 最近数年間の主な居住地 1 日本国内 2 その他 (_____) 3 不明	・ 推定される感染地域 1 日本国内 2 その他 (_____) 3 不明	・ 推定される感染原因・感染経路 [_____]
--	--	-------------------------------

この届出は診断後直ちに行ってください

(2,9,10,11,17欄は該当する番号等を で囲み、3,4,12,13,14,15,16欄は年齢・年月日等を記入すること。 欄は、死亡者を検索した場合のみ記入すること)

別記様式 2

保健所コード 西 暦 I D 衛研受付番号 病原体定点コード
 □□□□ □□□□ □□□-□□□□ □□□□□□ □□□□

1 類感染症、2 類感染症、3 類感染症及び 4 類感染症検査票（病原体）

患者	性別 (男 ・ 女)	住 所
	年 齢 (歳 ヵ月)	

衛研収受番号	検体番号

〔主治医等記載欄〕

医療機関等名及び主治医等医師名 (記載者)	
検体送付日	年 月 日 分離株 (無、有、検査中)
診 断 名	
発 病 日	年 月 日
採 取 日	年 月 日
検査材料	<ul style="list-style-type: none"> ふん便 (腸内容物、直腸ぬぐい液) ・ 髄液 ・ 尿 喀痰 ・ 気管吸引液 ・ 穿刺液 (腹水、胸水、関節液、その他) 咽頭ぬぐい液 (うがい液、鼻汁) ・ 皮膚病巣 (水疱内容、痂皮、創傷) 結膜ぬぐい液 (結膜擦過物、眼脂) ・ 陰部尿道頭管擦過物/分泌物 細胞診、生検、剖検材料 (臓器) 血液 (全血、血清、血漿、抗凝固剤 []) その他 []
臨床症状・徴候等	<ul style="list-style-type: none"> 無症状 発熱 (最高 ℃) 関節痛、筋肉痛 口内炎、上気道炎、下気道炎 (肺炎、気管支炎) 発疹 (水疱、丘疹、紅斑、バラ疹)、出血傾向 リンパ節腫脹、腫脹 (部位)、浮腫 (部位) ショック症状 (低血圧、循環不全) その他の症状 (上記以外の症状や臨床徴候) <ul style="list-style-type: none"> 胃腸炎 (下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛) 角膜炎、結膜炎、角結膜炎 髄膜炎、意識障害、麻痺 (部位)、中枢神経系症状 (脳炎、脳症、脊髄炎、その他) 循環器障害 (心筋炎、心膜炎、心不全) 黄疸 ・ 肝機能障害 腎機能障害 (HUS、血尿、乏尿、蛋白尿、多尿、腎不全) 尿路生殖器症状
基礎疾患	
転 帰	経過観察中、軽快、治癒、死亡 (原因)
主治医等から地方衛生研究所への連絡事項	

〔保健所等記載欄〕 (主治医記載可)

発 生 の 状 況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 散発 ・ 地域流行 ・ 家族内発生 (無 、 有) ・ 集団発生 (無 、 有) ・ 有の場合 (保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、宿舍・寮、病院、老人ホーム、福祉・養護施設、旅館・ホテル、飲食店、事業所、その他 []) 				
最近の海外渡航歴	<table border="1"> <tr> <td>国 名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>期 間</td> <td>年 月 日 ~ 年 月 日</td> </tr> </table>	国 名		期 間	年 月 日 ~ 年 月 日
国 名					
期 間	年 月 日 ~ 年 月 日				
ワクチン接種歴	<table border="1"> <tr> <td>ワクチン名</td> <td>最近の接種年月日</td> </tr> <tr> <td></td> <td>年 月 日</td> </tr> </table>	ワクチン名	最近の接種年月日		年 月 日
ワクチン名	最近の接種年月日				
	年 月 日				

〔地方衛生研究所記載欄〕

記 載 者 名	
抗体検出 方法	(蛍光、IP、ELIZA、CF、HI、PA、中和、イムノブロット、ゲル内沈降、凝集反応、その他)
結 果	()
検出年月日	年 月 日
病 原 体 検 出	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分離培養 (培養細胞:細胞名 []) 人工培地、発育鶏卵、動物、その他 ・ 抗原検出等 (電顕、鏡検、蛍光、EIA、凝集反応、その他) ・ 遺伝子検出 (1. 非増幅 [ハイブリ、PAGE、その他]) 2. 増幅 [PCR、その他])
検出病原体	(群、型、亜型)

〔その他特記事項〕 (病状は詳しく記入して下さい)

--

注 1) 主治医記載欄については、検体送付日において記載できる範囲で記載をお願いします。
 注 2) ワクチン接種歴については、当該疾患に係るものにつき記載して下さい。
 注 3) 2 類、3 類感染症について医療機関 (民間検査所を含む) で病原体を分離した場合は、可能な範囲で地方衛生研究所への分離株の送付をお願いします。

1 類感染症、2 類感染症及び 3 類感染症保健所報告項目（患者）

1 類感染症、2 類感染症及び 3 類感染症につき、保健所が、都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターコンピュータ・オンラインにより伝送する項目は以下のとおりとする。

別記様式 1 のうち

「9 病名」

「10 診断方法」

「11 症状」

「12 発病年月日」

「13 初診年月日」

「14 診断(検案)年月日」

「15 感染したと推定される年月日」

「16 死亡年月日」

「17 推定される感染地域・感染原因・感染経路」

及び

「3 診断時の年齢」のうち、患者の「生年月日」

以上

保健所コード 西 暦 I D

4 類感染症発生届
 (クロイツフェルト・ヤコブ病、後天性免疫不全症候群、先天性風疹症候群を除く)

都道府県知事 (保健所設置市長・特別区長) 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 (平成 年 月 日)

医師の氏名 _____ 印
 (自署または記名押印のこと)

所属する病院・診療所等施設名 _____
 上記施設の住所・電話番号* _____ (電話 _____)

(* 所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること)

1 性別	男・女
2 診断時の年齢	歳

3 病 名 (該 当 す る 番 号 等 を で 囲 む こ と)	1 アメーバ赤痢
	2 エキノコックス症 (1)単包条虫、2)多包条虫)
	3 黄熱
	4 オウム病
	5 回帰熱
	6 急性ウイルス性肝炎 (1)A型、2)B型、3)C型、4)D型 (5)E型、6)その他()、7)不明)
	7 Q熱
	8 狂犬病
	9 クリプトスポリジウム症
	10 劇症型溶血性レンサ球菌感染症
	11 コクシジオイデス症
	12 ジアルジア症
	13 腎症候性出血熱
	14 髄膜炎菌性髄膜炎
	15 炭疽
	16 ツツガムシ病
	17 デング熱 (1)デング熱、2)デング出血熱)
	18 日本紅斑熱
	19 日本脳炎
	20 乳児ボツリヌス症
	21 梅毒 (1)早期顕症梅毒(ア. 期、イ. 期) (2)晩期顕症梅毒、3)無症候梅毒、 (4)先天梅毒)
	22 破傷風
	23 バンコマイシン耐性腸球菌感染症
	24 ハンタウイルス肺症候群
	25 Bウイルス病
	26 ブルセラ症
	27 発疹チフス
	28 マラリア (1)三日熱、2)四日熱、3)卵形、 (4)熱帯熱、5)不明)
	29 ライム病
	30 レジオネラ症
	31 ウエストナイル熱

4 診 断 方 法	1) 病原検査 (検体 (方法 (型 ()
	2) 血清学的検査 (検体 (方法 (型 ()
	3) 臨床決定
	4) その他 () (該当するもの全てに記載すること)

5 診 断 時 の 症 状	1) 有 ()
	2) 無

6 発病年月日	平成 年 月 日
7 初診年月日	平成 年 月 日
8 診断(検察)年月日	平成 年 月 日
9 感染したと推定される年月日	昭和・平成 年 月 日
10 死亡年月日	平成 年 月 日

11・12 推定される感染地域・感染原因・感染経路	
・最近数年間の主な居住地 1 日本国内 2 その他() 3 不明 ・推定される感染地域 1 日本国内 2 その他() 3 不明 ・病原体や媒介動物等との接触または生息場所での活動 1 あり() 2 なし ・推定される感染源・感染経路等 1 経口感染(推定される飲食物) 2 性行為感染 ア. 異性間性的接触 イ. 同性間性的接触 3 静注薬物使用 4 母子感染 5 輸血 6 媒介動物等からの感染(動物の種類) 7 その他() 8 不明 ・同疾患または同様の症状の者の発症 1 同居者にいる 2 同じ職場や学校等にいる 3 その他() 4 いない	

この届出は診断から7日以内に行ってください

(1、3、4、11・12欄は該当する番号等を で囲み、2、6、7、8、9欄は年齢・年月日を記入すること。 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること)



都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日（平成 年 月 日）

医師の氏名 _____ 印
（自署または記名押印のこと）

所属する病院・診療所等施設名 _____

上記施設の住所・電話番号* _____
（電話 _____）
 (* 所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること)

		男 ・ 女
		歳
	クロイツフェルト・ヤコブ病 1) 孤発性CJD 2) 家族性CJD 3) 新変異型CJD 4) GSS 5) FFI (ア. 確実 イ. ほぼ確実 ウ. 疑い)	
	1) 病原検査(異常プリオンたん白の検出) 部位 (1) 脳 (2) 扁桃 (3) その他 方法 (1) Western Blot法 (2) 免疫染色法 型(免疫染色法による) (1) アミロイド斑型 (2) シナプス型 2) プリオンたん白遺伝子検査 (1) コドン()の異常 (2) コドン129の多型 (ア.M/M イ.M/V ウ.V/V) (3) コドン219の多型 (ア.E/E イ.E/K ウ.K/K) (4) その他() 3) 臨床決定 4) その他() (該当するもの全てに記載すること)	
1) 有		
ア. 進行性痴呆 (年 月より) イ. 記憶障害 (年 月より) ウ. 精神・知能障害 (年 月より) エ. 臨床的に頑固な不眠 (年 月より) オ. 視覚異常 (年 月より) カ. 錯感覚、異常感覚 (年 月より) キ. 錐体路症状 (年 月より) ク. 痙性対麻痺 (年 月より) ケ. 錐体外路症状 (年 月より) コ. 筋強剛 (年 月より) サ. 小脳症状 (年 月より) シ. ミオクローヌス (年 月より) ス. 無動性無言状態 (年 月より) セ. 脳波検査でPSDあり (年 月より) ソ. その他() (年 月より)		
2) 無		
		平成 年 月 日
		平成 年 月 日
		平成 年 月 日
		昭和・平成 年 月 日
		平成 年 月 日

この届出は診断から7日以内に行ってください

・最近数年間の主な居住地 1) 日本国内 2) その他() 3) 不明 ・推定される感染地域 1) 日本国内 2) その他() 3) 不明 ・同疾患または同様の症状の者 1) 家族にいる 2) 同じ職場等にいる 3) その他() 4) いない	・推定される感染経路等 1) ヒト乾燥硬膜 2) ヒト下垂体由来成長ホルモン製剤 3) 角膜移植 4) 手術等観血的処置 (種類) 5) 輸血等 6) その他() 7) 不明
--	--

(1, 3, 4, 5, 11・12欄は該当する番号等を で囲み、2, 6, 7, 8, 9, 10欄は年齢・年月日を記入すること。 欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること)

保健所コード 西 暦 I D

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長） 殿

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日（平成 年 月 日）

医師の氏名 _____ 印
（自署または記名押印のこと）
 所属する病院・診療所等施設名 _____
 上記施設の住所・電話番号* _____
（電話 _____）
（* 所属する施設がない場合は医師の自宅の住所・電話番号を記載すること）

	男 ・ 女
	歳
先天性風疹症候群	
1) 病原検査 (検体) (方法)	
2) 血清学的検査 (検体) (方法)	
3) 臨床決定	
4) その他 ()	
<small>（該当するもの全てに記載すること）</small>	

1) 有	}
2) 無	
	平成 年 月 日
	平成 年 月 日
	平成 年 月 日
	昭和・平成 年 月 日
	平成 年 月 日

この届出は診断から7日以内に行ってください

<ul style="list-style-type: none"> 最近数年間の主な居住地 1) 日本国内 2) その他() 3) 不明 推定される感染地域 1) 日本国内 2) その他() 3) 不明 	<ul style="list-style-type: none"> 母親の妊娠中の風疹罹患歴 1)あり 2)なし 母親の風疹抗体価と測定時期 母親の風疹予防接種歴 1)あり 2)なし
--	---

（1,3,4,5,11・12欄は該当する番号等を で囲み、2,6,7,8,9,10欄は年齢・年月日を記入すること。 欄は、死亡者を検索した場合のみ記入すること）

4 類感染症（全数把握対象）保健所報告項目（患者）

4類感染症のうち全数把握対象のものにつき、保健所が、都道府県等の本庁及び地方感染症情報センターへコンピュータ・オンラインにより伝送する項目は以下のとおりとする。

別記様式4のうち、すべての項目

以上

別記様式 6

感染症発生動向調査（小児科定点）

西 暦 年 第 週 保健所コード 定点コード

調査期間 平成 年 月 日 ~ 月 日

疾患名	年齢	~6ヶ月	~12ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20歳以上	合計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
咽頭結膜熱	男															
	女															
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男															
	女															
感染性胃腸炎	男															
	女															
水痘	男															
	女															
手足口病	男															
	女															
伝染性紅斑	男															
	女															
突発性発疹	男															
	女															
百日咳	男															
	女															
風疹	男															
	女															
ヘルパンギーナ	男															
	女															
麻疹	男															
	女															
流行性耳下腺炎	男															
	女															
M C L S	男															
	女															
不明発疹症	男															
	女															

病名	年齢	~6ヶ月	~12ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10~14	15~19	20~29	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
インフルエンザ	男															
	女															
		30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	合計								
	男															
	女															

別記様式 9

感染症発生動向調査（性感染症定点）

西 暦 年 月 保健所コード 定点コード

調査期間 平成 年 月 日 ~ 月 日

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

疾患名	年 齢	○	1	5	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70歳	合 計	
			~ 4	~ 9	~ 14	~ 19	~ 24	~ 29	~ 34	~ 39	~ 44	~ 49	~ 54	~ 59	~ 64	~ 69	以上		
性器クラミジア 感 染 症	男																		
	女																		
性器ヘルペスウ イルス感染症	男																		
	女																		
尖圭コンジローム	男																		
	女																		
淋 菌 感 染 症	男																		
	女																		
トリコモナス症	男																		
	女																		
梅 毒 様 疾 患	男																		
	女																		

別記様式 10

感染症発生動向調査（基幹定点）

調査期間 平成 年 月 日 ~ 月 日（週報）

西 暦 年 第 週 保健所コード 定点コード

ID番号	性	職	職	病名	採取年月日	検査方法	検査結果(病原体名称)							
							1	2	3	4	5	6	7	8
	男・女			1 2 3 4 5 6	年 月 日	1 2 3 4 5 6 7								
	男・女			1 2 3 4 5 6	年 月 日	1 2 3 4 5 6 7								
	男・女			1 2 3 4 5 6	年 月 日	1 2 3 4 5 6 7								
	男・女			1 2 3 4 5 6	年 月 日	1 2 3 4 5 6 7								
	男・女			1 2 3 4 5 6	年 月 日	1 2 3 4 5 6 7								
	男・女			1 2 3 4 5 6	年 月 日	1 2 3 4 5 6 7								
	男・女			1 2 3 4 5 6	年 月 日	1 2 3 4 5 6 7								

病名

- 1：急性脳炎（日本脳炎を除く）
- 2：細菌性髄膜炎（真菌性を含む）
- 3：無菌性髄膜炎
- 4：マイコプラズマ肺炎
- 5：クラミジア肺炎（オウム病を除く）
- 6：成人麻疹

検査方法

- 1：分離・培養
- 2：抗原検出
- 3：核酸・PCR
- 4：塗末検鏡
- 5：電顕
- 6：血清
- 7 その他

検査結果

別添1「検査結果コード表」参照

調査期間 平成 年 月 ~ 月（月報）

西 暦 年 第 週 保健所コード 定点コード

ID番号	性	職	職	病名	採取年月日	採取部位(1-10)
	男・女			1 2 3	年 月 日	
	男・女			1 2 3	年 月 日	
	男・女			1 2 3	年 月 日	
	男・女			1 2 3	年 月 日	

病名

- 1：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
- 2：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
- 3：薬剤耐性緑膿菌感染症

採取部位

別添2「採取部位リスト」参照

別添1 「検査結果コード表」

10000 VirusNT	10304 Parainf.4	11016 Echo-16
10100 Adeno NT	10400 RS	11017 Echo-17
10101 Adeno-1	10500 Rhino-ALL	11018 Echo-18
10102 Adeno-2	10800 Coxa.ANT	11019 Echo-19
10103 Adeno-3	10801 Coxa.A1	11020 Echo-20
10104 Adeno-4	10802 Coxa.A2	11021 Echo-21
10105 Adeno-5	10803 Coxa.A3	11022 Echo-22
10106 Adeno-6	10804 Coxa.A4	11023 Echo-23
10107 Adeno-7	10805 Coxa.A5	11024 Echo-24
10108 Adeno-8	10806 Coxa.A6	11025 Echo-25
10109 Adeno-9	10807 Coxa.A7	11026 Echo-26
10110 Adeno-10	10808 Coxa.A8	11027 Echo-27
10111 Adeno-11	10809 Coxa.A9	11029 Echo-29
10112 Adeno-12	10810 Coxa.A10	11030 Echo-30
10113 Adeno-13	10811 Coxa.A11	11031 Echo-31
10114 Adeno-14	10812 Coxa.A12	11032 Echo-32
10115 Adeno-15	10813 Coxa.A13	11033 Echo-33
10116 Adeno-16	10814 Coxa.A14	11100 Polio NT
10117 Adeno-17	10815 Coxa.A15	11101 Polio-1
10118 Adeno-18	10816 Coxa.A16	11102 Polio-2
10119 Adeno-19	10817 Coxa.A17	11103 Polio-3
10120 Adeno-20	10818 Coxa.A18	11200 Mumps
10121 Adeno-21	10819 Coxa.A19	11300 HV group
10122 Adeno-22	10820 Coxa.A20	11301 HSV NT
10123 Adeno-23	10821 Coxa.A21	11302 EBV
10124 Adeno-24	10822 Coxa.A22	11303 VZV
10125 Adeno-25	10824 Coxa.A24	11306 HSV-1
10126 Adeno-26	10900 Coxa.B NT	11307 HSV-2
10127 Adeno-27	10901 Coxa.B1	11502 Picorna NT
10128 Adeno-28	10902 Coxa.B2	11521 Measles
10129 Adeno-29	10903 Coxa.B3	11522 Rubella
10130 Adeno-30	10904 Coxa.B4	11552 Rabies
10131 Adeno-31	10905 Coxa.B5	11555 Papova
10132 Adeno-32	10906 Coxa.B6	11556 CMV
10133 Adeno-33	11000 Echo-2	11562 Reo NT
10134 Adeno-34	11001 Echo-1	11564 Rota
10135 Adeno-35	11002 Echo-2	11565 Calici
10136 Adeno-36	11003 Echo-3	11566 Norwalk
10137 Adeno-37	11004 Echo-4	11567 SRV
10138 Adeno-38	11005 Echo-5	11568 Entero68
10139 Adeno-39	11006 Echo-6	11569 Entero69
10140 Adeno-40	11007 Echo-7	11570 Entero70
10141 Adeno-41	11009 Echo-9	11571 Entero71
10142 Adeno-42	11011 Echo-11	11702 JE
10300 Parainf.NT	11012 Echo-12	11703 Dengue.ALL
10301 Parainf.1	11013 Echo-13	11709 Other Arbo
10302 Parainf.2	11014 Echo-14	11750 Hantavirus ALL
10303 Parainf.3	11015 Echo-15	11801 ATL Virus

11802 HIV	91014 Anaerobi.baci.G-neg	91682 Streptococcus- Uvi-
12000 Inf.A(H1)	91015 Anaerobi.cocc.G-pos	hemo
12010 Inf.A NT	91016 Anaerobi.cocc.G-neg	91683 Streptococcus-D
12011 Inf.A H1N1	91100 Pseudomonas sp.	91684 Streptococcus-B
12020 Inf.A(H2)	91101 P.Aeruginosa	91685 Streptococcus-C
12022 Inf.AH2N2	91110 Vibrio sp.	91686 Streptococcus-G
12030 Inf.A(H3)	91120 Campylobacter sp.	91688 S.pneumoniae
12032 Inf.AH3N2	91130 Spirillum sp.	91690 Lactobacillus sp.
12203 Inf.B	91140 Plesimonas sp.	91700 Corynebacterium sp.
12204 Inf.C	91300 Chromobacterium sp.	91710 Listeria sp.
20100 Chlam.trc.NT	91310 Alcaligenes sp.	91711 L.monocytogenes
20101 Chlam.trc.A	91320 Aeromonas sp.	91720 Propionibacter.sp.
20102 Chlam.trc.B	91330 Flavobacterium sp.	91730 Bacillus sp.
20103 Chlam.trc.BA	91340 Escherichia sp.	91740 Clostridium sp.
20104 Chlam.trc.C	91350 Shigella sp.	91750 Mycobacterium sp.
20105 Chlam.trc.D	91360 Salmonella sp.	91751 M.tuberculosis
20106 Chlam.trc.D'	91370 Erwinia sp.	91770 Nocardia sp.
20107 Chlam.trc.E	91380 Citrobacter sp.	91780 Actinomyces sp.
20108 Chlam.trc.F	91390 Klebsiella sp.	91820 Treponema sp.
20109 Chlam.trc.G	91400 Enterobacter sp.	91821 T.pallidum
20110 Chlam.trc.H	91410 Hafnia sp.	91830 Leptospira
20111 Chlam.trc.I	91420 Seratia sp.	94010 Fungi
20112 Chlam.trc.I'	91430 Proteus sp.	94300 Fungi imperfecti
20113 Chlam.trc.J	91440 Providencia sp.	94301 Cryptococcus
20114 Chlam.trc.K	91450 Yersima sp.	94302 Cryptococcus neoformans
20115 Chlam.trc.L1	91460 Pasteurella sp.	94303 Candida
20116 Chlam.trc.L2	91470 Bordetella sp.	94304 candida albicans
20117 Chlam.trc.L2'	91480 Brucella sp.	94400 Parasite
20118 Chlam.trc.L3	91490 Haemophilus sp.	94421 Entamoeba
20119 Chlamydia Pneumoniae	91491 H.influenzae	94422 Entamoeba histolytica
20600 Mycopl.Pn.	91494 H.parainfluenzae	94457 Giardia
20601 Other Mycopl.	91500 Edwardsiella sp.	94458 Giardia lamblia
20700 Chlam.Psi.	91520 Moraxella sp.	94461 Trichomonas
21401 C.Burneti	91540 Bacteroides sp.	94464 Trichomonas vaginalis
21402 Other Ric.	91550 Fusobacterium sp.	94493 Mararia
21403 R.Prowaze.	91590 Micrococcus sp.	94496 Toxoplasma
21404 R.Tsutsug.	91600 Staphylococcus sp	94497 Toxoplasma gondi
88888 詳細不明	91601 S.aureus	94498 Pneumocystis
91000 Bacteria	91602 S.epidermidis	94499 Pneumocystis carinii
91001 Bacteria	91610 Peptococcus sp.	94500 Helminth
91002 Bacteria	91620 Legionella sp.	99999 その他病原体
91003 Bacillus	91621 L.pneumophila	
91004 Bacillus	91630 Neisseria sp.	
91005 Coccus	91631 N.gonorrhoeae	
91006 Coccus	91632 N.meningitidis	
91010 Anaerobic bacteria	91640 Acinetbacter sp.	
91011 Anaerobi.bact.G-pos	91670 Peptostreptococcus sp.	
91012 Anaerobi.bact.G-neg	91680 Streptococcus sp.	
91013 Anaerobi.baci.G-Pos	91681 Streptococcus- hemo	

別添2 「採取部位リスト」

【病名が「メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症」の場合】

- 1 喀痰（肺炎）
- 2 気管洗浄液
- 3 血液
- 4 髄液
- 5 胸水
- 6 腹水
- 7 術創部（創部感染）
- 8 留置カテーテル（血管・気管・尿路・体腔内・その他）
- 9 その他

【病名が「ペニシリン耐性肺炎球菌感染症」の場合】

- 1 喀痰（肺炎）
- 2 気管洗浄液
- 3 血液
- 4 髄液
- 5 胸水
- 6 腹水
- 7 術創部（創部感染）
- 8 耳漏液
- 9 その他

【病名が「薬剤耐性緑膿菌感染症」の場合】

- 1 喀痰（肺炎）
- 2 気管洗浄液
- 3 血液
- 4 髄液
- 5 胸水
- 6 腹水
- 7 術創部（創部感染）
- 8 留置カテーテル（血管・気管・尿路・体腔内・その他）
- 9 膿（開放性・非開放性）・分泌液
- 10 その他

感染症発生動向調査事業報告書(平成14年)

平成15年7月

登録番号 (15) 7

編集・発行 東京都健康安全研究センター
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-24-1
電話 (03) 3363-3231

印刷所 東京コロニー大田福祉工場
〒143-0015 東京都大田区大森西2-22-26
電話 (03) 3762-7611